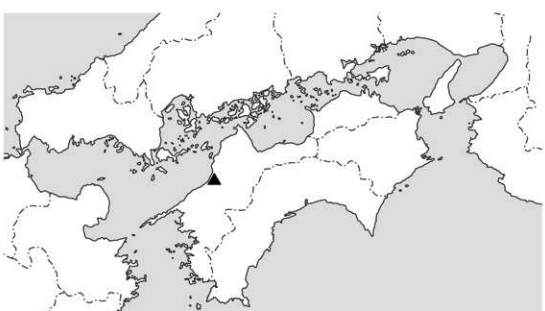
高　見　Ⅱ　遺　跡
東峰遺跡第4地点2次

－四国縦貫自動車道における(仮称)中山スマートインターチェンジの
建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

2019年3月
愛媛県伊予市教育委員会

高　見　Ⅱ　遺　跡
東峰遺跡第４地点２次

－四国縦貫自動車道における(仮称)中山スマートインターチェンジの
建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－



2019年3月
愛媛県伊予市教育委員会

高見Ⅰ遺跡から調査区を臨む(南西より)

高見Ⅱ遺跡1b区 土層(東壁)(西より)

東峰遺跡第4地点2次2区 旧石器時代の礫群(南東より)

高見 II 遺跡2区 縄文時代の土坑(南西より)

序　文

愛媛県のほぼ中央に位置する伊予市は、古くから人類の生活の場となっており、穏やかな瀬戸内海と険しい四国山地によって育まれた豊かな風土が形成されてきました。これまで市内では貴重な埋蔵文化財が多数確認されております。

伊予市双海町の東峰遺跡第2・4地点と高見Ⅰ遺跡では、これまでの調査において貴重な遺跡の存在が知られていました。

そしてこの度、平成28年度からの四国縦貫自動車道における(仮称)中山スマートインターチェンジの建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査において、再びこの地が調査されることとなりました。

今回の調査では、後期旧石器時代と縄文時代の遺構及び多くの遺物が検出され、当地域における先人たちの暮らしぶりを垣間見ることができる貴重な手がかりが得られました。

今後も埋蔵文化財を通じて、市民の皆様がふるさとに対する知見と愛着、誇りをもっていただけるよう、埋蔵文化財を保存・継承して参ります。そして、本市の歴史について啓発活動を進める中で、文化の香り高いまちにすべく努めていく所存です。

また、本報告書が今後の地域における歴史研究の資料として多くの方々にご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、調査成果を報告できましたのは、関係諸機関や市民の皆様のご協力とご理解の賜物でございます。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

平成31年3月31日

伊予市教育委員会
教育長　渡邉博隆

例　言

1　本報告書は、愛媛県伊予市双海町上灘地内に所在する高見Ⅱ遺跡及び東峰遺跡第4地点2次調査の発掘調査の成果を扱うものである。

2　発掘調査及び整理作業・報告書作成は、四国縦貫自動車道における(仮称)中山スマートインターチェンジの建設事業に伴い伊予市教育委員会が行った。

3　伊予市内を3つの地域に分け、旧伊予市を伊予地区、旧中山町を中山地区、旧双海町を双海地区とした。

4　発掘調査は平成28年12月15日から平成29年6月15日にかけて実施した。整理作業・報告書作成は平成29年6月16日から平成31年3月31日にかけて実施した。

5　発掘調査及び整理作業・報告書作成は、次の職員が担当した。

発掘調査

平成28年度　水木崇行　　沖野新一　　西岡若水

平成29年度　武智克弥　　沖野新一

整理作業・報告書作成

平成29年度　武智克弥　　沖野新一

平成30年度　武智克弥　　島﨑達也　　松本美香

6　発掘調査及び整理作業・報告書作成において、以下の作業員の協力を得た(五十音順)。

現場作業員

門田元信　　亀岡香　　下山森男　　谷本圭司　　福田好章　　平井久美子

松田かおる　宮田信作　　宮田豊

整理作業員

影浦さおり　川留尚美

7　本文の執筆は、第1章は武智克弥と島﨑達也、第2章は島﨑達也、第3章と第4章の層位と概要、遺構、小結は沖野新一、遺物(縄文土器)は兵頭勲氏、遺物(石器)は島﨑達也、第5章第1節は沖野新一、第5章第2節、第3節は島﨑達也が行った。編集は、島﨑達也、松本美香、沖野新一が行った。

8　旧石器時代については、広島大学総合博物館教授の藤野次史氏の現地指導を得た。縄文時代については、愛媛県歴史文化博物館専門学芸員の兵頭勲氏に現地指導を得た。石器実測に関して、公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センター調査員の沖野実氏に専門的な助言を得た。報告書の内容については、伊予市遺跡詳細分布調査委員会の岡田敏彦氏の助言を得た。

9　測量には世界測地系を使用した。発掘調査時のグリッド杭打設、水準測量は伊予市産業建設部土木管理課が行った。

10　火山灰分析は、株式会社古環境研究所に、石器の実測図及びトレース図の作成は、株式会社ラングに委託した。

11　高見Ⅱ遺跡、東峰遺跡第4地点2次調査において出土した縄文土器等について本文中の事実記載と附編の執筆は、兵頭勲氏に、炭素14年代測定は、中央大学人文科学研究所準研究員の遠部慎氏に依頼した。

12　縄文土器の実測図及びトレース図・拓本の作成は、兵頭勲氏に、石器接合資料の実測図及びトレース図の作成は、沖野実氏による。

13　発掘調査及び整理作業・報告書作成において、多くの方々からご協力またはご助言をいただいた。以下に記して感謝申し上げます(敬称略・五十音順)。

石岡ひとみ　鵜久森彬　沖野誠　門田眞一　早田勉　多田仁
橘昌信　長井數秋　中野良一　樋口康裕　松本安紀彦　眞鍋昭文
三吉秀充　吉岡和哉　綿貫俊一

追記

本報告書を刊行するにあたり、多くの方々からご支援をいただきましたことに感謝申し上げますとともに、内容については必ずしもみなさまのご意向が反映されたものではないと思いますが、何卒ご容赦賜りますようお願い申し上げます。

凡　　例

1 グリッド割りは、世界測地系に基づく4mグリッドを設置し、北東隅の交点番号をグリッド番号とした。

2 遺構図の方位は国家座標に基づく真北を示し、標高(レベル)は海抜標高を表す。

3 遺構名は、次のように記号化した。
　土坑：SK　　不明遺構：SX

4 高見Ⅱ遺跡及び東峰遺跡第4地点2次から出土した遺物には、遺物No.として、それぞれNo.1から通し番号を付した。また、高見Ⅱ遺跡及び東峰遺跡第4地点2次の図化した遺物には、掲載番号として1から通し番号を付した。

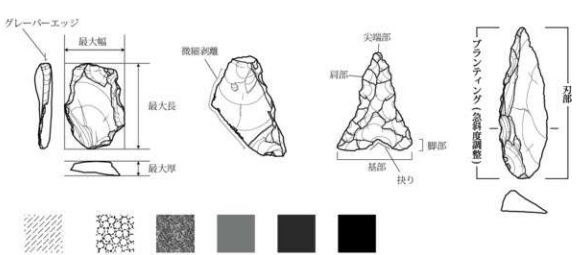
5 遺構図・遺物図の縮尺は、各図面に表記した。

6 土層及び土器の色調については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修「新版　標準土色帖」(2014年度版)による。

7 遺構写真は水木崇行、武智克弥、西岡若水が、遺物写真は島崎達也が撮影した。

8 遺物図版の撮影縮尺は、各ページに表記した。

石器凡例



本報告書では、以下の基準を用いて、肉眼観察により岩石名を表記した。なお、本表は沖野新一と沖野実氏が共同で作成した。

石　　質　　名	特　　徴　　な　　ど
サヌキトイド (讃岐岩質安山岩)	黒灰色～黒色。比較的斑晶に乏しく、緻密で鋭い断口を示すガラス質安山岩。原岩は叩くと金属音を発して割れる。肉眼観察においては、県外産か県内産かなどを含めて、具体的な産地を特定することは困難である。瀬戸内火山岩類。
安　山　岩　　類	黄褐色、灰褐色を呈する安山岩。粒状感がある。斑晶として、黒雲母、長石などが認められる。本書では、こうした黒雲母安山岩、流紋岩などを総称して安山岩類とする。瀬戸内火山岩類。本遺跡の近辺では、主に、北方の中央構造線沿いに分布する。
凝　灰　岩　　類 (ハリ質凝灰岩)	青灰色、白色、灰白色を呈する。細粒で肉眼観察では、粒子を認め難い。ただし、均質なものの中に粒状感のある部分を含むものも存在する。ガラス質だが、光沢はない。少量だが灰色～灰オリーブ色を呈するものがあり、ガラス質で若干の光沢をもち、微量ながら墨流し状の黒色の部分が認められる。個体によっては九州東部地域の堆積岩、変成岩と近似するものがある。原岩は割ると鋭い断口を生じる。一定の方向に割れやすい傾向がある。伊予市内では、和泉層群に産する。
砂　　岩	径2㎜以下の砂粒が固まった岩石で、粒状感がある。色調は、黄褐色、灰褐色などを呈する。本遺跡の数㎞北方に砂岩を産出する和泉層群がある。
赤　色　珪　質　岩	赤褐色を呈する堆積岩。層状で透明感がない。一般的にチャートに見られる脂肪光沢、貝殻状断口を認め難い。放散虫化石を含むことが多い。変成作用を受けている。現時点では、内子町神南山及びその周辺が原産地として有力である。
チ　ャ　ー　ト	石英質で緻密で硬い。脂肪光沢が認められることが多い。薄い石片は半透明のものが多く、風化しにくい。色調は、赤色、青灰色、灰白色などと多様である。原岩は割ると鋭い断口を生じる。本遺跡出土のものは、御荷鉾帯以南に産すると考えられる。
唐崎マイロナイト	本遺跡が立地する高見周辺に分布する断層岩(圧砕岩)の一種。ミロナイトとも言う。面構造が発達し、縞状である。生地中に、丸みのある石英、長石などが点在する。プレッシャーシャドウが存在する。伊予市では、他に唐崎、間佐などに産する。
緑　色　片　岩	細～中粒の緑色をした結晶片岩。片理が発達しているため原岩は板状に割れやすい。俗に青石と呼称する。三波川変成岩類。
紅　簾　片　岩	細～中粒の赤色をした結晶片岩。片理が発達しているため原岩は板状に割れやすい。変成度の低いものは、赤色チャートに似る。三波川変成岩類。
珪　質　片　岩 (石英片岩)	ほぼ石英からなる。色調は、青灰色、灰白色などがある。原岩は硬いが剥離しやすく、節理も認められる。小片はチャートに似る。三波川変成岩類。
石　　英 水　　晶 玉　　髄	石英は、白色半透明でガラス光沢がある。貝殻状断口を生じる。 水晶は、石英の結晶で、無色透明。ガラス光沢が顕著で、明瞭な貝殻状断口を生じる。 玉髄は、結晶質の石英で、白色、灰白色、青灰色など様々な色調を呈する。
黒　　曜　　石	ほぼ天然ガラスからなる火山岩。斑晶をほとんど含まず、強いガラス光沢がある。原岩は割ると貝殻状断口を生じる。薄い石片は、透明感がある。今回出土のものは、乳白色～灰白色を呈することから、大分県姫島産と推定される。
不　　明	上記特徴に該当せず、岩石名を呼称することが困難なもの、また認識できないもの。

本 文 目 次

第1章　調査の経緯……1
第1節　調査に至る経緯……1
第2節　調査体制……2
第3節　調査の経過……2

第2章　遺跡の立地と環境……3
第1節　自然環境……3
第2節　歴史的環境……4

第3章　高見Ⅱ遺跡の調査成果……7
第1節　調査区の設定……7
第2節　1区……8
1　層位と概要……8
2　Ⅳ層の遺物……11
3　Ⅲ層、Ⅲ層上面の遺物……11
4　Ⅱ層の遺構と遺物……16
5　Ⅰ層、表採の遺物……28
第3節　2区……33
1　層位と概要……33
2　Ⅲ層の遺物……35
3　Ⅱ層の遺構と遺物……42
4　Ⅰ層、表採の遺物……65
第4節　小結……72

第4章　東峰遺跡第4地点2次の調査成果……73
第1節　調査区の設定……73
第2節　1区……74
1　層位と概要……74
2　Ⅳ層の遺物……76
3　Ⅲ層の遺物……77
4　Ⅱ層の遺構と遺物……79
5　Ⅰ層の遺物……84
第3節　2区……85
1　層位と概要……85

2　Ⅳ層の遺物 …… 87
3　Ⅳ層上面の遺構 …… 87
4　Ⅲ層、Ⅲ層上面の遺物 …… 88
5　Ⅱ層の遺構と遺物 …… 90
6　Ⅰ層、撹乱の遺物 …… 92
第4節　小結 …… 96

第5章　まとめ …… 97
第1節　各調査区の土層対比 …… 97
第2節　後期旧石器時代 …… 99
第3節　縄文時代 …… 102

附編
1　伊予市(仮称)中山スマートインターチェンジの建設事業に伴う火山灰分析(高見Ⅱ遺跡) … 109
1　はじめに …… 109
2　土層の層序 …… 109
3　テフラ組成分析 …… 109
4　屈折率測定(火山ガラス・鉱物) …… 111
5　考察 …… 112
6　まとめ …… 112
2　縄文時代早期土器から見た高見Ⅱ遺跡の意義 …… 116
はじめに …… 116
1　伊予市内遺跡出土の早期土器について …… 116
2　高見Ⅱ遺跡における早期土器の特徴 …… 119
3　高見Ⅱ遺跡出土早期無文土器の検討 …… 121
おわりに －高見Ⅱ遺跡の意義－ …… 125
3　伊予市高見Ⅱ遺跡の炭素14年代測定 …… 129
1　はじめに …… 129
2　測定試料と観察所見 …… 129
3　炭化物の処理 …… 129
4　測定結果と暦年較正 …… 130
5　測定結果について …… 130

図 目 次

図1 (仮称)中山スマートインターチェンジ建設に伴う開発範囲と遺跡の位置 …… 1
図2 遺跡周辺の地質 …… 3
図3 周辺の遺跡分布 …… 5
図4 高見Ⅱ遺跡・東峰遺跡第4地点調査区配置 …… 6
図5 高見Ⅱ遺跡 調査区の位置とグリッド配置 … 7
図6 高見Ⅱ遺跡1区 土層模式 …… 8
図7 高見Ⅱ遺跡1a区 土層図位置 …… 8
図8 高見Ⅱ遺跡1a区 土層 …… 9
図9 高見Ⅱ遺跡1b区 土層図位置 ……10
図10 高見Ⅱ遺跡1b区 土層 ……10
図11 高見Ⅱ遺跡1a区 Ⅳ層・Ⅲ層・Ⅲ層上面出土遺物平面・垂直分布 ……11
図12 高見Ⅱ遺跡1b区 Ⅲ層出土遺物平面・垂直分布 ……12
図13 高見Ⅱ遺跡1a・1b区 Ⅲ層出土遺物1 ……13
図14 高見Ⅱ遺跡1a・1b区 Ⅲ層出土遺物2 ……14
図15 高見Ⅱ遺跡1a・1b区 Ⅲ層出土遺物3 ……15
図16 高見Ⅱ遺跡1a区 遺構配置 ……16
図17 高見Ⅱ遺跡1a区 集石平・断面 ……17
図18 高見Ⅱ遺跡1a区 SK-1平・断面と出土遺物 …17
図19 高見Ⅱ遺跡1a区 SX-1平・断面 ……18
図20 高見Ⅱ遺跡1b区 遺構配置 ……18
図21 高見Ⅱ遺跡1b区 SK-2平・断面と出土遺物 …19
図22 高見Ⅱ遺跡1b区 SX-2平・断面 ……19
図23 高見Ⅱ遺跡1a区 Ⅱ層出土遺物平面・垂直分布 ……20
図24 高見Ⅱ遺跡1b区 Ⅱ層出土遺物平面・垂直分布 ……21
図25 高見Ⅱ遺跡1a・1b区 Ⅱ層出土遺物1 ……22
図26 高見Ⅱ遺跡1a・1b区 Ⅱ層出土遺物2 ……23
図27 高見Ⅱ遺跡1a・1b区 Ⅱ層出土遺物3 ……24
図28 高見Ⅱ遺跡1a・1b区 Ⅱ層出土遺物4 ……25
図29 高見Ⅱ遺跡1a・1b区 Ⅱ層出土遺物5 ……26
図30 高見Ⅱ遺跡1a・1b区 Ⅱ層出土遺物6 ……27
図31 高見Ⅱ遺跡1a・1b区 Ⅰ層出土・表採遺物1 ……29
図32 高見Ⅱ遺跡1a・1b区 Ⅰ層出土・表採遺物2 ……30
図33 高見Ⅱ遺跡1a・1b区 Ⅰ層出土・表採遺物3 ……31
図34 高見Ⅱ遺跡1a・1b区 Ⅰ層出土・表採遺物4 ……32
図35 高見Ⅱ遺跡2区 土層模式 ……33
図36 高見Ⅱ遺跡2区 土層図位置 ……33
図37 高見Ⅱ遺跡2区 土層 ……34
図38 高見Ⅱ遺跡2区 Ⅲ層出土遺物分布 ……35
図39 高見Ⅱ遺跡2区 Ⅲa層出土遺物1 ……37
図40 高見Ⅱ遺跡2区 Ⅲa層出土遺物2 ……38
図41 高見Ⅱ遺跡2区 Ⅲa層出土遺物3 ……39
図42 高見Ⅱ遺跡2区 Ⅲa層出土遺物4 ……40
図43 高見Ⅱ遺跡2区 Ⅲb層出土遺物 ……41
図44 高見Ⅱ遺跡2区 遺構配置 ……42
図45 高見Ⅱ遺跡2区 SK-3,SX-3・4平・断面と出土遺物 ……43
図46 高見Ⅱ遺跡2区 SK-4平・断面と出土遺物 …44
図47 高見Ⅱ遺跡2区 SX-5・6平・断面 ……45
図48 高見Ⅱ遺跡2区 SX-7・8平・断面 ……45
図49 高見Ⅱ遺跡2区 Ⅱ層出土縄文土器分布 ……46
図50 高見Ⅱ遺跡2区 Ⅱ層出土石器分布 ……47
図51 高見Ⅱ遺跡2区 Ⅱa層出土遺物 ……49
図52 高見Ⅱ遺跡2区 Ⅱb層出土遺物1 ……50
図53 高見Ⅱ遺跡2区 Ⅱb層出土遺物2 ……51
図54 高見Ⅱ遺跡2区 Ⅱb層出土遺物3 ……52
図55 高見Ⅱ遺跡2区 Ⅱb層出土遺物4 ……54
図56 高見Ⅱ遺跡2区 Ⅱb層出土遺物5 ……55
図57 高見Ⅱ遺跡2区 Ⅱb層出土遺物6 ……56
図58 高見Ⅱ遺跡2区 Ⅱb層出土遺物7 ……57
図59 高見Ⅱ遺跡2区 Ⅱb層出土遺物8 ……58
図60 高見Ⅱ遺跡2区 Ⅱb層出土遺物9 ……59
図61 高見Ⅱ遺跡2区 Ⅱc層出土遺物1 ……60
図62 高見Ⅱ遺跡2区 Ⅱc層出土遺物2 ……62
図63 高見Ⅱ遺跡2区 Ⅱc層出土遺物3 ……63
図64 高見Ⅱ遺跡2区 Ⅱc層出土遺物4 ……64
図65 高見Ⅱ遺跡2区 Ⅰ層出土・表採遺物1 ……65

図66　高見Ⅱ遺跡2区 Ⅰ層出土・表採遺物2 ……66
図67　高見Ⅱ遺跡2区 Ⅰ層出土・表採遺物3 ……68
図68　高見Ⅱ遺跡2区 Ⅰ層出土・表採遺物4 ……69
図69　高見Ⅱ遺跡2区 Ⅰ層出土・表採遺物5 ……70
図70　高見Ⅱ遺跡2区 Ⅰ層出土・表採遺物6 ……71
図71　東峰遺跡第4地点2次
　　調査区の位置とグリッド配置 ……73
図72　東峰遺跡第4地点2次1区 土層模式 ……74
図73　東峰遺跡第4地点2次1区 土層図位置 ……74
図74　東峰遺跡第4地点2次1区 土層1 ……75
図75　東峰遺跡第4地点2次1区 土層2 ……76
図76　東峰遺跡第4地点2次1区 Ⅳ層出土遺物 ……76
図77　東峰遺跡第4地点2次1区
　　Ⅳ層・Ⅲ層出土遺物分布 ……77
図78　東峰遺跡第4地点2次1区 Ⅲ層出土遺物 ……78
図79　東峰遺跡第4地点2次1区 遺構配置 ……79
図80　東峰遺跡第4地点2次1区 SK-1平・断面 ……80
図81　東峰遺跡第4地点2次1区 SK-2・3平・断面…80
図82　東峰遺跡第4地点2次1区
　　Ⅱ層出土遺物分布 ……81
図83　東峰遺跡第4地点2次1区 Ⅱ層出土遺物1……82
図84　東峰遺跡第4地点2次1区 Ⅱ層出土遺物2……83
図85　東峰遺跡第4地点2次1区 Ⅰ層出土遺物 ……84
図86　東峰遺跡第4地点2次2区 土層模式 ……85
図87　東峰遺跡第4地点2次2区 土層図位置 ……85
図88　東峰遺跡第4地点2次2区 土層1 ……85
図89　東峰遺跡第4地点2次2区 土層2 ……86
図90　東峰遺跡第4地点2次2区
　　Ⅳ層上面遺構配置 ……87
図91　東峰遺跡第4地点2次2区 礫群平・断面 ……87
図92　東峰遺跡第4地点2次2区
　　Ⅳ層・Ⅲ層・Ⅲ層上面出土遺物分布 ……88
図93　東峰遺跡第4地点2次2区 Ⅲ層出土遺物 ……89
図94　東峰遺跡第4地点2次2区
　　Ⅲ層上面出土遺物 ……89
図95　東峰遺跡第4地点2次2区 Ⅱ層遺構配置 ……90
図96　東峰遺跡第4地点2次2区 SK-4平・断面 ……90
図97　東峰遺跡第4地点2次2区
　　Ⅱ層出土遺物分布 ……91
図98　東峰遺跡第4地点2次2区 Ⅱ層出土遺物1……93
図99　東峰遺跡第4地点2次2区 Ⅱ層出土遺物2……94
図100 東峰遺跡第4地点2次2区 接合資料 ……95
図101 東峰遺跡第4地点2次2区
　　Ⅰ層・撹乱出土遺物1 ……95
図102 東峰遺跡第4地点2次2区
　　Ⅰ層・撹乱出土遺物2 ……96
図103 各調査区の土層対比 ……98
図104 高見Ⅱ遺跡・東峰遺跡第4地点2次
　　ナイフ形石器の長幅比 …… 100
【附編1】
図1　高見Ⅱ遺跡1a区 東壁の土層柱状図 …… 114
図2　高見Ⅱ遺跡1a区
　　東壁のテフラ組成ダイヤグラム …… 114
【附編2】
図1　北西四国地方の
　　主要な縄文時代早期の遺跡 …… 116
図2　松山平野及び周辺域における
　　縄文時代早期の遺跡分布図 …… 117
図3　伊予市内遺跡の縄文時代早期土器 …… 118
図4　高見Ⅱ遺跡・東峰遺跡第4地点2次出土
　　内面短沈線の無文土器 …… 119
図5　高見Ⅱ遺跡出土押型文土器 …… 120
図6　城ノ向遺跡(伊予郡砥部町)出土
　　内面短沈線の無文土器 …… 122
図7　猿川西ノ森遺跡(松山市)出土
　　内面短沈線の無文土器 …… 123
図8　上苅谷遺跡第3次調査(松山市)出土
　　内面短沈線の無文土器 …… 124
【附編3】
図1　分析試料採取箇所(2区) …… 129
図2　測定試料の較正曲線
　　(EHIYO-2017.2018) …… 130

表 目 次

表1　調査体制 …… 2
表2　礫群の構成礫一覧 …… 88
表3　高見Ⅱ遺跡1区Ⅳ層、Ⅲ層、Ⅲ層上面器種別・石材別点数(後期旧石器時代) …… 105
表4　高見Ⅱ遺跡1区Ⅳ層、Ⅲ層、Ⅲ層上面器種別・石材別重量(後期旧石器時代) …… 105
表5　高見Ⅱ遺跡1区Ⅱ層器種別・石材別点数(縄文時代) …… 105
表6　高見Ⅱ遺跡1区Ⅱ層器種別・石材別重量(縄文時代) …… 105
表7　高見Ⅱ遺跡2区Ⅲ層器種別・石材別点数(縄文時代下層) …… 105
表8　高見Ⅱ遺跡2区Ⅲ層器種別・石材別重量(縄文時代下層) …… 105
表9　高見Ⅱ遺跡2区Ⅱ層器種別・石材別点数(縄文時代上層) …… 105
表10　高見Ⅱ遺跡2区Ⅱ層器種別・石材別重量(縄文時代上層) …… 105
表11　高見Ⅱ遺跡遺構一覧 …… 133
表12　東峰遺跡第4地点2次遺構一覧 …… 133
表13　高見Ⅱ遺跡1区掲載縄文土器深鉢一覧 …… 134
表14　高見Ⅱ遺跡1区掲載石器一覧 …… 134
表15　高見Ⅱ遺跡2区掲載縄文土器深鉢一覧 …… 135
表16　高見Ⅱ遺跡2区掲載石器一覧 …… 136
表17　東峰遺跡第4地点2次1区掲載縄文土器深鉢一覧 …… 138
表18　東峰遺跡第4地点2次1区掲載石器一覧 …… 138
表19　東峰遺跡第4地点2次2区掲載縄文土器深鉢一覧 …… 138
表20　東峰遺跡第4地点2次2区掲載石器一覧 …… 138
表21　高見Ⅱ遺跡1区縄文土器深鉢一覧 …… 139
表22　高見Ⅱ遺跡1区石器一覧 …… 140
表23　高見Ⅱ遺跡2区縄文土器深鉢一覧 …… 143
表24　高見Ⅱ遺跡2区種別器種不明遺物一覧 …… 148
表25　高見Ⅱ遺跡2区石器一覧 …… 148
表26　東峰遺跡第4地点2次1区縄文土器深鉢一覧 …… 154
表27　東峰遺跡第4地点2次1区石器一覧 …… 154
表28　東峰遺跡第4地点2次2区縄文土器深鉢一覧 …… 155
表29　東峰遺跡第4地点2次2区石器一覧 …… 155
【附編1】
表1　高見Ⅱ遺跡におけるテフラ検出分析結果 …… 110
表2　高見Ⅱ遺跡における火山ガラス比分析結果 …… 110
表3　高見Ⅱ遺跡における重鉱物組成分析結果 …… 110
表4　屈折率測定結果 …… 111
【附編2】
表1　伊予市内遺跡出土土器観察表 …… 118
【附編3】
表1　炭化物の処理 …… 129
表2　測定した試料の14C炭素年代(δ13C(‰))と暦年較正年代(calBC) …… 130

図 版 目 次

巻頭図版1　上:高見Ⅰ遺跡から調査区を臨む(南西より)
　　下:高見Ⅱ遺跡1b区 土層(東壁)(西より)
巻頭図版2　上:東峰遺跡第4地点2次2区 旧石器時代の礫群(南東より)
　　下:高見Ⅱ遺跡2区 縄文時代の土坑(南西より)
図版1　高見Ⅱ遺跡1a区
　1段目左:調査前風景(南西より)　1段目右:集石(北より)
　2段目左:遺物(22・30)出土状況　2段目右:遺物(21)出土状況
　3段目左:SK-1(北より)　3段目右:Ⅲ層遺物出土状況(南東より)
　4段目左:完掘状況(南東より)　4段目右:火山灰分析試料採取風景(南東より)
図版2　高見Ⅱ遺跡1b区
　1段目左:調査前風景(北西より)　1段目右:T-2土層(南西より)
　2段目左:T-3土層(北西より)　2段目右:SK-2(南東より)
　3段目左:北端部Ⅲ層遺物出土状況(南西より)　3段目右:完掘状況(南東より)
　4段目左:遺物(5)出土状況
図版3　高見Ⅱ遺跡2区
　1段目左:調査前風景(南東より)　1段目右:遺物(81)出土状況
　2段目左:遺物(126)出土状況　2段目右:SK-3(南東より)
　3段目:調査区の土層(東壁)(南西より)
図版4　東峰遺跡第4地点2次
　1段目左:1区 調査前風景(北より)　1段目右:1区 SK-2・3(南東より)
　2段目左:1区 SK-1(南東より)　2段目右:1区 完掘状況(南より)
　3段目左:2区 調査前風景(東より)　3段目右:2区 遺物(214)出土状況
　4段目左:2区 遺物(206)出土状況　4段目右:2区 完掘状況(西より)
図版5　高見Ⅱ遺跡1a区・1b区　出土遺物1
図版6　高見Ⅱ遺跡1a区・1b区　出土遺物2
図版7　高見Ⅱ遺跡1a区・1b区　出土遺物3
図版8　高見Ⅱ遺跡2区　出土遺物1
図版9　高見Ⅱ遺跡2区　出土遺物2
図版10　高見Ⅱ遺跡2区　出土遺物3
図版11　高見Ⅱ遺跡2区　出土遺物4
図版12　高見Ⅱ遺跡2区　出土遺物5
図版13　高見Ⅱ遺跡2区　出土遺物6
図版14　東峰遺跡第4地点2次1区　出土遺物
図版15　東峰遺跡第4地点2次2区　出土遺物
【附編1】
高見Ⅱ遺跡テフラ分析写真図版

第1章　調査の経緯

第1節　調査に至る経緯(図1)

四国縦貫自動車道における(仮称)中山スマートインターチェンジの建設事業(計画)が実施されるにあたり、平成27年2月17日と4月21日、東峰遺跡第4地点に隣接する地域において、伊予市教育委員会(以下、「伊予市教委」と称する)及び関係機関による踏査が実施された。平成27年6月24日・25日、平成28年9月29日・30日、10月13日には、伊予市教委による試掘調査が愛媛県教育委員会(以下、「県教委」と称する)、公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センター(以下、「埋文センター」と称する)、伊予市産業建設部土木管理課の立会いのもと実施された。その結果、遺跡が確認されたため、発掘調査の実施が決定した。

調査の実施にあたり、西日本高速道路株式会社四国支社愛媛高速道路事務所(以下、「NEXCO」と称する)による開発区域は埋文センターが、伊予市による開発区域は伊予市教委が発掘調査を実施することとなった。ただし、東峰遺跡第4地点2次調査の調査区域については、伊予市、伊予市教委、県教委、埋文センター、NEXCOにて協議をした結果、遺跡としての連続性と作業効率を鑑み、NEXCOによる開発区域も含めて伊予市教委が全体の発掘調査を担当することになった。

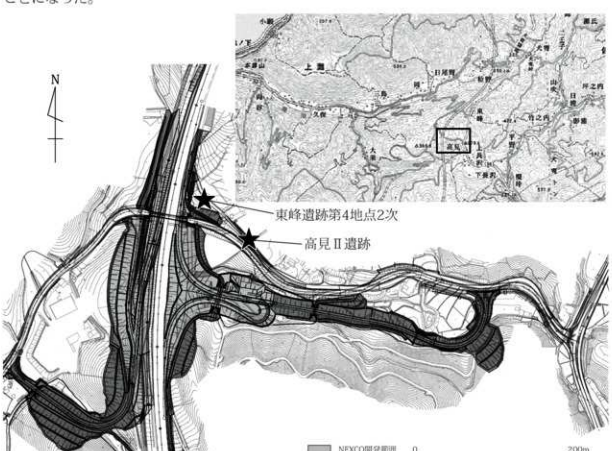


図1　(仮称)中山スマートインターチェンジ建設に伴う開発範囲と遺跡の位置

第2節　調査体制(表1)

伊予市教委の調査体制は以下のとおりである。

表1　調査体制

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
教育長	渡邉博隆	渡邉博隆	渡邉博隆
教育監理監	井上伸弥	井上伸弥	井上伸弥
事務局長	鷲岡正直	鷲岡正直	鷲岡正直
課長	森田誠司	森田誠司	山岡慎司
課長補佐	矢野真人	北岡康平	北岡康平
係長	北岡康平	－	－
主査	高橋二葉	高橋二葉	－
主任	水木崇行	武智克弥	武智克弥
主事	－	－	相原知奈実
文化財専門員	－	－	島崎達也
文化財整理指導員	沖野新一 西岡若水	沖野新一	－
臨時職員	－	－	松本美香

第3節　調査の経過

現地での発掘調査については、安全対策を行ったうえで、平成28年12月15日から平成29年6月15日にかけて実施した。調査区域を設定し、高見Ⅱ遺跡1b区、1a区、2区、東峰遺跡第4地点2次1区、2区の順に調査区の作業を進めた。高見Ⅱ遺跡1a区、1b区については調査区が狭く、手作業での掘削作業を行った。発掘作業に際しては、調査区ごとに土壌の特徴を見極めながら慎重に作業を進め、遺物包含層の掘削と並行して、遺物や遺構の出土状況や土層断面を写真と図面により記録した。

整理作業に際しては、現地調査終了後、出土遺物の洗浄、注記、分類、選別、接合及び台帳作成を行い、各種図面・表の作成、遺物写真撮影、原稿執筆、編集作業を実施した。火山灰分析については、株式会社古環境研究所に、石器の実測図及びトレース図の作成については、株式会社ラングに委託したほか、炭素14年代測定については、遠部慎氏に依頼した。

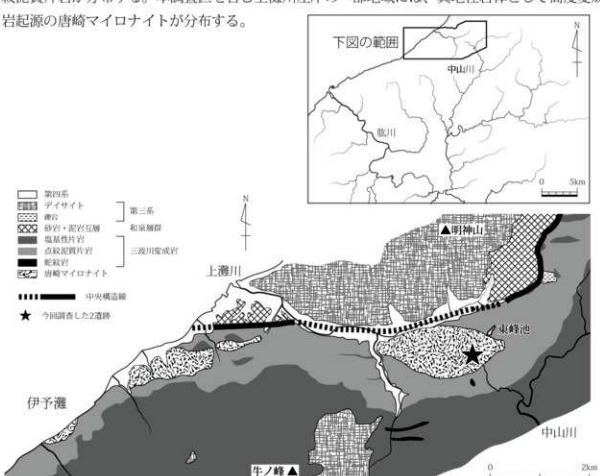
なお、今回の発掘調査成果の報告として、平成29年8月27日に埋文センターとの合同報告会をウェルピア伊予にて開催し、約140名が参加した。

第2章　遺跡の立地と環境

第1節　自然環境(図2)

伊予市は、平成17(2005)年に伊予市、伊予郡中山町、伊予郡双海町の3市町が合併して誕生した。愛媛県のほぼ中央部に位置し、松山平野南部から四国山地にかけての約195㎢を市域とする。高見Ⅱ遺跡と東峰遺跡第4地点は、伊予市双海町上灘地区の、中山川へと注ぐ支流(現在は水路)の左岸に位置する。両遺跡の周囲は深い開析谷を形成しており、狭い谷部に挟まれて舌状に伸びる丘陵から山腹緩斜面にかけての範囲に両遺跡が位置する。調査区の標高は約290～295mである。両遺跡の北側は、上灘川に向けて急激に落ち込む急斜面となる。

地質的には、西南日本を外帯と内帯に分かつ中央構造線が上灘川に沿って伊予市内を東西に走る。このため、調査区の周辺地域は上灘川の南北で地質が大きく異なり、外帯(南側)に三波川変成帯(点紋泥質片岩)、内帯(北側)には和泉層群(砂岩・泥岩互層)や第三系デイサイトが分布している。低温高圧型変成帯である三波川変成帯には片岩が広く分布し、上灘川左岸に塩基性片岩、点紋泥質片岩が分布する。本調査区を含む上灘川左岸の一部地域には、異地性岩体として高度変成岩起源の唐崎マイロナイトが分布する。



(宮村・高木1999、日本地質学会編2016の図をもとに、一部加筆・修正)

図2　遺跡周辺の地質

第2節　歴史的環境(図3)

本節では、中山地区と双海地区を中心に、伊予市とその周辺地域の歴史的環境を紹介する。

後期旧石器時代

東峰遺跡第4地点(図3の2)では、姶良Tn火山灰(AT：約2.8-3万年前)の下位から、台形様石器、石核、石斧、剥片などの石器が出土した。姶良Tn火山灰降灰後の石器は、東峰遺跡第4地点と高見Ⅰ遺跡(図3の7)で報告されているほか、三秋新池遺跡(図3の12)(伊予地区)より赤色珪質岩製のナイフ形石器や角錐状石器などが出土している。多くは遺物包含層外の出土であるが、東峰遺跡第2a地点(図3の4)からはナイフ形石器や角錐状石器などが出土している。発掘調査によるものではないが、双海地区の串本村遺跡や本郷遺跡(図3の37)、唐崎遺跡(図3の38)でも少数のナイフ形石器、角錐状石器などが表面採集されており、伊予地区の岩崎池南遺跡においてはサヌカイト製のナイフ形石器が、征露池ではサヌカイトや赤色珪質片岩製の尖頭器が報告されている(長井1993)。唐崎遺跡や上三谷平松遺跡(伊予地区)では細石核が報告されている。

縄文時代

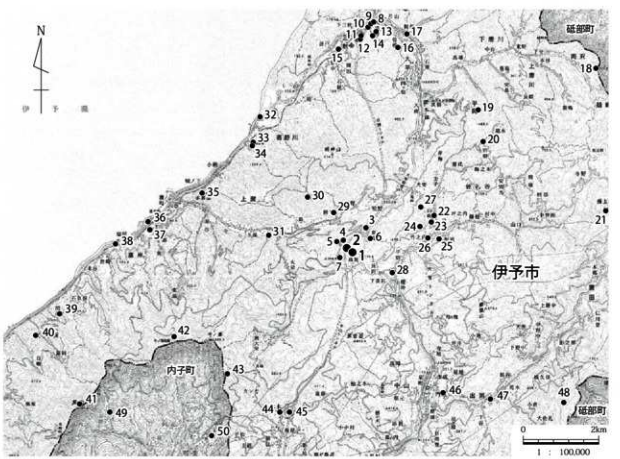
草創期の遺跡は、伊予地区の上三谷にて草創期前半に帰属する有舌尖頭器が報告されている(得居・名本2012)。早期の遺跡は、東峰遺跡第4地点で無文土器が出土したほか(竹口・多田2002)、下長沢遺跡(中山地区)(図3の28)において厚手の無文土器片が確認されており(伊予市2015)、上吾川八幡池遺跡(伊予地区)では押型文土器の報告例がある(附編2参照)。東峰遺跡第4地点などでは鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah：約7,300年前)の降灰層準が検出された。高見Ⅰ遺跡2次では、逆茂木を伴う落し穴が複数報告されている(沖野・青野・富山2018)。前期は、土器が東峰遺跡第4地点で出土しているほか、横田遺跡(松前町)(長井・西岡1996)では深鉢が出土している。中期の遺跡は伊予市内ではほとんど報告されていない。後期の遺跡は、東峰遺跡第4地点で中津式土器段階併行の土器が、高見Ⅰ遺跡では、後期中葉の北白川上層式土器の深鉢が出土した。石橋遺跡(伊予地区)では後期の土器が報告されている(谷若・須藤・西川1987)。晩期は、片山・太郎丸遺跡(伊予地区)で土器が出土している(森1993)。

弥生時代・古墳時代

伊予地区の平野部とその周辺には、行道山遺跡(長井2005)や上三谷篠田・鶴吉遺跡(池尻ほか2018)、池田遺跡(中野・菊池2011)、伊予岡古墳群、猪の窪古墳(長井1981)、市場南組窯跡(三吉2016)など、当該時期の集落址、古墳、窯跡が多数分布する。しかし、中山・双海の山間部ではほとんど報告されておらず、串本村遺跡で弥生土器片が少数、表面採集されているのみである。

古代から現代

古代の中山・双海の山間部は、律令体制下において伊予国浮穴郡に属していたとされるが、周知の埋蔵文化財と文献資料が皆無に等しく、当時の様相は全く不明である。中世にいたっても文献資料が乏しいが、藤縄之森三島神社(中山地区)の石鳥居には応永9(1402)年の紀年銘が認められる。藤縄之森カド遺跡(図3の44)(中山地区)で東播系須恵器片が、大久保墳墓(図3の39)(双海地区)では備前焼の甕棺、福住(中山地区)では瀬戸産灰釉四耳壺が報告されている(伊予市2015)。室町時代になると各地で山城が築かれた。藩政期の中山・双海は大洲藩に属し、本調査地点近くの東峰池は、大洲藩主(加藤泰衡)により工事が行われたと伝わる。高見Ⅱ遺跡と東峰遺跡第4地点が位置する丘陵上には現在、高見集落の民家や果樹園がみられる。



1 高見Ⅱ遺跡	11 三秋新池窯跡	21 階上城跡	31 安久寺城跡	41 黒山城跡
2 東峰遺跡第4地点	12 三秋新池遺跡	22 山吹御前の墓	32 高野川窯跡	42 牛の峰地蔵堂一字一石経塚
3 東峰遺跡第1地点	13 堂ヶ谷経塚	23 松森城主の墓	33 山神城跡	43 天山城跡
4 東峰遺跡第2a地点	14 堂ヶ谷窯跡	24 松森城跡	34 高野川板碑	44 藤縄之森カド遺跡
5 東峰遺跡第2b地点	15 大地古墳	25 みやりの墓	35 由並本尊城跡	45 合之森城跡
6 東峰遺跡第3地点	16 森山城跡	26 清冷寺跡	36 海辺城跡	46 垣生城跡
7 高見Ⅰ遺跡	17 日の神社古墳	27 メガネ城跡	37 本郷遺跡	47 徳ノ森城跡
8 城の鼻窯跡	18 白滝城跡	28 下長沢遺跡	38 唐崎遺跡	48 蒲山城跡
9 尼ヶ古城跡	19 平岡城跡	29 上灘五輪塔	39 大久保墳墓	49 古橋遺跡
10 三秋窯跡	20 高月城跡	30 立帽子岳城跡	40 庚神森城跡	50 石畳東遺跡

図3　周辺の遺跡分布

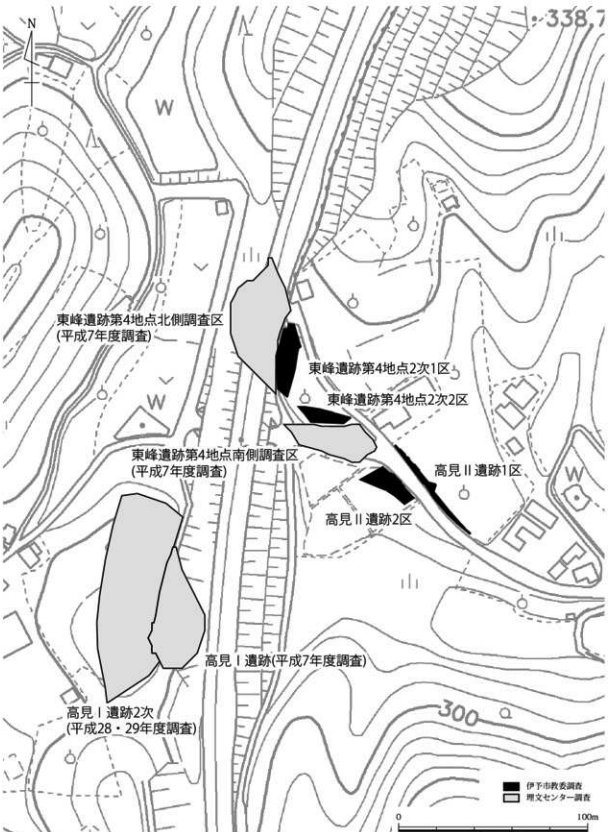


図4　高見Ⅱ遺跡・東峰遺跡第4地点 調査区配置

第3章　高見Ⅱ遺跡の調査成果

第1節　調査区の設定(図4・5)

調査対象区は、四国縦貫自動車道における(仮称)中山スマートインターチェンジの建設事業に伴う市道日尾野引坂線の工事箇所に該当する。工事が、市道の拡幅・掘削によることから、調査区を、市道の東側と西側とに分けた。

東側の狭長な調査区を1区、西側の調査区を2区とした。この際、1区のほぼ中央部が、果樹園の出入り口としてすでに掘削されていたため、この部分を境に便宜上、北西側を1a区、南東側を1b区とした。発掘調査の記録作成のために用いるグリッド杭打設は、平成7年度に実施した埋文センターの調査箇所に近いことから、埋文センター同様4mピッチで行った。調査面積は、1区383.86㎡、2区525.22㎡である。

調査は、排土作業の効率を高めるため1b区から行った。1b区の調査後、1a区の調査を行った。1a区では、土層堆積が良好であることから、火山灰分析のための試料採取を行った。

1区の調査後、2区の調査に移った。2区は、既存市道に接し、包含層が厚く深く掘り下げるため、安全を十分に確保しながら調査を行った。

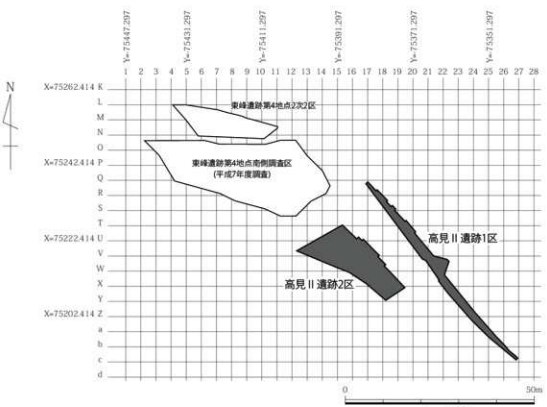


図5　高見Ⅱ遺跡 調査区の位置とグリッド配置

第2節　1区

1　層位と概要(図6～10)

基本層序

土層把握は、埋文センターが平成7年度に調査した高見Ⅰ遺跡の成果を踏まえながら慎重に行った。以下に記す1区の土層堆積は、基本的にはこの遺跡と共通している。

Ⅰ層は、表土である。

Ⅱ層は、橙色粘性土(7.5YR6/6)で、層厚は25～40㎝である。礫をほとんど含まず、径約1㎜の砂粒(石英・珪質片岩・長石など)を少量含む。上部で集石、Ⅱ層除去段階で土坑などの遺構が認められた。遺物は、無文土器、少数の押型文土器、縄文時代の石器類が出土した。

火山灰分析の結果、Ⅱ層の上部で鬼界アカホヤ火山灰降灰層準が、最下部で姶良Tn火山灰のブロックが検出されている。

Ⅲ層は、灰黄褐色土(10YR6/2)で、層厚は10～15㎝である。径約0.5～2㎜の砂粒(石英・珪質片岩・長石・唐崎マイロナイトなど)を含む。Ⅲ層上面及びⅢ層で後期旧石器時代の石器類が出土した。土器、石鏃など縄文時代の遺物は含まない。

Ⅳ層は、にぶい黄褐色粘性土(10YR5/3)で、Ⅲ層よりも赤味を帯びた色調である。層厚は25～30㎝である。風化した径約0.5～3㎝の石英、長石、唐崎マイロナイトなどを含む。Ⅳ層上面は凹凸があり、Ⅲ層と入り組んでいる部分がある。上部から剥片が1点出土した。

Ⅴ層は、明黄褐色粘性土(10YR7/6)である。粗砂混じりで粘性が強い。無遺物である。

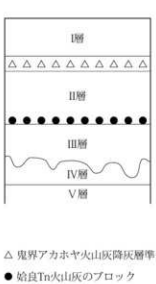


図6　高見Ⅱ遺跡1区 土層模式

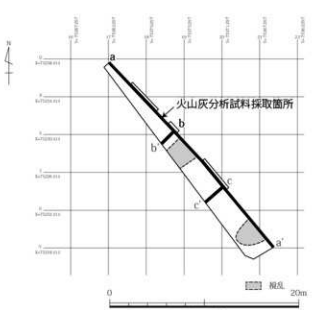


図7　高見Ⅱ遺跡1a区 土層図位置

a～a′(東壁)

1a区の東壁である。近現代の炭焼き窯により部分的な攪乱を受けていた。ただし、攪乱部を除いた箇所については、土層堆積の遺存は良好であった。

地表面の地形を見ると、北西端部から2～4°の傾斜角で、緩やかに南東方向へと下がっている。

Ⅱ層の層厚は、約25～40㎝である。攪乱部以外は、どの箇所にも認められた。Ⅱ層上部で、部分的に若干色調の暗い部位が認められたが、肉眼観察においては、分層できる状況ではなかった。この層から、押型文土器、無文土器、石鏃、石匙、礫石器など縄文時代の遺物が多数出土している。

Ⅲ層の層厚は10～15㎝で、Ⅱ層同様攪乱部以外のどの箇所にも認められた。Ⅲ層上面、Ⅲ層での出土物は石器のみで、縄文時代の遺物は皆無であった。

Ⅳ層は、Ⅲ層より赤みを帯びた粘性土である。

b～b′

a～a′と同様の土層堆積である。土層の長さは短いものの、水平堆積が認められることから、この部位は、段丘の平坦部に属していることがわかる。

c～c′

基本的には、a～a′、b～b′と同様の土層堆積である。ただし、堆積が西側へと下がる傾向が見られることから、この箇所が、段丘西端に近いことが推測される。

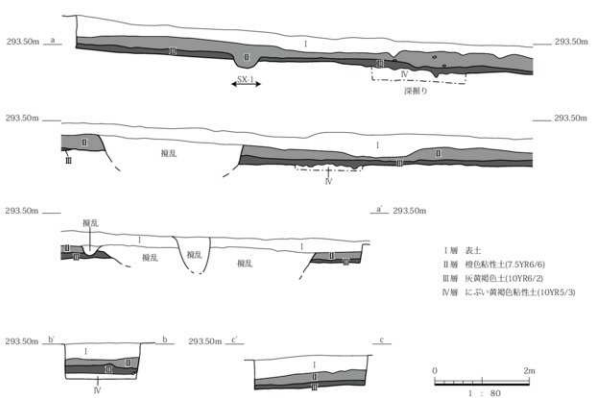


図8　高見Ⅱ遺跡1a区 土層

d～d′～d″

1b区の東壁である。西壁は、現市道工事により削平・整地されていた。1a区同様、部分的に近現代の攪乱を受けていたものの、他の箇所においては、土層堆積は良好であった。地表面は、北西部から南東方向へ約2°の傾斜角で下がる。

Ⅱ層の層厚は、1a区より薄く15～20cmである。調査区北端部とSK-2を検出したb27グリッド周辺において、少数の縄文土器、石器が出土した。

Ⅲ層は、攪乱部以外は、ほぼ全域にわたって残存している。とりわけ1b区北端部において、少数ながら石器がまとまって出土した。

Ⅳ層もⅡ層、Ⅲ層同様全域で認められたが、遺物は出土していない。

e～e′

トレンチの南東壁である。調査区東壁に見られたⅡ層、Ⅲ層は途中で消滅し、Ⅳ層上面は、西方向へと下る斜面を形成する。このことから、e～e′のⅡ層、Ⅲ層消滅箇所辺りが、段丘の西端部と推定できる。

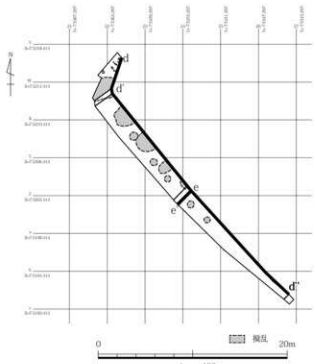


図9　高見Ⅱ遺跡1b区 土層図位置

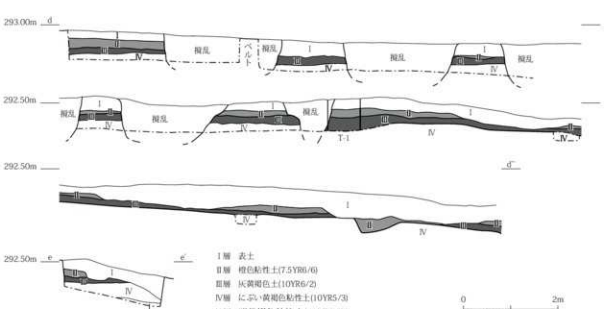


図10　高見Ⅱ遺跡1b区 土層

2　Ⅳ層の遺物

石器(図11)

Ⅳ層上面は、凹凸があり、Ⅲ層との境は不明瞭である。そのため、遺物の出土層位の認定は慎重に行い、以下の1点の剥片の出土をみた。

No.1は、赤色珪質岩製の剥片で、長さ1.0㎝、幅0.7㎝、厚さ0.1㎝、重さ0.1gである。

3　Ⅲ層、Ⅲ層上面の遺物

遺物出土状況(図11・12)

1a区は、調査区中央やや北寄りの範囲で、石器のまとまった出土が見られた。石核、剥片のほか、使用痕を有する礫石器などが出土した。縄文土器など縄文時代の遺物は皆無であった。

なお、Ⅲ層に限らずⅡ層においても、緑色片岩の河原石と思われる棒状・扁平礫が多数出土した。こうした緑色片岩は、当遺跡が立地する箇所においては、表層地質からは分布しておらず、何らかの人の行為による可能性が高いと考えられるため、原則として全て出土状況の記録をとり持ち帰った。

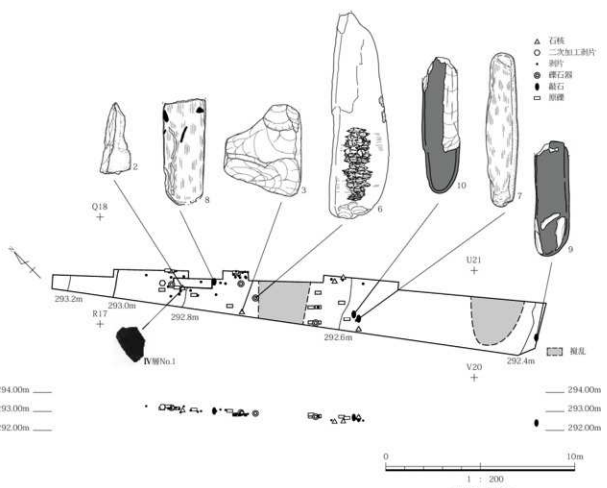


図11　高見Ⅱ遺跡1a区 Ⅳ層・Ⅲ層・Ⅲ層上面出土遺物平面・垂直分布

1b区のⅢ層では、調査区北端部で、数は少ないものの、狭い範囲に石器が集中して出土した。このことから、石器の出土範囲は、東側の段丘面に広がっている可能性がある。なお、Ⅲ層・Ⅲ層上面からは、土器などの縄文時代の遺物は認められなかった。図12で示した石器2点は、いずれも横長剥片である。

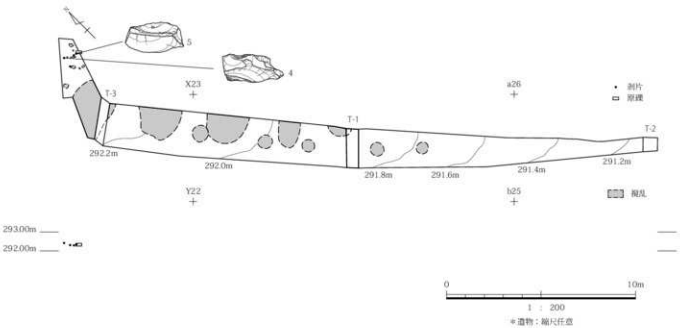


図12　高見Ⅱ遺跡1b区 Ⅲ層出土遺物平面・垂直分布

石器(図13～15)

1は、赤色珪質岩製のナイフ形石器である。長さ1.64㎝と、本調査でナイフ形石器と認定した石器のなかでは最も小さい。不定形剥片を素材とし、右側縁基部にブランティングを部分的に施す。ブランティングは折り取り面を切る。

2は、赤色珪質岩製の石核である。表面に滑らかな円磨した原礫面を大きく残す。剥離された剥片は不定形である。

3は、安山岩類製の石核であり、打面を転位しながら剥片剥離を行い、やや横長な剥片と短寸な剥片を剥離した痕跡がみられる。裏面と右側面に礫面を残す。

4は、赤色珪質岩製の横長剥片である。石核時に横方向に打面を移動させ、交互・並列剥離を行った跡がみられる。表面を構成する剥離面にステップ(階段状剥離)が生じる。

5は、サヌキトイド製の横長剥片である。背面(ネガティブ面)を構成する剥離からは、打面を固定して連続して横長剥片を剥離した石核から剥離されたと思われるが、主要剥離面の剥離軸は若干斜め方向から入る。端部の表面左側は鋭利で、微細剥離が認められる。

6は、緑色片岩の礫を用いた礫石器である。表面の下半分の平滑な面には、器軸に沿って並列する楔状凹部が密集して認められる。裏面の下半分にも、微かな楔状凹部が疎らにみられる。楔状凹部は、いずれも器軸に直行する角度で施されている。裏面右側縁には小剥離痕が連続し、表面右側縁には小剥離痕が点在する。

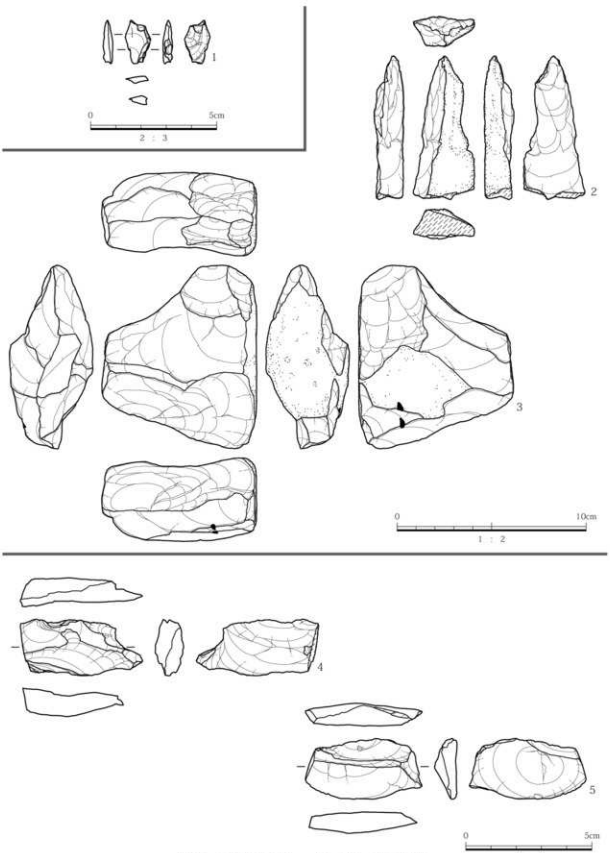


図13　高見Ⅱ遺跡1a・1b区 Ⅲ層出土遺物1

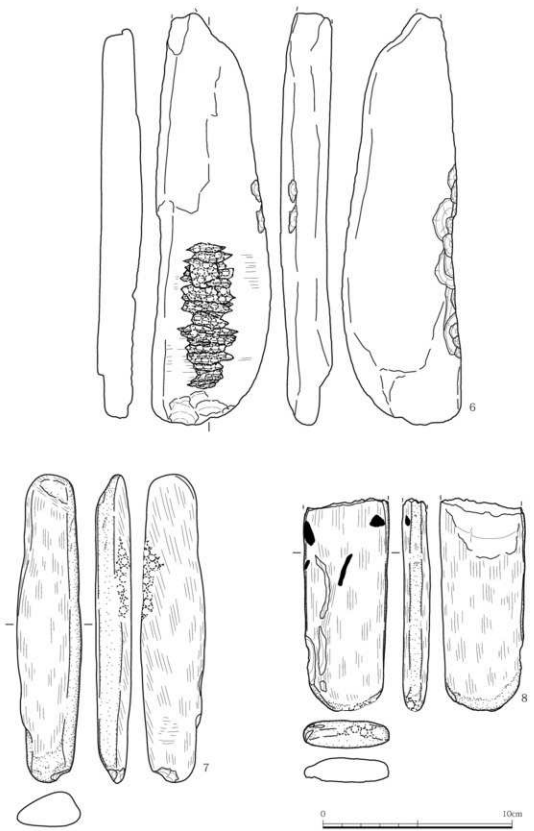


図14　高見Ⅱ遺跡1a・1b区 Ⅲ層出土遺物2

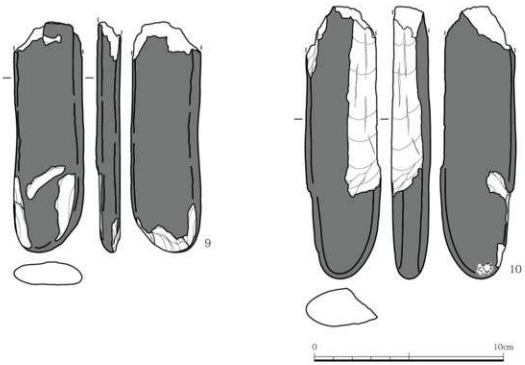


図15　高見Ⅱ遺跡1a・1b区 Ⅲ層出土遺物3

7～10は、緑色片岩の礫を用いた敲石である。7は裏面左側縁に微かな敲打痕が認められる。8は下端に敲打痕が認められる。9は下端周辺に剥離痕が認められる。10は下端に敲打痕が認められる。

4　Ⅱ層の遺構と遺物

(1)遺構(図16・20)

Ⅱ層上部で集石を、また、Ⅱ層除去段階でSK-1・2、SX-1・2を検出した。

集石(図17)

径約2～10㎝の円礫、亜円礫が、南北約0.35m、東西約0.50mの範囲に集中していたが、調査区外の西側に広がっている可能性がある。遺構の上下で土層に違いが認め難いため、遺構面は不明瞭である。共伴遺物がなかったため時期は不明である。

SK-1(図18)

調査区南東部で検出した土坑で、全体形は不明で、長径2.52mである。断面形状は、北西側が約0.4mと浅く、南東側が0.84mと深くなっている。長軸方向は、N41° Wである。埋土から縄文土器7点、石鏃1点、剥片3点、原礫1点が出土した。

11は黒曜石製の石鏃である。基部を弓形に抉り、裏面には素材剥片の主要剥離面を大きく残す。

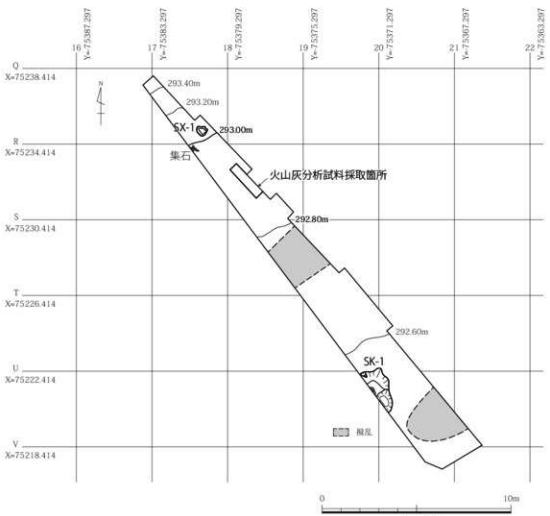


図16　高見Ⅱ遺跡1a区 遺構配置

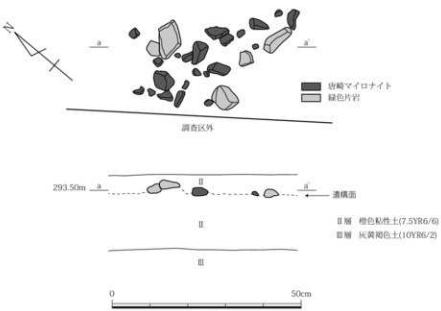


図17　高見Ⅱ遺跡1a区 集石平・断面

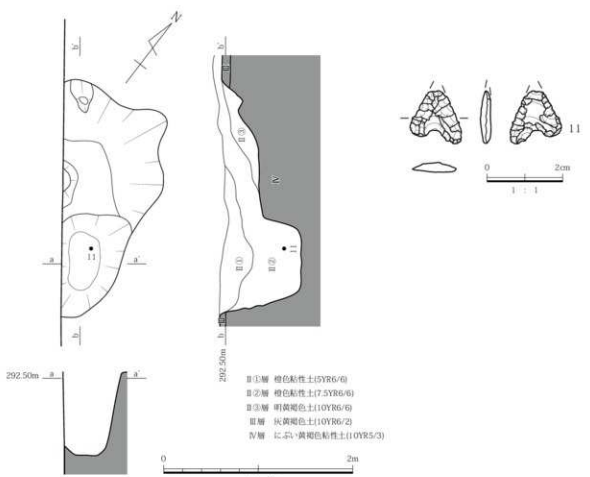


図18　高見Ⅱ遺跡1a区 SK-1平・断面と出土遺物

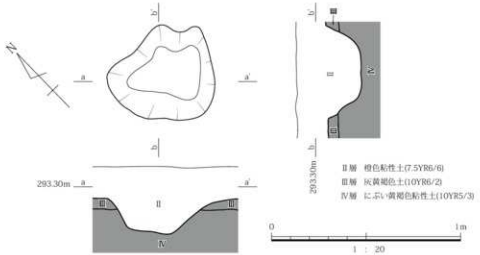


図19　高見Ⅱ遺跡1a区 SX-1平・断面

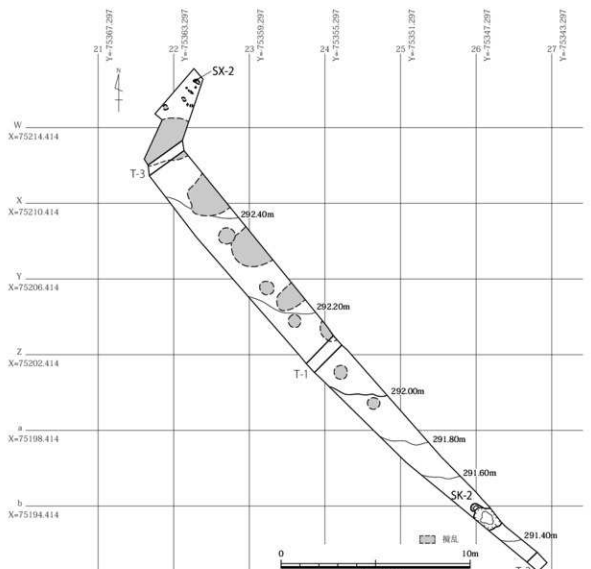


図20　高見Ⅱ遺跡1b区 遺構配置

SX-1(図19)

1a区の北西部に位置する。東壁でⅡ層の落ち込みが存在したため、調査区を40㎝拡張し全体形を確認した。平面形は、北側が凹んだ不整形である。長径1.12m、短径1.00m、深さ0.36mである。長軸方向は、N45°Wである。断面は、逆台形状で、坑底はほぼ平坦だが、南東側へわずかに低くなっている。

埋土はⅡ層である。遺物が出土しなかったため、時期は不明である。

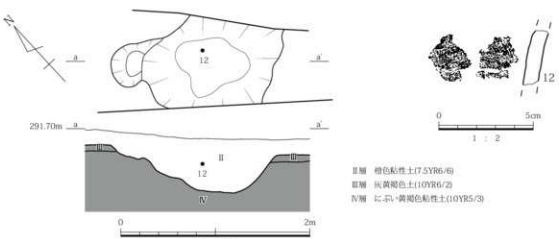


図21 高見Ⅱ遺跡1b区 SK-2平・断面と出土遺物

SK-2(図21)

1b区の南東部に位置する。調査区が狭いため、全体の形状を把握するには至らなかった。そのため、平面形は不明である。調査区内で確認できる最大径は1.72m、深さ0.52mである。北西側に10～15㎝の浅い落ち込みがある。断面は北西側が緩やかに落ち込み、南東側は急傾斜で立ち上がる。

埋土は、Ⅱ層であり、以下説明する無文土器片が1点含まれていた。土器が、遺構に伴うのかどうかは不明である。

12は、早期の無文土器の胴部片であり、器厚は0.8㎝と薄手である。内外面はナデ調整であり、色調は橙色を呈する。結晶片岩や角閃石を含む。

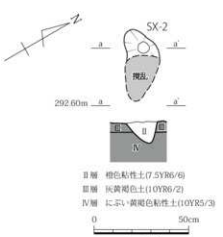


図22 高見Ⅱ遺跡1b区 SX-2平・断面

SX-2(図22)

1b区の北端部での検出である。1b区は、調査前は栗園であり、木株により遺構の南東部が撹乱を受けていた。そのため、全体形は不明である。確認できる最大径は0.22m、深さ0.10mである。最深部が、中央から北東側に寄っている。

埋土はⅡ層である。遺物が出土しなかったため、時期は不明である。

(2)遺物

遺物出土状況(図23・24)

1a区は、調査区全域において、縄文土器、石鏃などの縄文時代の遺物が分布しているが、総じて調査区北側において出土が濃密である。縄文土器は、無文土器がほとんどである。石器は、石鏃、礫石器、凹石などが出土している。旧石器時代のナイフ形石器が出土しているが、これと同レベルから石鏃などが出土していることから、縄文時代の何らかの事由による混入である可能性がある。

1b区は、T-1で山形の押型文土器1点、調査区北端部で石核1点が出土したほかは、無文土器片、剥片などわずかで、出土状況は1a区より希薄である。

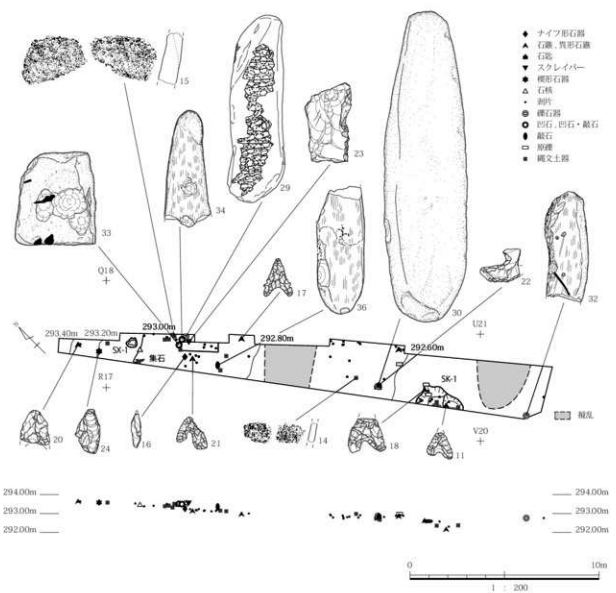


図23　高見Ⅱ遺跡1a区 Ⅱ層出土遺物平面・垂直分布

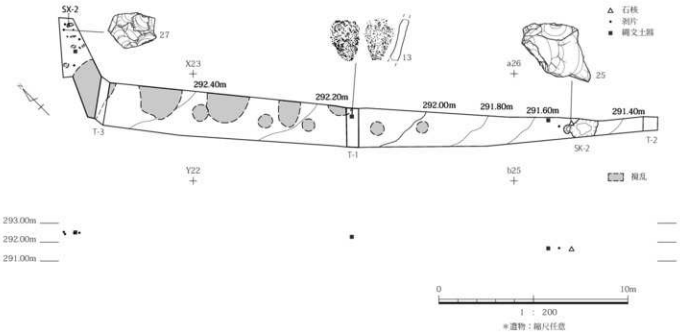


図24　高見Ⅱ遺跡1b区 Ⅱ層出土遺物平面・垂直分布

縄文土器(図25)

13は、早期中葉の押型文土器(黄島式)の胴部片であり、外面に山形文が横位施文されている。

14は、早期の無文土器の胴部片であり、器厚は0.7cmと薄手である。内外面はナデ調整である。角閃石を含む。15は、早期の無文土器の胴部片であり、器厚は1.9cmと厚手である。内面には指頭圧痕が顕著に認められる。金雲母を多く含み、わずかに角閃石の混入も認められる。

石器(図25～30)

16は、サヌキトイド製のナイフ形石器である。縦長剥片を素材とし、右側縁にブランティングを施す一側縁加工のナイフ形石器である。先端が欠損する。

17～20は石鏃である。17は黒曜石製で、基部を弓形に深く抉り、平面形は二等辺三角形である。両側縁の下半分は鋸歯状を呈する。18～20は赤色珪質岩製である。18は基部を抉り、左右非対称な脚部を作出する。19は基部の抉りが浅いため平基に近く、平面形は二等辺三角形である。20は先端が丸みを帯び、両脚部は欠損する。

21は、黒曜石製の異形石鏃である。基部を深く抉り、脚部を作出しているが、脚部の形状が左右で著しく異なるため、異形石鏃に分類した。

22は、サヌキトイド製の石匙である。横型であり、摘み頭部を表裏両面側からの調整加工で作出している。裏面には素材剥片の主要剥離面を大きく残す。

23は、不明石材を用いたスクレイパーである。赤色珪質岩の一種と考えられる緑色の石材を素材とする。縦長剥片の右側縁に裏面側から調整剥離を加え、直線状の刃部を作出している。左側縁は未加工なまま残す。裏面には自然面を大きく残す。

24は、不明石材を用いた楔形石器である。表面に周囲からの剥離を残し、裏面には素材時の

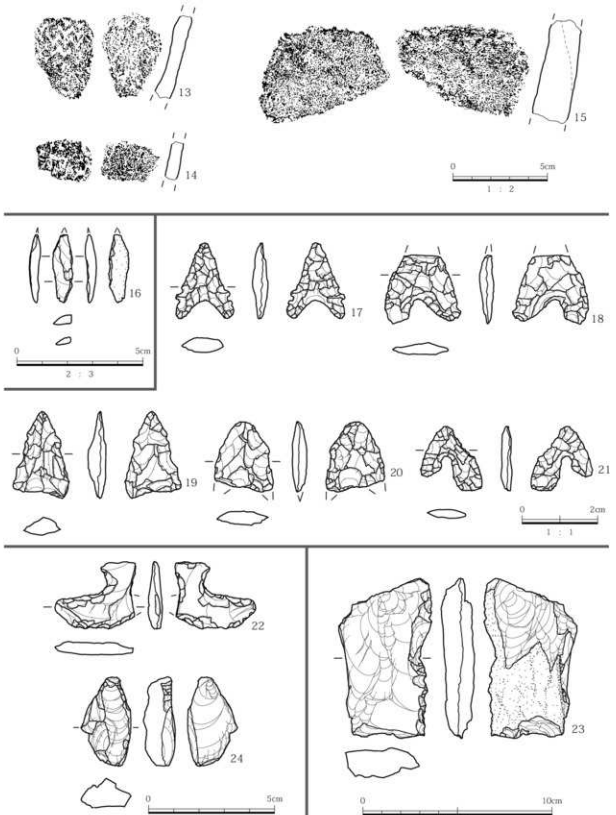


図25　高見Ⅱ遺跡1a・1b区 Ⅱ層出土遺物1

主要剥離面を大きく残す。右側部剥離痕は切断によるものである。右側縁の一部に、裏面側からの微細剥離が連続する。

25は、赤色珪質岩製の石核である。厚さが均一な盤状の剥片を素材として、打面転位しながら横長剥片を剥離している。裏面左側縁に微細剥離が認められる。

26は、サヌキトイド製の二次加工剥片である。横長剥片の右側縁に表面側から調整剥離を施している。

27は、赤色珪質岩のやや横長な剥片である。石核時における打面転位の跡がみられる。端部には、裏面側から微細剥離を施す。

28は、チャート製のやや縦長の剥片である。背面を構成する剥離からは、打面を転位しながら剥片を剥離した石核から剥離したと思われる。一部に微細剥離が認められる。

29は、唐崎マイロナイトと思われる礫を用いた礫石器である。表裏両面と両側面に連続した楔状凹部が認められる。特に表裏両面は楔状凹部の密度が高く、なかでも上部と下部において

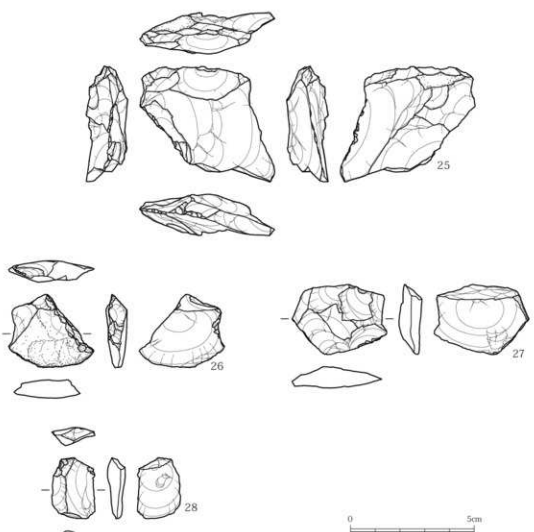


図26　高見Ⅱ遺跡1a・1b区 Ⅱ層出土遺物2

相対的に深い楔状凹部が認められる。裏面下端には剥離痕がある。30～32は、緑色片岩の礫を用いた礫石器である。30は裏面の中央に微かな凹部があり、表面左側縁には剥離痕が認められる。長さ32.82㎝、幅8.81㎝、厚さ3.43㎝、重さ1,610gと、図化したなかで最大の礫石器である。31は棒状の礫石器で、明確な使用痕は認められない。32は表面側に3か所の小さな打痕が認められ、裏面には楔状凹部が中央やや上に集中する。両側面と上先端部にアバタ状打痕と剥離痕がある。

33は、唐崎マイロナイトの礫を用いた凹石である。上面を除く5面に凹部が認められ、なかでも表裏両面に相対する2か所の円錐状凹部は径約3.0㎝、深さ約1.0㎝と顕著である。

34は、緑色片岩の礫を用いた凹石であり、表面には浅い凹部が上下2か所に認められる。裏面には明確な使用痕は認められない。

35は、緑色片岩の礫を用いた凹石・敲石である。表面では中央やや上に楔状凹部が集中し、凹部をなしている。表面の中央やや下には楔状凹部が集中している。裏面の最も厚い部位にはアバタ状打痕が生じており、表面下端と裏面左側縁には剥離痕が認められる。

36と37は、緑色片岩の礫を用いた敲石である。36は表面左側縁に打痕と剥離痕があるほか、表面中央やや上に敲打痕がある。37は表面にアバタ状打痕が微かに認められるほか、表面右側縁に小さな剥離痕が連続している。

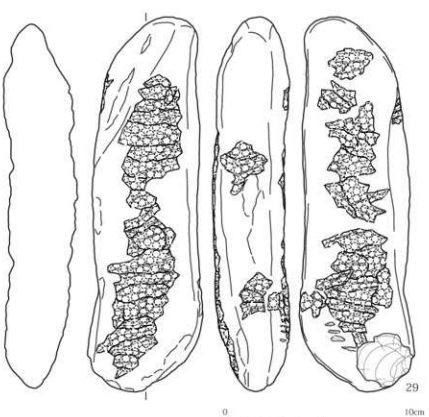


図27　高見Ⅱ遺跡1a・1b区 Ⅱ層出土遺物3

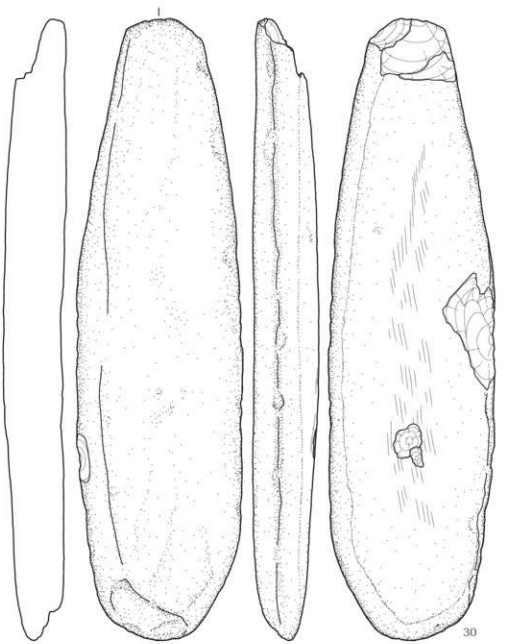


図28　高見Ⅱ遺跡1a・1b区 Ⅱ層出土遺物4

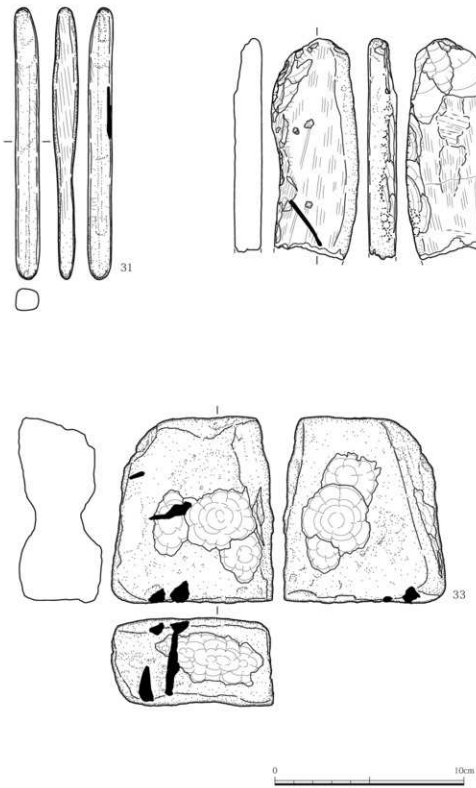


図29　高見Ⅱ遺跡1a・1b区 Ⅱ層出土遺物5

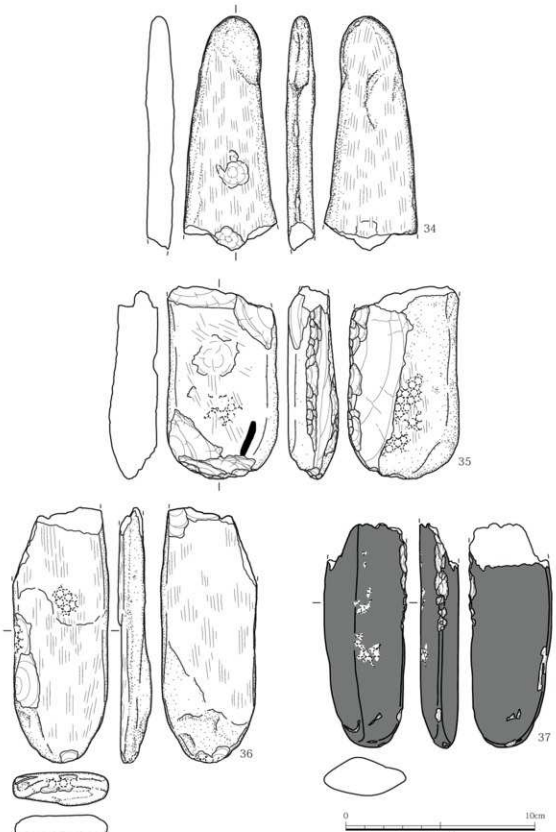


図30　高見Ⅱ遺跡1a・1b区 Ⅱ層出土遺物6

5　I層、表採の遺物

縄文土器(図31)

38は、早期中葉の押型文土器の胴部片(黄島式)である。外面は山形文が横位に施文されており、内面は丁寧なナデ調整である。

石器(図31～34)

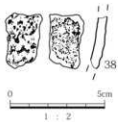
39～41は、いずれもサヌキトイド製のナイフ形石器である。39は一側縁加工のナイフ形石器で、バルバスカー(打瘤裂痕)が大きく発達する縦長剥片の右側縁にブランティングを施す。先端にはブランティングはほとんど認められず、素材剥片の形状をそのまま利用して尖頭部としている。基部に素材剥片の打面を残置し、左側縁の刃部には微細剥離が連続する。長さ12.82㎝と、本調査で出土した他のナイフ形石器と比べて突出して大きい。40は、縦長剥片の右側縁全周と左側縁基部にブランティングを施すナイフ形石器である。全体的に風化が激しく、稜線が磨耗しているため剥離痕の観察が困難であるが、表面を構成する剥離痕からは、打面を転位しながら剥片を剥離した石核から剥離したと思われる。素材剥片の端部を基部とする。41は縦長剥片を素材とし、右側縁にブランティングを施すほか、基部に調整剥離が少し入る。左側縁の刃部には、表面側からの連続する剥離が認められる。先端が大きく欠損するため、全体の形状は把握できない。

42は、サヌキトイド製の角錐状石器である。横長剥片を素材とし、両側縁に裏面側からブランティングを施す。先端には狭長な剥離が認められる。

43～47は石鏃である。43と44はサヌキトイド製である。43は、平面形は両側縁が外側に緩やかに膨らむ正三角形で、基部を深く抉り、大きく開いた尖った脚端部を作出する。44は基部を弓形に深く抉り、平面形は二等辺三角形である。45と46は赤色珪質岩製である。45は基部の抉りが浅く、平基に近い。平面形は二等辺三角形を呈する。46は全体の平面形は石鏃の形状を呈するものの、長さ3.2㎝、幅2.7㎝と他の石鏃と比べて相対的に大きい上に、裏表両面に結合面を残置し、調整剥離による整形も粗雑なため、未製品であると判断した。47は短い基部を有する黒曜石製の凸基の石鏃である。裏面側には素材剥片の主要剥離面が大きく残り、基部の調整剥離も部分的に省かれているため、茎を意図して作出したのかは不明である。

48と49は、サヌキトイド製のスクレイパーである。48は横長剥片を素材とし、縁辺に裏面側から調整剥離を加え、直線状の刃部を作出する。表面を構成する剥離には一部パティナ(風化した面)が生じており、剥離作業に時期差が認められる。49は横長剥片を横位に用い、素材剥片の側縁に調整剥離を施し弧状の刃部を作出している。素材剥片の打面が位置する左側縁にも一部、調整剥離が認められる。比較的厚い部位である右側縁には刃部を作出していない。素材剥片の主要剥離面を中心に考えた場合は横長剥片を用いたサイドスクレイパー(削器)であるが、平面形からは、エンドスクレイパー(先刃形掻器)とみなせる。

50～52は、緑色片岩の礫を用いた凹石である。50は、表面に1か所の円錐状凹部と、表裏両面に1か所ずつ浅い凹部が認められる。51は、表裏両面の中央やや上部に浅い凹部が認められる。52は、表面に円錐状凹部が、裏面には浅い凹部が認められる。



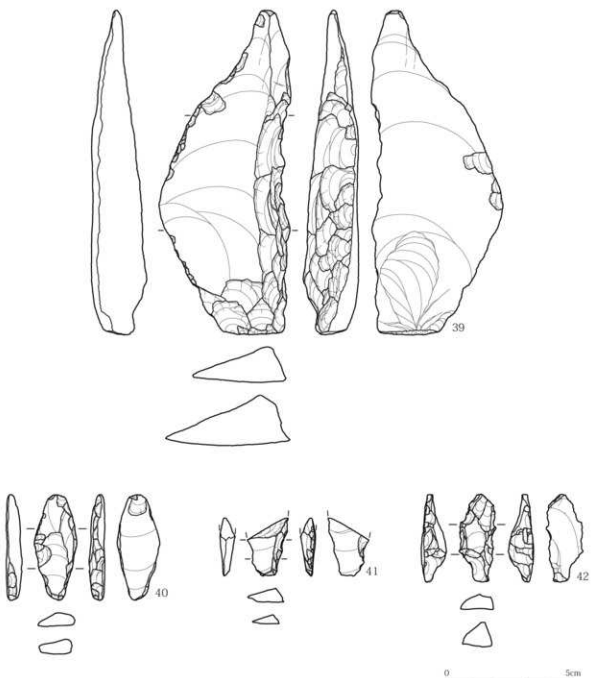


図31　高見Ⅱ遺跡1a・1b区 Ⅰ層出土・表採遺物1

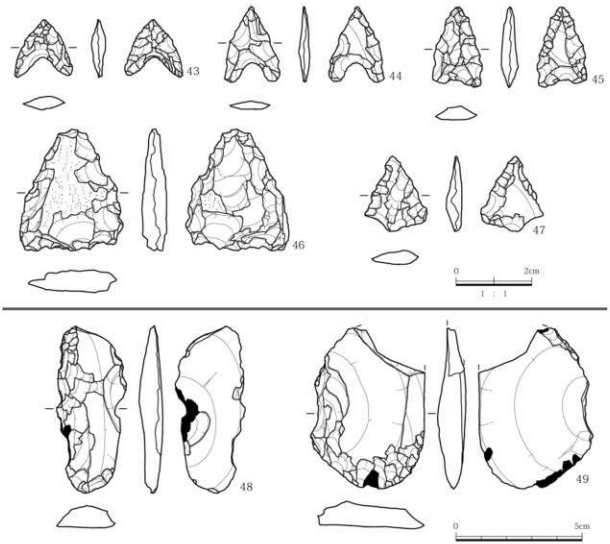


図32　高見Ⅱ遺跡1a・1b区 Ⅰ層出土・表採遺物2

53と54は、緑色片岩の礫を用いた敲石である。53は、表面右側縁と裏面右側縁に剥離痕が認められる。54は表面右側縁に剥離痕が連続する。

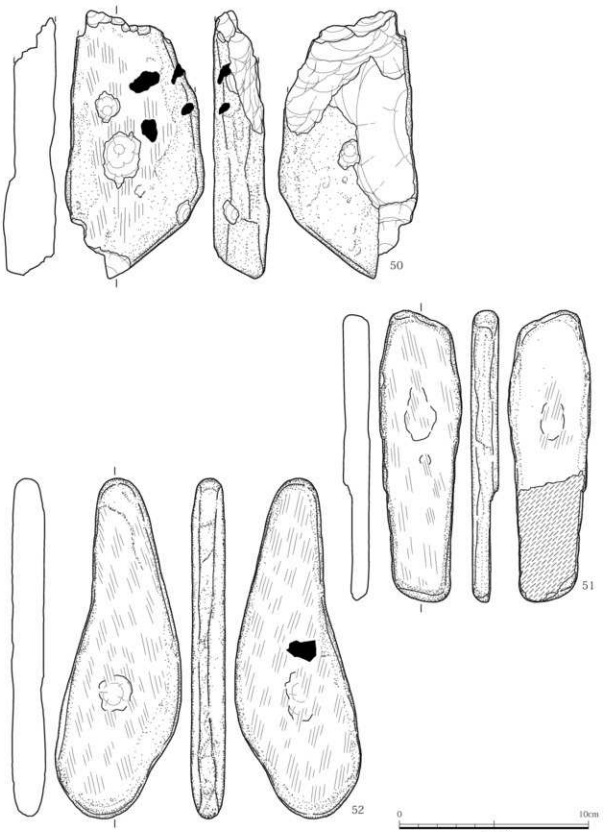


図33　高見Ⅱ遺跡1a・1b区 Ⅰ層出土・表採遺物3

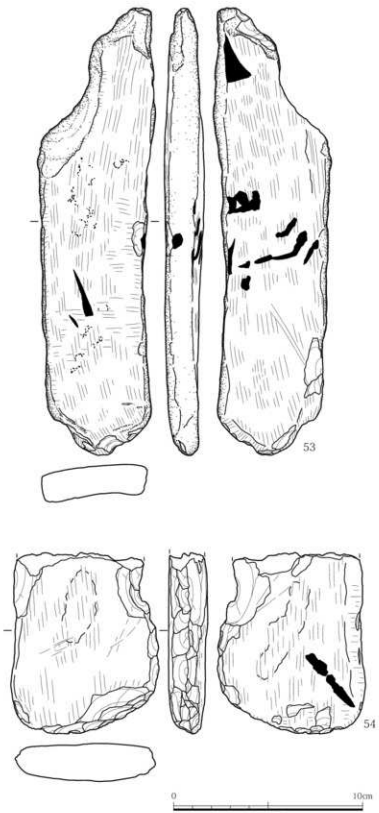


図34　高見Ⅱ遺跡1a・1b区　Ⅰ層出土・表採遺物4

第3節　2区

1　層位と概要(図35～37)

基本層序

2区は、段丘西端部から、わずかに下がった斜面部に位置する。従って、本調査区の土層堆積は、二次堆積の様相を呈している。ただし、2区が段丘面に近接していることから、二次堆積とは言え、土壌、遺物の移動は、ごくわずかな距離と考えられる。こうした理由などから、以下の土層堆積は、基本的に1区と異なる。

Ⅰ層は、表土である。表土には、近現代に調査区北西部を削平した際に生じた整地土を含む。

Ⅱa層は、明褐色粘性土(7.5YR5/8)で、砂粒を含まない。層厚は、約15㎝である。この層から縄文時代後期の土器が出土している。

Ⅱb層は、明褐色粘性土(7.5YR5/6)で、土質がⅡa層と類似しているが、色調はⅡa層よりも若干明るい。層厚は、10～50㎝である。砂粒をほとんど含まず、橙色(7.5YR6/8)の土粒(1～3㎝)を含む。押型文土器、無文土器、石鏃、凹石など縄文時代の遺物が多数出土している。

Ⅱc層は、明赤褐色土(5YR5/6)で、下層のⅢa層の土が混在していることから、Ⅲa層との漸移層と考えられる。層厚は、約15㎝である。

Ⅲa層は、暗褐色土(7.5YR3/4)で、緻密でよく締まっている。径約0.5～1㎝の石英の円礫を含む。無文土器などの縄文時代の遺物を含む。層厚は、15～30㎝である。

Ⅲb層は、灰褐色土(7.5YR4/2)で、Ⅲa層よりも色調が少し明るい。また、Ⅲa層ほどの締まりはない。層厚は、約10～15㎝である。

Ⅳ層は、明黄褐色粘性土(10YR6/6)で、無遺物である。

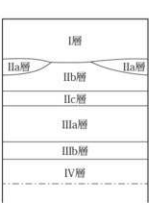


図35　高見Ⅱ遺跡2区 土層模式

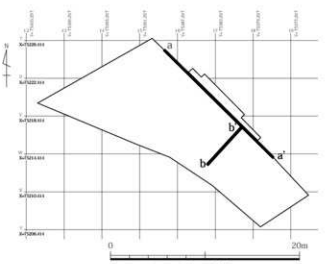


図36　高見Ⅱ遺跡2区 土層図位置

a〜a'

調査区の東壁で、市道西側に沿う位置にある土層である。全体として、緩やかに凹んだレンズ状の堆積を呈する。

Ⅰ層は、整地が施されているため、やや厚い堆積である。撹乱は、木株の抜去による。

Ⅱa層は、層厚約15〜20㎝で、下層のⅡb層よりも薄く断続的である。この層から縄文時代後期の土器などが出土した。

Ⅱb層の層厚は、中央部が約40㎝と最も厚く、両側に寄るにつれて次第に薄くなり、消滅する。土層断面精査時において、多数の無文土器、剝片などが出土した。

Ⅱc層は、Ⅱb層とⅢa層との漸移層と考えられる土層で、層厚は、約15㎝とⅡb層よりも薄い。土層西側半分に連続して遺存している。

Ⅲa層は、土層中央部が約30㎝で厚く両側に寄るにつれて次第に薄くなり消滅する。

Ⅲb層は、部分的で薄く、Ⅳ層の土がブロック状に混入している。

Ⅳ層は、調査区全体にみられる無遺物層である。

b〜b'

等高線にほぼ直交する土層である。中央部が整地(Ⅰ層)により盛り上がっているが、傾斜角約8°で西側へと下がる。

Ⅱa層は、部分的である。層厚は、西へ下がるにつれて厚くなる傾向が見られる。

Ⅱb層がⅢ層を切りこんで深く入り込んでいる。この遺構がSK-4である。

Ⅱc層は認められなかった。

Ⅲa層は、平均層厚15㎝で、SK-4の箇所以外で、認められた。西側に寄るにつれて遺物が減少する。Ⅲb層は、確認できなかった。

Ⅳ層は、基盤となる層で、a〜a'同様無遺物層である。

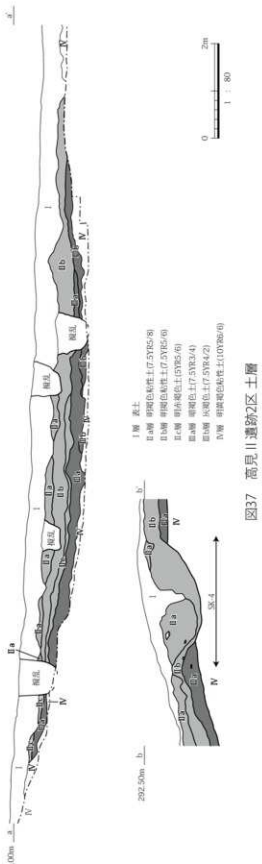


図37　高見Ⅱ遺跡2区 土層

2　Ⅲ層の遺物

遺物出土状況(図38)

Ⅲa層、Ⅲb層が遺存している範囲は、南西方向へ斜面が下がるにつれて狭くなる。そのためか、遺物出土範囲は、U17、V17グリッド周辺の狭い範囲に限られている。

Ⅲa層は、緻密でよく締まっているため、排土を砕きながら遺物を見逃さないように努めた。出土遺物は、早期の無文土器、楔形石器、凹石、ナイフ形石器などがあるが、上層のⅡb層と比して格段に少数であった。ナイフ形石器があるが、この出土地点よりも下位に無文土器が出土していることから、混入と思われる。

Ⅲb層から、敲石1点が出土している。早期の無文土器が出土していないが、Ⅲb層は局所的で層厚も薄いことから、後期旧石器時代の包含層だとするのは早計である。

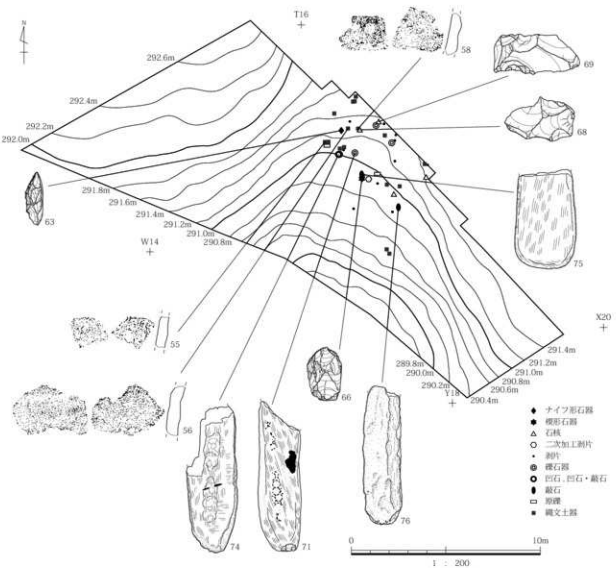


図38　高見Ⅱ遺跡2区 Ⅲ層出土遺物分布

Ⅲa層出土縄文土器(図39)

55は、早期の無文土器の胴部片である。内外面はナデ調整である。わずかに角閃石を含む。56は、早期の無文土器の胴部片で、器厚は1.4㎝を測り、厚手のつくりである。内外面はナデ・指頭圧痕による調整である。金雲母や角閃石を含む。57は、早期の無文土器の胴部片で、器厚は1.3㎝を測り、やや厚手のつくりである。内外面はナデ・指頭圧痕による調整である。金雲母を多く含み、わずかに角閃石の混入も認められる。58は、早期の無文土器の胴部片で、器厚は1.2㎝を測り、やや厚手のつくりである。外面はナデ・指頭圧痕による調整である。金雲母を多く含み、わずかに角閃石の混入も認められる。59は、早期の無文土器の胴部片で、器厚は1.4㎝を測り、厚手のつくりである。外面はナデ調整である。わずかに金雲母や角閃石の混入が認められる。60は、早期の無文土器の胴部片で、器厚は1.4㎝を測り、厚手のつくりである。内外面はナデ・指頭圧痕による調整である。角閃石の混入が認められる。61は、早期の無文土器の胴部片で、器厚は1.2㎝を測り、やや厚手のつくりである。内外面はナデ・指頭圧痕による調整である。わずかに金雲母・角閃石の混入が認められる。62は、早期の無文土器の胴部片で、器厚は1.2㎝を測り、やや厚手のつくりである。内外面はナデ・指頭圧痕による調整である。金雲母を多く含むほか、わずかに角閃石の混入も認められる。

Ⅲa層出土石器(図39～42)

63は、赤色珪質岩製のナイフ形石器である。並列剥離によって生産された横長剥片を素材とする。左側縁全てに裏面側からブランティングを施し、尖頭部を作出している。一側縁加工のナイフ形石器である。64は、サヌキトイド製のナイフ形石器である。素材剥片の主要剥離面の剥離軸が器軸に対して斜行する。左側縁全てにブランティングを施し、尖頭部を作出する一側縁加工のナイフ形石器である。刃部である右側縁には微細剥離が認められる。

65～67は、いずれも赤色珪質岩製の楔形石器である。65は、横長剥片を用いる。背面を構成する剥離からは、打面を転位しながら剥片を剥離した石核から剥離したと思われる。裏面には素材時の主要剥離面を大きく残す。左側縁の下半分には微細剥離が認められる。表面上端右側と裏面下端左側に樋状剥離が認められるため、彫器である可能性もある。66は縦長剥片を用いる。表面に周囲からの剥離を、裏面には下方向からの剥離を残す。縦断面形は扁平であり、右側面には裁断面も残される。67は裏面側に周囲からの剥離が認められる。縦断面形は扁平である。

68は、珪質の強い赤色珪質岩製の石核である。交互・並列剥離によって横長剥片を剥離している。一部に結合面を残す。69は、サヌキトイド製の石核である。交互・並列剥離によって横長剥片を剥離している。70は赤色珪質岩製の石核であり、小さな分割礫を素材とし不定形な剥片を剥離している。

71と72は、緑色片岩の礫を用いた礫石器である。71は表裏両面にアバタ状打痕が認められ、下端に剥離痕がある。72は敲打痕が微かに認められる。

73は、唐崎マイロナイトの礫を用いた凹石である。表面側には大きな剥離面が生じている。剥離面の中央には凹部が認められるが、凹部内の敲打や研磨の痕跡が不明瞭であるため、人為的なものであるかは不明である。凹部を除いて赤変している。

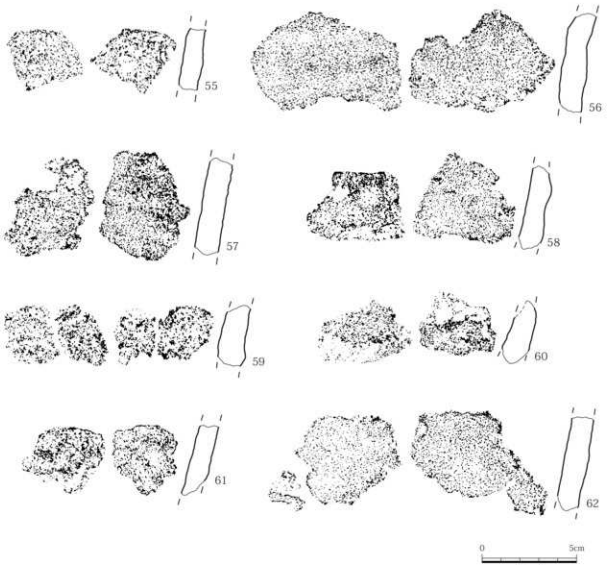


図39　高見Ⅱ遺跡2区 Ⅲa層出土遺物1

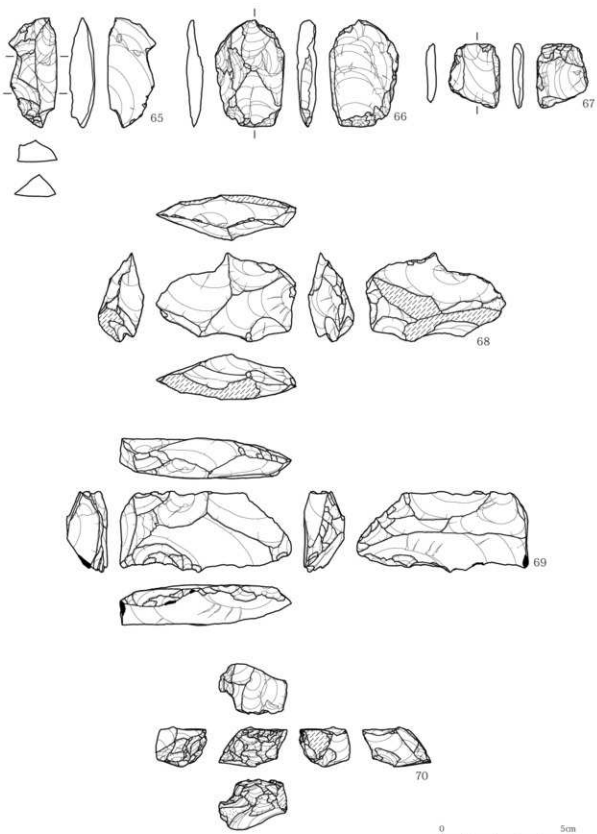


図40　高見Ⅱ遺跡2区 Ⅲa層出土遺物2

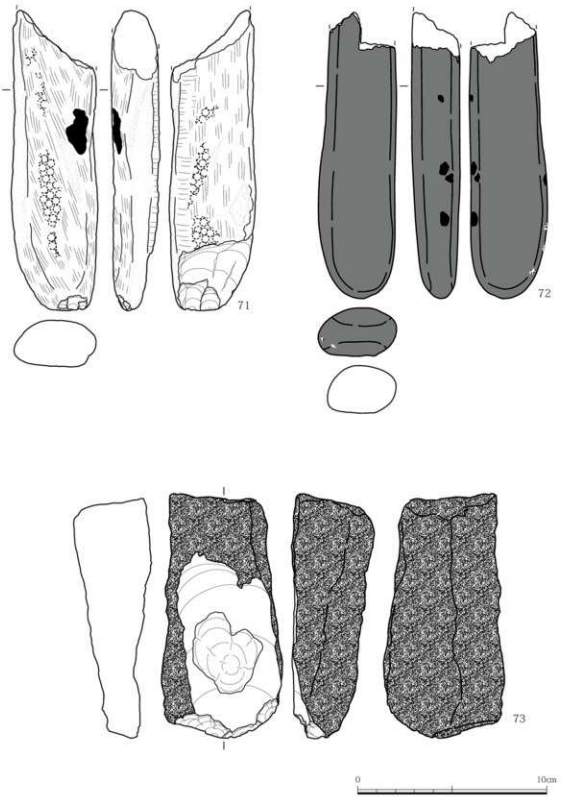


図41　高見Ⅱ遺跡2区 Ⅲa層出土遺物3

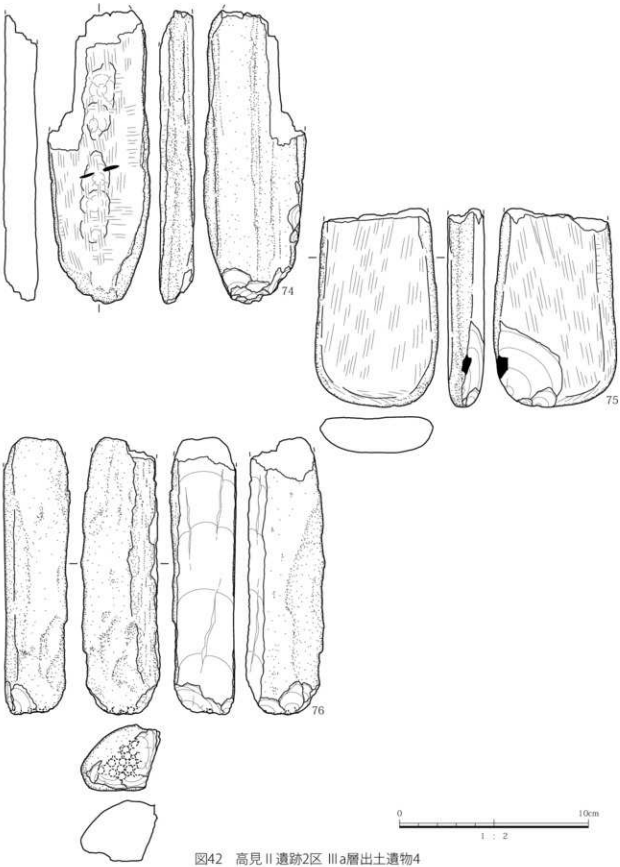


図42　高見Ⅱ遺跡2区 Ⅲa層出土遺物4

74は、緑色片岩の礫を用いた凹石・敲石であり、表面に浅い凹部が並列する。裏面下端には剥離痕がある。

75と76は敲石である。75は緑色片岩の礫を用い、裏面の左下端に剥離痕が認められる。76は唐崎マイロナイトの礫を用いており、下端に敲打痕が認められる。

Ⅲb層出土石器(図43)

77は緑色片岩の礫を用いた敲石であり、下端に打痕が認められる。

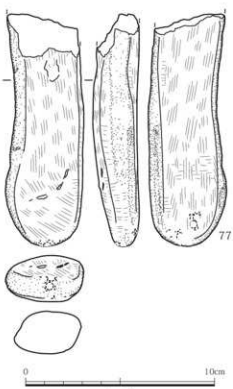


図43　高見Ⅱ遺跡2区 Ⅲb層出土遺物

3　Ⅱ層の遺構と遺物

(1)遺構(図44)

中央部の凹地が、平坦に近い緩斜面となっている。ここで、SK-3・4、SX-3～6を検出した。また、調査区南東部でも、SX-7・8を検出した。

なお、調査区では最も標高が高い北西の平坦部は、後世の削平を受けており、本来遺構が存在しなかったとは断言できない。

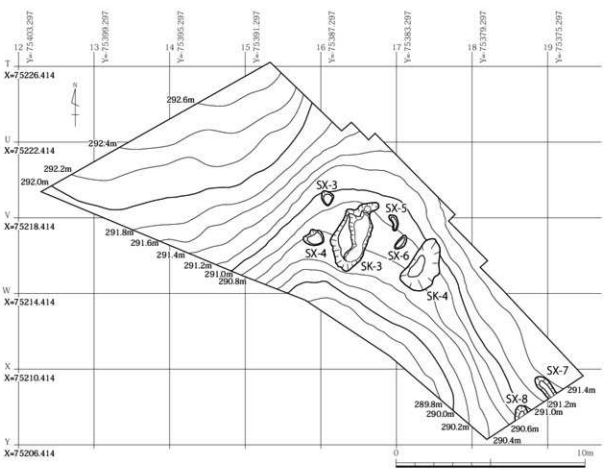


図44　高見Ⅱ遺跡2区 遺構配置

SK-3(図45)

平面形は、やや歪な楕円形で、長径3.98m、短径1.90m、深さ0.90mである。長軸方向は、N 22° Eである。埋土はⅡb層で、縄文土器14点、磨石1点、剥片11点、礫石器1点が含まれていた。

78は、早期の無文土器の胴部片である。外面は条痕後にナデ調整されている。わずかに金雲母と角閃石の混入が認められる。

79は安山岩類の円礫を用いた磨石である。大きく欠損しているが、擦り面が認められる。

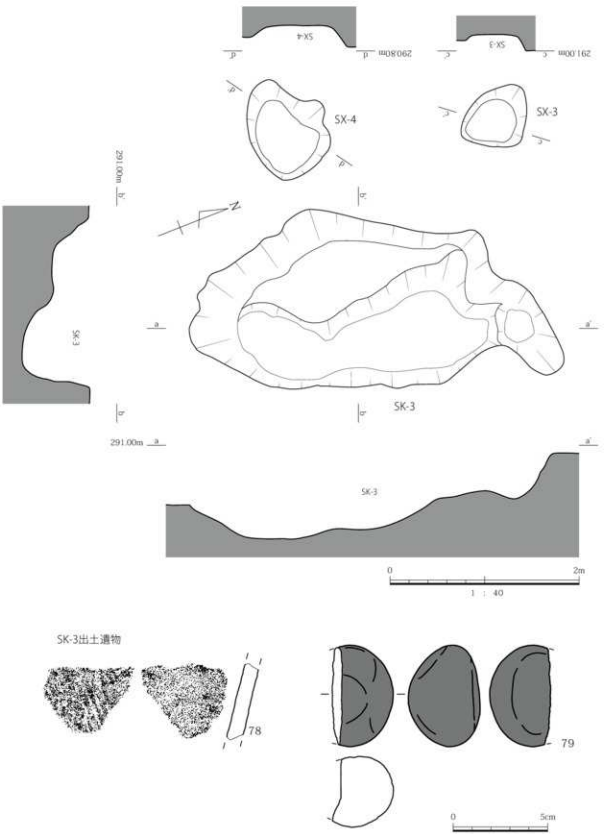


図45　高見 II 遺跡2区 SK-3,SX-3・4平・断面と出土遺物

SK-4(図46)

平面形は、ほぼ楕円形を呈するが、西側ラインは直線的である。長径2.88m、短径1.56m、深さ0.72mである。長軸方向はN28° Eで、SK-3と、さほど変わらない。最深部が中央より西側に寄っているため、西側壁は、東側壁に比して急傾斜となっている。埋土はⅡb層で、無文土器1点、石鏃1点、石核1点、剥片6点が出土した。

80は安山岩類製の石鏃で基部を浅く抉り、平面形は歪な二等辺三角形である。裏面に素材剥片の主要剥離面を大きく残す。

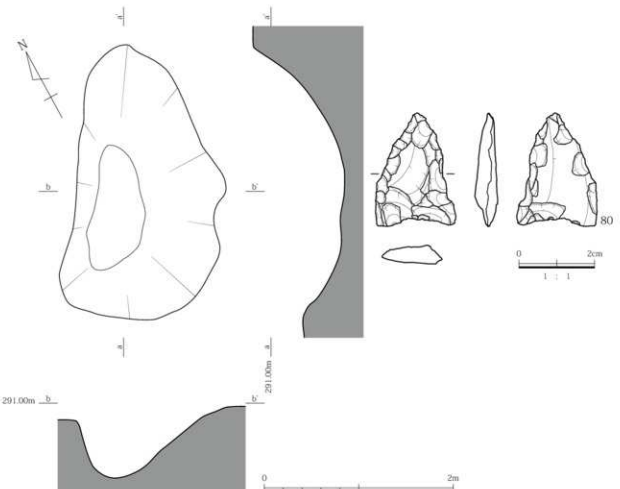


図46 高見Ⅱ遺跡2区 SK-4平・断面と出土遺物

SX-3(図45)

平面形は、膨らみのある三角形を呈す。長径0.81m、短径0.66m、深さ0.14mである。長軸方向はN34° Wである。埋土はⅡb層で、無文土器4点が出土した。

SX-4(図45)

平面形は、不整形である。長径1.02m、短径0.88m、深さ0.20mである。長軸方向はN56° Eである。断面は、浅い皿状を呈する。埋土はⅡb層で、無文土器1点が出土した。

SX-5(図47)

平面形は、若干「く」の字状に曲った楕円形である。長径0.86m、短径0.35m、深さ0.07mである。長軸方向は、N2° Eである。断面は、浅い皿状を呈す。

埋土はⅡb層で、無文土器1点が出土した。

SX-6(図47)

平面形は、東側に膨らんだ楕円形である。長径0.88m、短径0.42m、深さ0.12mである。長軸方向は、N44° Eである。断面は、SX-5と同様に浅い皿状を呈す。

埋土はⅡb層で、無文土器3点が出土した。

SX-7(図48)

平面形は、調査区外に延びているため断定できないが、細長い楕円形と思われる。調査区内で確認できたのは、長径1.30m、短径0.64m、深さ0.20mである。長軸方向は、N42° Wである。断面は、丸底である。

埋土はⅡb層で、無文土器3点、二次加工剥片1点、剥片4点、原礫1点が出土した。

SX-8(図48)

SX-7同様、平面形は、調査区外に延びているため断定できないものの、楕円形と推定される。調査区内で確認できたのは、長径0.76m、短径0.62m、深さ0.24mである。長軸方向は、N8° Eである。断面は、逆台形状で、坑底は平坦である。

埋土はⅡb層で、出土物は認められなかった。

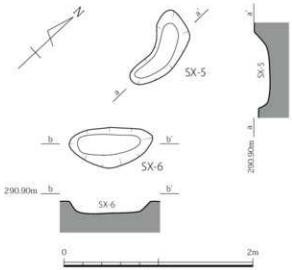


図47　高見Ⅱ遺跡2区 SX-5・6平・断面

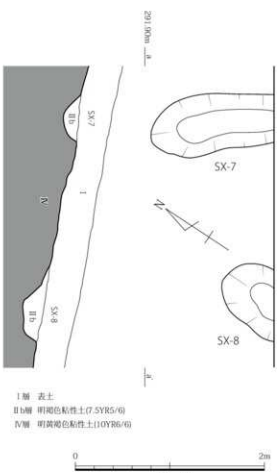


図48　高見Ⅱ遺跡2区 SX-7・8平・断面

(2)遺物

縄文土器出土状況(図49)

調査区中央の凹地を中心に多数の縄文土器の出土が見られた。Ⅱa層は、堆積が薄く、出土数は少ない。後期の土器がこの層で出土している。なお、後期土器は、Ⅱa層直下(Ⅱb層上部)でも出土している。Ⅱb層全体にわたって、多数の無文土器が見られた。この層の中位で、前期前葉の轟B式土器、条痕文土器が、下位で楕円文の押型文土器が少数出土した。また、押型文土器は、Ⅱc層でも少数出土している。Ⅲa層からは、少数の無文土器が出土している。

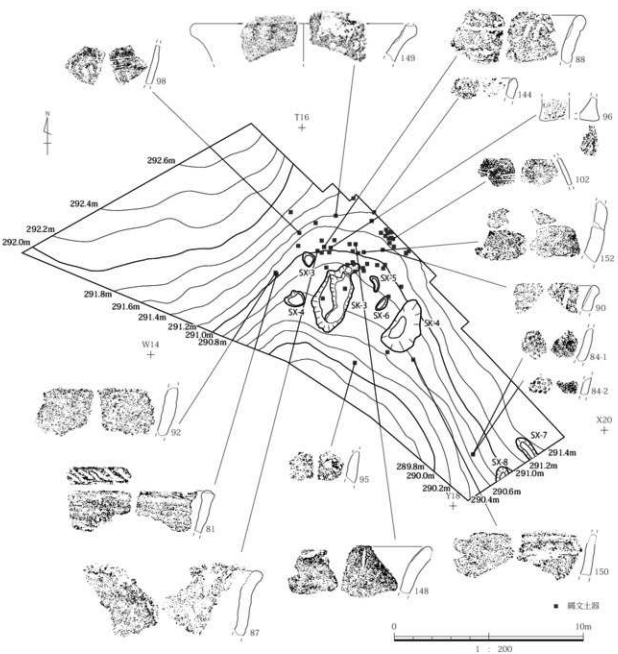


図49　高見Ⅱ遺跡2区 Ⅱ層出土縄文土器分布

石器出土状況(図50)

土器同様、調査区中央の凹地に出土が集中している。Ⅱa層、Ⅱb層、Ⅱc層のどの層からも、縄文時代の石器が出土している。器種による分布の違いは見られない。とりわけ、Ⅱb層からは、石鏃、スクレイパー、楔形石器、石核、凹石、磨石などの多様な石器が出土した。

なお、Ⅱb層、Ⅱc層から、後期旧石器時代のナイフ形石器、角錐状石器が見られるが、これは二次堆積による混入と考えられる。

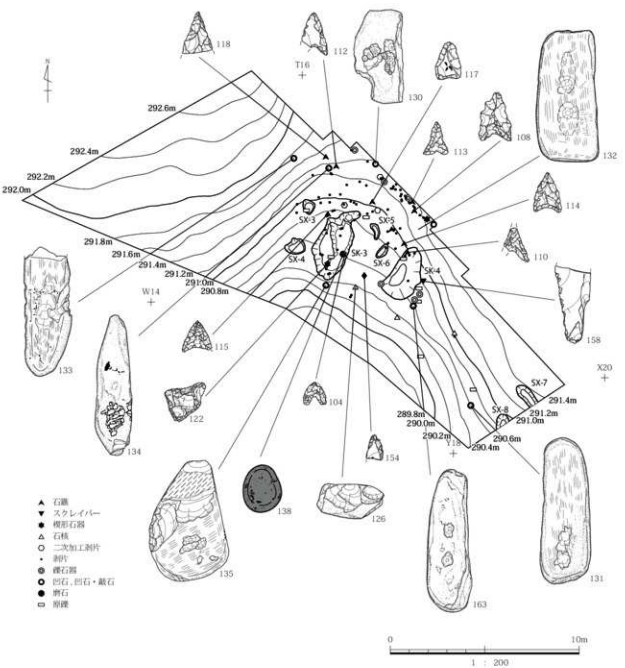


図50　高見Ⅱ遺跡2区 Ⅱ層出土石器分布

Ⅱa層出土縄文土器(図51)

81は、後期の粗製深鉢で、平縁となる口縁部である。口唇部は拡張し、平坦として斜行の沈線を施している。内外面には一部に条痕を残すが、ナデや押圧により調整が行われている。わずかに角閃石を含む。

Ⅱa層出土石器(図51)

82は、緑色片岩の扁平な礫を用いた凹石であり、表裏両面に上下2か所ずつ、円錐状凹部が認められる。

83は扁平な安山岩類の礫を用いた凹石・敲石である。表裏両面に楔状凹部とアバタ状打痕が認められ、両側面にもアバタ状打痕が認められる。

Ⅱb層出土縄文土器(図52・53)

84-1・2は、早期中葉の押型文土器の胴部片(黄島式)である。外面に楕円文が横位施文される。内面は丁寧なナデ調整であり、滑らかに仕上げている。わずかに角閃石を含む。85は、早期中葉の押型文土器の胴部片(黄島式)である。外面に楕円文が施文され、内面はナデ調整である。

86は、早期の無文土器の口縁部で、口唇部は丸頭状を呈し、やや外反する。内外面ともナデ調整であり、わずかに金雲母や角閃石を含んでいる。87は、早期の無文土器である。やや強く外反する口縁部破片であり、厚手のつくりである。内外面全体に指頭圧痕が顕著に認められる。口唇はほぼ丸頭状を呈する。焼成はやや脆い。わずかに角閃石や赤粒子の混入が認められる。88は、早期の無文土器の口縁部で、口唇部は丸頭状を呈し、やや外反する。焼成はやや脆い。内外面はナデ調整である。内面には長さ2.0㎝、幅0.5㎝の短沈線2条が並行する形で施されている。金雲母を多く含み、わずかに角閃石の混入が認められる。89は、早期の無文土器の口縁部片で、口唇部は丸頭状を呈する。内外面はナデ調整である。内面に長さ1.5㎝、幅0.5㎝の短沈線が施されている。わずかに金雲母や角閃石を含む。90は、早期の無文土器である。やや外反する口縁部片であり、器厚は1.1㎝とやや厚手となる。内面には短沈線が認められる。わずかに雲母や角閃石の混入が認められる。91は、早期の無文土器の胴部片で、器厚は0.6㎝と薄手のつくりである。内外面とも条痕後にナデ調整が施されている。結晶片岩の混入が認められる。92は、早期の無文土器の胴部片である。内外面はナデ・指頭圧痕による調整であり、厚手のつくりである。金雲母・角閃石の混入が認められる。93は、早期の無文土器の胴部片である。内外面はナデ調整である。わずかに金雲母や角閃石を含む。94は、早期の無文土器の胴部片で、器厚は1.4㎝と厚手のつくりである。焼成はやや脆い。内外面はナデ調整であり、わずかに金雲母や角閃石を含む。95は、早期の無文土器の胴部片である。内外面はナデ調整である。金雲母を多く含み、わずかに角閃石の混入も認められる。

96は、早期後半の茅山下層式併行のものと考えられる底部片で、平底である。内面及び底面は条痕調整である。金雲母を多く含み、角閃石の混入も認められる。

97は、前期初頭の羽島下層式併行と考えられる口縁部である。内外面に条痕を施す。口唇部はやや平坦を呈する。器厚は0.5㎝と薄手のつくりである。

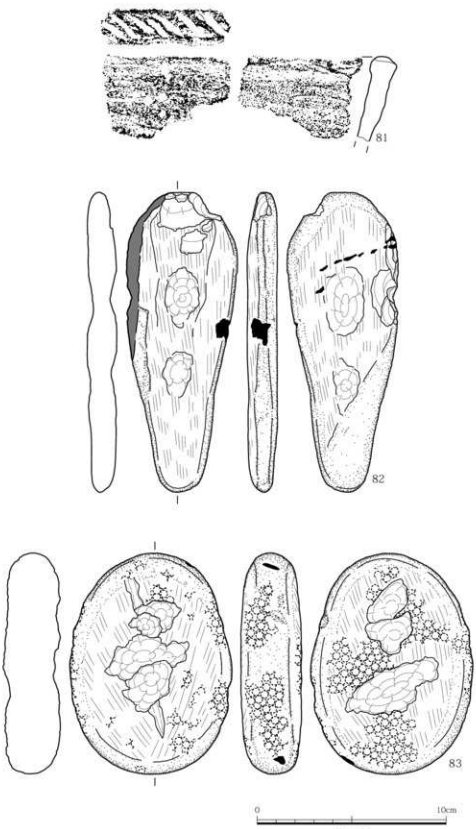


図51　高見Ⅱ遺跡2区 Ⅱa層出土遺物

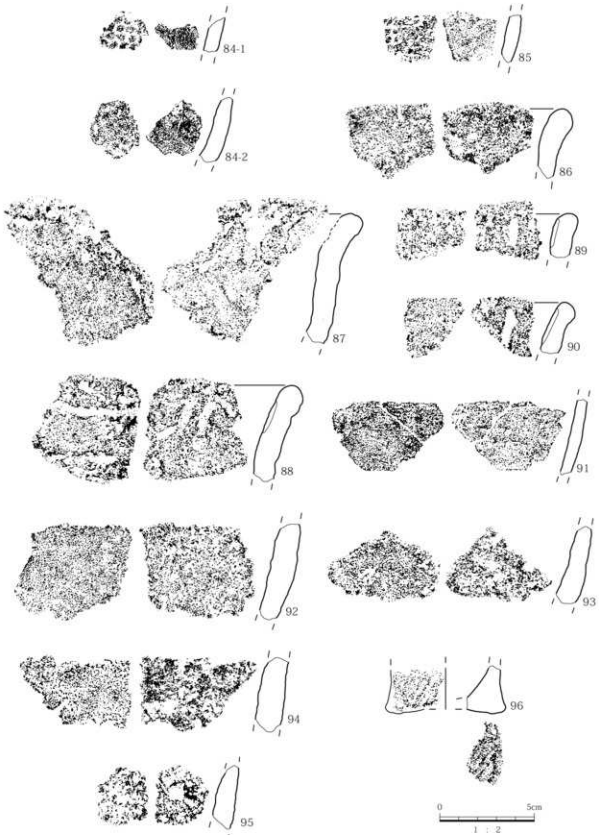


図52　高見Ⅱ遺跡2区 Ⅱb層出土遺物1

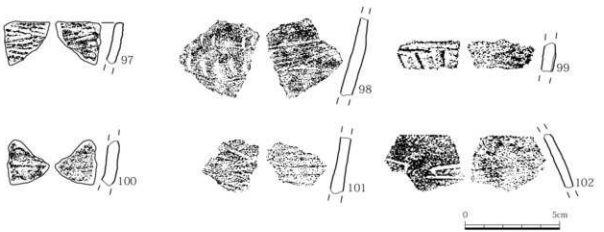


図53　高見Ⅱ遺跡2区 Ⅱb層出土遺物2

98は、前期前半の羽島下層式の胴部片である。「C」字状の爪形文が横位に施される。わずかに金雲母や角閃石を含む。

99は、前期前葉の轟B式土器である。外面にミミズバレ状の隆起線が縦横に認められる。内面はナデ調整である。わずかに角閃石を含む。100は、前期前葉の轟B式土器の胴部片である。外面にミミズバレ状の隆起線1条が認められる。わずかに角閃石を含む。

101は、前期前葉の条痕文土器の胴部片で、器厚は0.7㎝と薄手のつくりである。内外面に二枚貝による条痕調整が認められる。色調は褐灰色を呈し、わずかに角閃石や赤粒子を含む。

102は、後期の土器で、胴部上半の破片である。器厚は0.5㎝と薄手のつくりである。外面は縄文と沈線が施文される。内面は条痕後にナデ調整が行われている。角閃石を多く含むほか、金雲母や赤粒子も確認できる。

Ⅱb層出土石器(図54～60)

103は、サヌキトイド製のナイフ形石器である。横長剥片を素材とし、左側縁に裏面側からブランティングを施す。基部が大きく欠損しているため、全体の形状は把握できない。

104～118は石鏃である。104は黒曜石製で、基部を弓形に深く抉り、丸みを帯びた尖端部と脚端部を作出する。105は黒曜石製で、両脚部を欠損する。106は黒曜石製で、素材剥片の剥離面を大きく残し、左側縁先端にわずかに調整を施す。右脚部は欠損しているようにみえるが、意図的に剥離されている。107は赤色珪質岩製で、基部を深く抉り、丸みを帯びた尖端部と脚端部を作出している。側縁は、微細な調整剥離によって鋸歯状の刃部を志向している可能性がある。108は赤色珪質岩製で、基部を弓形に抉る。表裏面の剥離に起因するステップにより整形を中断している。109は安山岩類製で、基部を深く抉る。110と111はいずれもサヌキトイド製で、基部を深く抉り、尖った脚端部を作出した「人」字形である。112はサヌキトイド製で、基部を抉る。素材剥片の剥離面を大きく残す。113はサヌキトイド製で、基部を抉る。平面形は尖端部直下に肩部を有し、脚部にかけて裾広がりになる。114は赤色珪質岩製で、基部を弓形に抉り、平面形は両側縁が外側に緩やかに膨らむ二等辺三角形である。115はチャート製で、基部を緩やかな弓形に抉り、尖った脚端部を作出する。平面形は両側縁が外側に緩やかに膨らむ正三角形であ

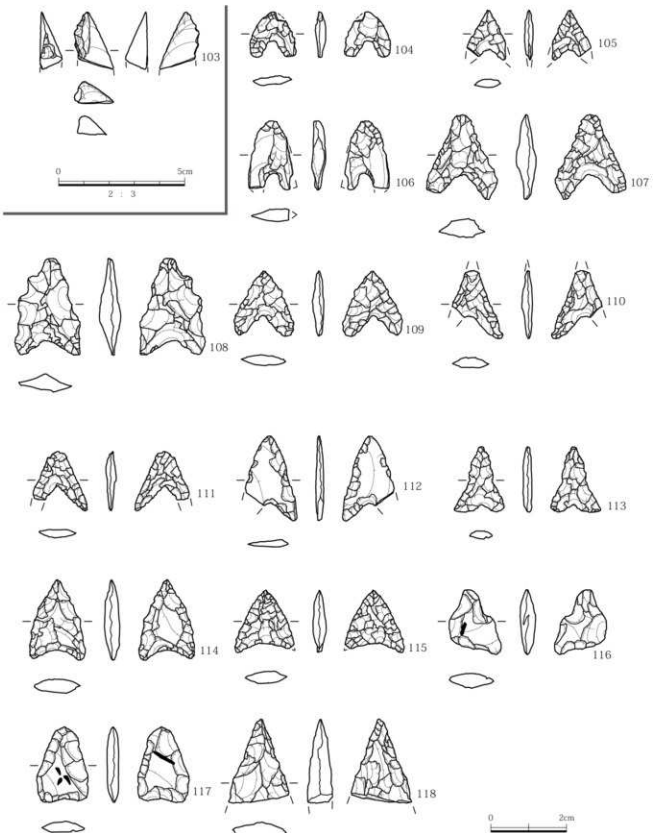


図54　高見Ⅱ遺跡2区 Ⅱb層出土遺物3

る。116はサヌキトイド製であり、粗雑な調整剥離を施す。117はサヌキトイド製で、基部を浅く抉り、尖端部と脚端部は丸みを帯びる。素材剥片の作業面を大きく残しつつ、全周に調整剥離を施す。118はサヌキトイド製であり、基部は大きく欠損する。

119と120はスクレイパーである。119はサヌキトイド製で、交互・並列剥離により横長剥片を剥離した石核の残核を素材とする。左右側縁に、主に表面側から調整剥離を加えて直線状の刃部を作出している。120は、安山岩類製のやや横長の短寸な剥片を素材とする。縁辺に裏面側から調整剥離を加えて直線状の刃部を作出している。

121は、赤色珪質岩製の彫器である。打面を転位しながら剥離した縦長剥片を素材とし、両側縁に裏面側から調整剥離を施しているほか、左側縁に桶状剥離が認められる。

122～125は楔形石器である。122は赤色珪質岩製で、表裏両面に上下方向からの剥離を残し、縁辺の一部には細かな剥離が連続する。縦断面形は扁平である。123は赤色珪質岩製で、表裏両面に周囲からの剥離を残し、平面形状は長方形に近い。124はサヌキトイド製で、表裏両面に上下方向からの剥離を残し、縦断面形は扁平である。125は赤色の珪質片岩製で、裏面に素材時の主要剥離面を大きく残す。表裏両面に周囲からの剥離を残し、右側面には裁断面も残される。左側縁には微細剥離が認められる。

126は、安山岩類製の石核である。剥離面を、打面調整を施さずに打面とし、やや横長ないし短寸な剥片を並列剥離によって剥離する。剥離面は全周に巡る。

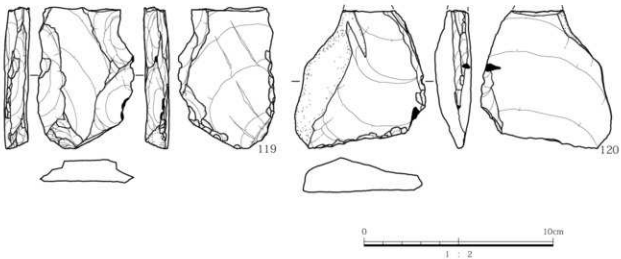
127は、サヌキトイド製の二次加工剥片である。打面を転位しながら剥片を剥離した石核から剥離した縦長剥片を素材とする。打面は複剥離打面であり、先端は蝶番剥離をおこす。両側縁に、表面側と裏面側から交互に微細剥離を施す。

128と129は礫石器である。128は緑色片岩の礫で、明確な使用痕は認められない。129は唐崎マイロナイトの礫で、表面側に円錐状凹部が認められるが、凹部内の敲打や研磨の痕跡が不明瞭であるため、人為的なものであるかは不明である。

130～132は、緑色片岩製の礫を用いた凹石である。130は表面に礫面を大きく残す剥片を素材とし、礫面側に円錐状凹部と楔状凹部が密集して認められる。131は表面下部に浅い凹部が認められる。132は表裏両面に2か所ずつ円錐状凹部が認められる。下面には楔状凹部が認められる。

133～135は緑色片岩の礫を用いた凹石・敲石である。133は表面に円錐状凹部が認められ、アバタ状打痕がその周囲にみられる。両側縁には剥離痕がある。134は、表面の上下2か所に楔状凹部が集中する。裏面には中央やや上に楔状凹部の集中が認められ、中央やや下にも、微かにアバタ状打痕がある。表面下端には剥離痕が生じる。135は、表面に浅い凹部が1か所認められ、表面左側面と上端には剥離痕が認められる。裏面側にはアバタ状打痕が微かにみられる。右側面は平坦である。

136は、唐崎マイロナイトの礫を用いた凹石・敲石である。表面には中央やや下に楔状凹部の集中による凹部が1か所、裏面には楔状凹部の集中部が数か所認められる。両側縁には剥離痕がみられ、下面は平坦になっている。



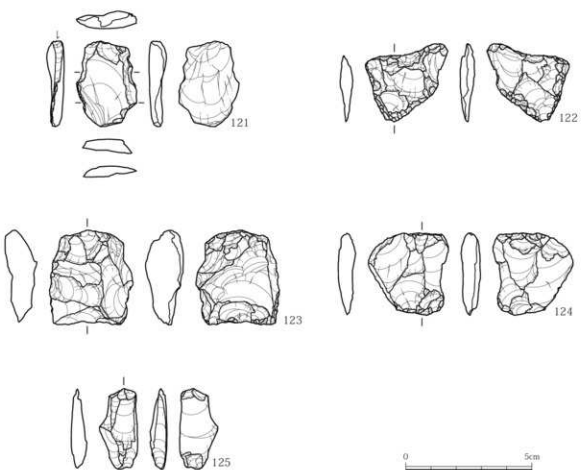


図55　高見Ⅱ遺跡2区 Ⅱb層出土遺物4

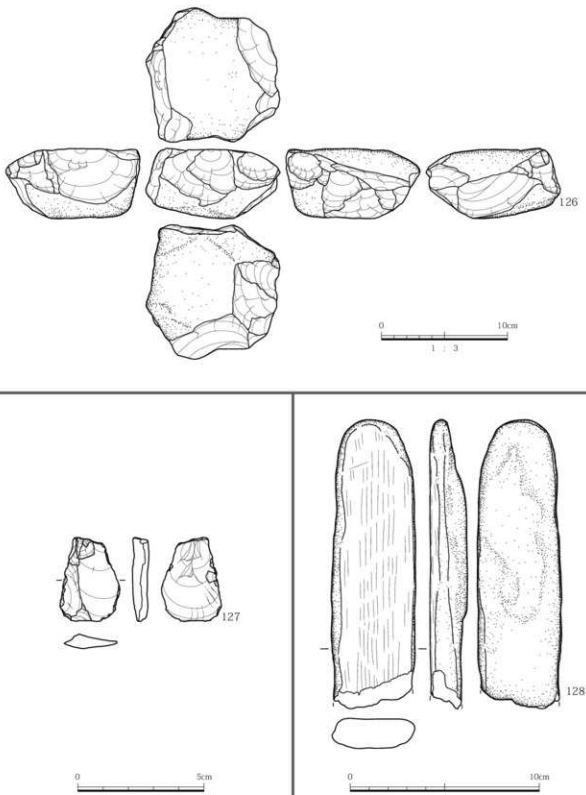


図56　高見Ⅱ遺跡2区 Ⅱb層出土遺物5

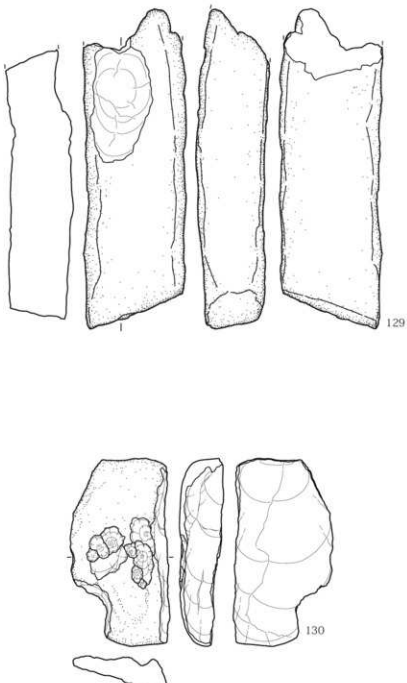
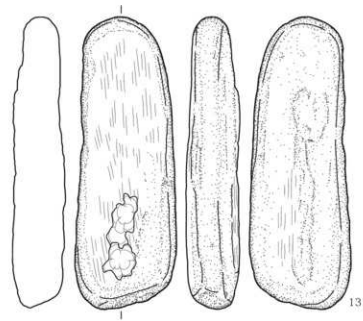


図57　高見Ⅱ遺跡2区 Ⅱb層出土遺物6



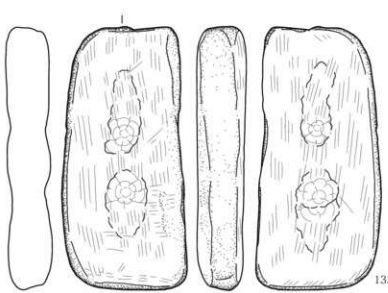


図58　高見Ⅱ遺跡2区 Ⅱb層出土遺物7

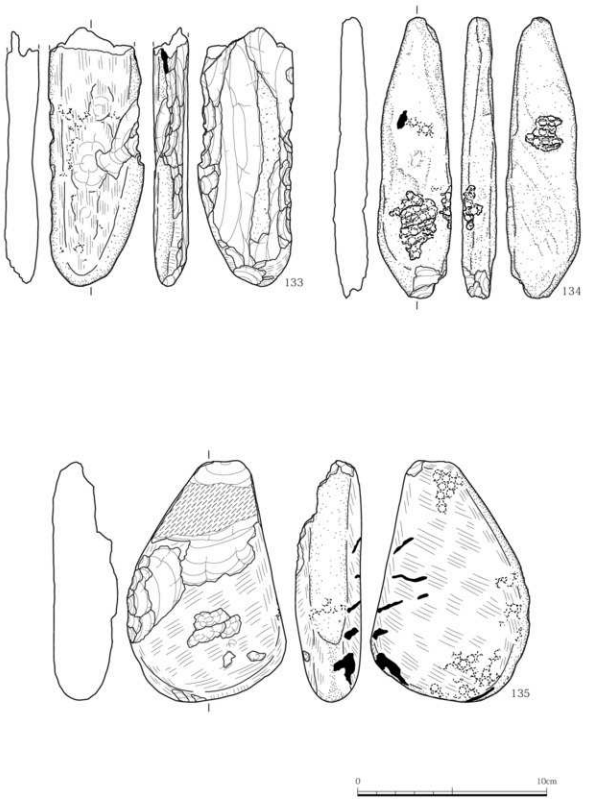


図59　高見Ⅱ遺跡2区 Ⅱb層出土遺物8

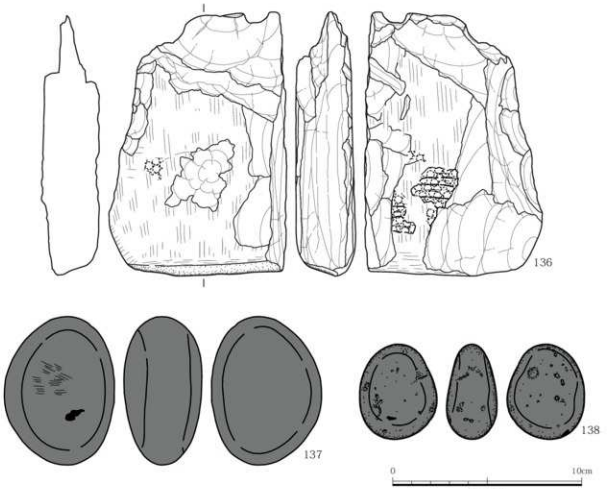


図60　高見Ⅱ遺跡2区 Ⅱb層出土遺物9

137は、石材不明の円礫を用いた磨石であり、擦り面が認められる。

138は、安山岩類の円礫を用いた磨石である。

Ⅱc層出土縄文土器(図61・62)

139は、早期中葉の押型文土器の胴部片(黄島式)である。外面に楕円文が横位施文される。わずかに角閃石を含む。140は、早期中葉の押型文土器の胴部片(黄島式)である。外面に楕円文を施文する。わずかに角閃石を含む。141は、早期中葉の押型文土器の胴部片(黄島式)である。外面に楕円文を横位施文する。わずかに角閃石を含む。142は、早期中葉の押型文土器の胴部片(黄島式)である。器厚は1.2㎝を測り、やや厚手のつくりである。外面に楕円文を施文する。金雲母を多く含む。143は、早期中葉の押型文土器の胴部片である。外面は幅広となる山形文(低い山)が横位に施文されており、内面はナデ調整である。金雲母を多く含み、わずかに角閃石も認められる。

144は、早期の無文土器の口縁部片であり、やや外傾する。口唇部は丸頭状を呈し、内外面はナデ調整である。内面に長さ1.0㎝、幅0.4㎝の短沈線が施されている。沈線の間隔は約0.5㎝を測る。わずかに金雲母を含む。145は、早期の無文土器の口縁部片で、大きく外反する。口唇部

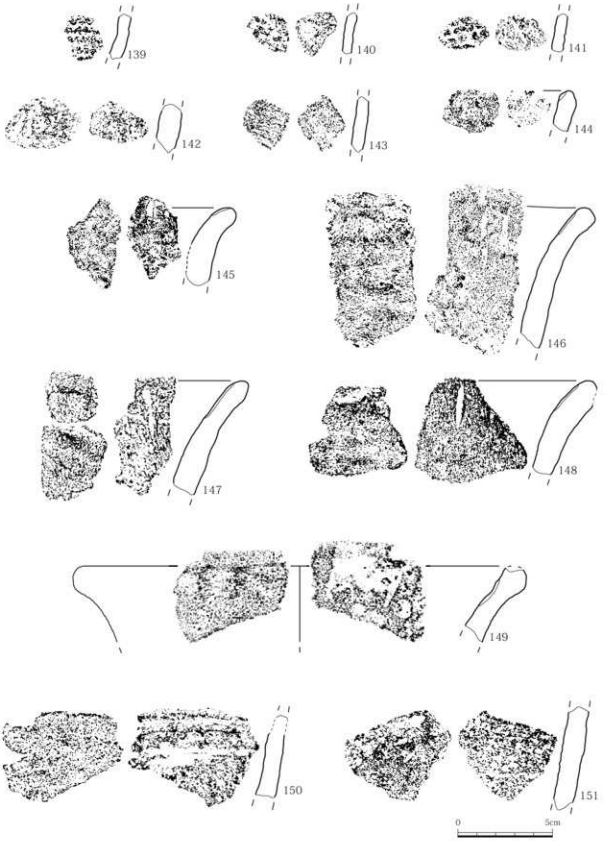


図61　高見Ⅱ遺跡2区 Ⅱc層出土遺物1

は丸頭状を呈する。内外面はナデ・指頭圧痕による調整である。内面には長さ1.1㎝、幅0.4㎝の短沈線が垂下している。金雲母を多く含み、わずかに角閃石の混入も認められる。146は、早期の無文土器の口縁部であり、波状口縁を呈する。口唇部は丸頭状を呈し、口縁は大きく外反する。内外面はナデや指頭圧痕による調整である。内面には短沈線2条が垂下し、その沈線の間隔は約0.9㎝を測る。金雲母や角閃石の混入がわずかに認められる。147は、早期の無文土器である。やや強く外反する口縁部片であり、口唇部はやや尖頭状を呈する。内外面はナデ・指頭圧痕による調整である。内面には長さ2.5㎝、幅0.3㎝の短沈線1条がやや右下がりで施されている。金雲母・角閃石の混入が認められる。148は、早期の無文土器である。やや強く外反する口縁部片であり、口唇部は丸頭状を呈すると考えられる。内外面はナデ・指頭圧痕による調整である。内面には長さ2.1㎝、幅0.4㎝の短沈線が2条垂下しており、沈線の間隔は約1.5㎝を測る。金雲母・角閃石の混入が認められる。149は、早期の無文土器である。やや強く外反する口縁部片で、やや厚手のつくりである。外面全体に指頭圧痕が顕著に認められる。口唇部はほぼ丸頭状を呈する。内面の口唇部からやや下がった位置に、長さ1.9㎝、幅0.3㎝の左下がりの短沈線が2条確認できる。両沈線は約2.8㎝の間隔がひらいた状態である。金雲母を多く含む。150は、早期の無文土器の胴部片である。内外面はナデ・指頭圧痕による調整である。わずかに角閃石を含む。151は、早期の無文土器の胴部片であり、器厚は1.1㎝とやや厚手となる。内外面はナデ調整である。金雲母・角閃石の混入が認められる。152は、早期の無文土器の胴部片であり、器厚は1.4㎝と厚手のつくりである。内外面はナデ調整である。金雲母や角閃石の混入が認められる。153は、早期の無文土器の底部片である。底部は半平底と呼ばれるやや不安定な平底である。内外面ともにナデ調整である。

Ⅱc層出土石器(図62～64)

154は、サヌキトイド製のナイフ形石器である。縦長剥片を素材とし、右側縁と一部左側縁先端に裏面側からブランティングを施す。基部が大きく欠損するため、全体の形状は把握できない。

155は、赤色珪質岩製の角錐状石器である。縦長剥片を素材とするが、背面を構成する剥離からは、交互・並列剥離の石核から剥離されたと思われる。剥片打面部は未調整で残置している。両側縁に裏面側からブランティングを施す。左側縁は右側縁と比べて肉厚なため、調整は急斜度になる。先端右側には狭長な剥離が認められる。

156は赤色珪質岩製の石鏃であり、157はサヌキトイド製の石鏃である。いずれも基部を弓形に抉り、平面形は二等辺三角形である。

158は、チャート製のスクレイパーである。縦長剥片の左側縁に調整剥離を施して直線状の刃部を作出している。剥離面の上部は欠損している。

159は、赤色珪質岩製の錐状石器である。交互・並列剥離によって生産された横長剥片を素材とする。両側縁に裏面側から調整剥離を施し、尖った先端部を作出している。長さ2.73㎝である。

160は緑色片岩の礫を用いた礫石器である。明確な加工痕や使用痕は認められない。

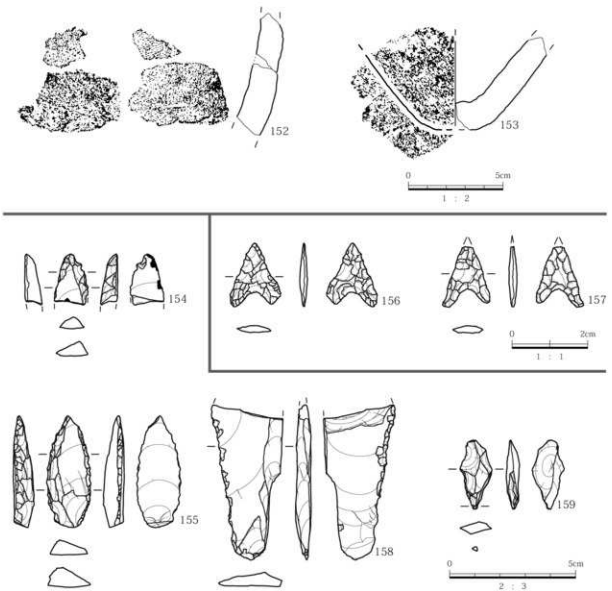


図62　高見Ⅱ遺跡2区 Ⅱc層出土遺物2

161～163は緑色片岩の礫を用いた凹石である。161は裏面に凹部が数か所認められる。162は表面に楔状凹部が認められ、裏面側には連続する浅い凹部が認められる。163は表裏両面に2か所ずつ凹部が認められる。表面下部の凹部は円錐状を呈するが、残りの3か所は浅く不明瞭である。

164は、唐崎マイロナイトの礫を用いた凹石である。薄く割れた板状礫を素材とし、表面の中央に凹部が認められる。表面左下端に剥離痕が生じる。

165は、緑色片岩の礫を用いた凹石・敲石である。表面に3か所、裏面に2か所の凹部が認められ、特に表面下部の2か所は円錐状凹部を呈する。右側縁にはアバタ状打痕が生じる。

166と167は、緑色片岩の礫を用いた敲石である。166は下端に敲打痕が認められる。167は下端に剥離痕が認められる。

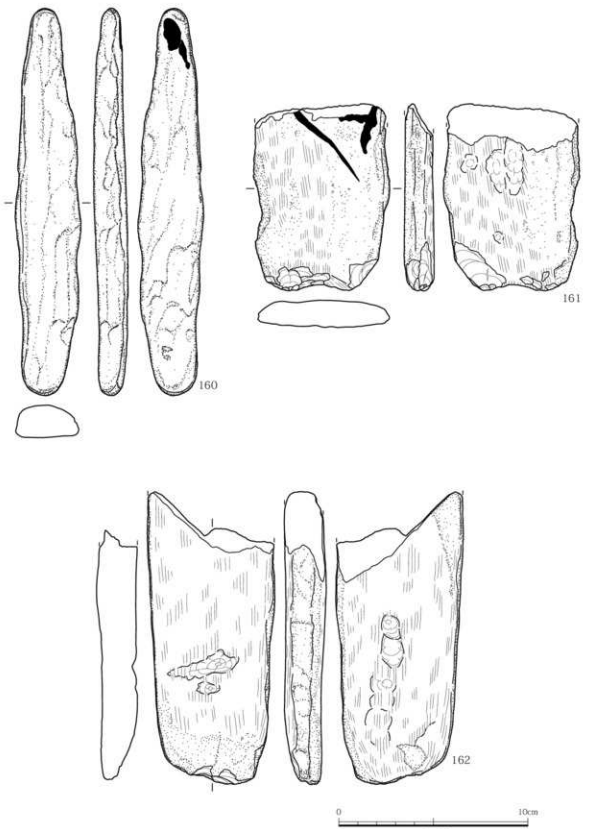


図63　高見Ⅱ遺跡2区 Ⅱc層出土遺物3

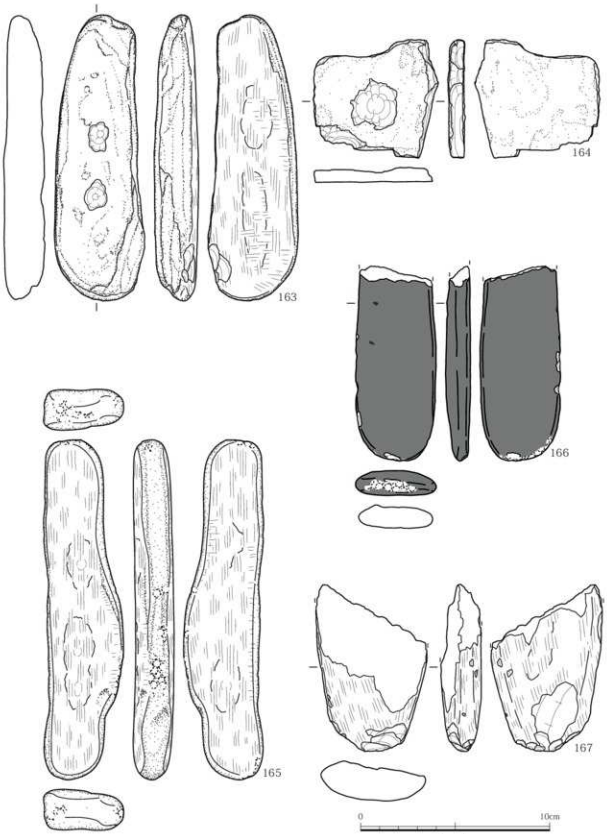


図64　高見Ⅱ遺跡2区 Ⅱc層出土遺物4

4　Ⅰ層、表採の遺物

縄文土器(図65)

168は、早期の無文土器の胴部片であるが、内面は剥落している。外面には指頭圧痕が顕著に認められる。わずかに金雲母や角閃石を含む。169は、早期の無文土器の底部片であり、丸味を帯びた尖底を呈する。

170は、前期前半の羽島下層式の胴部片である。「C」字状の爪形文が横位に施される。わずかに金雲母や角閃石を含む。

171は、後期の粗製深鉢で、平縁となる口縁部である。口唇部は拡張し、平坦として斜行の沈線を施している。内外面は一部に条痕を残すが、ナデや押圧により調整が行われている。口径22.4㎝を測る。

石器(図66～70)

172は、サヌキトイド製の角錐状石器である。打面固定をして連続して剥離した横長剥片を素材とし、両側縁に裏面側からブランティングを施す。

173～180は石鏃である。173は赤色珪質岩製で、表面中央やや下に大きなステップを残す。基部を弓形に抉り、脚端部は左右で形状が異なる。174はサヌキトイド製である。基部を抉り、平面形は二等辺三角形となる。175はサヌキトイド製である。両脚端部は欠損しているが、残存長だけで3.45㎝に達し、図化した石鏃のなかでは最大である。尖端部直下に肩部を有し、両側

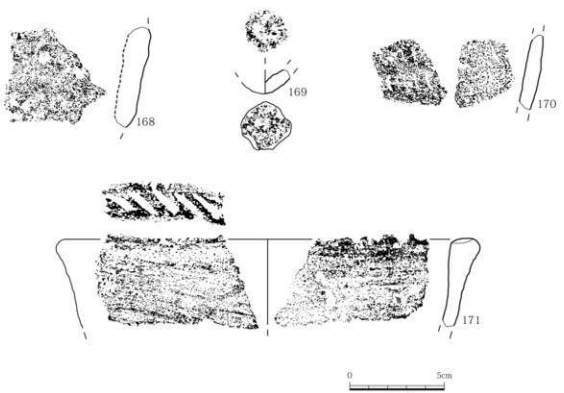


図65　高見Ⅱ遺跡2区　Ⅰ層出土・表採遺物1

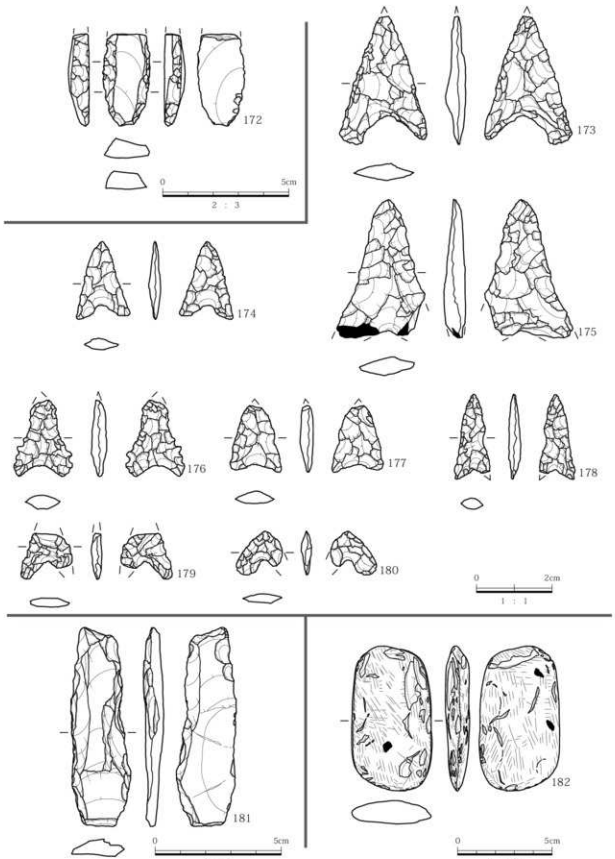


図66　高見Ⅱ遺跡2区 Ⅰ層出土・表採遺物2

縁は脚部に向かって裾広がりになる。176はサヌキトイド製であり、基部を弓形に抉る。尖端部は欠損するが、そのすぐ下に肩部を有し、両側縁は脚部にかけてキャリパー状の曲線を描く。鋸歯状の両側縁を作出している。177は安山岩類製である。基部を浅く抉り、平面形は両側縁が外側に緩やかに膨らむ二等辺三角形である。178は黒曜石製で、基部を抉る。平面形は縦に長い。179は黒曜石製で、尖端部と右脚部は欠損する。基部を抉る。180はサヌキトイド製であり、基部を弓形に抉る。左脚部は欠損する。

181は、赤色珪質岩製の石核を転用したスクレイパーである。打面を転位しながら剥片を剥離した石核の残核を素材とする。左側縁に連続した調整剥離を施した後に、左側縁上部には表面側から剥離を加え、直線状の刃部を作出している。

182は、緑色片岩製の磨製石斧である。刃部は弱凸強凸片刃の偏刃(佐原2005)で、刃部には微細剥離が認められる。

183～185は、緑色片岩の礫を用いた凹石である。183と184は、表面に浅い凹部が並列する。185は、表面に2か所、裏面には並列する円錐状凹部と浅い凹部が認められる。

186は、唐崎マイロナイトの礫を用いた凹石である。表面には円錐状凹部が1か所、裏面には並列する凹部が認められる。

187と188は、緑色片岩の礫を用いた凹石・敲石である。187は、表面に平面形が楕円の凹部が上下に2か所認められ、上部の凹部の縁部には楔状凹部が器軸に直行するように認められる。下部の凹部は途中で破損して途切れる。裏面にはアバタ状打痕と楔状凹部が認められる。188は、表面に楔状凹部が集中して形成された凹部が認められるが、凹部内部は平滑になっており、楔状凹部の痕跡が不明瞭になっている。裏面左側縁には剥離痕がある。

189は、緑色片岩の礫を用いた敲石である。表裏両面にアバタ状打痕が認められる。

190は、唐崎マイロナイトの礫を用いた敲石である。表面中央付近に楔状凹部とアバタ状打痕が認められる。

191は、安山岩類の礫を用いた敲石であり、両端部を中心にアバタ状打痕が認められる。

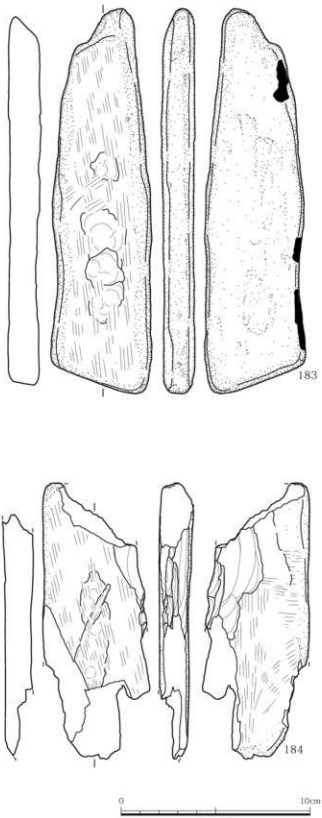


図67　高見Ⅱ遺跡2区 Ⅰ層出土・表採遺物3

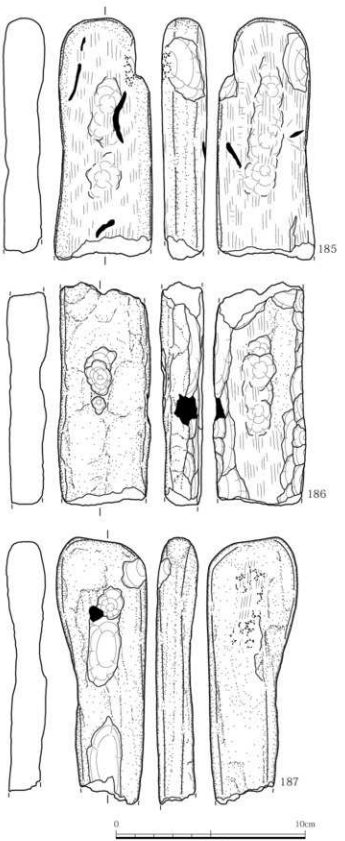


図68　高見Ⅱ遺跡2区 Ⅰ層出土・表採遺物4

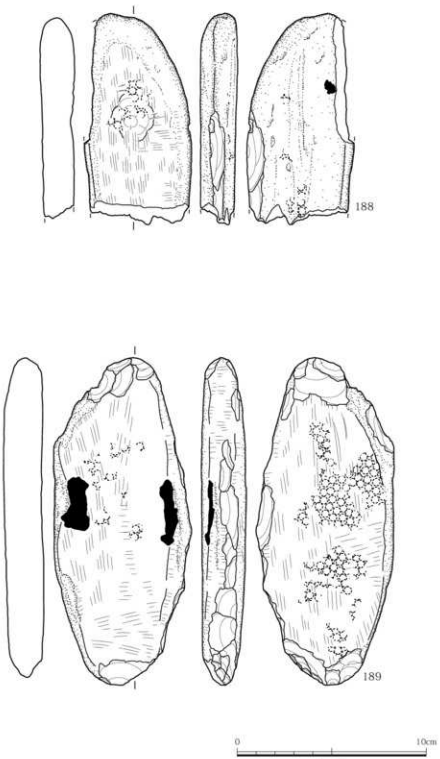


図69　高見Ⅱ遺跡2区 Ⅰ層出土・表採遺物5

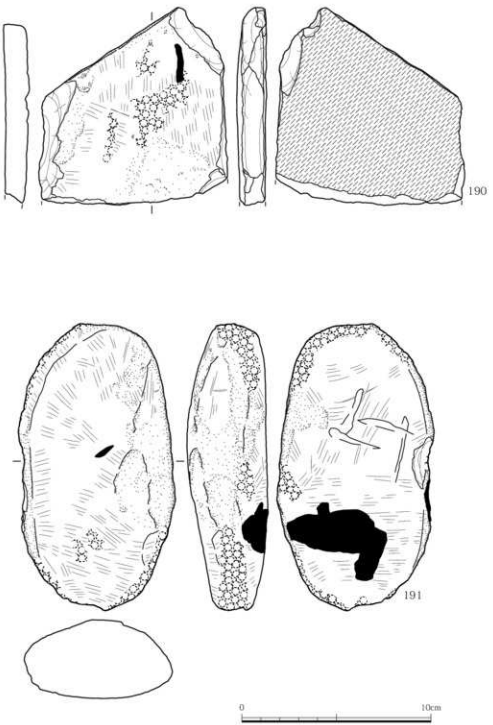


図70　高見Ⅱ遺跡2区 Ⅰ層出土・表採遺物6

第4節　小結

1a・1b区

土層堆積状況が良好であった。Ⅳ層から、赤色珪質岩の剥片が1点出土した。Ⅲ層、Ⅲ層上面では、ナイフ形石器、石核、剥片、使用痕を有する礫石器などが出土したが、縄文時代の遺物は出土しなかった。これらのことから、Ⅳ層、Ⅲ層、Ⅲ層上面の遺物は、後期旧石器時代のものであり、Ⅱ層最下部で姶良Tn火山灰のブロックが検出されたことなどを考慮すると、姶良Tn火山灰降灰以前の所産である可能性がある。

Ⅱ層の出土土器としては、縄文時代早期の無文土器を主とし、少量の押型文土器が見られた。従って、Ⅱ層は、縄文時代早期の包含層であると思われる。また、石鏃、石匙、礫石器、凹石などの多様な石器が出土した。Ⅱ層の土坑、不明遺構は、全てⅢ層を掘りこんだⅡ層除去段階(Ⅲ層上面)の検出であり、その時期は縄文時代早期と考えられる。ただし、集石については、Ⅱ層上部の検出であり遺物を伴わないことから、早期以降の時期を念頭におかなければならない。

2区

特筆すべきは、縄文時代の層が、基本的にⅡ層(Ⅱa層・Ⅱb層・Ⅱc層)とⅢ層(Ⅲa層・Ⅲb層)に分層できたことである。Ⅲa層の出土土器が早期の無文土器に限られるのに対し、Ⅱb層・Ⅱc層では早期の無文土器を主体としながらも、少量の押型文土器や前期・後期土器を伴う。ただし、後期土器は、Ⅱa層、Ⅱb層上部から出土している。このことは、縄文土器編年や生活の変化を窺い知るうえで重要である。詳細は、附編2を参照されたい。なお、Ⅱ層から出土した石鏃、凹石、磨石などにおいて多様な石材が用いられているが、Ⅲ層では黒曜石のものは認められなかった。

第4章　東峰遺跡第4地点2次の調査成果

第1節　調査区の設定(図4・71)

調査区は、(仮称)中山スマートインターチェンジの建設事業の計画上、2か所に分かれるため、北側調査区を1区、南側調査区を2区とした。1区は、平成7年度に埋文センターが調査を行った北側調査区の東に接し、2区は南側調査区の北に接する。発掘調査の記録作成のために用いるグリッド杭打設は、平成7年度に実施した埋文センターの調査箇所に近いことから、埋文センター同様4mピッチで行った。なお、地形の面では、2区は、東側部分の平坦部を除いて、他の大部分が西へと下がる斜面となっている。調査面積は、1区711.59㎡、2区334.55㎡である。

調査に際しては、排土の都合上、最初に標高の低い1区の南側部分、2区の西側部分の調査を行った。次いで、2区の東側部分の調査を行い、続いて1区の北側部分の調査を実施した。

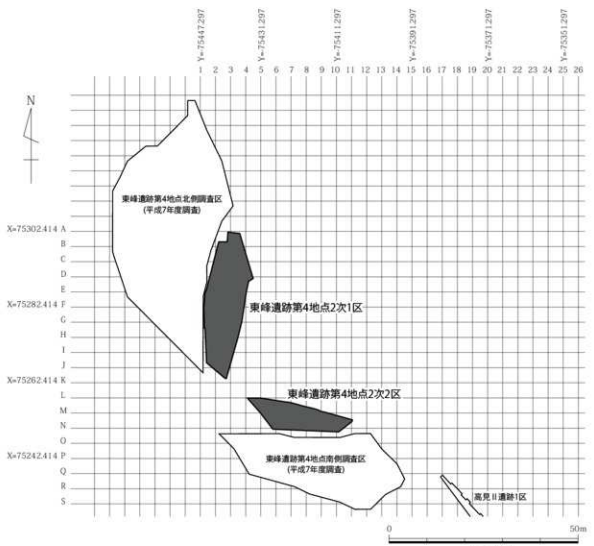


図71　東峰遺跡第4地点2次 調査区の位置とグリッド配置

第2節　1区

1　層位と概要(図72～75)

基本層序

調査区全体が、南西方向へと下がる斜面地となっている。そのため堆積状況は、高見Ⅱ遺跡1区と比べて必ずしも良好とは言えない。

Ⅰ層は、表土である。

Ⅱ層は、にぶい橙色粘性土(5YR6/4)である。土質は、高見Ⅱ遺跡1区Ⅱ層と類似しているが、色調が若干暗く赤味を帯びている。後述する2区のⅡ'層に対比できる層で、二次堆積と推定される。少量の無文土器、石器が出土したほか、3基の土坑が検出されている。

Ⅲ層は、にぶい褐色土(7.5YR5/4)である。土質は、高見Ⅱ遺跡1区のⅢ層と類似しているが、より黄色味が強い色調であり、砂粒も高見Ⅱ遺跡1区Ⅲ層よりも少ない。Ⅱ層同様、二次堆積と推定される。少量の後期旧石器時代の石器が点在するように出土した。

Ⅳ層は、にぶい黄褐色粘性土(10YR5/3)で、高見Ⅱ遺跡1区のⅣ層と同じである。

土層堆積状況

Ⅱ層は、土坑を検出した調査区北西部で、比較的良好に遺存していた(b～b')が、その他の箇所では部分的(a～a')である。グリッド杭Gの東西ライン(d～d')以南では、ほとんど確認できない。

Ⅲ層は、a～a'の北側約13mで連続した堆積が見られた。また、c～c'で、層厚約25㎝で認められたが、調査区西端部では消滅している。Ⅲ層もⅡ層同様グリッド杭Gの東西ライン以南では、極めて局所的で範囲も狭い。

Ⅳ層は、調査区全面で認められた。Ⅳ層上面の5㎝下位から、サヌキトイドの石核1点が出土した。

図72　東峰遺跡第4地点2次1区 土層模式

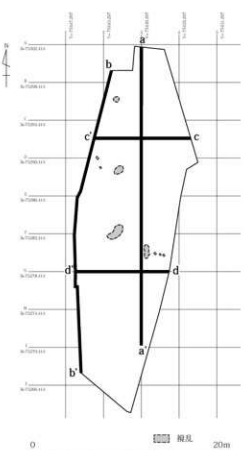


図73　東峰遺跡第4地点2次1区 土層図位置

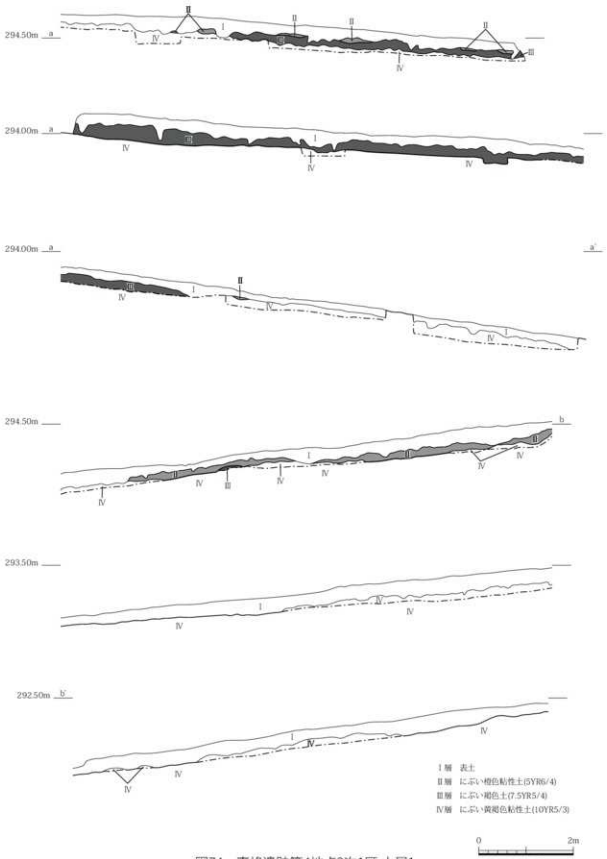


図74　東峰遺跡第4地点2次1区 土層1

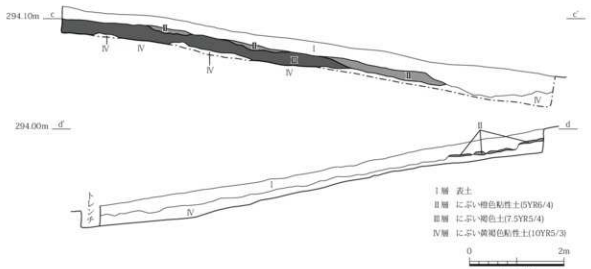


図75　東峰遺跡第4地点2次1区 土層2

2　Ⅳ層の遺物

遺物出土状況(図77)

調査区北端のⅣ層上面より5㎝下がった位置で、サヌキトイドの石核1点が出土した。明確に石器と認定できたのは、この1点のみであった。Ⅳ層上面より10㎝以上下がると石器の出土はなく、風化層の厚いサヌキトイド、唐崎マイロナイトの円礫、亜角礫がまとまってみられるが、これらは自然礫と考えられる。

石器(図76)

No.638は、サヌキトイド製の石核である。並列剥離により横長剥片を剥離している。作業面も含めて表面の風化が進んでいる。重さは733.6gである。

No.639は、安山岩類の石器?である。明確な加工痕や使用痕は認められないが、Ⅳ層から出土する他の礫が円礫や亜円礫であるのとは異なり、稜が明瞭に発達した扁平な礫である。表面は全体的に風化しているが、部分的に強く風化した面が認められる。

図76　東峰遺跡第4地点2次1区 Ⅳ層出土遺物

3　Ⅲ層の遺物

遺物出土状況(図77)

表土中からナイフ形石器、角錐状石器が出土したことや、調査区の北側約25mの範囲に連続したⅢ層が認められたことから、後期旧石器時代の遺構・遺物が期待された。しかし、礫群などの遺構は認められず、遺物も少なかった。これは、1区の北東部に比較的急傾斜の丘陵が控えているという地理的立地と少なからず関係していると考えられる。

グリッド杭Dの東西ライン以北では、製品は、角錐状石器1点のみの出土であった。上述ライン以南の約15mの範囲では、ナイフ形石器1点、台形(様)石器1点、二次加工剥片1点、ほかに剥片が少数点在するように出土した程度で、集中域も認められなかった。グリッド杭Hの東西ライン以南は、Ⅲ層からの遺物は確認できなかった。

また、高見Ⅱ遺跡1区で多数出土した緑色片岩やサヌキトイドなどの原礫も僅少であった。

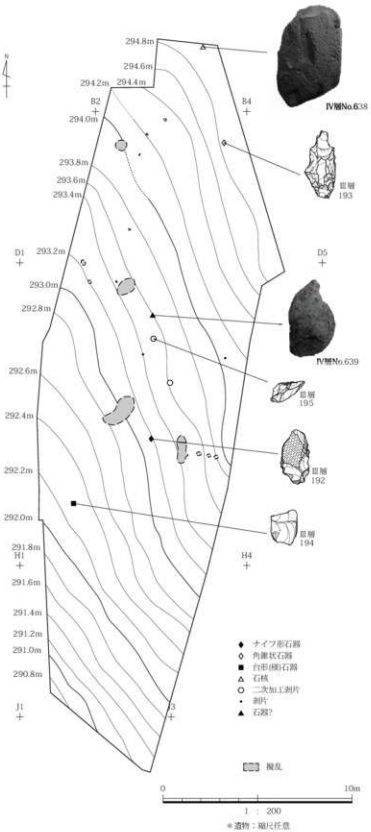


図77　東峰遺跡第4地点2次1区 Ⅳ層・Ⅲ層出土遺物分布

石器(図78)

192は、赤色珪質岩製のナイフ形石器である。横長剥片を素材とし、先端を除く右側縁全てと、左側縁の基部から中ほどにかけて、裏面側からブランティングを施す。左側縁の先端には微細剥離が認められる。表面に片理面を大きく残す。

193は、赤色珪質岩製の角錐状石器である。横長剥片を素材とし、全周において裏面側からブランティングを施している。

194は、赤色珪質岩製の台形(様)石器である。並列剥離によって生産された横長ないし短寸な剥片を横位に用い、左側縁に微細な調整剥離を施すことで台形に整形している。刃部には使用痕と思われる微細剥離が認められる。

195は、赤色珪質岩製の二次加工剥片である。並列剥離によって生産された横長剥片を素材とする。幅2.0㎝と小さい剥片であるが、打面部に裏面側から微細剥離が連続して施される。

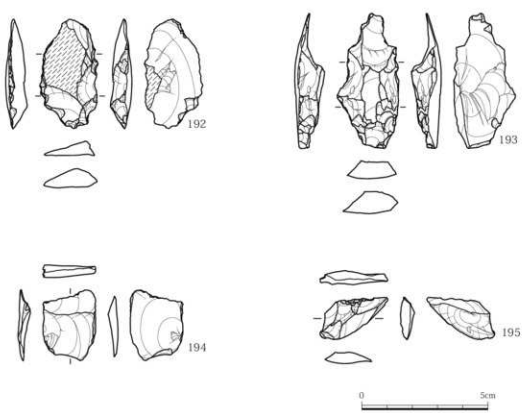


図78　東峰遺跡第4地点2次1区 Ⅲ層出土遺物

4　Ⅱ層の遺構と遺物

(1)遺構(図79)

1区のⅡ層は、概して部分的で薄い。これは、斜面という地理的背景だけでなく、調査前は果樹園または畑地であり、耕起により土層が撹乱されたことに起因している。このことが遺構が希薄であることの一因となっていると考えられる。

Ⅱ層が比較的良好に遺存していた調査区北部で、土坑3基(SK-1～3)を検出した。土坑3基は、明らかに遺構に伴うと判断できる遺物が出土しなかったため、詳細な時期は不明である。現時点では、縄文時代とするにとどまる。

平成7年度に埋文センターが調査を行った北側調査区で、縄文時代後期と考えられる1号集石が検出されている。1号集石は、土坑3基の北方約15mの位置と近い。しかしながら、土坑3基の時期が特定できないため、1号集石との関連は不明である。

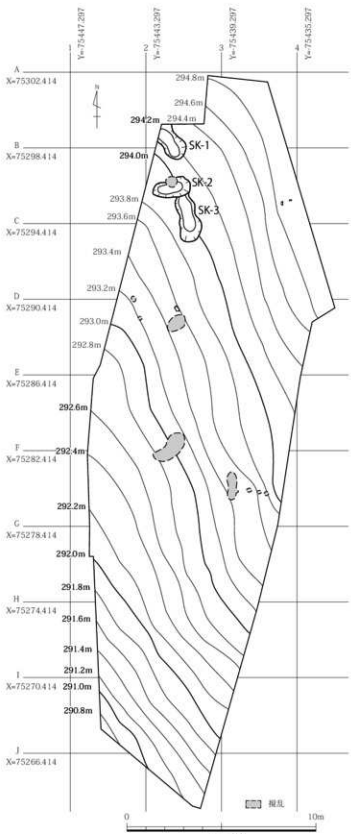


図79　東峰遺跡第4地点2次1区 遺構配置

SK-1(図80)

調査区の北部に位置する。調査区の外に延びているため、全体の詳細な平面形は不明である。ただし、調査区内の形状から、中央がくびれた楕円形をしていると推定できる。

長径は、検出範囲においては1.90mの残存が確認できる。短径は、くびれ部が0.96m、最大幅が1.16mである。深さは、検出面が斜面となっているため、正確とは言い難いが、およそ0.22mである。長軸方向は、N35°Wである。断面は、浅い皿状で、坑底は、地形の傾斜に応じるように、西側へと緩やかに下がっている。

埋土はⅡ層である。出土遺物は、確認できなかった。

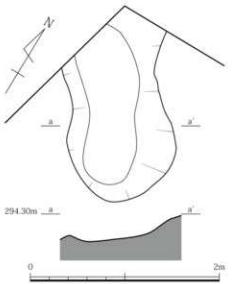


図80　東峰遺跡第4地点2次1区 SK-1平・断面

SK-2(図81)

SK-1から南へ0.85m隔てた位置にある。後述するSK-3を切っている。攪乱により一部遺構が破壊されているが、平面形は、楕円形を呈する。

長径2.02m、短径1.02m、深さ0.38mである。長軸方向は、N74°Eである。断面は、緩やかなU字形を呈する。

埋土はⅡ層である。出土遺物は、確認できなかった。

SK-3(図81)

遺構の北側がSK-2によって切られているが、平面形は、凹凸があるものの、およそ細長い楕円形を呈すると思われる。攪乱部を除く長径の残存長は、2.46mである。短径の最大幅1.14m、深さ0.21mである。長軸の方向は、N12°Wである。断面を見ると、坑底は概して平坦

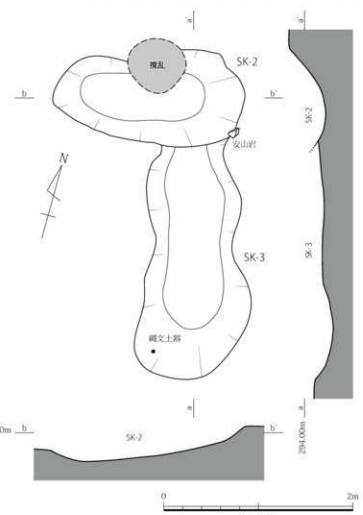


図81　東峰遺跡第4地点2次1区 SK-2・3平・断面

であるが、南側は北側より約15㎝深く凹んでいる。

埋土はⅡ層である。埋土中に早期の無文土器片が2点含まれていたが、これが遺構に伴うかものかどうかは判断できない。

(2)遺物

遺物出土状況(図82)

調査区北部の10mの範囲は、土坑3基が検出されたものの、遺物は、SK-3の埋土中の無文土器片1点のみであった。

SK-3以南の調査区については、縄文時代早期のやや厚手の無文土器、石鏃、石核、剝片などが出土した。ただし、出土状況は点在する程度で、遺物の集中域なども認められなかった。

こうした状況は、遺構と同様に、調査区が斜面地であると共に、後世の耕作などにより乱されたためと考えられる。

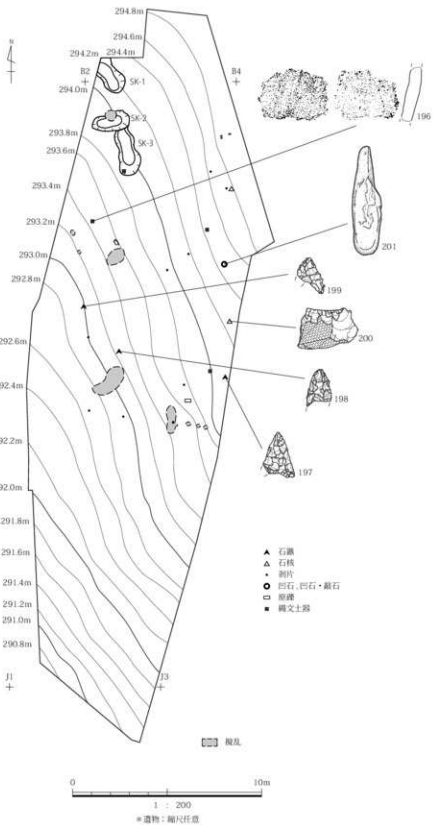


図82　東峰遺跡第4地点2次1区 Ⅱ層出土遺物分布

縄文土器(図83)

196は、早期の無文土器の胴部片である。器厚は1.2㎝を測り、やや厚手のつくりである。内外面はナデ・指頭圧痕による調整であり、とくに内面には指頭圧痕が顕著に認められる。金雲母を多く含むほか、わずかに角閃石の混入も認められる。

石器(図83・84)

197～199は石鏃である。197は赤色珪質岩製で、基部を浅く抉り、平面形は二等辺三角形である。198はサヌキトイド製である。下半分が欠損している。199は黒曜石製で、左脚部を欠損している。基部は深く抉り、平面形は二等辺三角形で、右側縁は鋸歯状を呈する。

200は、赤色珪質岩製の石核である。結合面を残す分割礫を素材とし、打面を転位しながら剥片剥離を行っている。剥離された剥片は短寸である。

201は、緑色片岩の礫を用いた凹石である。横断面はかまぼこ形であり、平坦面をなす裏面側に凹部が認められる。重さは64.5gで、図化した完形の凹石の中では最も軽い。

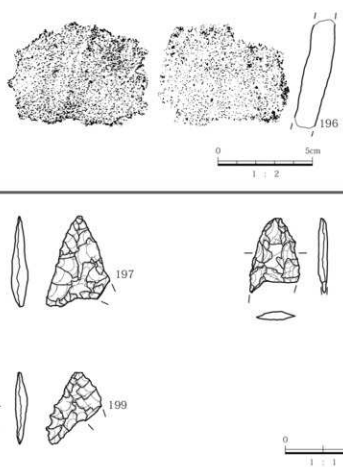
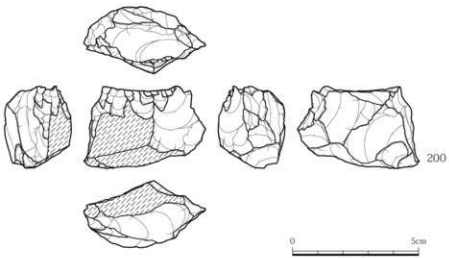


図83　東峰遺跡第4地点2次1区 Ⅱ層出土遺物1



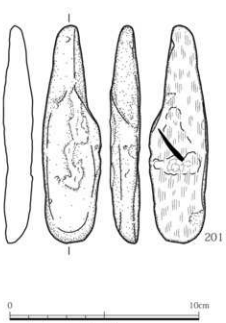


図84　東峰遺跡第4地点2次1区 II 層出土遺物2

5　Ⅰ層の遺物

石器(図85)

202と203は、いずれも赤色珪質岩製の二側縁加工のナイフ形石器である。202は横長剥片を素材とし、右側縁全てと左側縁基部に裏面側からプランティングを施す。先端は平坦である。203は、横長剥片を素材として、左側縁全てと右側縁基部に裏面側からプランティングを施す。ナイフ形石器としたが、形態的には角錐状石器に近く、両者の中間的な形態である。素材剥片の縁辺からなる、右側縁の刃部には、裏面側に微細剥離が認められるほか、先端が欠損する。

204は、チャート製の石鏃である。基部を抉り、平面形は二等辺三角形である。

205は、緑色片岩製の垂飾品の未製品である。薄く扁平な緑色片岩の礫の片面から穿孔を試みているが、貫通していない。孔(穴)の径は1.0cmで、回転研磨によるものと推定される。表面には、孔(穴)を中心に弧を描く線条痕がわずかに認められる。表裏両面はともに平滑である。

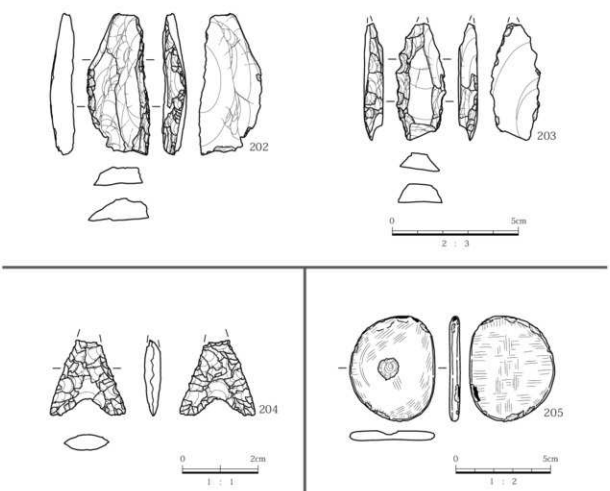


図85　東峰遺跡第4地点2次1区 Ⅰ層出土遺物

第3節　2区

1　層位と概要(図86～89)

基本層序

2区の東側約10mの範囲が、高見Ⅱ遺跡1区と同一の段丘面に含まれていることから、土層堆積も、基本的には高見Ⅱ遺跡1区と共通している。

Ⅰ層は、表土である。

Ⅱ層は、橙色粘性土(7.5YR6/6)で、層厚は約10～40㎝である。礫をほとんど含まず、径約1㎜の砂粒(石英・珪質片岩・長石など)を少量含む。Ⅱ層除去段階で土坑が認められた。遺物は、縄文時代早期・前期の土器、石鏃などの石器類が出土した。

Ⅲ層は、灰黄褐色土(10YR6/2)で、層厚は約10～20㎝である。径約0.5～2㎜の砂粒(石英・珪質片岩・長石・唐崎マイロナイトなど)を含む。Ⅲ層上面及びⅢ層で後期旧石器時代の石器類が出土した。土器、石鏃など縄文時代の遺物は含まない。

Ⅳ層は、にぶい黄褐色粘性土(10YR5/3)である。Ⅳ層上面は凹凸があり、Ⅲ層と入り組んでいる部分がある。剥片1点が出土した。

なお、調査区西側においては、Ⅱ層、Ⅲ層が、東側の土層とわずかに色調などにおいて違いがみられる。この点については、具体的な土層図において後述する。

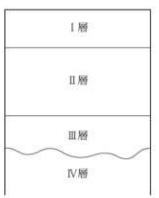


図86　東峰遺跡第4地点2次2区 土層模式

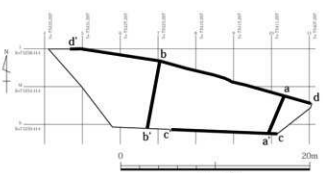


図87　東峰遺跡第4地点2次2区 土層図位置

a～a'

東側段丘部の土層で、堆積状況は良好である。北から南へと約40㎝下がる。

Ⅱ層の層厚は、約10～20㎝と1区よりも薄いが、これは、後世の耕作によるものと推測される。

Ⅲ層は、層厚が約15～30㎝であり、1区よりも若干厚い。

Ⅳ層は、1区同様不整合を思わせる凹凸のある面でⅢ層と接している。

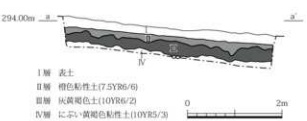


図88　東峰遺跡第4地点2次2区 土層1

b～b'

Ⅰ層下の土層は、にぶい赤褐色粘性土(5YR5/4)で、基本層序のⅡ層と土質が類似しているものの、色調がわずかに暗く赤みを帯びている。これらのことから、この層をⅡ'層とした。遺物がほとんど認められず、二次堆積と推定される。

c～c'

調査区の南側壁面である。ここは、平成7年度に埋文センターが調査を行った東峰遺跡第4地点の南側調査区に接している。

Ⅰ層下は、Ⅱ'層である。これは、土層b～b'同様二次堆積と推定される。Ⅲ層は、西端部に薄くわずかに確認できるのみである。

d～d'

調査区北壁の土層である。東側に顕著に見られたⅡ層は、L9グリッドあたりからⅡ'層へと漸移的に変化する。Ⅲ層もL9グリッドを境にⅢ'層へと漸移的に変化する。Ⅲ'層はにぶい黄橙色土(10YR6/4)で、Ⅲ層と土質が同一だが、色調においてわずかに黄色味が強い。Ⅲ'層も、Ⅱ'層同様二次堆積と推定される。

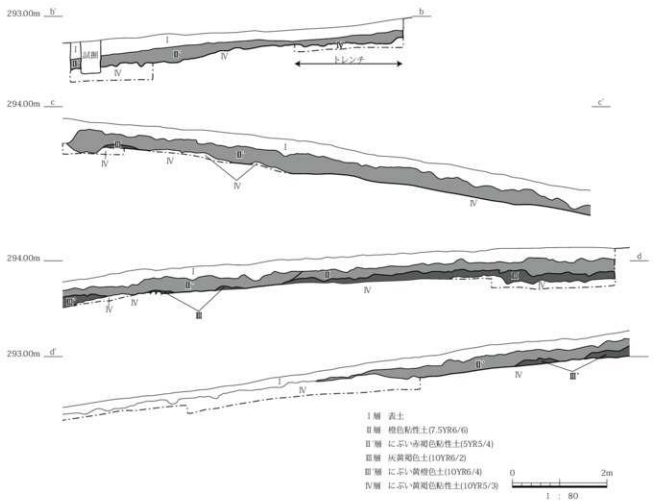


図89　東峰遺跡第4地点2次2区 土層2

2　Ⅳ層の遺物

石器

調査区東端部のM11グリッドで、Ⅳ層上面より5㎝下がった位置で、石器1点を検出した。これは、サヌキトイド製の剝片で、長さ1.1㎝、幅0.6㎝、厚さ0.1㎝、重さ0.2gである。出土箇所周辺において面的な掘り下げを行ったが、Ⅳ層の出土物は、この1点のみであった。

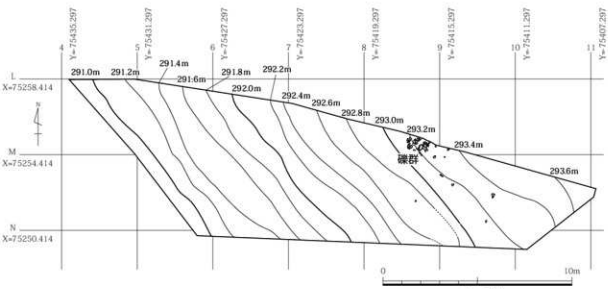


図90　東峰遺跡第4地点2次2区 Ⅳ層上面遺構配置

3　Ⅳ層上面の遺構(図90)

礫群(図91、表2)

Ⅳ層上面検出で、覆土はⅢ層である。調査区外に広がっているため、全体の範囲は不明である。検出範囲は、南北1.0m、東西2.25mである。礫の掘り込みは、確認できなかった。

西側に集中部があり、東側は散漫である。集中部中心のやや東側にサヌキトイドの亜円礫が集中し、それを囲むように唐崎マイロナイトの角礫が多く分布する。赤変・風化による破損礫が認められた。また、風化が著しいため、接合はできなかった。礫群に伴う遺物は認められなかった。

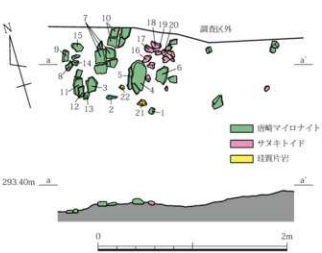


図91　東峰遺跡第4地点2次2区 礫群平・断面

表2　礫群の構成礫一覧

単位：cm,g

番号	分類	赤変度	形状	石材	グリッド	最大長	最大幅	最大厚	重量
1	B	B	亜円礫	唐崎マイロナイト	L9・M9	5.9	5.4	1.5	50.7
2	A	B	亜円礫	唐崎マイロナイト	L9	10.2	5.3	3.4	131.4
3	B	C	角礫	唐崎マイロナイト	L9	11.7	8.5	2.0	201.1
4	A	B	円礫	唐崎マイロナイト	L9	22.8	19.6	6.6	2265.4
5	B	B	円礫	唐崎マイロナイト	L9	22.1	12.0	4.8	1020.5
6	A	B	角礫	唐崎マイロナイト	L9	15.7	9.6	2.5	333.1
7	B	C	亜角礫	唐崎マイロナイト	L9	14.6	13.7	3.0	422.2
8	B	D	角礫	唐崎マイロナイト	L9	9.5	9.0	3.2	252.3
9	A	C	角礫	唐崎マイロナイト	L9	12.2	7.6	3.1	267.8
10	A	C	角礫	唐崎マイロナイト	L9	19.5	6.5	2.3	330.6
11	A	B	角礫	唐崎マイロナイト	L9	8.0	9.3	1.4	135.8
12	B	B	角礫	唐崎マイロナイト	L9	10.2	5.2	1.2	74.7
13	B	B	角礫	唐崎マイロナイト	L9	6.2	4.8	1.2	38.9
14	A	－	角礫	唐崎マイロナイト	L9	5.8	4.8	4.0	93.5
15	A	C	亜角礫	唐崎マイロナイト	L9	11.7	8.9	5.4	525.0
16	A	B	亜角礫	サヌキトイド	L9	6.3	7.5	3.1	107.6
17	A	B	亜円礫	サヌキトイド	L9	10.5	7.0	3.7	375.4
18	A	B	亜円礫	サヌキトイド	L9	8.4	9.7	4.9	402.0
19	A	B	亜円礫	サヌキトイド	L9	6.3	7.2	3.2	135.5
20	A	B	亜円礫	サヌキトイド	L9	7.3	5.4	3.1	143.3
21	A	C	角礫	珪質片岩	L9	6.5	6.3	5.6	273.7
22	B	D	角礫	珪質片岩	L9	4.7	3.9	2.5	48.6

分類…破損度合いを示す。2つに区分する。
A：完形のもの　　B：破損しているもの
赤変度…原礫が赤色に変色しているもので、赤変部分の表面積の度合いを示す。
A：100%　　B：80%以上　　C：50%以上　　D：50%未満

4　Ⅲ層、Ⅲ層上面の遺物

遺物出土状況(図92)

礫群より東側の調査区で、数は多くないものの、後期旧石器時代の石器が出土した。Ⅲ層上面では、切出形の小型ナイフ形石器1点、柳葉形のナイフ形石器1点が出土したほか、図化していないが、もう1点出土している。また、Ⅲ層中からは、周縁加工尖頭器1点のほか、その周辺で剝片がまとまって出土した。

N7グリッドのナイフ形石器の出土層位は、Ⅲ層ではあるが、東側のⅢ層よりもわずかに黄色味を帯びた色調であり、二次堆積の可能性がある。

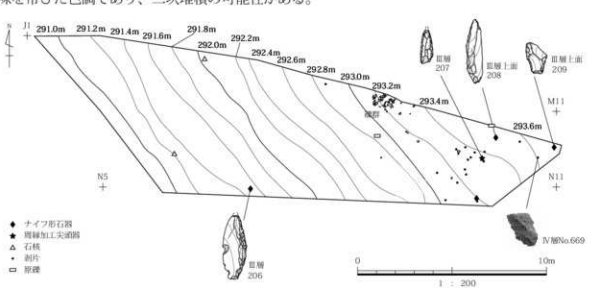


図92　東峰遺跡第4地点2次2区 Ⅳ層・Ⅲ層・Ⅲ層上面出土遺物分布

Ⅲ層出土石器(図93)

206は、サヌキトイド製のナイフ形石器である。交互・並列剥離によって生産された横長剥片を素材とし、右側縁全てに裏面側からブランティングを施し、尖頭部を作出している。一側縁加工のナイフ形石器である。刃部には微細剥離が認められ、先端が欠損する。

207は、赤色珪質岩製の周縁加工尖頭器である。あえて角錐状石器とは別の名称を付けた。横長剥片を素材とする。先端が欠損しているが、長さ2.58㎝と、本調査出土の角錐状石器と比べて小さい。狭長で薄く、両側縁の裏面側からのブランティングによって尖頭状に形状を整えている。

Ⅲ層上面出土石器(図94)

208と209は、いずれもサヌキトイド製のナイフ形石器である。208は、素材剥片の主要剥離面の剥離軸が器軸に対して斜行する。背面を構成する剥離からは、並列剥離によって連続して横長剥片を剥離した石核から剥離したと思われる。左側縁全てと右側縁先端にブランティングを施す。細身で柳葉形を呈し、若干厚みがある。作り方は縦長一側縁加工ナイフ形石器と似る。209は、交互・並列剥離によって生産された横長剥片を素材とする。左側縁全てと右側縁基部に裏面側からブランティングを施す、切出形のナイフ形石器である。

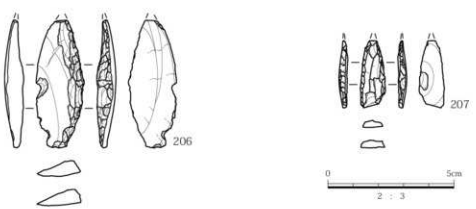


図93　東峰遺跡第4地点2次2区 Ⅲ層出土遺物

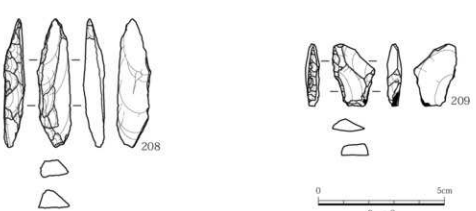


図94　東峰遺跡第4地点2次2区 Ⅲ層上面出土遺物

5　Ⅱ層の遺構と遺物

(1)遺構(図95)

Ⅱ層除去面の等高線293.0m辺りを境に、東側が段丘面、西側が緩やかな斜面となっている。この変換点付近の調査区南東部でSK-4を検出した。2区のⅡ層段階の遺構は、この土坑のみである。

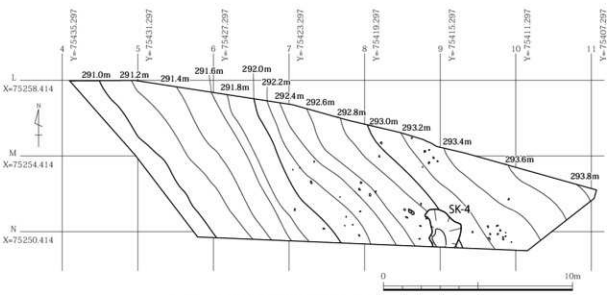


図95　東峰遺跡第4地点2次2区 Ⅱ層遺構配置

SK-4(図96)

遺構が、調査区外に延びているため、全体を検出できていないが、平面形は不整形で、南北に長い形状であると推定される。

調査区内で確認できたのは、長径2.00m、短径1.56mである。深さは、検出面が緩傾斜であることを考慮すると、0.35mと推定される。長軸方向は、N7°Wである。断面は、北から緩やかに下がり、坑底は平坦である。

埋土はⅡ層で、遺物は出土しなかった。なお、検出面より上位の包含層からは、周辺で、前期の縄文土器、石鏃などが出土している。

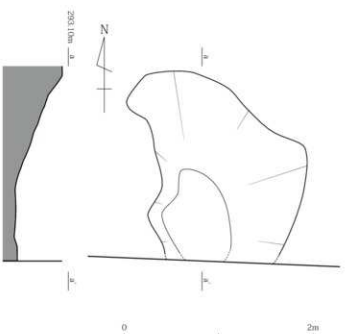


図96　東峰遺跡第4地点2次2区 SK-4平・断面

(2)遺物

遺物出土状況(図97)

遺物は、全て包含層の出土であり、遺構に伴うものは見られなかった。分布を見ると、SK-4周辺より東側に多く、西側になると希薄となる。

縄文土器では、早期の無文土器がほとんどである。他に、前期前半の土器が3点出土しているものの、集中しての出土ではない。石器は、石鏃3点が調査区南東部のごく近い範囲で出土している。

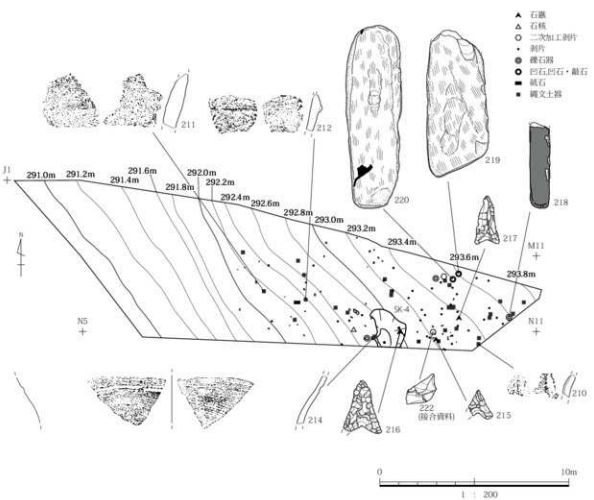


図97　東峰遺跡第4地点2次2区 Ⅱ層出土遺物分布

縄文土器(図98)

210は、早期の無文土器の口縁部付近である。外面は条痕調整である。内面には幅0.6㎝の短沈線が施されている。わずかに角閃石と結晶片岩の混入が認められる。211は、早期の無文土器の胴部片で、器厚は1.6㎝を測り、厚手のつくりである。内外面はナデ・指頭圧痕による調整である。金雲母を多く含むほか、わずかに角閃石の混入も認められる。

212は、早期後葉の可能性を比定する口縁部付近である。外面は条痕後にナデ調整を施しており、1条の突帯部も認められる。内面はナデ調整である。わずかに角閃石の混入が認められる。

213は、前期前半の羽島下層式の胴部片である。「D」字状の竹管文連続押引文が施されている。内面は条痕調整である。214は、前期前半の羽島下層式の胴部片である。「D」字状の竹管文連続押引文が2段施され、その上部にもある程度の間隔をおき、押引文を施しているが、使用している原体が違う。内面は条痕後にナデ調整を施している。

石器(図98・99)

215～217は、いずれもサヌキトイド製の石鏃であり、基部を抉る。215は左脚部が欠損しているが、平面形は正三角形である。216は尖端部のすぐ下に肩部を有し、両側縁は脚部に向かって裾広がりになる。217の平面形は歪な二等辺三角形である。

218は、緑色片岩の礫を用いた礫石器である。

219と220は、緑色片岩の礫を用いた凹石・敲石である。219は、表裏両面に連続する浅い凹部が微かに認められる。表面左側縁には連続した剥離痕が、表面右側縁には1か所のみ剥離痕がある。220は、礫の表面側に円錐状凹部が1か所、裏面側に並列する凹部が認められ、表面右側縁には剥離痕がある。

接合資料(図100)

221と222は赤色珪質岩製の剥片であり、本調査で確認できた唯一の接合資料である。221は、交互・並列剥離の石核から剥離した縦長剥片であり、更にそこから横長剥片(222)を剥離している。221は鋭角な右側縁に微細剥離が連続的に生じており、222を剥離した際に生じた縁辺部にも微細剥離がみられる。222の縁辺部には微細剥離が疎らに認められる。

6　I層、撹乱の遺物

縄文土器(図101)

223は、早期の無文土器の胴部片。器厚は1.3㎝を測り、やや厚手のつくりである。内外面はナデ調整である。金雲母を多く含むほか、わずかに角閃石の混入も認められる。

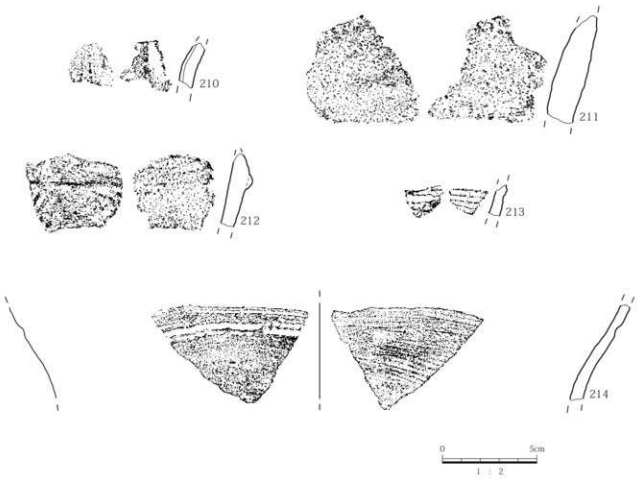
石器(図101・102)

224は、黒曜石製の石鏃であり、尖端部と両脚部端が欠損している。

225は、赤色珪質岩製の石核である。礫面を打面とし、縦長剥片を剥離しているほか、下部には打面の正反対方向からの剥離が認められる。石核の正面右側縁と左側縁には、連続する微細剥離が認められる。

226は、赤色珪質岩製の横長剥片であり、打面を転位しながら剥片を剥離していた石核から、打点を固定して連続して剥離されたものである。明確な調整加工が確認できなかったが、表面右下の側縁には連続する微細剥離が認められる。

227は、石材不明の円盤状の礫を用いた凹石・敲石である。正面の中央部に浅い凹部が認められ、周囲には剥離痕がある。重さは862.1gと比較的重く、正面の凹部を主要な機能面と仮定すると、対象物によっては、手で持って敲打作業を行うのにあまり適していない形状であるため、台石として用いられた可能性もある。



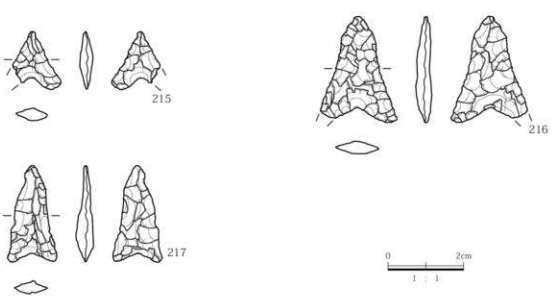


図98　東峰遺跡第4地点2次2区 Ⅱ層出土遺物1

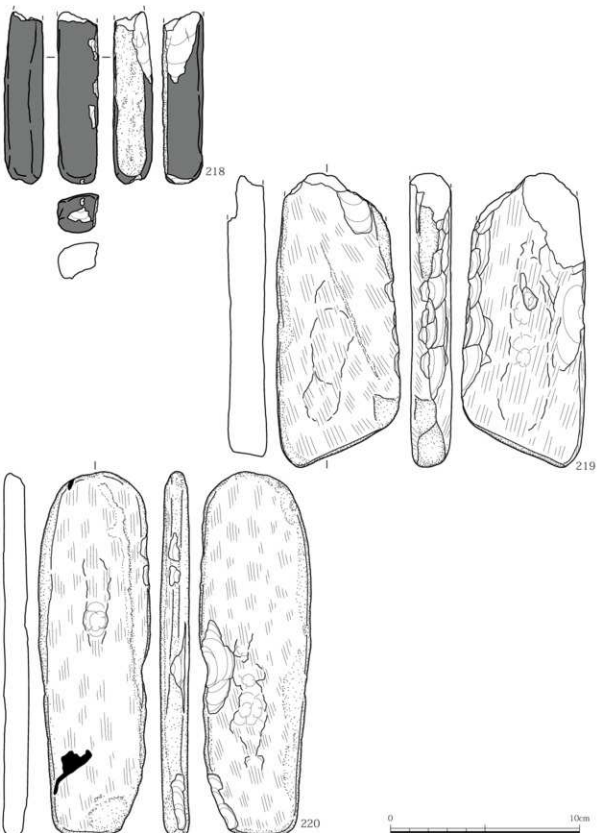


図99　東峰遺跡第4地点2次2区 Ⅱ層出土遺物2

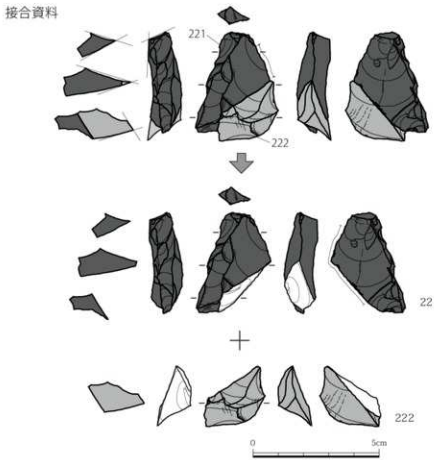


図100　東峰遺跡第4地点2次2区 接合資料

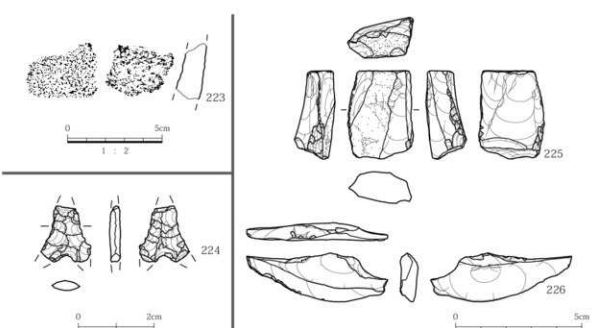


図101　東峰遺跡第4地点2次2区 Ⅰ層・撹乱出土遺物1

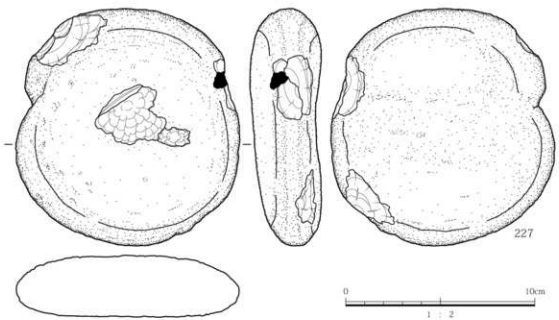


図102　東峰遺跡第4地点2次2区 Ⅰ層・撹乱出土遺物2

第4節　小結

1区

調査区全体が緩斜面となっており、Ⅱ層、Ⅲ層は二次堆積の様相を呈する。

Ⅳ層から、礫面を残すサヌキトイドの石核1点が出土した。同様の石核が、平成7年度に埋文センターが調査を行った東峰遺跡第4地点北側調査区から出土している(竹口・多田2002)。

Ⅲ層では、ナイフ形石器、角錐状石器などが点在するように出土した。製品の出土が少ないことから断言できないものの、Ⅲ層は、角錐状石器の存在から、姶良Tn火山灰降灰以降(後期旧石器時代後半期)の時期と考えられる。

Ⅱ層は、縄文時代早期の無文土器や石鏃などの石器類が少数出土している。土坑が3基確認されているが、遺物を伴わないことから、その時期は、現時点では縄文時代とするにとどめたい。

2区

Ⅳ層上面で、礫群1基を検出した。主に角礫の唐崎マイロナイト、亜円礫のサヌキトイドが用いられ、多くの礫が赤変していた。礫群の南東方向4～6mに剥片などの石器が比較的まとまって出土している。今後、礫群とこれら石器との関連について検討する必要がある。

東側段丘部のⅢ層で周縁加工尖頭器1点、Ⅲ層上面でナイフ形石器3点が出土した。これらは、姶良Tn火山灰降灰以前のものである可能性がある。

Ⅱ層では、縄文時代早期の無文土器を主体とし、少量の前期前半土器が出土した。また、石鏃、石核、凹石・敲石などが出土した。検出土坑1基は、早期から前期前半にかけての時期が想定される。

第5章　まとめ

第1節　各調査区の土層対比(図103)

高見Ⅱ遺跡、東峰遺跡第4地点2次は、遺跡名こそ異なるものの、丘陵中腹の段丘及びそれに連なる斜面地に立地しており、本来は、一体の遺跡であると考えられる。ただ、微地形などの相違から、今回の調査においては、土層堆積に関して、以下の3事例が認められた。

段丘部(高見Ⅱ遺跡1区、東峰遺跡第4地点2次2区東側)

堆積状況が極めて良好で、一次堆積と考えることができる。火山灰分析によると、Ⅱ層の最上部で鬼界アカホヤ火山灰降灰層準が、Ⅱ層の最下部で姶良Tn火山灰のブロックが検出された。

出土遺物からみると、Ⅱ層の最上部で縄文時代後期の土器が出土している。Ⅱ層の最上部より下位では、縄文時代早期の無文土器、少数の押型文土器などが出土している。後期旧石器時代のナイフ形石器なども、Ⅱ層中から無文土器と共に出土している。ただ、ナイフ形石器などは、Ⅱ層でも下部で出土する傾向がある。このことから、あくまで推測ではあるが、何らかの理由で縄文時代の遺物と混在する以前に、Ⅱ層の下部が後期旧石器時代の包含層であった可能性がある。

Ⅲ層上面、Ⅲ層、Ⅳ層は、ナイフ形石器など石器のみの出土で、縄文時代の遺物は出土しなかった。このことから、Ⅲ層上面、Ⅲ層、Ⅳ層は、後期旧石器時代の層位とみなすことができる。

なお、段丘部の基本層序を高見Ⅰ遺跡2次(沖野・青野・富山2018)と比較すると、層厚やごくわずかな色調の違いはあるものの、基本的には同一である。従って、本報告書の段丘部の基本層序Ⅰ～Ⅳ層は、高見Ⅰ遺跡2次のⅠ～Ⅳ層に対比できる。

斜面部(東峰遺跡第4地点2次1区・2区西側)

Ⅱ層は、主に縄文時代早期の無文土器、石鏃、凹石などが出土する縄文時代の層である。ただ、段丘部のⅡ層とは土質、色調などに違いがあることから、二次堆積と推定される。

Ⅲ層は、ナイフ形石器など石器のみの出土であり、縄文時代の遺物は認められない。Ⅲ層も段丘部のⅢ層とは若干の違いが認められるため、Ⅱ層同様二次堆積で、後期旧石器時代の層位と思われる。

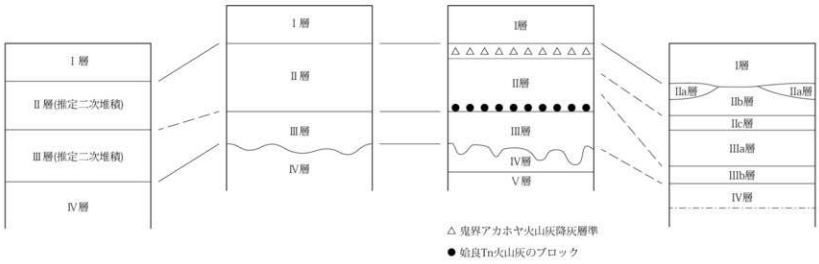
斜面凹地(高見Ⅱ遺跡2区)

段丘に近接しているものの、斜面地であり、Ⅱ層、Ⅲ層共に二次堆積と推定される。Ⅳ層は、丘陵の基盤層であり、無遺物である。

Ⅱ層・Ⅲ層共に、最も出土量の多い土器は、縄文時代早期の無文土器である。Ⅱ層は、Ⅲ層に比して出土量が多く、縄文時代早期の押型文土器、前期、後期土器を少数ながら含む。ただし、後期土器は、Ⅱ層上部から出土している。

以上のことなどから、Ⅱ層、Ⅲ層共に、縄文時代の包含層である。ただ、各層位の詳細な年代観は、現時点では特定できず、今後の課題である。

なお、高見Ⅱ遺跡2区では、後期旧石器時代に比定できる層位は観察できなかった。



東峰遺跡第4地点1区
(斜面部)

Ⅰ層 表土
Ⅱ層 にぶい橙色粘性土(5YR6/4)
Ⅲ層 にぶい褐色土(7.5YR5/4)
Ⅳ層 にぶい黄褐色粘性土(10YR5/3)

東峰遺跡第4地点2区
(東側段丘部)

Ⅰ層 表土
Ⅱ層 橙色粘性土(7.5YR6/6)
Ⅲ層 灰黄褐色土(10YR6/2)
Ⅳ層 にぶい黄褐色粘性土(10YR5/3)

高見Ⅱ遺跡1a,1b区
(段丘部)

Ⅰ層 表土
Ⅱ層 橙色粘性土(7.5YR6/6)
Ⅲ層 灰黄褐色土(10YR6/2)
Ⅳ層 にぶい黄褐色粘性土(10YR5/3)
Ⅴ層 明黄褐色粘性土(10YR7/6)

高見Ⅱ遺跡2区
(段丘付近の斜面凹地)

Ⅰ層 表土
Ⅱa層 明褐色粘性土(7.5YR5/8)
Ⅱb層 明褐色粘性土(7.5YR5/6)
Ⅱc層 明赤褐色土(5YR5/6)
Ⅲa層 暗褐色土(7.5YR3/4)
Ⅲb層 灰褐色土(7.5YR4/2)
Ⅳ層 明黄褐色粘性土(10YR6/6)

図103 各調査区の土層対比

第2節　後期旧石器時代

遺構

東峰遺跡第4地点2次2区Ⅳ層上面で、礫群が1か所検出された。礫群は主に、風化が激しい唐崎マイロナイトの角礫と、サヌキトイドの亜円礫、珪質片岩の角礫から構成され(表2)、構成礫の配置には特徴が認められる。礫群には唐崎マイロナイトの円礫が2点含まれ、いずれも重量が1020.5gと2265.4gと、重量比では礫群中で突出して大きい。この円礫は礫群集中部の中央近くに重なるように位置しており、その東側には、サヌキトイドの礫が集中して分布している。構成礫のほとんどは表面積の50%以上が赤変している。同区Ⅳ層からはサヌキトイドの剥片(No.669)が出土しているが、礫群との関係は不明である。

埋文センターによる高見Ⅰ遺跡2次では、遺物を伴う多数の礫群が確認されている。礫群は主に角礫と亜角礫からなり、石材は、唐崎マイロナイトを中心に一部で安山岩類が用いられている。東峰遺跡第4地点2次2区の礫群のように大きな円礫が含まれる礫群は確認できておらず、高見Ⅰ遺跡2次と東峰遺跡第4地点2次の礫群は様相を異にする(沖野2018a)。

後期旧石器時代の剥片石器

石器類は高見Ⅱ遺跡、東峰遺跡第4地点2次(以下、両遺跡)で1391点出土し、うち747点を一覧表に掲載した。このうち、形態的に後期旧石器時代の石器であると判断できるツールは、ナイフ形石器18点(15点図化)と角錐状石器4点(全点図化)、周縁加工尖頭器1点(図化)、台形(様)石器1点(図化)である。接合資料には恵まれなかった。

18点のナイフ形石器は、調査区ごとの内訳は高見Ⅱ遺跡1a・1b区5点(全点図化)、同2区6点(4点図化)、東峰遺跡第4地点2次1区3点(全点図化)、同2区4点(3点図化)である。石材からは、赤色珪質岩製7点(38.9%)(1・63・192・202・203・No.258・No.685)とサヌキトイド製11点(61.1%)(16・39・40・41・64・103・154・206・208・209・No.259)に分類できる。素材剥片は、横長剥片(192・202・203・206・209・No.258・No.685)、縦長剥片(16・39・40)、剥片剥離軸が器軸に対して斜行する剥片(64・208)、不定形な剥片(1)に分類可能である。4点(41・103・154・No.259)は欠損が大きく、分類不能である。

欠損が大きい上記4点を除くナイフ形石器14点の大きさを、素材剥片と石材ごとに比較してみると、3つのグループが確認できる(図104)。長さ3㎝以下のグループと、長さ4㎝以上6㎝以下のグループ、長さ12㎝超の39である。サンプル数が少ないので断定は避けるが、39は例外として、素材剥片の形状や石材は、ナイフ形石器の大きさとは無関係の様子である。ただし、縦長剥片を素材とするナイフ形石器は、いずれもサヌキトイド製である。

ナイフ形石器には、明確な型式を認識することができないものが多い。高見Ⅰ遺跡2次における沖野(2018b)の分類を援用すると、非尖頭形4点と尖頭形9点、不明1点に分類できる。一側縁加工のNo.685は先端の形状が不明である。非尖頭形は部分加工を施した1、切出形の209、二側縁加工の202と、一側縁にブランティングを施すNo.258である。尖頭形は、二側縁加工(192?・

203)と一側縁加工(16・39・63・64・206)、一側縁全てに加えて基部または尖端の一部に調整の認められるもの(40・208)に細分できる。二側縁加工のナイフ形石器はいずれも赤色珪質岩製の横長剥片を素材としている。208は柳葉形を呈する。突出して大きな39は、Ⅰ層出土であるため層位的な位置付けは不明であるが、全長が7㎝を越すナイフ形石器は、中国・四国では姶良Tn火山灰の降灰後、国府型ナイフ形石器が出現する時期に一定数が石器組成に含まれるようになる点が指摘されている(氏家2018)。なお、国府型ナイフ形石器の可能性があるナイフ形石器は高見Ⅰ遺跡で採集されている(沖野2015)が、本調査では存在を確認できなかった。

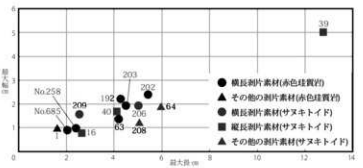


図104　高見Ⅱ遺跡・東峰遺跡第4地点2次 ナイフ形石器の長幅比

周縁加工尖頭器(207)と角錐状石器(42・155・172・193)は、いずれも素材剥片の主要剥離面である裏面側から調整剥離を加え周縁加工を施すもので、表面に素材剥片の剥離作業面を一部残す。42の基部の一部を除き、裏面には明確な調整剥離は認められず、いずれも多田(1997)の分類案で第Ⅰ類に分類できる二面加工品である。155を除く全てが横長剥片を素材とする。横長剥片剥離技術を基盤として角錐状石器を主体とする石器群は、瀬戸内地域では第Ⅱb期に認められる(藤野・多田2010)。周縁加工尖頭器と角錐状石器の石材は赤色珪質岩製が3点(155・193・207)、サヌキトイド製が2点(42・172)である。大きさを先述のナイフ形石器(図104)と比較してみると、ナイフ形石器の大きさの範疇に収まる。台形(様)石器は、赤色珪質岩製の横長ないし短寸な剥片を素材としたものが1点(194)のみ出土した。

両遺跡で縄文時代の遺物と後期旧石器時代の遺物が混在している地点が多いため、形態から時期を判断できない石器の評価は難しいが、高見Ⅱ遺跡1a・1b区Ⅲ層上面・Ⅲ層・Ⅳ層に含まれる遺物は、姶良Tn火山灰降灰以前の時期に属すると考えられる(第3章第4節)。同区Ⅲ層上面・Ⅲ層・Ⅳ層から出土した剥片に関しては、点数比では赤色珪質岩製がサヌキトイド製と比較して多く、重量比では両者が拮抗する(表3・表4)。また、断定はできないものの、東峰遺跡第4地点2次1区Ⅲ層と東峰遺跡第4地点2次2区Ⅲ層上面・Ⅲ層の遺物も、後期旧石器時代に帰属する可能性がある(第4章第4節)。東峰遺跡第4地点2次は、高見Ⅱ遺跡と比べて出土した石器が少ないが、東峰遺跡第4地点2次1区Ⅲ層出土の剥片は全て赤色珪質岩製である。東峰遺跡第4地点2次2区Ⅳ層・Ⅲ層・Ⅲ層上面出土の剥片は、赤色珪質岩製(n=16)がサヌキトイド製(n=3)を点数で上回るものの、重量はほぼ拮抗する(20.4gと18.7g)。

確実に後期旧石器時代に属すると判断できる石器が多くないため断定はできないが、2つの主要石材である赤色珪質岩製とサヌキトイド製のうち、どちらか一方が明確に多くを占めていると

はいえない。これは、谷部を挟んだ独立丘陵上に位置する高見Ⅰ遺跡2次において、後期旧石器時代の石器は一部の遺物集中域を除いて赤色珪質岩を素材とするものが点数比で多く出土し、それ以外の石材が副次的な扱いに留まる(沖野・青野・富山2018)のとは様相を異にする。ただし、高見Ⅱ遺跡と東峰遺跡第4地点2次の間でも、石器に使用される石材に差が認められる[1]ため、高見Ⅰ遺跡2次の成果と同様、同一の段丘上でも石材の分布に差が認められる可能性がある。

後期旧石器時代の礫石器

高見Ⅱ遺跡1a・1b区Ⅲ層からは、自然礫に敲打痕や楔状凹部が認められる礫石器が出土した。いずれも緑色片岩製であり、遺跡内に人為的に搬入された石材である。東峰遺跡第4地点2次1区Ⅲ層と東峰遺跡第4地点2次2区Ⅲ層上面・Ⅲ層では、自然礫は出土しているが、明確に礫石器として認定できる礫は出土していない。なお、高見Ⅰ遺跡2次では、後期旧石器時代に石器製作等に用いたと思われる礫石器が150点以上出土している(沖野・青野・富山2018)。従って、第3節の縄文時代の項で言及する本調査出土の120点の礫石器も、いくつかは後期旧石器時代に帰属する可能性がある。

後期旧石器時代のまとめ

伊予市教委が調査を担当した高見Ⅱ遺跡と東峰遺跡第4地点2次では、後期旧石器時代の遺物や礫群が確認できた。高見Ⅱ遺跡1a・1b区においては、Ⅱ層の最下部で姶良Tn火山灰のブロックが検出されており、その下位から、赤色珪質岩やサヌキトイド、安山岩類を素材とするナイフ形石器や石核、剥片、緑色片岩製の礫石器が出土した。これらは姶良Tn火山灰の降灰以前の石器群である可能性があると判断したが、これはあくまで姶良Tn火山灰との層位的な関係を根拠とするものであり、今後、出土した石器の正確な時期を検討する必要がある。詳細な時期が不明な後期旧石器時代の遺物には、長さ2～6cm程度のナイフ形石器や大型のナイフ形石器、周縁加工尖頭器、角錐状石器、台形(様)石器、剥片が挙げられる。

両遺跡において、後期旧石器時代の剥片石器の主要な石材は、赤色珪質岩とサヌキトイドの2種であるといえる。ナイフ形石器や角錐状石器といったツールの点数比で赤色珪質岩とサヌキトイドを比較した場合、両者はほぼ拮抗していると評価でき、剥片と二次加工剥片については、点数比では赤色珪質岩がサヌキトイドよりも多く、重量比では両者が拮抗する。サヌキトイドは松山平野の周辺に露頭が存在し(沖野新一・沖野実2017)、赤色珪質岩の産地は25km程度離れた肱川中流域の神南山が想定される(沖野新一1998、沖野実2018a)ため、緑色片岩を用いた礫石器の存在とあわせて、遺跡の周囲で得られる石材が広く搬入されたと推測される。

第3節　縄文時代

遺構

両遺跡における縄文時代と考えられる遺構には、集石、土坑、不明遺構が挙げられる。土坑や不明遺構は、層位や出土遺物から判断して早期から前期前半の時期に属すると考えられるが、機能は不明である。高見Ⅱ遺跡1a区Ⅱ層の上部で検出された集石は、唐崎マイロナイトと緑色片岩の円礫・亜円礫から構成されたものであり、遺物を伴わない。

土器

両遺跡で出土した552点の土器のうち、551点が縄文土器であり、このうち特徴的な60点を図化した。縄文時代早期の土器には楕円文や山形文が認められる押型文土器が9点含まれ、このうち8点は黄島式である。早期に比定できる無文土器も34点出土している。詳細は附編2に譲るが、高見Ⅱ遺跡では、口縁部の内側に短沈線が走る無文土器と少量の押型文土器が同一の層位から出土する事例も確認できた。縄文時代前期、後期に属すると思われる土器片も確認できたものの、いずれも量的には少数であり、当地における縄文時代の人間活動は早期が主体であるといえる。

縄文時代の剥片石器

形態から確実に縄文時代の石器であると判断できるツールは、石鏃と石匙である。石鏃は65点(45点図化)出土しており、調査区ごとの内訳は高見Ⅱ遺跡1a・1b区17点(11点図化)、同2区40点(26点図化)、東峰遺跡第4地点2次1区4点(全点図化)、同2区4点(全点図化)である。このうち有茎鏃は1点(47)だけで、残りは全て無茎鏃である。形状は多種多様であるが、丁寧な調整加工が施された精巧なものと、素材剥片の主要剥離面を大きく残す粗雑なものの双方が出土している。形態から年代が断定できる石鏃は無い。

石鏃の素材は、黒曜石製が13点(20.0%)を占める。両遺跡から出土した黒曜石は、いずれも乳白色から灰白色を呈し、大分県姫島産と推定される。これは肉眼観察による判断であるが(pⅵ参照)、近隣の縄文時代の例では、例えば猿川西ノ森遺跡(松山市)出土の乳白色の黒曜石は、蛍光X線分析の結果姫島産であると証明されている(株式会社 古環境研究所2008)。黒曜石は後期旧石器時代の石器には認められない石材であるが、その一方で後期旧石器時代に利用されていた在地の石材も石鏃に用いられており、赤色珪質岩製16点(24.6%)、サヌキトイド製24点(36.9%)、安山岩類製7点(10.8%)、チャート製4点(6.2%)、珪質岩製1点(1.5%)が出土した。石匙はサヌキトイド製であることから、石鏃や石匙などのツールにはサヌキトイドが最も多用され、赤色珪質岩は一定の割合を占めながらも副次的な扱いに留まる様子である。

縄文時代に属すると評価できる高見Ⅱ遺跡1区Ⅱ層と高見Ⅱ遺跡2区Ⅲ層出土の剥片については、点数比・重量比のいずれも赤色珪質岩がサヌキトイドを上回っている(表5～8)。一方で、高見Ⅱ遺跡2区Ⅱ層出土の剥片を比較すると、赤色珪質岩とサヌキトイドは拮抗する(表9・10)。

高見Ⅱ遺跡2区では、Ⅲ層からは出土しない黒曜石がⅡ層で出土する(第3章第4節)ほか、Ⅱ層とⅢ層で土器の内容が異なることが指摘できる(附編2参照)ため、時期差も考慮しなければならない。しかし、縄文時代全体について赤色珪質岩とサヌキトイドの利用がほぼ拮抗するという傾向は、後期旧石器時代の石器と同じである。

縄文時代の礫石器

両遺跡では凹石や敲石などの自然礫を用いた礫石器が多数出土した。これらの礫石器が確実に縄文時代に帰属するのか不明であり、使用痕の成因を明らかにする必要があるなど、ここで言及するには課題も多いが、高見Ⅱ遺跡を中心に両遺跡において礫石器(礫石器、凹石、凹石・敲石、敲石、磨石)は120点(62点図化)出土した。調査区ごとの内訳は高見Ⅱ遺跡1a・1b区40点(19点図化)、同2区71点(38点図化)、東峰遺跡第4地点2次1区2点(1点図化)、同2区7点(4点図化)である。複数の使用痕が複合する事例が多いため、器種名は想定される名称を列挙した。素材となる礫の大きさは、完形または完形に近い24点をみると、長さ10～20㎝、幅3～9㎝、厚さ1.6～4.6㎝、重さ150～700g程度のものが大半である。使用痕には、主に以下のものが認められる[2]。

・円錐状凹部：平面形は円形で、内部が比較的滑らかな凹部。中心が最も深くなる。複数が重複して並列し、細長い溝状になる場合もある。
・楔状凹部：平面形は細長く、凹部内の最も深い部分が谷状にのびる。単独で生じる場合と、集中して凹部を形成する場合がある。
・アバタ状打痕：敲打作業によって生じた点状の敲打痕。集中して凹部を形成する場合がある。
・剥離痕：敲打作業によって生じた破損剥離面。

愛媛県内の類例を挙げると、東峰遺跡第4地点の過年度調査(竹口・多田2002)では緑泥片岩製の敲石や凹石が報告されており、凹部には回転研磨によるものと、敲打によるものが想定されている。上黒岩岩陰遺跡(久万高原町)では、縄文時代草創期後半の無文土器を主体とする6層を中心に、礫石器が多数出土している。多くは緑色岩・緑色片岩の自然礫を利用した凹石や敲石、台石などで、使用痕は複合する場合が多く、調理や加工など関連する作業に伴う使用痕跡と推定される(綿貫2009)。ほかにも、長命寺遺跡(四国中央市)(中野ほかⅢ1991)、須川丸山遺跡(八幡浜市)(宇都宮ほか2003)[3]、穴神洞遺跡(西予市)(長井2004)など縄文時代早期の遺跡で、緑色泥岩、緑泥片岩、砂岩などの自然礫を利用した凹石や敲石が出土している。

本調査出土の礫石器のうち91点(75.8％)は緑色片岩製を素材とする。地質図(図2)をみると、緑色片岩は両遺跡周辺には産出しないため、人為的に選択されて搬入された石材とみてよい。唐崎マイロナイトは両遺跡の近傍に露頭が存在する(沖野・青野・富山2018)が、唐崎マイロナイトを用いた礫石器は14点(11.6％)に留まるため、唐崎マイロナイトよりも緑色片岩の方が素材として好まれた様子である。緑色片岩は軟質であるため、硬い石材の剥片剥離に用いる敲石には不向き(綿貫2012)であり、石器製作に用いられた場合は頻繁に破損すると考えられる(沖野・青野・富

山2018)。3点の磨石は、いずれも高見Ⅱ遺跡2区のⅡb層より出土している。高見Ⅱ遺跡2区Ⅰ層からは磨製石斧が出土しているほか、特殊な遺物として、東峰遺跡第4地点2次1区Ⅰ層出土の緑色片岩製の垂飾品の未製品(205)があり、馬島亀ヶ浦遺跡(今治市)Ⅴ区の包含層から砂岩製の類例が出土している(谷若・楠・眞鍋1999)[3]。

縄文時代のまとめ

伊予市教委が調査を担当した高見Ⅱ遺跡と東峰遺跡第4地点2次では、縄文時代の良好な遺物が出土した。土器には縄文時代早期の押型文土器や無文土器が含まれる。石器は、石鏃や石匙、磨製石斧、凹石、敲石、磨石などが出土した。100㎞程度離れた姫島産と推定される黒曜石の存在から、縄文時代には後期旧石器時代と比べて、より遠方の石材が利用されるようになったことが読み取れる。しかしながら、後期旧石器時代と同じく、赤色珪質岩とサヌキトイドが剥片石器の主要な石材として選択されている。主に緑色片岩を素材とする凹石や敲石などの礫石器は多数出土しているものの、用途や年代は現時点では断定できないため、その評価は今後の課題としたい。

註

(1) 今回の調査成果に、東峰遺跡第4地点の過年度調査(竹口・多田2002)で出土したナイフ形石器8点を加えると、東峰遺跡第4地点出土のナイフ形石器の石材の内訳は、赤色珪質岩製9点(60.0%)とサヌキトイド製5点(33.3%)、チャート製1点(6.7%)となる。一方で高見Ⅱ遺跡出土のナイフ形石器は、サヌキトイド製が多数(8点、72.7%)を占め、赤色珪質岩製は少数(3点、27.3%)に留まる。

(2) 礫石器の使用痕は、名称は綿貫(2009)を参考にしたほか、定義や判断基準について綿貫俊一氏より助言を得た。

(3) 兵頭勲氏からのご教示による。

表3　高見Ⅱ遺跡１区Ⅳ層、Ⅲ層、Ⅲ層上面器種別・石材別点数(後期旧石器時代)

	赤色珪質岩	サヌキトイド	安山岩類	チャート	その他	計
ナイフ形石器	1	4				5
角錐状石器		1				1
石　核	4	1	1			6
剥　片	28	9	3	2	2	**44**
計	33	15	4	2	2	56

表4　高見Ⅱ遺跡１区Ⅳ層、Ⅲ層、Ⅲ層上面器種別・石材別重量(後期旧石器時代)

単位：g

	赤色珪質岩	サヌキトイド	安山岩類	チャート	その他	計
ナイフ形石器	0.5	113.2				113.7
角錐状石器		3.8				3.8
石　核	75.3	10.4	339.8			425.5
剥　片	81.7	81.5	4.4	2.8	1.1	**171.5**
計	157.5	208.9	344.2	2.8	1.1	714.5

表5　高見Ⅱ遺跡1区Ⅱ層器種別・石材別点数(縄文時代)

	赤色珪質岩	サヌキトイド	安山岩類	チャート	黒曜石	その他	計
石　鏃	3	1			3		7
石　匙		1					1
スクレイパー						1	1
楔形石器						1	1
石　核	1		1				2
剥　片	31	13	17	2	2	5	**70**
計	35	15	18	2	5	7	82

表6　高見Ⅱ遺跡1区Ⅱ層器種別・石材別重量(縄文時代)

単位：g

	赤色珪質岩	サヌキトイド	安山岩類	チャート	黒曜石	その他	計
石　鏃	3.5	0.3			1.5		5.3
石　匙		3.7					3.7
スクレイパー						68.1	68.1
楔形石器						7.3	7.3
石　核	29.5		155.3				184.8
剥　片	72.2	24.6	149.6	2.6	0.7	5.0	**254.7**
計	105.2	28.6	304.9	2.6	2.2	80.4	523.9

表7　高見Ⅱ遺跡2区Ⅲ層器種別・石材別点数(縄文時代下層)

	赤色珪質岩	サヌキトイド	安山岩類	チャート	黒曜石	その他	計
石　鏃							0
スクレイパー							0
楔形石器	3						3
石　核	2	2	2				6
剥　片	13	8	5	1		2	29
計	18	10	7	1	0	2	38

表8　高見Ⅱ遺跡2区Ⅲ層器種別・石材別重量(縄文時代下層)

単位：g

	赤色珪質岩	サヌキトイド	安山岩類	チャート	黒曜石	その他	計
石　鏃							0.0
スクレイパー							0.0
楔形石器	20.0						20.0
石　核	30.3	46.3	220.0				296.6
剥　片	70.2	32.4	177.8	1.4		9.2	291.0
計	120.5	78.7	397.8	1.4	0.0	9.2	607.6

表9　高見Ⅱ遺跡2区Ⅱ層器種別・石材別点数(縄文時代上層)

	赤色珪質岩	サヌキトイド	安山岩類	チャート	黒曜石	その他	計
石　鏃	4	12	3	2	4		25
スクレイパー	1	1	1	1			4
楔形石器	2	2				1	5
石　核	3	1	3		1		8
剥　片	96	100	58	10	16	18	298
計	106	116	65	13	21	19	340

表10　高見Ⅱ遺跡2区Ⅱ層器種別・石材別重量(縄文時代上層)

単位：g

	赤色珪質岩	サヌキトイド	安山岩類	チャート	黒曜石	その他	計
石　鏃	4.1	7.5	3.7	2.0	1.3		18.6
スクレイパー	4.9	62.2	79.8	9.7			156.6
楔形石器	22.0	11.3				3.1	36.4
石　核	41.4	142.7	1219.8		13.8		1417.7
剥　片	216.0	272.4	774.2	16.2	34.0	183.8	1496.6
計	288.4	496.1	2077.5	27.9	49.1	186.9	3125.9

各表：礫石器除く
ナイフ形石器・角錐状石器は、Ⅰ層・Ⅱ層出土分を含む。

引用・参考文献

安斎正人・佐藤宏之編2006『旧石器時代の地域編年的研究』同成社

池尻伸吾・石貫睦子・多田仁・土井光一郎・中野邦子2018『旗屋遺跡Ⅱ　上三谷篠田・鶴吉遺跡－JR予讃線他埋蔵文化財発掘調査報告書－』公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センター

稲田孝司編2009『恩原Ⅰ遺跡』恩原遺跡発掘調査団

稲田孝司・佐藤宏之編2010『講座日本の考古学1　旧石器時代(上)』青木書店

伊予市教育委員会2013『伊予市内遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ－平成23年度伊予市内遺跡発掘調査等事業報告書－』

伊予市教育委員会2014『伊予市内遺跡詳細分布調査報告書Ⅱ－平成24年度伊予市内遺跡発掘調査等事業報告書－』

伊予市教育委員会2015『伊予市内遺跡詳細分布調査報告書Ⅲ－平成25・26年度伊予市内遺跡発掘調査等事業報告書－』

氏家敏之2018「中四国地方におけるAT前後のナイフ形石器群」『第35回　中・四国旧石器文化談話会　高見Ⅰ遺跡とその周辺の石器群　発表要旨・資料集』中・四国旧石器文化談話会

内子町教育委員会1993『内子町埋蔵文化財確認調査報告書(1)』

内子町教育委員会1995『内子町小田川流域の遺跡　第1集』

内子町教育委員会1996『内子町中山川流域の遺跡　第2集』

内子町教育委員会1997『内子町麓川流域の遺跡　第3集』

内子町誌編纂会1995『新編　内子町誌』

宇都宮栞乃・多田仁・土居聡明・兵頭勲・日和佐宣正・米田美有紀・脇野和仁2003『保内町の遺跡2　遺跡詳細分布調査報告書　須川丸山遺跡の調査　山城調査　石造物調査』愛媛県西宇和郡保内町教育委員会

愛媛県史編さん委員会編1979『愛媛県史　原始・古代Ⅰ』

愛媛県史編さん委員会編1986『愛媛県史　資料編　考古』

愛媛県歴史文化博物館2001『平成13年度企画展　西四国の縄文文化』

愛媛県歴史文化博物館2005『平成17年度企画展　上黒岩岩陰遺跡とその時代－縄文文化の源流をたどる－』

愛媛県歴史文化博物館2014『平成26年度特別展　続・上黒岩岩陰遺跡とその時代－縄文時代早期の世界－』

小川和博2003「棒状敲打石考」『領域の研究　阿久津久先生還暦記念論集』阿久津久先生還暦記念事業実行委員会

沖野新一1997「中山町下長沢採集の石器」『愛媛考古学』14、愛媛県考古学協会

沖野新一1998『赤石をもつ狩人－二万年前の肱川流域へようこそ－』唐崎旧石器研究会

沖野新一編著2012『赤い旧石器を求めて－肱川流域の謎に家族で迫る－』唐崎旧石器研究会

沖野新一2018「伊予市高見Ⅱ遺跡、東峰遺跡第4地点(2次)の発掘調査」『伊豫市の歴史文化』72、伊豫市歴史文化の会

沖野新一・沖野実2017「松山平野周辺の讃岐岩質安山岩(サヌキトイド)－考古学的踏査による主要産地の概要－」『紀要愛媛』13、公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センター

沖野新一・重松佳久・多田仁1994「愛媛県東峰遺跡の採集遺物」『旧石器考古学』48、旧石器文化談話会

沖野実2013「赤色珪質岩」『石器石材と旧石器社会』中・四国旧石器文化談話会30周年記念シンポジウム

沖野実2014「四国地方における旧石器時代遺跡の展開とその特徴」『九州旧石器』18、九州旧石器文化研究会

沖野実2015「高見Ⅰ遺跡採集の石器」伊予市教育委員会『伊予市内遺跡詳細分布調査報告書Ⅲ』

沖野実2016「肱川流域試論－後期旧石器時代石器群を対象として－」『紀要愛媛』12、公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センター

沖野実2018a「高見Ⅰ遺跡2次調査の成果」『第35回　中・四国旧石器文化談話会　高見Ⅰ遺跡とその周辺の石器群　発表要旨・資料集』中・四国旧石器文化談話会
沖野実2018b「高見Ⅰ遺跡の編年的位置付けについて」『第35回　中・四国旧石器文化談話会　高見Ⅰ遺跡とその周辺の石器群　発表要旨・資料集』中・四国旧石器文化談話会
沖野実・青野美和・富山亜紀子2018『高見Ⅰ遺跡2次』公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センター
織笠昭2005『石器文化の研究』新泉社
加藤晋平・鶴丸俊明1991『図録　石器入門事典　<先土器>』柏書房
株式会社 古環境研究所2008「第5章第2節　猿川西ノ森遺跡出土の黒曜石産地推定」兵頭勲編2008『猿川西ノ森遺跡』財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
旧石器文化談話会2007『旧石器考古学辞典　三訂版』学生社
作田一耕・多田仁・成田敦1999『新池遺跡　市場南組窯跡－四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅣ－伊予市編Ⅲ』財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
佐原真2005「石斧論－横斧から縦斧へ－」金関恕・春成秀爾編『佐原真の仕事2　道具の考古学』岩波書店
塩見靖彦・丹下厚法・多田仁1994『四国縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅷ－丹原町編－安養寺遺跡　宝ケ口Ⅰ遺跡　文台城跡　高月遺跡』財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
鈴木道之助1994『図録　石器入門事典　<縄文>』柏書房
石器技術研究会編2004『石器づくりの実験考古学』学生社
竹岡俊樹2003『石器の見方』勉誠出版
多田仁1997「中・四国地方における角錐状石器の様相」『九州旧石器』3、九州旧石器文化研究会
多田仁2001『犬除遺跡2次調査』財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
竹口加枝美・多田仁2002『東峰遺跡第2・4地点　高見Ⅰ遺跡－四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅦ　双海町編－』財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
多田仁2012「愛媛県における旧石器文化の様相」『第29回　中・四国旧石器文化談話会　愛媛県における旧石器文化の様相　発表要旨・資料集』中・四国旧石器文化談話会
多田仁・梅木学人・兵頭勲・藤本清志2008『猿川西ノ森遺跡　主要地方道北条玉川線整備に伴う埋蔵文化財調査報告書』財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
多田仁・廣田秀久・是澤徳明・西岡美穂1995『四国縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅹ　小松町編Ⅲ　明穂東岡遺跡　明穂Ⅰ東岡東遺跡　明穂東岡Ⅱ遺跡　明穂中ノ岡Ⅲ遺跡』財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
谷若倫郎・須藤敦子・西川真美1987『上三谷古墳群　県営圃場整備事業(伊予東地区上三谷工区)埋蔵文化財調査報告書』財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
谷若倫郎・楠真依子・眞鍋昭文1999『馬島亀ヶ浦遺跡　馬島ハゼヶ浦遺跡　来島海峡大橋建設に伴う埋蔵文化財調査報告書　第4集』財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
得居浩司・名本二六雄2012「愛媛県伊予市上三谷採集の有舌尖頭器」『遺跡』46、遺跡発行会
長井數秋1981『猪の窪古墳』伊豫市教育委員会
長井數秋2004『穴神洞・中津川洞発掘記録抄』城川町教育委員会
長井數秋2005『行道山遺跡』伊予市教育委員会
長井數秋1993「原始時代の伊豫市(一)」『伊豫市の歴史文化』28、伊豫市歴史文化の会
長井數秋・西岡信次1996『横田遺跡　第2次調査報告書』松前町教育委員会
中野良一・西川真美・作田一耕1991『四国縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ』財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター

中野良一・菊池公作2011『池田遺跡』財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
中野良一・三好博親・阪井淳2002『中城跡　底なし田Ⅱ遺跡　元城跡－四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅨ－大洲市編』財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
中野良一・山下太志・岩元愛・三好啓之2001『水戸森遺跡　七反山遺跡　今岡城跡－四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅦ－内子町編』財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
中山町2005『追刊　中山町誌』
中山町誌編纂委員会編1996『中山町誌』
日本地質学会編2016『日本地方地質誌　四国地方』朝倉書店
春成秀爾・小林謙一編2009『国立歴史民俗博物館研究報告第154集[共同研究]愛媛県上黒岩遺跡の研究』財団法人国立歴史民俗博物館振興会
兵頭勲2013「土壇原式土器再考－土壇原Ⅱ遺跡第1号住居址出土遺物の実態－」『研究紀要』18、愛媛県歴史文化博物館
兵頭勲2014「砥部川下流域の縄文時代早期の土器－長田遺跡と城ノ向遺跡出土資料の再検討－」『研究紀要』19、愛媛県歴史文化博物館
藤野次史2016「中・四国地方における角錐状石器群から見た石材需給」『広島大学大学院文学研究科考古学研究室50周年記念論文集・文集』広島大学大学院文学研究科考古学研究室50周年記念論文集・文集刊行会
双海町1971『双海町誌』
双海町誌編さん委員会編2005『双海町誌　改訂版』
保坂康夫2012『日本旧石器時代の礫群をめぐる総合研究』礫群研究出版会
三吉秀充2016「市場南組窯跡産須恵器の型式分類と編年」『古文化談叢』77、九州古文化研究会
桃井斉・鹿島愛彦・高橋治郎編纂1991『愛媛県の地質　第4版　20万分の1　地質図解説書』株式会社トモエヤ商事
森先一貴2010『旧石器社会の構造的変化と地域適応』六一書房
森光晴1993『下三谷片山・太郎丸埋蔵文化財調査報告書－県営圃場整備事業伊予東地区富田池工区－』伊予市教育委員会
吉村淨治・高木秀雄1999「四国西部、唐崎マイロナイト構造解析と地体構造上の位置づけ」『地質学雑誌』105、日本地質学会
綿貫俊一2009「第4部第4章　上黒岩遺跡出土石器」春成秀爾・小林謙一編『国立歴史民俗博物館研究報告第154集[共同研究]愛媛県上黒岩遺跡の研究』財団法人国立歴史民俗博物館振興会
綿貫俊一2012「上黒岩岩陰の石器組成の分析」小林謙一・工藤雄一郎編『国立歴史民俗博物館研究報告第172集[共同研究]東アジア先史時代の定住化過程の研究』財団法人国立歴史民俗博物館振興会

附編

1　伊予市(仮称)中山スマートインターチェンジの建設事業に伴う火山灰分析(高見Ⅱ遺跡)

株式会社 古環境研究所

1　はじめに

四国地方に分布する後期更新世以降に形成された地層や土壌の中には、九州地方などの火山に由来するテフラ(tephra，いわゆる火山灰)が分布している。その多くについては、これまで岩石記載的な研究や年代学的研究が行われており、過去の良好な時空指標として考古学研究を含む各種の編年研究などに利用できるようになっている(町田・新井，2011など)。

愛媛県伊予市の(仮称)中山スマートインターチェンジの建設事業に伴う発掘調査でも、層位や年代が不明な土層が認められたことから、現地において地質調査を実施するとともに、採取した試料を対象とした室内分析(テフラ組成分析・火山ガラスおよび鉱物の屈折率測定)により指標テフラの検出同定を行い、土層の層位や年代に関する資料を収集することになった。

2　土層の層序

複数地点の土層観察の結果、高見Ⅱ遺跡1a区東壁においてテフラ層の可能性の高い堆積物が発見され、発掘調査担当者と協議して調査分析の対象とすることになった。ここでは、下位より褐色粘質土(層厚20㎝以上)、やや黄色がかった灰色土(層厚10㎝)、成層したテフラ層のブロック(最大層厚3㎝)、赤褐色粘質土(層厚19㎝)、橙褐色土(層厚6㎝)、灰褐色表土(層厚16㎝)が認められた(図1)。

3　テフラ組成分析

(1)分析試料と分析方法

高見Ⅱ遺跡1a区東壁の表土の下位の土層から、基本的に厚さ5㎝ごとに採取された12試料(上位より試料1～12)のうち、試料8、試料6、試料4、試料1の4試料を対象に、最初にテフラ検出分析を行って、試料に含まれるテフラの量や特徴についての定性的記載を行った。

その後、とくにテフラ粒子を多く含む試料6と試料1について、火山ガラスの形態色調別含有率および軽鉱物や重鉱物の含有率を求める火山ガラス比分析と、重鉱物組成を定量的に求める重鉱物組成分析を合わせたテフラ組成分析を行った。分析の手順は次のとおりである。

1)試料10gを秤量。

2)超音波洗浄により泥分を除去。

3)恒温乾燥器を用いて80℃で乾燥。

4)実体顕微鏡下でテフラ粒子の量や色調などを観察(テフラ検出分析)。

5)試料6および試料1について、分析用ふるいを用いて2～3φ(1/4～1/8㎜)および3～4φ(1/8～1/16㎜)の粒子を篩別。

6)偏光顕微鏡下で2～3φ(1/4～1/8㎜)の250粒子を観察し、火山ガラスの色調形態別含有率、軽鉱物と重鉱物の含有率をそれぞれ求める(火山ガラス比分析)。

7)偏光顕微鏡下で2～3φ(1/4～1/8㎜)の重鉱物250粒子を観察し、重鉱物組成を明らかにする(重鉱物組成分析)。

(2)分析結果

1)テフラ検出分析

テフラ検出分析の結果を表1に示す。

表1　高見Ⅱ遺跡におけるテフラ検出分析結果

地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス			重鉱物
		量	色調	最大径	量	形態	色調	(不透明鉱物以外)
1a区東壁	1	-	-	-	***	bw＞pm(fb)	無色透明，淡褐，褐	opx，(cpx)
	4	-	-	-	**	bw	無色透明，(淡褐)	opx
	6	-	-	-	****	bw＞pm(fb，sp)	無色透明，(淡褐，白)	opx
	8	-	-	-	*	bw	無色透明	(opx，am)

****：とくに多い，***：多い，**：中程度，*：少ない，-：無，(*)：非常に少ない，bw：バブル型，md：中間型，pm：軽石型，sc：スコリア型，
sp：スポンジ状，fb：繊維束状，ol：カンラン石，opx：斜方輝石，cpx：単斜輝石，am：角閃石，bi：黒雲母，()：量が少ないことを示す。

いずれの試料からも、比較的粗粒の軽石やスコリアは検出されなかったものの、火山ガラスやテフラに由来する可能性が高い鉱物を検出できた。

そのうち、試料8には、無色透明のバブル型ガラスが少量含まれている。また、この試料には、不透明鉱物以外の重鉱物として、斜方輝石や角閃石が少量含まれている。試料6には、バブル型および繊維束状あるいはスポンジ状の軽石型ガラスがとくに多く含まれている。火山ガラスの色調は無色透明で、わずかに淡褐色や白色のものも認められる。この試料に含まれる不透明鉱物以外の重鉱物には、斜方輝石が認められる。その上位の試料4にも、無色透明のバブル型ガラスが比較的多く、また淡褐色のバブル型ガラスも少量含まれている。この試料に含まれる不透明鉱物以外の重鉱物には、斜方輝石が認められる。

最上位の試料1には、無色透明、淡褐色、褐色のバブル型ガラスや、繊維束状軽石型ガラスが多く含まれている。重鉱物としては、不透明鉱物以外の重鉱物に、斜方輝石のほかに少量の単斜輝石が含まれている。

2)テフラ組成分析

試料6と試料1を対象としたテフラ組成分析の結果を図2に、火山ガラス比分析と重鉱物組成分析の結果の内訳を表2と表3に示す。

表2　高見Ⅱ遺跡における火山ガラス比分析結果

地点	試料	bw(cl)	bw(pb)	bw(br)	md	pm(sp)	pm(fb)	軽鉱物	重鉱物	その他	合　計
1a区東壁	1	60	13	2	18	0	25	46	14	72	250
	6	67	0	0	17	1	53	91	6	15	250

bw：バブル型，md：中間型，pm：軽石型，cl：無色透明，pb：淡褐色，br：褐色，sp：スポンジ状，fb：繊維束状，数字は粒子数。

表3　高見Ⅱ遺跡における重鉱物組成分析結果

地点	試料	ol	opx	cpx	am	bi	opq	その他	合　計
1a区東壁	1	0	68	30	11	0	134	7	250
	6	0	136	4	5	0	101	4	250

ol：カンラン石，opx：斜方輝石，cpx：単斜輝石，am：角閃石，bi：黒雲母，
opq：不透明鉱物(黒色で光沢をもつもの)，数字は粒子数。

試料6には、火山ガラス、軽鉱物、重鉱物が、順に55.2%、36.4%、2.4%含まれている。この試料に含まれる火山ガラスは、含有率の高い順に、無色透明のバブル型ガラス(26.8%)、繊維束状軽石型ガラス(21.2%)、分厚い中間型ガラス(6.8%)、スポンジ状軽石型ガラス(0.4%)である。また、不透明鉱物を除く重鉱物としては、含有率が高い順に、斜方輝石(54.4%)、角閃石(2.0%)、単斜輝石(1.6%)が認められる。

試料1には、火山ガラス、軽鉱物、重鉱物が、順に47.2%、18.4%、5.6%含まれている。この試料に含まれる火山ガラスは、含有率の高い順に、無色透明のバブル型ガラス(24.0%)、繊維束状軽石型ガラス(10.0%)、中間型ガラス(7.2%)、淡褐色のバブル型ガラス(5.2%)、褐色のバブル型ガラス(0.8%)である。また、不透明鉱物を除く重鉱物としては、含有率が高い順に、斜方輝石(27.2%)、単斜輝石(12.0%)、角閃石(4.4%)が含まれている。

4　屈折率測定(火山ガラス・鉱物)

(1)測定試料と測定方法

分析対象のうち、テフラ組成分析の対象となった試料6と試料1に含まれる火山ガラスと鉱物を対象に、温度変化型屈折率測定法(壇原，1993)により屈折率測定を実施して、指標テフラとの同定精度の向上を図った。測定対象の火山ガラスは、3～4φ(1/8～1/16㎜)粒子中の火山ガラスである。また、鉱物は、＞2φ(1/4㎜)の斜方輝石を実体顕微鏡下でピッキングした後に軽く粉砕したものを測定対象とした。なお、後者に関しては、斜方輝石の量が足りない可能性があったことから、さらに試料12gについて洗浄処理以降の同様の作業を実施して比較的粗粒の斜方輝石を採取した。

(2)測定結果

屈折率測定結果を表4に示す。この表には、後期更新世以降に四国地方に降灰した代表的なテフラに含まれる火山ガラスと斜方輝石の屈折率特性も合わせて掲載した。

表4　屈折率測定結果

地点・試料・テフラ	火山ガラス		斜方輝石		文献
	屈折率(n)	測定点数	屈折率(γ)	測定点数	
高見Ⅱ遺跡・1a区東壁・試料1	1.497-1.512 (1.497-1.499) (1.509-1.512)	37 (21) (16)	1.708-1.730 (1.708-1.713) (1.724-1.730)	30 (13) (17)	本報告
高見Ⅱ遺跡・1a区東壁・試料6	1.497-1.499	32	1.708-1.732 (1.708) (1.717) (1.724-1.732)	30 (1) (1) (28)	本報告
代表的指標テフラ(後期更新世以降)					
鬼界アカホヤ(K-Ah，約7,300年前)	1.504-1.512		1.708-1.713		町田・新井(2011)
姶良Tn(AT，約2.8～3万年前)	1.498-1.501		1.728-1.734		町田・新井(2011)
姶良大塚(A-Ot，約3.25万年前)	1.499-1.501		1.719-1.729		町田・新井(2011)
九重第1(Kj-P1，約5万年前)	1.503-1.506		1.706-1.708		町田・新井(2011)
阿蘇4(Aso-4，約8.5～9万年前)	1.506-1.510		1.669-1.701		町田・新井(2011)
鬼界葛原(K-Tz，約9.5万年前)	1.496-1.499		1.705-1.709		町田・新井(2011)
阿多(Ata，約10.5万年前)	1.508-1.510		1.704-1.708		町田・新井(2011)
阿蘇3(Aso-3，約13～13.3万年前)	1.514-1.519		1.702-1.705		町田・新井(2011)

本報告における屈折率の測定：温度変化型屈折率測定法(壇原，1993)．( )：modal range.

試料6に含まれる火山ガラス(32粒子)の屈折率(n)は、1.497-1.499である。また、斜方輝石(30粒子)の屈折率(γ)は、1.708-1.732である。この値は、実際にはtrimodal組成で、1.708(1粒子)、1.717(1粒子)、1.724-1.732(28粒子)からなる。

一方、試料1に含まれる火山ガラス(37粒子)の屈折率(n)は、1.497-1.512である。この値はbimodal組成で、1.497-1.499(21粒子)と、1.509-1.512(16粒子)からなる。また、斜方輝石(30粒子)の屈折率(γ)は、1.708-1.730である。この値もbimodal組成で、1.708-1.713(13粒子)と、1.724-1.730(17粒子)からなる。

5 考察

(1)指標テフラとの同定

試料6が採取されたブロック状のテフラ層には、無色透明のバブル型ガラスが多く含まれており、重鉱物では斜方輝石の含有率が高く、少量の角閃石も認められる。また、火山ガラスの屈折率(n)は1.497-1.499で、屈折率(γ)が1.724-1.732の斜方輝石がとくに多く含まれている。これらのことから、試料6が採取されたテフラ層は、約2.8～3万年前に南九州の姶良カルデラから噴出した姶良Tn火山灰(町田・新井，1976，1992，2003，2011)の一部と考えられる。

試料中に含まれている屈折率(γ)が1.717および1.724-1.732の斜方輝石は、その屈折率特性から、南九州地方においてATの下位にある姶良大塚テフラ(A-Ot，約3.25万年前，Nagaoka，1988，町田・新井，2011など)や、姶良深港軽石(A-Fm，約3.1万年前，Nagaoka，1988，町田・新井，2011など)に由来する可能性がある。また、屈折率(γ)が1.708の斜方輝石に関しては、すでに四国地方においても降灰が知られている九重第1軽石(Kj-P1，約5万年前，町田，1980，小林，1984，町田・新井，2011など)あるいは広域テフラである鬼界葛原テフラ(K-Tz，約9.5万年前，町田・新井，1983，Nagaoka，1988，町田・新井，2011など)や阿多テフラ(Ata，約10.5万年前，Ui，1971，町田・新井，2011など)に由来するのかも知れない。

一方、試料1に含まれているテフラ粒子のうち、おそらく屈折率(n)が1.497-1.499のものに相当する無色透明のバブル型ガラスの多くや、屈折率(γ)が1.724-1.730の斜方輝石は、下位にあるATに由来すると考えられる。ただし、この試料には、ほかに、色調から屈折率特性(n)が1.509-1.512のものに相当すると考えられる淡褐色や褐色のバブル型ガラスや繊維束状軽石型の火山ガラスが多く含まれている。屈折率(γ)が1.708-1.713の斜方輝石も合わせ、これらのテフラ粒子は、その特徴から、約7,300年前に南九州の鬼界カルデラから噴出した鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah，町田・新井，1978，1992，2003，2011)に由来すると考えられる。このタイプのテフラ粒子は、試料1で多産することから、試料1付近にK-Ahの降灰層準があると推定される。

6 まとめ

伊予市高見Ⅱ遺跡において地質調査とテフラ分析(テフラ検出分析を含むテフラ組成分析・火山ガラスと鉱物の屈折率測定)を実施した結果、姶良Tn火山灰層(AT，約2.8～3万年前)のブロックと、鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah，約7,300年前)の降灰層準を検出できた。これらはいずれも広

域テフラで、それぞれ後期旧石器時代と縄文時代の時空指標として非常に重要なものである。また、これらは降灰当時の日本列島の自然環境に大きな影響を与え、当時の人々に災害をもたらした可能性が高いと考えられている。

今回の分析では、さらに、ほかのテフラに由来する可能性のあるテフラ粒子も検出されたことから、本遺跡ではこれら多くのテフラを利用した火山灰編年学的研究はもちろんのこと、後期旧石器時代や縄文時代の自然災害史に関する研究も実施できる可能性が高いことが明らかになった。

文献

壇原　徹(1993)温度変化型屈折率測定法．日本第四紀学会編「第四紀試料分析法2－研究対象別分析法」，p.149-158.

小林哲夫(1984)由布・鶴見火山の地質と最新の噴火活動．地質学論集，24，p.93-108.

町田　洋(1980)岩戸遺跡のテフラ(火山灰)．坂田邦洋編「大分県清川村岩戸における後期旧石器文化の研究」．広雅堂書店，p.4423-454.

町田　洋・新井房夫(1976)広域に分布する火山灰－姶良Tn火山灰の発見とその意義．科学，46，p.339-347.

町田　洋・新井房夫(1978)南九州鬼界カルデラから噴出した広域テフラ－アカホヤ火山灰．第四紀研究，17，p.143-163.

町田　洋・新井房夫(1983)鬼界カルデラ起源の新広域テフラと九州における更新世後期大火砕流の噴出年代．火山，28，p.206.

町田　洋・新井房夫(1992)「火山灰アトラス」．東京大学出版会，276p.

町田　洋・新井房夫(2003)「新編火山灰アトラス」．東京大学出版会，336p.

町田　洋・新井房夫(2011)「新編火山灰アトラス(第2刷)」．東京大学出版会，336p.

Nagaoka，S.（1988）The late Quaternary tephra layers from the caldera volcanoes in and around Kagoshima Bay, southern Kyushu, Japan. Geogr. Rept. Tokyo Metropol. Univ., 23, p.49-122.

Ui，T.（1971）Genesis of magma and structure of magma chamber of several pyroclastic flows in Japan. J. Fac. Sci. Univ. Tokyo, ser.Ⅱ，18，p.53-127.

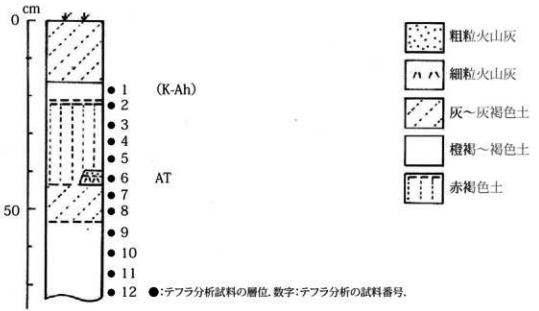


図1　高見Ⅱ遺跡1a区 東壁の土層柱状図

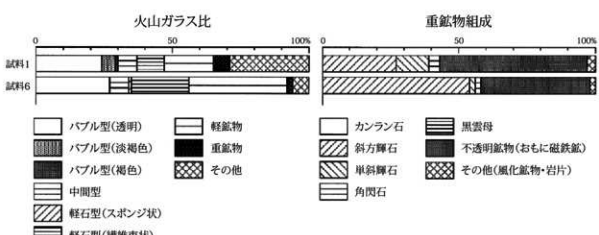


図2　高見Ⅱ遺跡1a区 東壁のテフラ組成ダイヤグラム

写真1　1a区東壁・試料1の顕微鏡写真(透過光)
中央：褐色バブル型ガラス.
中央左下など：淡褐色バブル型ガラス.
中央上など：無色透明バブル型ガラス.

写真2　1a区東壁・試料6の顕微鏡写真(透過光)
中央：無色透明バブル型ガラス.
中央右下など：繊維束状軽石型ガラス.

2　縄文時代早期土器から見た高見Ⅱ遺跡の意義

兵頭　勲(愛媛県歴史文化博物館)

はじめに

今回の高見Ⅱ遺跡・東峰遺跡第4地点2次の発掘調査では、後期旧石器時代・縄文時代の遺構や遺物が数多く検出された。縄文土器に関しては551点[1]が出土しており、本書では、このうち60点を抽出して報告を行っている。その時期的内訳は、早期49点[2]、前期8点、後期3点であり、これらが示すとおり、縄文時代に限って言えば、早期を主体とする遺跡であることがうかがえる。そこで本稿では、両遺跡のうち数量的にまとまって出土した高見Ⅱ遺跡の縄文土器を取り上げ、さらにその中でも主体を成している、縄文時代早期の土器(以下、「早期土器」という)の特徴や編年的位置づけ等を検討することで、本遺跡の意義について考えてみたい。

1　伊予市内遺跡出土の早期土器について

現在、愛媛県における縄文時代早期の遺跡は約60遺跡を数え、それらは広範囲にわたって分布している(兵頭2013a・2014b)。これまで伊予市に関しては、厚手無文土器が採集されたとの報告がある森本村遺跡(伊予市誌編さん委員会編2005)や、東峰遺跡第4地点(多田編2002)で縄文時代早期の無文土器(以下、「早期無文土器」という)が数点報告されている程度であり、周辺地域と比較しても決して多いとは言えない状況であった。しかし近年においては、今回の発掘調査成果をはじめ、市内遺跡詳細分布調査でも早期土器の発見が相次いでおり、今後の調査に期待が持てる成果が上がっている。そこでまず本題に入る前に、現在確認されている伊予市内遺跡出土の早期土器について概観したい。

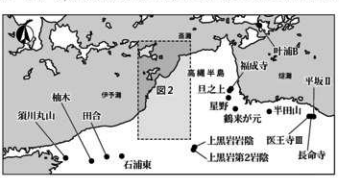


図1　北西四国地方の主要な縄文時代早期の遺跡

(1)上吾川八幡池遺跡(沖野・西岡編2014)

本遺跡は、伊予市上吾川甲494外に位置し、その西側は県指定史跡・伊予岡古墳群と接している。平成24年度の踏査では弥生土器、須恵器、鉄斧、瓦、陶磁器等、多岐にわたる遺物が採集されており、さらに平成29(2017)年11月10日の現地踏査の際には、押型文土器1点(図3－1)が発見されている[3]。

1はその口縁部片であり、形状はやや外傾するもので、口唇形態は丸味を帯びている。全体的に摩耗しているが、外面には口縁端部に約0.7㎝の無文帯を設け、その下位に横位の楕円文が施文されている。内面にも同じ原体となる楕円文を横位施文した後、長さ約1.4㎝、幅0.2㎝の柵状文が施されている。器厚は0.6㎝と薄手の土器であり、焼成は良好で、胎土には石英・長石を含んでいる。以上の特徴から、本資料は黄島式と考えられる。

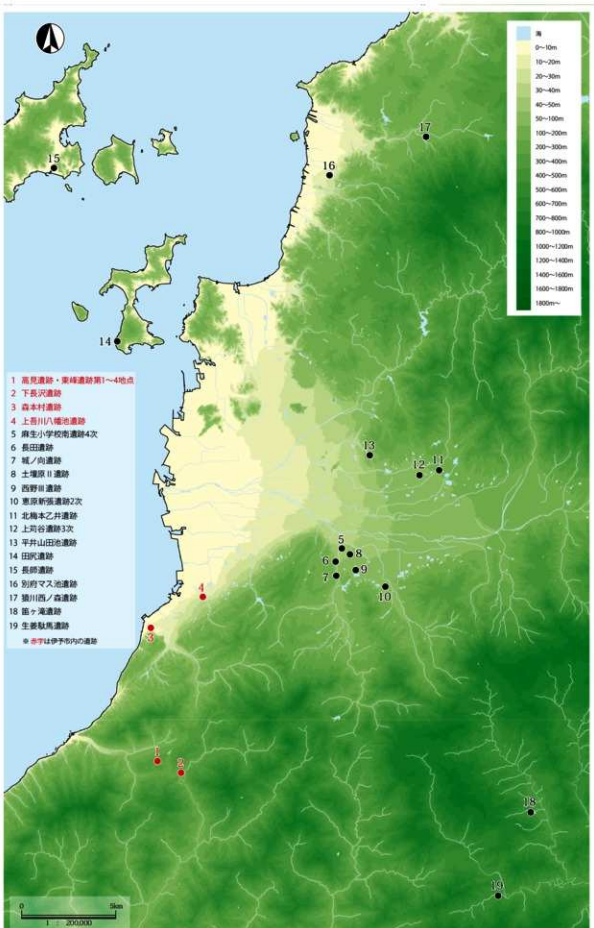


図2　松山平野及び周辺域における縄文時代早期の遺跡分布図

(2)東峰遺跡第2・4地点、高見Ⅰ遺跡(多田編2002)

両遺跡は、平成7(1995)年に、現・(公財)愛媛県埋蔵文化財センターが、四国縦貫自動車道建設に伴い発掘調査を行った遺跡である。縄文時代に関しては、今回の伊予市教育委員会の発掘成果と同様に、早期・前期・後期の縄文土器が出土しており、本地域一帯の丘陵や河岸段丘上には、当該期の遺跡が広範囲にわたって形成されていたことが想定される。

その既報告となる図3－2・3は、東峰遺跡第4地点から出土したものである。2は大きく外反する口縁部であり、その内面には口唇部からやや下がった位置に1条の短沈線[4]を垂下させており、同タイプと思われるものが今回の高見Ⅱ遺跡でも出土している(図4－148)。3は胴部片であり、その内面中央部の2箇所に意図的と思われる指頭圧痕が残されている。

また、今回は時間的な制約もあってすべてとはいかなかったが、ピックダウンされた早期土器のうち、口縁部及びその付近の部位を抽出し(図3－4・5)、その重要性と今後の有用性を考慮して資料化を行った。この2点はいずれも高見Ⅰ遺跡で出土したものであり、4は外傾する口縁部片で、その口唇形態はやや丸みを帯びている。その内面には右下がりの短沈線2条が確認できる。内外面は指頭圧痕をわずかに残すナデ調整が行われており、胎土には石英・長石・金雲母・角閃石が含まれている。5は先端部が欠損しているが口縁部付近の部位となる。この厚手の口縁

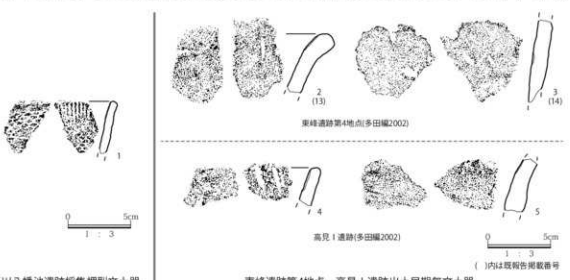


図3　伊予市内遺跡の縄文時代早期土器

表1　伊予市内遺跡出土土器観察表

図番号	遺跡名	掲載番号	遺物種	既報告掲載番号 (報告者・刊行年)	部位	焼成	成形・調整・文様	色調	内容物	備考
3	上吾川八幡池	1	押型文土器		口縁部	良	外：楕円文 内：楕円文・横状文	外：灰黄褐 内：にぶい黄褐	石英・長石	鵜島式
	東峰第4地点	2	無文土器	第40図－13 (多田編2002)	口縁部	良	外：ナデ・指頭圧痕 内：ナデ・指頭圧痕・短沈線	外：橙 内：橙	石英・長石・金雲母・角閃石(少)	
		3	無文土器	第40図－14 (多田編2002)	胴部	良	外：ナデ 内：ナデ・指頭圧痕	外：明赤褐 内：にぶい黄橙	石英・長石・金雲母・角閃石(少)	
	高見Ⅰ	4	無文土器		口縁部	良	外：ナデ・指頭圧痕 内：ナデ・指頭圧痕・短沈線	外：にぶい橙 内：にぶい黄橙	石英・長石・金雲母・角閃石(少)	
		5	無文土器		口縁部付近	良	外：ナデ 内：ナデ・指頭圧痕・短沈線	外：明黄褐 内：にぶい黄橙	石英・長石・金雲母(多)・角閃石	

部は大きく外反するものと考えられ、その内面には右下がりとなる短沈線が施されている。胎土には石英・長石・角閃石のほか、金雲母が顕著に認められる。

(3)下長沢遺跡(沖野・西岡編2015)

本遺跡は、高見Ⅱ遺跡から南東方向に直線距離で約1.2km離れた伊予市中山町佐礼谷1号4地内に位置している。中山川右岸の河岸段丘上に立地し、その標高は約270m、遺跡の東側を南流している河川との比高差は20～30mを測る。平成25年度に、伊予市教育委員会が市内遺跡詳細分布調査に伴う試掘調査を実施したところ、T－2のⅡ・Ⅲa・Ⅲb層より無文土器9点、剝片9点が出土している。このうち縄文土器を実見した結果、すべて胴部片であったが、胎土や指頭圧痕を残すナデ調整等から、高見Ⅱ遺跡出土の早期無文土器と同時期のものとして判断した。このことからも、本資料群は、今後、高見遺跡・東峰遺跡第1～4地点との関係性や、縄文人の活動領域を考えていく上で重要な成果として位置づけられよう。

2　高見Ⅱ遺跡における早期土器の特徴

今回の高見Ⅱ遺跡と東峰遺跡第4地点2次の発掘調査では、既述したとおり縄文土器551点が出土しており、前者で491点(89%)、後者では60点(11%)を数える。とくに南側にある谷部を一望できる高見Ⅱ遺跡2区の中央部では、それらが集中的に認められ、縄文土器全体の約8割となる447点が出土している。このように比較的まとまって出土している高見Ⅱ遺跡出土の縄文土器の中でも、卓越しているのが早期土器であり、本書では44点を取り上げて図化を行った。その内訳については早期無文土器34点(77%)、押型文土器9点(21%)、茅山下層式併行期の土器1点(2%)となり、早期無文土器が圧倒的に大半を占めている状況にある。それでは以下、土器様式毎にその特徴等を見ていきたい。

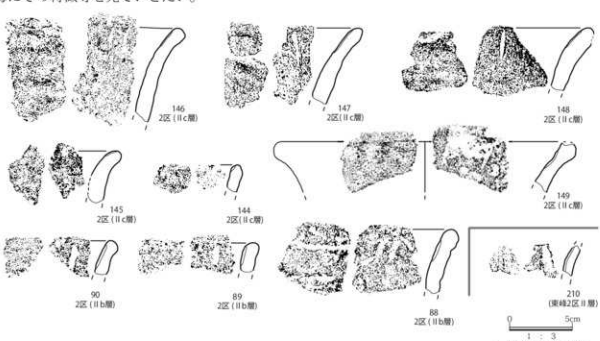


図4　高見Ⅱ遺跡・東峰遺跡第4地点2次出土内面短沈線の無文土器

(1)早期無文土器(図4)

器形　口縁部は外傾もしくは大きく外反する尖底(乳棒状)の深鉢が基本形になると考えられる。全体の器形を明確に復元できる個体はないが、同時期と考える早期無文土器の事例から、口径は20～30cmに概ね収まり、胴部は単純に外傾し、器高は口径を上回る中型土器になると推定する。口縁部は平縁が大半であるが、146のように波状口縁と思われるものも認められる。口唇形態はやや肥厚ないしは丸頭状を呈するものが多い。器厚は平均値で1.13cmを測り、1.0cmを越える厚手の土器が多くを占めているなか、0.6cm前後の薄手の土器も若干数だが確認することができる。

胎土　胎土には径0.1cm前後の石英粒を多く含むほか、金雲母や角閃石についても高い比率で含まれている。また数量的には少ないが、12・91(本書掲載番号)のように結晶片岩が混入されたものも認められ注目を要する[5]。なお、ピックダウンの資料の中には、胎土に繊維を混入させたものが3点確認されたが、本遺跡では特異な例として位置づけられる。

器面調整・施文　口縁部・胴部ともに内外面の器面調整は、その大半がナデや指頭圧痕によるもので占められており、凹凸の箇所も顕著に残されているものが多いなか、ナデ調整によってその痕跡が消されている資料も存在する。また、口縁部11点中9点(82%)において、内面に短沈線を施したものが認められ、本土器群の特徴の1つとして注目したい。この沈線幅は0.3～0.5cmに収まるものであり、概ね同じ様な棒状工具を用いて施文したものと考えられるが、その沈線の長さや施文箇所等は多岐にわたっており、こうしたバリエーションの存在から複雑な様相がうかがえる。なお、この短沈線についてはメルクマールとなる可能性もあり、近隣地域の資料を交えて後述したい。

色調・焼成等　土器は内外面ともに黄橙色や黄褐色など比較的明るい色調となっている。焼成については全体的に良好であり、堅緻なものが多い。また、本土器群には炭化物やススの付着があまり認められないことから、その使用法としては、主にモノを貯蔵する際に用いられた可能性も考えられる。

(2)押型文土器(図5)

前回の発掘調査(多田編2002)では出土しなかった押型文土器9点の小破片が確認されている

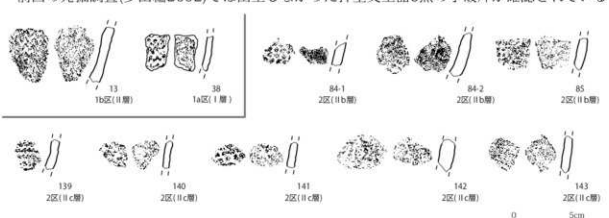


図5　高見Ⅱ遺跡出土押型文土器

が、早期土器全体比の数％に過ぎない出土量からは、本遺跡における押型文土器の有り方が客体的であることが想定でき、主体土器としての早期無文土器に少量が伴う様相を示している。こうした状況は、早期無文土器の編年的位置づけを考える上でも重要な要素の1つになり得よう。

その文様の種類については、山形文(13・38・143)と楕円文(84・85・139～142)の2種類があり、器壁の厚さは0.6㎝前後の薄手のものが多いなか、唯一、142は1.2㎝と厚手の部類に入る。これらの土器はすべて胴部片であるため、全体形を明確に復元することはできないが、その文様形態や施文方法等から黄島式の範疇と考えられ、それを基本にして器形等を想定することができる。なお、現在のところ、隣接する東峰遺跡第4地点2次調査地をはじめ周辺遺跡において、押型文土器が一定量出土している遺跡は確認されていない。

(3)茅山下層式併行期の土器

96(本書掲載番号)の底部片1点のみである。欠損しているが半平底の形態を呈し、また器面に二枚貝条痕の調整が認められることから、早期後葉の茅山下層式に併行する土器として位置づけた。これにより、本県では上黒岩岩陰遺跡(久万高原町)に次いで2例目の資料となる。

3　高見Ⅱ遺跡出土早期無文土器の検討

次に、高見Ⅱ遺跡で主体を成している早期無文土器について、これまでの研究成果を踏まえ、前述した諸要素や伴出土器の状況等を基にして、その地域的・編年的位置づけを検討したい。

(1)本県における早期無文土器の様相

本県における早期無文土器は、縄文時代草創期末～早期前葉に位置づけられる土器様式である。1960・70年代に行われた洞穴・岩陰遺跡の調査[6]によって、押型文土器以前に、無文土器や条痕文を主体とした土器が存在することは知られていたが、基本的に文様が無くて特徴の薄い土器であるため、十分な検討が難しく、これまで研究対象としてはあまり積極的に取り上げられてこなかった経緯がある。しかし近年では、西日本全体での良好な一括資料の増加に伴い、型式学的な検討や編年的位置づけ、その他土器様式との併行関係等について論じられることも多くなり、その理解が深まりつつある中、注目度も増してきていると言えよう。

現時点において筆者も、新出資料の調査や既存資料の再検討により(兵頭2013a・2014aほか)、いくつかの属性に注目することで、早期無文土器を主体とした一定の分布圏と複数のステージの存在について見通しを得ることができた。まずそこで、本県における早期無文土器を以下の3段階[7]に大別して、その様相を概観する。

＜第1段階＞

薄手無文土器を主体としたものであり、いまだ絶対数が少なく全体の器形を明確にできる資料が乏しいため、その実態は明らかではないが、ここでは中津川洞穴遺跡C区5-6層のナデ調整無文平底形土器や、底部形態は不明であるが上黒岩岩陰遺跡Ⅵ層のナデ調整無文土器[8]を挙げることができる。この併行関係として、大分県二日市洞穴第9文化層、広島県帝釈峡観音堂洞窟20-21層、同県帝釈狭馬渡岩陰4層の無文土器が想定されており(綿貫2008ほか)、近隣地域にも広く展開している様相がうかがえる。

＜第2段階＞

口縁部が直口気味もしくはやや外反する尖底の深鉢。基本的に厚手のものが主体となり、その器面調整はナデや指頭圧痕が主流である。本段階は無文土器の単一期に当たり、押型文土器との共伴は認められない。土壇原Ⅱ遺跡(松山市)の竪穴住居址出土厚手無文土器を標識資料とした土壇原式[9]がこれに相当するものであり、積極的な議論が展開されている東九州の土器編年(綿貫2008)でいう陽弓式にやや先行もしくは併行する一群になるのではないかと考えている。

＜第3段階＞

第2段階からの変化の方向性としては、口縁部が大きく外反するものが多い傾向にあるが、器厚・底部形態・器面調整については類似している部分も多く、前段階との判別は難しい。しかし、口縁部内面に施された短沈線の一群が一定量のまとまりとして存在することや、少量の押型文土器(黄島式以前)が伴う組成であることは重要視することができ、このことからも第2段階とは明らかに時期差を持つものとして捉えることができる。

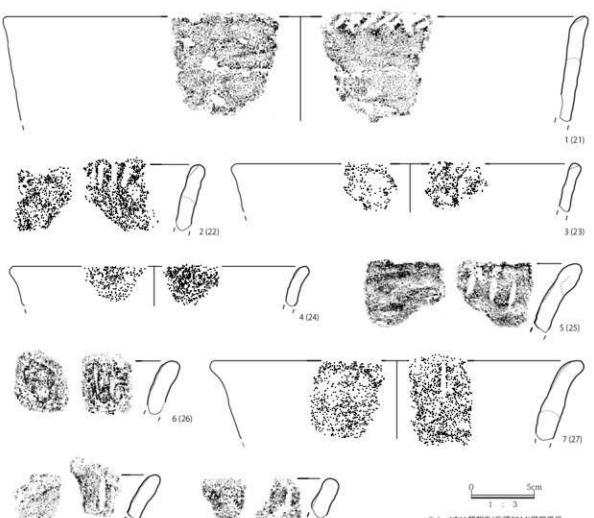


図6　城ノ向遺跡(伊予郡砥部町)出土内面短沈線の無文土器

(2)高見Ⅱ遺跡の早期無文土器の位置づけ

今回の調査区で最も多くの土器が出土した高見Ⅱ遺跡2区においては、Ⅱb層－Ⅱc層－Ⅲa層の各層で早期無文土器が出土している。その下層となるⅢa層出土のものが胴部片のみであるため、各層出土の土器自体から器形的な変化の方向性を読み取ることは難しいが、胎土や器面調整については、それほど大きな差異は認められないと思われる。しかし、この早期無文土器が出土したⅡ層とⅢ層の相違として、Ⅲa層では早期無文土器が単独出土であるのに対して、その上層となるⅡb・Ⅱc層では、早期無文土器に少量ながらも押型文土器が共伴している土器組成の点にある。近年、こうした早期無文土器の単一文化層や、早期無文土器を主体とし押型文土器を客体とする文化層(土器組成)の類例が確認されており、県内の広い範囲で早期無文土器を主体とする文化が展開していた様相が明らかになりつつある。例えば、その前者には、医王寺Ⅲ遺跡(四国中央市)、土壇原Ⅱ遺跡(松山市)、西野Ⅲ遺跡(同市)、石浦東遺跡(内子町)、須川丸山遺跡2次(八幡浜市)、犬除遺跡2次(宇和島市)等があり、また後者については、長命寺遺跡(四国中央市)、福成寺・旦之上遺跡(西条市)、長田遺跡(砥部町)、城ノ向遺跡(同町)が列挙できる。こうした土器組成の様相からも、高見Ⅱ遺跡のⅢa層を早期無文土器の第2段階、Ⅱb・Ⅱc層を第3段階として想定することができよう。

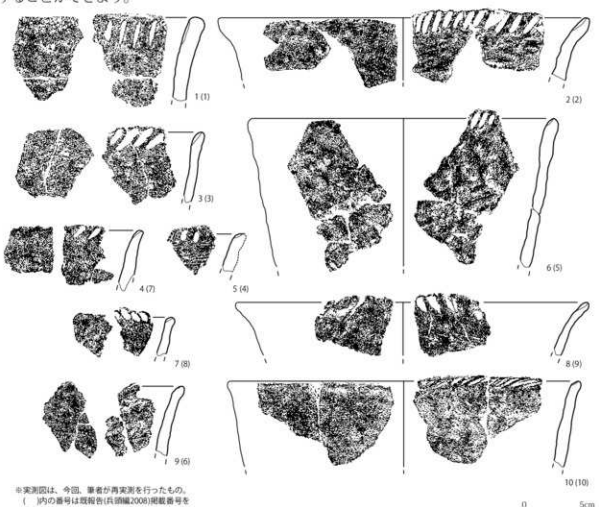


図7　猿川西ノ森遺跡(松山市)出土内面短沈線の無文土器

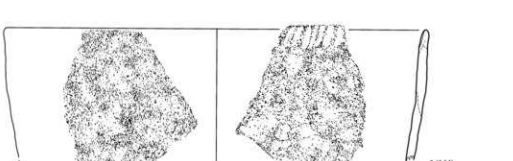


図8　上苅谷遺跡第3次調査(松山市)出土内面短沈線の無文土器

次に、Ⅱb・Ⅱc層出土の早期無文土器に特徴的に見られる「短沈線」に注目したい(図4)。これは前節でも触れたが、第3段階とした一群に認められるものであり、すでに長井數秋が、「〔…前略…〕口縁部内面には棒状の原体による斜行する押圧文を持っている。押圧文の間隔は1.3～1.5㎝と比較的粗である。大型楕円押型文土器の内面の指頭による凹線とは明らかに識別されるものである〔…後略…〕」(傍線筆者)と指摘されているとおり、古くからその存在は知られている。また同じく、その編年的位置づけについては、「上黒岩岩陰や穴神洞遺跡出土の小型楕円押型文土器の、口縁部内面に施文されている縦位の棒状原体による刻み目状の押圧文の素形が、本土器類の疎らな刻み目状押圧文とみてよい」とあるように黄島式以前に位置づけられている(長井1987)。これに関しては綿貫俊一も、東九州の土器編年の中で、「第6段階の無文土器には口縁部内面に垂下する短凹線を施す例がある。〔…中略…〕文様化した押型文土器の「櫛状文」とされる例につながるのだろう」(傍線筆者)と述べられているとおり(綿貫2008)、短沈線に関しては、押型文土器(稲荷山式・黄島式)に先行する、厚手無文土器に認められる属性の1つとして捉えられている。

この短沈線の分布範囲については、周桑平野(鶴来が元・福成寺)、今治市島嶼部(叶浦B)、松山・北条平野周辺部(城ノ向・猿川西ノ森)の各遺跡で一定量の出土が認められており、現在のところ、高縄半島を中心に置いた、その周辺地域の丘陵地や河岸段丘上に分布している傾向が見られる。一方、これ以外の地域では全く以て皆無という訳ではないが、上黒岩岩陰遺跡や田合遺跡(大洲市)、穴神洞・中津川洞穴遺跡(西予市)等の主要な早期遺跡を見る限り、一定量の組成を成していたとは言い難く、上記以外の地域での存在は希薄な様相を示していると言えよう。

続いて、高見Ⅱ遺跡における短沈線の形状は、沈線幅自体にそれほど大きな差がないため、施文には同様な棒状工具を用いたと思われるが、その長さ・間隔・方向・施文箇所には多様性が認められ、一概に単純な様相を呈していたとは言い難い。その中でも、2㎝以上となる短沈線を垂下させ、その間隔も疎となるタイプのものがあるが(図4－146・147・148)、これについては東峰遺跡第4地点(図3－2)や城ノ向遺跡(図6－7)でも同様なものが見受けられる。また一方、本遺跡よりやや離れた場所にある猿川西ノ森遺跡(兵頭編2008)の短沈線については、左斜行(図7－1～6・9・10)のものが多く、その長さも1～2㎝に収まる。沈線間隔も1㎝未満の密なタイプのものが大半を占めており、上苅谷遺跡第3次調査(吉岡2005)のものも同タイプ(図8－1)となるが、

これらは長井が指摘した「押圧文の間隔は1.3～1.5㎝と比較的粗である」には当てはまらないタイプのものと言える。

以上、こうした第3段階の一群に認められる短沈線は、県内全域を見ても複数タイプのものが存在しており、本段階の早期無文土器はさらなる細分の可能性がうかがえる。この短沈線については今後も継続した調査を進め、その変化の方向性や位置づけ等を明確にすることで、早期無文土器のメルクマールとして重要な属性になっていくものと考えられる。

(3)早期無文土器と押型文土器の関係

これまでの研究成果も踏まえ、本県では、隆起線文土器以後～古相押型文土器(山形文盛行期)までの長期間に渡って、在地系土器である早期無文土器の系譜が連綿と続いていた様相が認められ、本稿ではそれらを3段階に大別した。

そして高見Ⅱ遺跡出土の早期無文土器については、土器組成やその特徴等から、土壇原式併行からそれ以後とする第2・3段階として位置づけ、また、押型文土器はこのうちの第3段階において波及してきたものと考えられる。この押型文土器については、松山平野以東・以北に位置する長命寺遺跡や福成寺遺跡、猿川西ノ森遺跡では、黄島式以前とする山形文盛行期や稲荷山式が出土しているのに対して、高見Ⅱ遺跡では、それよりも一段階新しいタイプとなる黄島式が出土している。こうした型式の違いは、北四国地域の沿岸部(四国中央市～伊予市南部)では、東から西への大きな文化的流れの中で、押型文土器が各地に展開したことを示唆するものであり、伊予市を含めた松山平野南部では、松山平野以東・以北の地域よりも、やや遅れた形で押型文土器が伝播してきたことが推察される。

おわりに －高見Ⅱ遺跡の意義－

本稿の第一義は、本遺跡における早期土器の実態を明確にすることであったため、それに特化した形での報告となったが、本遺跡固有の価値や重要性を理解するためには、当然、その他資料を含めた多角的な検討が不可欠であることは言うまでもない。とくに植物質食糧加工具の充実や、隣接遺跡での落し穴の検出[10]といった特徴的な事項については、さらなる詳細な分析作業が必要と言える。そこで最後に、こうした特筆すべき成果にも若干触れながら、高見Ⅱ遺跡の意義について言及し本稿を終えたい。

この高見Ⅱ遺跡を中心とする一帯は、早期無文土器を主体とした時期において、定着性の高い拠点的な生活空間の存在と、縄文的な生業活動の様相をうかがうことができ、その証左としては、以下の調査成果を挙げることができる。

① 在地系土器型式(早期無文土器)の出現とその保有量の飛躍的増大
② 植物質食糧加工具(凹石・磨石)の定着と集石遺構の検出
③ 隣接する高見Ⅰ遺跡2次調査地での落し穴の検出

①に該当する厚手の早期無文土器(第2・3段階)については、その前段となる薄手無文土器と比して、一個体分の重量増や、遺跡内での保有数の増加傾向を考慮した場合、道具の持ち運びが必要となる頻繁な遊動生活下においては適していなかったことが推測できる。そうなると、この第2・3段階に位置づけた早期無文土器は、定着性の高まりと共にその使用が積極的に開始された土器様式であった可能性が高いと考えられる(兵頭2013a)。

②・③に関連するところで、本遺跡の石器組成については、主に狩猟具と植物質食糧加工具のセット関係が認められ、なかでも定置的な凹石・磨石は比較的充実した様相を示している。本県ではこの他にも、上黒岩岩陰遺跡第Ⅵ層、長命寺遺跡、須川丸山遺跡2次を類例として挙げることができ、草創期末～早期前葉における、山間部や丘陵部に位置する拠点的な性格を持った特定の遺跡では、こうした植物質食糧加工具の安定的な組成を示す傾向が見て取れる。

また、本遺跡の対面に位置している高見Ⅰ遺跡２次調査地においては、早期以降の位置づけとする落し穴８基が検出されている（沖野2018、沖野編2018）。遺跡周辺の植生環境や動物の習性[11]等を熟知した上で、当時、落し穴猟が行われていた可能性が高く、このことは、環境変動の適応により起こり得た、狩猟システムの変化・発達を示していると言える。そしてこれらの落し穴と高見Ⅱ遺跡との空間的な相互関係については、今後も継続して検討を深めていく必要がある。

本遺跡の属する縄文時代早期は、更新世から完新世への移行期に位置し、その地球規模における不安定な環境変動に適応するため、生活様式の変貌が求められた時代といえる。その結果が、日本列島に展開した定着的な狩猟採集文化の形成であり、それに繋がるような諸特徴[12]が各地で顕在化していく。前述したような高見Ⅱ遺跡並びに周辺遺跡の調査成果は、そうした多様な環境適応の一形態を示していると考えられる。また、これに関連するところで、高見Ⅱ遺跡とは距離的に離れてはいるが、長命寺・医王寺Ⅲ・平坂Ⅱ遺跡群（四国中央市）は、本遺跡群と非常に似通った適応パターンが認められ（中野編1991）、当該期における人や文化の動態、地域間関係等を考える上で、今後、注目しなければならない様相を示している。

今回の調査範囲内では残念ながら竪穴住居や貯蔵穴等の遺構は検出されなかったが、上記の成果等から、この東峰遺跡群が位置する中山川最上流域は、少なくとも早期無文土器の第2段階には、拠点的な性格を有する生活・居住空間が存在していた可能性が高く、狩猟や野生食用植物の採集に比重を置いた、複合的な生業活動が展開されていたことがうかがえる。また、それは言い換えれば、当地域一帯が、陸棲哺乳類や堅果類等の食糧資源獲得に適していた環境下にあったと推測することができよう。そしてその資源のあり方や気候変動等にも考慮しつつ、この高見Ⅱ遺跡の実態が、「季節的定住（秋～冬季初頭）」であったのか、もしくは「通年定住」になるのかは、今後における重要な検討課題の1つであり、将来的な発掘調査に期待するところでもある。

以上述べてきたように、四国地方における定着的狩猟採集社会の実相を検証していく上で、今回の調査成果の意義は大きく、本地域一帯の重要性はさらに高まったと言えよう。

謝辞　伊予市教育委員会には、資料整理並びに原稿執筆の機会を与えていただくとともに、各作業過程において多大なご支援を賜りましたこと厚く御礼を申し上げます。また、沖野新一氏には本遺跡群の発掘調査当初から様々な情報をご教示いただき、中野良一氏には本書掲載の縄文土器について胎土観察を行っていただきました。そして遠部慎氏には本稿執筆に当たって有意義な意見交換をさせていただきました。このほか以下の方々からも情報提供や資料調査等でご指導ご協力を賜りました。文末とはなりましたが、記して感謝の意を表します。
沖野 実、多田 仁、橘 昌信、西岡若水、松本安紀彦、眞鍋昭文、吉岡和哉（敬称略・五十音順）

註

(1)高見Ⅱ遺跡で491点(1a区36点／1b区8点／2区447点)、東峰遺跡第4地点2次で60点(1区7点／2区53点)の縄文土器が出土している。

(2)口縁部及び底部については全点取り上げ、胴部片については微細な剥片や器面の剥落が著しい等、図化に堪えられないと判断した資料はピックダウンとした。

(3)伊予市教育委員会からのご教示による。

(4)研究者によって「短凹線」、「押圧文」などの名称が使われているが、本稿では「短沈線」として仮称する。これが単なる文様なのか、機能的な面を持ったものかについては、現在のところ明確に分かっていない。

(5)縄文土器の胎土観察は、中野良一氏((公財)愛媛県埋蔵文化財センター)、沖野新一氏が行った。

(6)本県の洞穴・岩陰遺跡の発掘調査では、押型文土器文化層の下位より、無文土器のみで構成される文化層の存在が確認されている。さらに上黒岩岩陰遺跡と穴神洞遺跡ではその下位から隆起線文土器が出土しており、こうした成果から、本県の草創期前半～早期中葉の土器変遷については、隆起線文土器→無文土器→押型文土器とする大枠の流れで理解されている。

(7)筆者は、県内の無文土器をⅠ～Ⅵ類に大別し、ある程度の時期幅を想定したものの(兵頭2013a・2014a)、現段階において型式学的観点からの検討は難しいと判断した。そこで本稿では、この6分類としたうち、無文Ⅰ類を第1段階、無文Ⅱ類を第2段階、無文Ⅲ～Ⅴ類(Ⅵ類)については第3段階と再設定し、改めて大きな枠組の中での位置づけを行いたい。しかし、このほかにも上黒岩岩陰遺跡や叶浦B遺跡(今治市)では、この枠組みでは収まらない早期無文土器が極少量ではあるが存在する等、今以て系統・編年関係は十分に解明されたとは言えず、今後検討すべき課題は多い。

第1段階：ナデ調整無文平底形土器(中津川洞穴遺跡C区5-6層・上黒岩岩陰遺跡Ⅵ層)

第2段階：厚手無文土器(土壇原式土器)

第3段階：厚手無文土器(ナデ・指頭圧痕による器面調整／口縁部は外反／口縁部内面に短沈線／尖底)

(8)第Ⅵ層から出土したもので、押型文土器より下位に相当する。器面は指頭圧痕が顕著に認められ、器厚は0.5㎝前後の薄手と、1.0㎝程度の厚手のものがある。口縁部は直行もしくはやや外反気味となり、底部形態は不明である。

(9)土壇原Ⅱ遺跡1号住居址内の床面から出土した無文土器群。本資料群は、押型文土器が伴う無文土器(蔦島式土器)とは一時期を画す資料として、長井數秋氏によって土壇原式土器が設定された(長井1979)。その後、筆者も本資料群の資料化を図り、その実態を明らかにするとともに、押型文土器以前の土器型式として位置づけた(兵頭2013a)。また主体となる本型式に伴い、薄手無文土器(第1段階)や短沈線を施した土器(第3段階)が客体的に認められている点は(長井1987)、今後、編年的位置づけを考える上でポイントになる。

(10)高見Ⅰ遺跡2次は、(仮称)中山スマートIC建設事業に関連して、(公財)愛媛県埋蔵文化財センターが発掘調査を行った遺跡。本県における落し穴状遺構は、縄文時代早期が初見であり、現在のところ、平坂Ⅱ遺跡(四国中央市)、医王寺Ⅲ遺跡(同市)、星野遺跡(西条市)、福成寺・旦之上遺跡(同市)といった燧灘沿岸部の遺跡を中心に検出されている(兵頭2013b)。

(11)平成7年度に行った発掘調査(多田編2002)では、古環境研究所が、遺跡周辺の古植生・古環境の推定を主目的とした植物珪酸体分析や花粉分析を行っている。東峰遺跡第4地点では、鬼界アカホヤ火山灰直下の第Ⅲ層上部の時期には、クスノキ科やシイ属等の照葉樹林が成立していたことを推定し、また、高見Ⅰ遺跡のN4-(-)5グリッド西壁の第Ⅱ層では、クマザサ属が比較的多く生育していたこと等が推定されている。このクマザサ属については、秋から冬にかけて、シカの重要な食物であるとの指摘もあり(杉山2002・高槻1992)、縄文人たちはこうした生態環境も考えた上で計画的な狩猟活動を行っていた可能性が高い。

(12)先述の①～③をはじめ、この他にも竪穴住居の定着、水産資源の活用、具塚の出現、精神文化(石偶・土偶・装身具等)の発達等が挙げられる。

引用・参考文献

伊予市誌編さん委員会編(2005)『伊予市誌』伊予市

沖野新一(2018)「伊予市高見Ⅱ遺跡、東峰遺跡第4地点(2次)の発掘調査」『伊豫市の歴史文化』第72号，伊豫市歴史文化の会，pp.18-24

沖野新一・西岡若水編(2014)「20 上吾川八幡池遺跡」『伊予市内遺跡詳細分布調査報告書Ⅱ－平成24年度伊予市内遺跡発掘調査等事業調査報告書－』伊予市教育委員会，pp.20-21

沖野新一・西岡若水編(2015)「3 下長沢遺跡(長沢グランド)」『伊予市内遺跡詳細分布調査報告書Ⅲ－平成25・26年度伊予市内遺跡発掘調査等事業調査報告書－』伊予市教育委員会，pp.25-27

沖野　実(2018)「5.高見Ⅰ遺跡2次」『愛比売－平成29年度年報－』(公財)愛媛県埋蔵文化財センター，pp.27-29

沖野　実編(2018)『高見Ⅰ遺跡2次』(公財)愛媛県埋蔵文化財センター

遠部　慎(2009)「第1章　土器4　4群土器」『共同研究 愛媛県上黒岩遺跡の研究』第154集，国立歴史民俗博物館，pp.98-119

杉山真二(2002)「第2節 東峰遺跡第4地点の植物珪酸体分析」，「第4節 高見Ⅰ遺跡の植物珪酸体分析」，「第5節 高見Ⅰ遺跡の花粉分析」『東峰遺跡2・4地点 高見Ⅰ遺跡－四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅧ－双海町編』(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター

高槻成紀(1992)『北に生きるシカたち－シカ、ササそして雪をめぐる生態学』どうぶつ社

多田　仁編(2002)『東峰遺跡第2・4地点 高見Ⅰ遺跡－四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅧ－双海町編』(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター

長井數秋(1979)「北四国地方縄文早期遺跡の先史地理学的研究」『考古学ジャーナル』170号，ニュー・サイエンス社，pp.57-60

長井數秋(1987)「北四国地方の縄文土器集成(1)－草創期・早期縄文土器を中心として－」『ふたな』3号，伊予考古学会，pp.26-41(図版pp.1-23)

中野良一編(1991)『四国縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ』(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター

兵頭　勲(2006)「北四国地域における早期土器研究の現状と課題」『第17回中四国縄文研究会 発表要旨集 早期研究の現状と課題－前葉を中心に－』中四国縄文研究会高知大会実行委員会，pp.1-17

兵頭　勲編(2008)『猿川西ノ森遺跡－主要地方道北条玉川線整備に伴う埋蔵文化財調査報告書－』(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター

兵頭　勲(2013a)「土壇原式土器再考－土壇原Ⅱ遺跡第1号住居址出土遺物の実態－」『研究紀要』第18号，愛媛県歴史文化博物館，pp.1-31

兵頭　勲(2013b)「愛媛県内の落し穴の様相」，「愛媛県の落し穴検出遺跡集成」『第24回中四国縄文研究会鳥取大会 中四国地方における縄文時代の落し穴』中四国縄文研究会，pp.89-93(集成pp.330-343)

兵頭　勲(2014a)「砥部川下流域の縄文時代早期の土器－長田遺跡と城ノ向遺跡出土資料群の再検討－」『研究紀要』第19号，愛媛県歴史文化博物館，pp.1-31

兵頭　勲(2014b)「北四国地域における縄文時代早期の様相」『続・上黒岩岩陰遺跡とその時代－縄文時代早期の世界－』特別展示図録，愛媛県歴史文化博物館，pp.152-156

松本安紀彦(2014)「南四国地域における縄文時代早期の様相－生活様式の転換期とその概要－」『続・上黒岩岩陰遺跡とその時代－縄文時代早期の世界－』特別展示図録，愛媛県歴史文化博物館，pp.148-151

吉岡和哉(2005)「第2章 上苅谷遺跡第3次調査」『松山市道「小野158号線」関連遺跡 上苅谷遺跡－第3次・4次調査－』松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター，pp.7-93

綿貫俊一(2008)「西南日本の無文土器」『総覧 縄文土器』(株)アム・プロモーション，pp.180-185

図版の出典

図2は、眞鍋昭文氏((公財)愛媛県埋蔵文化財センター)にご提供いただいた地図データを一部改変して作成。図6は兵頭2014a、図8は吉岡2005を一部改変トレース。それ以外の図版については筆者作成。

3　伊予市高見Ⅱ遺跡の炭素14年代測定

遠部　慎(中央大学人文科学研究所)

1　はじめに

愛媛県伊予市高見Ⅱ遺跡から出土した炭化物の年代測定を行ったので、その結果を報告する。分析試料の選択は遠部慎が行った。試料の前処理、測定はパレオ・ラボ(PLD)によるものである。測定結果は計測値(補正)とともに、実年代の確率を示す較正年代値を示した。これまで、愛媛県域で測定例の少ない縄文時代早期の炭化物の分析例であり、貴重な測定値が得られたと考える。

2　測定試料と観察所見

測定対象とした試料は、高見Ⅱ遺跡2区Ⅲa層出土のものである。遺跡現地にて、沖野新一・遠部が、確認・採取した炭化物のうち、測定可能であった2点の結果を示す。試料番号EHIYO-2017、2018である(図1)。なお、炭化物の詳細については不明である。

3　炭化物の処理

炭化物試料については、註1に記した手順で試料処理を行った。

土壌に関しては106μmメッシュの篩で篩い分けしてメッシュを通過したものをAAA処理し、この際のアルカリ濃度は1Nで行った。本試料は、アセトンによる処理を入念に繰り返し、溶解がなくなったことを確認したうえで試料処理を行った(表1)。EHIYO-2018のサンプル状態はあまりよくない。

ガス化率、グラファイト化率で測定可能な炭素量が得られた。(1)(2)(3)の作業はパレオ・ラボ(PLD)で行った。作業の状況は表1、測定値は表2に示す。

図1　分析試料採取箇所(2区)

表1　炭化物の処理

試料番号	状態	採取量(mg)	処理量(mg)	回収量(mg)	回収/処理	前処理後	燃焼量(mg)	CO_2(mg換算)	収率
EHIYO-2017	炭化物	20.71+α	20.71	9.21	44.47%	良	5.38	3.09	57.44%
EHIYO-2018	土壌	12720.4+α	12720.4	7216.1	56.73%	不良	370.2	1.14	0.31%

4　測定結果と暦年較正

測定結果は、註2に示す方法で、同位体効果を補正し14C年代、較正年代を算出した。年代測定結果は、7345±25BPと8430±30BPであった。これを暦年較正すると、EHIYO-2017は、6325-6320calBC(0.80%)、6250-6090calBC(94.70%)、EHIYO-2018は、7570-7475calBC(95.45%)である(表2、図2)。加速器のδ13C値の測定ではあるものの、EHIYO-2018はEHIYO-2017に比べ、安定同位体比が低い。

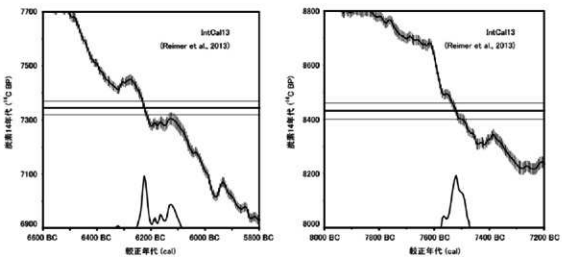


図2　測定試料の較正曲線(EHIYO-2017.2018)

表2　測定した試料の14C炭素年代(δ13C(‰))と暦年較正年代(calBC)

試料番号	測定機関番号	δ13C (‰)	14C炭素年代 (BP)	暦年較正年代 (Cal BC)	確率分布(%)
EHIYO-2017	PLD-35083	(-27.69±0.19)	7345±25	6325-6320	0.80%
				6250-6090	94.70%
EHIYO-2018	PLD-36979	(-20.47±0.16)	8430±30	7570-7475	95.45%

5　測定結果について

縄文時代早期の土器付着炭化物の年代測定は近年増加しつつあり、西日本については押型文土器期の各型式の測定例がある(遠部2009、2015、小林2017)。押型文土器の年代は、BP値で9600-8000BP付近に測定値がまとまっている。これまで愛媛県内では、上黒岩岩陰遺跡や上黒岩第2岩陰遺跡などで年代測定値が蓄積されているものの、土器付着物などの測定例は少ない。縄文時代早期の堆積土層に対して年代測定を実施した事例は、池の岡遺跡などが挙げられるが(橘・犬飼編2007)、アカホヤが認められた5層の上部から轟B式、下層(6層：無遺物層)から9230±70BP(Beta-219864)という測定値が得られている。

そうした中で、早期の無文土器が出土する高見Ⅱ遺跡の2区Ⅲa層で得られた炭化物の14C年代測定値は、EHIYO-2017が7300BP代、EHIYO-2018が8400BP代であった。本遺跡の層位的なコンテクスト、つまり高見Ⅱ遺跡の大まかな堆積順序とは矛盾は少ないものの、測定試料ととも

に出土した土器から想定される年代とは若干の齟齬が生じることになる。やや古い測定例に、いわゆるアカホヤ火山灰にあたる音地火山灰層(青峰・吉永1953)の噴出年代値として7680±140BP(GAK-1643)が報告されている(松井・西嶋1969)が、近年、発掘調査資料に基づく縄文時代前半期の測定例が蓄積されつつあり(兵頭編2017)、当該時期の土層堆積について今後総合的に研究を行っていく必要がある(多田2001)。今後は、周辺の遺跡を含めて、本測定値の総合的な解釈を行う必要があると同時に、本遺跡について堆積学的な見地からの再検討もまた必要となろう。

謝辞

暦年較正については今村峯雄、坂本稔の方法に従った。本実験にあたり、伊予市教育委員会沖野新一、島﨑達也両氏には、サンプルの採取から分析まで、各種のご協力をいただいた。

実験にあたっては、坂本稔先生にさまざまなご配慮をいただいた。また、沖野実(公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センター)、及川穣(島根大学法文学部)、小林謙一(中央大学文学部)、兵頭勲(愛媛県立歴史文化博物館)の諸先生、諸氏をはじめ、国立歴史民俗博物館・学術創成研究グループ、犬島貝塚調査保護プロジェクトチームの諸先生、諸氏には資料調査や年代的な位置づけについて、ご教示、ご協力をいただいた。記して感謝申し上げたい。

註1 炭化物については下記の方法で処理した。

(1)前処理：酸・アルカリ・酸による化学洗浄

AAA処理に先立ち、測定試料については、アセトンに浸け振とうし、油分など汚染の可能性のある不純物を溶解させ除去した(2回)。AAA処理として、80℃、各1時間で、希塩酸溶液(1N-HCl)で岩石などに含まれる炭酸カルシウム等を除去(2回)し、さらにアルカリ溶液(NaOH、1回目0.1N、3回目以降1N)でフミン酸等を除去した。アルカリ溶液による処理は、5回以上行い、ほとんど着色がなくなったことを確認した。さらに酸処理2回(1N-HCl 1時間)を行いアルカリ分を除いた後、純水により洗浄した(4回以上)。

(2)二酸化炭素化と精製：酸化銅により試料を燃焼(二酸化炭素化)、真空ラインを用いて不純物を除去。

AAA処理の済んだ乾燥試料を、500mgの酸化銅とともに石英ガラス管に投じ、真空に引いてガスバーナーで封じ切った。このガラス管を電気炉で、850℃で3時間加熱して試料を完全に燃焼させた。得られた二酸化炭素には水などの不純物が混在しているので、ガラス製真空ラインを用いてこれを分離・精製した。

(3)グラファイト化：鉄触媒のもとで水素還元し、二酸化炭素をグラファイト炭素に転換。アルミ製カソードに充填。

1.5mgの炭素量を目標に二酸化炭素を分取し、水素ガスとともに石英ガラス管に封じた。これを電気炉で、およそ600℃で12時間加熱してグラファイトを得た。ガラス管にはあらかじめ触媒となる鉄粉が投じてあり、グラファイトはこの鉄粉の周囲に析出する。グラファイトは鉄粉とよく混合させた後、穴径1mmのアルミニウム製カソードに600Nの圧力で充填した。

註2 測定値について、以下の方法で較正年代を算出した。

年代データの14CBPという表示は、西暦1950年を基点にして計算した14C年代(モデル年代)であることを示す。14C年代を算出する際の半減期は、5,568年を用いて計算することになっている。誤差は測定における統計誤差(1標準偏差、68%信頼限界)である。

AMSでは、グラファイト炭素試料の14C/12C比を加速器により測定する。正確な年代を得るには、試料の同位体効果を測定し補正する必要がある。同時に加速器で測定した13C/12C比により、14C/12C比に対する同位体効果を調べ補正する。13C/12C比は、標準体(古生物belemnite化石の炭酸カルシウムの13C/12C比)に対する千分率偏差δ13C(パーミル, ‰)で示され、この値を-25‰に規格化して得られる14C/12C比によって補正する。補正した14C/12C比から、14C年代値(モデル年代)が得られる。加速器による測定は同位体補正効果のためであり、必ずしも14C/13C/12C比を正確に反映しないこともあるため、パレオ・ラボ測定分については、加速器による測定を参考として付す。測定値を較正曲線IntCal13(14C年代を暦年代に修正するためのデータベース、2013年版)(Reimer et al 2004,2013)と比較することによって暦年代(実年代)を推定できる。両者に統計誤差があるため、統計数理的に扱う方がより正確に年代を表現できる。すなわち、測定値と較正曲線データベースとの一致の度合いを確率で示すことにより、暦年代の推定値確率分布として表す。暦年較正プログラムは、国立歴史民俗博物館で作成したプログラムRHCal(OxCal Programに準じた方法)を用いている(今村2007)。統計誤差は2標準偏差に相当する、95％信頼限界で計算した。年代は、較正された西暦cal BCで示す。( )内は推定確率である。

引用・参考文献

青峰重範・吉永長則1953「アカホヤの構造」『九州大学農学部学芸雑誌』14-2、pp.257-264、九州大学農学部

今村峰雄2007「炭素14年代較正ソフトRHC3.2について」『国立歴史民俗博物館研究報告』第137集、pp.79-88、国立歴史民俗博物館

遠部　慎2009「第9章上黒岩遺跡の押型文土器の炭素14年代測定」『上黒岩遺跡の研究』pp.511-523、国立歴史民俗博物館

遠部　慎2015「南九州における押型文土器期の炭素14年代測定」『貝殻文と押型文』pp.91-104、宮崎県考古学会県南例会実行委員会

小林謙一編2017『縄紋時代の実年代』同成社

多田　仁2001「西四国の縄文時代遺跡」『西四国の縄文文化』pp.114-119、愛媛県立歴史文化博物館

兵頭勲編2017『久万高原町上黒岩岩陰遺跡出土遺物』愛媛県歴史文化博物館

松井健・西嶋輝之1969「久万盆地の音地火山灰層の噴出年代」『第四紀研究』23巻6号、p.263、日本第四紀学会

Reimer, Paula J.et al. 2004 IntCal04 Terrestrial Radiocarbon Age Calibration, 0-26 Cal Kyr BP Radiocarbon 46(3), 1029-1058(30).

Stuiver,M., Reimer,P.J., Bard,E., Beck,J.W., Burr,G.S., Hughen,K.A., Kromer,B., McCormac,F.G., v.d.Plicht,J., and Spurk,M. (1998): INTCAL98 radiocarbon age calibration, 24,000-0 cal BP. Radiocarbon,40(1), 1041-1083.

Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.

Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Haflidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J.(2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55(4), 1869-1887.

図1.2および表1.2　筆者作成

表11　高見Ⅱ遺跡遺構一覧

単位：m　（）：残存値

調査区	遺構名	平面形	長径	短径	深さ	長軸方向	出土遺物	備考	図番号	図版番号
1a区	集石		0.50	0.35	—				17	1
	SK-1	不明	2.52	—	0.84	N41° W	縄文土器7点、石器1点(11)、剥片3点、原礫1点		18	1
	SX-1	不整形	1.12	1.00	0.36	N45° W			19	
1b区	SK-2	不明	1.72	—	0.52		無文土器1点(12)		21	2
	SK-2	不明	0.22	—	0.10				22	
2区	SK-3	楕円形	3.98	1.90	0.90	N22° E	縄文土器14点(78)、磨石1点(79)、剥片11点、礫石器1点		45	巻頭2,3
	SK-4	楕円形	2.88	1.56	0.72	N28° E	無文土器1点、石器1点(80)、石核1点、剥片6点		46	
	SX-3	三角形	0.81	0.66	0.14	N34° W	無文土器4点		45	
	SX-4	不整形	1.02	0.88	0.20	N56° E	無文土器1点		45	
	SX-5	楕円形	0.86	0.35	0.07	N2° E	無文土器1点		47	
	SX-6	楕円形	0.88	0.42	0.12	N44° E	無文土器3点		47	
	SX-7	楕円形	(1.30)	0.64	0.20	N42° W	無文土器3点、二次加工剥片1点、剥片4点、原礫1点		48	
	SX-8	楕円形	(0.76)	0.62	0.24	N8° E			48	

表12　東峰遺跡第4地点2次遺構一覧

単位：m　（）：残存値

調査区	遺構名	平面形	長径	短径	深さ	長軸方向	出土遺物	備考	図番号	図版番号
1区	SK-1	不明	(1.90)	1.16	0.22	N35° W			80	4
	SK-2	楕円形	2.02	1.02	0.38	N74° E		SK-3を切る	81	4
	SK-3	楕円形	(2.46)	1.14	0.21	N12° W	無文土器2点	SK-2に切られる	81	4
2区	礫群		2.25	1.0	—				91	巻頭2
	SK-4	不整形	(2.00)	1.56	0.35	N7° W			96	

表13　高見Ⅱ遺跡1区掲載縄文土器深鉢一覧

法量：cm　（）：残存値　[ ]：復元値

掲載番号	遺物No.	地区	層位	部位	法量	成形・調整・文様	色調	焼成	○多量、○普通、△少量 内包物 石英	長石	雲母	他	遺構・グリッド	備考	図番号	図版番号
12	1	1b区	Ⅱ層	胴部	胴厚0.8	外ナデ 内ナデ	外.橙 内.橙	良	○	○		△	○ 片岩	SK-2	21	5
13	2	1b区	Ⅱ層	胴部	胴厚0.65～0.9	外ナデ 内ナデ	外.にぶい黄橙 内.灰黄褐	良	○	○		△		押型文(楕円式)	25	5
14	3	1a区	Ⅱ層	胴部	胴厚0.7	外ナデ 内ナデ	外.にぶい黄橙 内.にぶい黄橙	やや良	○	○		△			25	5
15	4	1a区	Ⅱ層	胴部	胴厚1.6～1.9	外ナデ 内ナデ・指頭圧痕	外.にぶい橙 内.にぶい褐	良	○	○	◎ 金雲	△			25	5
38	15	1a区	Ⅰ層	胴部	胴厚0.5	外.山形文 内ナデ	外.にぶい黄橙 内.にぶい黄橙	良	○	○				押型文(楕円式)	31	6

表14　高見Ⅱ遺跡1区掲載石器一覧

単位：cm、g

掲載番号	遺物No.	区	層位	器種	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺構・グリッド	備考	図番号	図版番号
1	2	1a区	Ⅱ層	ナイフ形石器	赤色珪質岩	1.64	0.97	0.36	0.5			13	5
2	3	1a区	Ⅱ層	石核	赤色珪質岩	7.46	3.16	1.56	32.3			13	5
3	4	1a区	Ⅱ層	石核	安山岩類	9.62	8.16	4.13	339.8			13	5
4	9	1b区	Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	2.19	4.61	1.12	9.8			13	5
5	10	1b区	Ⅱ層	剥片	サヌキトイド	2.39	4.51	0.86	7.9			13	2.5
6	50	1a区	Ⅱ層	礫石器	緑色片岩	(21.73)	6.00	2.51	(509.8)		欠損	14	5
7	53	1a区	Ⅱ層	敲石	緑色片岩	(16.2)	3.38	1.87	140.1			14	5
8	54	1a区	Ⅱ層	敲石	緑色片岩	(11.03)	4.51	1.37	(121.3)		欠損	14	5
9	55	1a区	Ⅱ層	敲石	緑色片岩	(12.10)	3.71	1.28	(85.4)		欠損	15	5
10	56	1a区	Ⅱ層	敲石	緑色片岩	(14.39)	3.93	2.07	(161.1)		欠損	15	5
11	70	1a区	Ⅱ層	石錘	黒曜石	(1.15)	1.32	0.28	(0.4)	SK-1	欠損	18	5
12	69	1a区	Ⅱ層	ナイフ形石器	サヌキトイド	(2.67)	0.77	0.38	(0.7)		欠損	25	5
13	71	1a区	Ⅱ層	石錐	黒曜石	1.51	1.52	0.40	0.7			25	5
14	72	1a区	Ⅱ層	石錐	赤色珪質岩	(1.66)	1.96	0.36	(1.2)		欠損	25	5
15	73	1a区	Ⅱ層	石錐	赤色珪質岩	2.11	1.46	0.47	1.1			25	5
16	74	1a区	Ⅱ層	石錐	赤色珪質岩	(1.71)	1.53	0.38	(1.2)		欠損	25	5
17	76	1a区	Ⅱ層	異形石器	黒曜石	1.22	1.57	0.29	0.4			25	1.5
18	77	1a区	Ⅱ層	石匙	サヌキトイド	2.61	3.10	0.55	3.7			25	1.5
19	78	1a区	Ⅱ層	スクレイパー	不明	8.28	4.85	1.62	68.1			25	5
20	79	1a区	Ⅱ層	楔形石器	不明	3.48	1.96	1.22	7.3			25	5
21	81	1b区	Ⅱ層	石核	赤色珪質岩	4.18	4.45	1.62	29.5			26	5
22	82	1b区	Ⅱ層	二次加工剥片	サヌキトイド	2.94	3.34	0.84	7.4			26	5
23	84	1b区	Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	3.39	3.05	0.87	9.3			26	5
24	85	1b区	Ⅱ層	剥片	チャート	2.42	1.71	0.70	2.5			26	5
25	135	1a区	Ⅱ層	礫石器	唐崎マイロナイト?	19.26	5.83	3.89	775.8			27	6
26	136	1a区	Ⅱ層	礫石器	緑色片岩	32.82	8.81	3.43	1610.0			28	1.6
27	137	1a区	Ⅱ層	礫石器	緑色片岩	14.30	1.25	1.32	38.1			29	6
28	138	1a区	Ⅱ層	礫石器	緑色片岩	(11.42)	4.43	1.49	(142.9)		欠損	29	6
29	142	1a区	Ⅱ層	凹石	唐崎マイロナイト	9.85	8.52	4.64	630.0			29	6
30	143	1a区	Ⅱ層	凹石	緑色片岩	(12.35)	(4.89)	1.48	(117.4)		欠損	30	6
31	145	1a区	Ⅱ層	凹石・敲石	緑色片岩	(9.99)	5.87	2.64	(24.4)		欠損	30	6
32	146	1a区	Ⅱ層	敲石	緑色片岩	(13.20)	5.05	1.58	(169.2)		欠損	30	6
33	147	1a区	Ⅱ層	敲石	緑色片岩	(11.82)	4.38	2.04	(150.6)		欠損	30	6
34	154	1a区	Ⅰ層	ナイフ形石器	サヌキトイド	12.82	5.00	2.18	107.4			31	6
35	198	1a区	表採	ナイフ形石器	サヌキトイド	4.15	1.67	0.61	3.7			31	6
36	155	1a区	Ⅰ層	ナイフ形石器	サヌキトイド	(2.01)	1.42	0.58	(1.4)		欠損	31	6
37	156	1a区	Ⅰ層	角錐状石器	サヌキトイド	3.46	1.41	1.00	3.8			31	6
38	157	1a区	Ⅰ層	石錐	サヌキトイド	1.00	1.51	0.36	0.5			32	7
39	158	1a区	Ⅰ層	石錐	サヌキトイド	1.47	1.43	0.28	0.5			32	7
40	159	1a区	Ⅰ層	石錐	赤色珪質岩	1.93	1.27	0.43	1.0			32	7
41	199	1a区	表採	石錐	赤色珪質岩	3.20	2.70	0.65	5.9			32	7
42	160	1a区	Ⅰ層	石錐	黒曜石	1.96	1.62	0.40	0.9			32	7
43	164	1a区	Ⅰ層	スクレイパー	サヌキトイド	6.45	2.71	0.92	15.7			32	7
44	165	1b区	Ⅰ層	スクレイパー	サヌキトイド	(6.24)	4.48	1.10	(28.5)		欠損	32	7
45	191	1a区	Ⅰ層	凹石	緑色片岩	13.83	7.30	2.92	387.9			33	7
46	192	1a区	Ⅰ層	凹石	緑色片岩	15.11	4.33	1.41	169.1			33	7
47	193	1b区	Ⅰ層	凹石	緑色片岩	17.87	6.25	1.80	313.6			33	7
48	196	1b区	Ⅰ層	敲石	緑色片岩	22.73	5.89	2.07	407.8			34	7
49	197	1b区	Ⅰ層	敲石	緑色片岩	(9.53)	7.74	2.06	(262.5)		欠損	34	7

表15　高見Ⅱ遺跡2区掲載縄文土器深鉢一覧

法量：cm　（）：残存値　[ ]：復元値　　◎多量、○普通、△少量

掲載番号	遺物No.	層位	部位	法量	成形・調整・文様	色調	焼成	内容物					遺構グリッド	備考	図番号	図版番号
								石英	長石	雲母	角閃	他				
55	19	Ⅲa層	胴部	器厚1.0	外:ナデ 内:ナデ	外:明黄褐 内:にぶい黄橙	良	○	○		△				39	8
56	20	Ⅲa層	胴部	器厚1.1～1.4	外:ナデ・指頭圧痕 内:ナデ・指頭圧痕	外:明黄褐 内:にぶい黄橙	良	○	○	○ 金雲	△				39	8
57	21	Ⅲa層	胴部	器厚1.2～1.3	外:ナデ・指頭圧痕 内:ナデ・指頭圧痕	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	○ 金雲	△		U18		39	8
58	22	Ⅲa層	胴部	器厚1.1～1.2	外:ナデ・指頭圧痕 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	○ 金雲	△				39	8
59	23	Ⅲa層	胴部	器厚1.4	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	やや良	○	○	△ 金雲	△		V18		39	8
60	24	Ⅲa層	胴部	器厚1.3～1.4	外:ナデ・指頭圧痕 内:ナデ・指頭圧痕	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○		○		U18		39	8
61	25	Ⅲa層	胴部	器厚1.0～1.2	外:ナデ・指頭圧痕 内:ナデ・指頭圧痕	外:明黄褐 内:にぶい黄橙	良	○	○	△ 金雲	△		U17		39	8
62	26	Ⅲa層	胴部	器厚1.1～1.2	外:ナデ・指頭圧痕 内:ナデ・指頭圧痕	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	◎ 金雲	△		U17		39	8
78	48	Ⅱb層	胴部	器厚0.8～0.9	外:条痕→ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:明黄褐	良	○	○	△ 金雲	○		SK-3		45	9
81	47	Ⅱa層	口縁部	器厚1.3～0.6	外:条痕→ナデ 内:条痕→ナデ 口輪部:沈線	外:にぶい黄橙 内:暗灰黄	良	○	○		△				51	3.9
84-1 84-2	49	Ⅱb層	胴部	器厚0.7～0.8	外:櫛円文 内:ナデ	外:にぶい橙 内:浅黄	良	○	○		△			押型文(撚糸式)	52	9
85	50	Ⅱb層	胴部	器厚0.7	外:櫛円文 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○				V17	押型文(撚糸式)	52	9
86	51	Ⅱb層	口縁部	器厚0.9～1.2	外:ナデ・指頭圧痕 内:ナデ・指頭圧痕	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	△ 金雲	△		U17		52	9
87	52	Ⅱb層	口縁部	器厚1.0～1.2	外:ナデ・指頭圧痕 内:ナデ・指頭圧痕	外:明黄褐 内:明黄褐	不良	○	○		△	△ 赤粒	U17		52	9
88	53	Ⅱb層	口縁部	器厚1.3～1.0	外:ナデ 内:ナデ・短沈線2条	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	やや良	○	○	○ 金雲	△		U17		52	9
89	54	Ⅱb層	口縁部	器厚1.2	外:ナデ 内:ナデ・短沈線	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○	△ 金雲	△				52	9
90	55	Ⅱb層	口縁部	器厚1.1	外:ナデ 内:ナデ・短沈線	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	△	△				52	10
91	56	Ⅱb層	胴部	器厚0.6	外:条痕→ナデ 内:条痕→ナデ	外:浅黄 内:浅黄	良	○	○		△	○ 片岩	V17		52	10
92	57	Ⅱb層	胴部	器厚1.0～1.3	外:ナデ・指頭圧痕 内:ナデ・指頭圧痕	外:にぶい黄橙 内:明黄褐	良	○	○	○ 金雲	△				52	10
93	58	Ⅱb層	胴部	器厚0.8～1.0	外:ナデ 内:ナデ	外:黄橙 内:黄橙	良	○	○	△ 金雲	△		V18		52	10
94	59	Ⅱb層	胴部	器厚1.2～1.4	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	やや良	○	○	△ 金雲	△				52	10
95	60	Ⅱb層	胴部	器厚1.0～1.2	外:ナデ 内:ナデ	外:明黄褐 内:にぶい黄褐	良	○	○	○ 金雲	△		W17		52	10
96	61	Ⅱb層	底部	底径[6.4]	外:ナデ 内:ナデ・条痕 底部:条痕	外:明褐 内:にぶい褐	良	○	○	◎ 金雲	○			羊山下層式併行	52	10
97	62	Ⅱb層	口縁部	器厚0.5	外:条痕 内:条痕	外:明黄褐 内:にぶい黄橙	良	○	○				W18	羽島下層式併行	53	10
98	63	Ⅱb層	胴部	器厚0.4～0.6	外:爪形文・ナデ 内:条痕→ナデ	外:灰黄褐 内:にぶい黄橙	良	○	○	△ 金雲	△			羽島下層式	53	10
99	64	Ⅱb層	胴部	器厚0.7	外:ミミズバレ 内:ナデ	外:明黄褐 内:明褐灰	良	○	○		△		U17	轟B式	53	10
100	65	Ⅱb層	胴部	器厚0.6～0.7	外:ミミズバレ・ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○		△			轟B式	53	10
101	66	Ⅱb層	胴部	器厚0.6～0.7	外:条痕 内:条痕	外:褐灰 内:にぶい黄橙	良	○	○		△	△ 赤粒			53	10
102	67	Ⅱb層	胴部	器厚0.5	外:撚糸文・沈線 内:条痕→ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	△ 金雲	◎	△ 赤粒			53	10
139	155	Ⅱc層	胴部	器厚0.6	外:櫛円文 内:ナデ	外:橙 内:にぶい黄橙	良	○	○		△		U17	押型文(撚糸式)	61	11
140	156	Ⅱc層	胴部	器厚0.5	外:櫛円文 内:ナデ	外:橙 内:にぶい黄橙	良	○	○		△		U18	押型文(撚糸式)	61	11
141	157	Ⅱc層	胴部	器厚0.5	外:櫛円文 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○		△		U18	押型文(撚糸式)	61	11
142	158	Ⅱc層	胴部	器厚1.2	外:櫛円文 内:ナデ	外:橙 内:にぶい褐	良	○	○	○ 金雲	△		U18	押型文(撚糸式)	61	11
143	159	Ⅱc層	胴部	器厚0.6	外:山形文 内:ナデ	外:明褐 内:にぶい褐	良	○	○	○ 金雲	△		U17	押型文	61	11
144	160	Ⅱc層	口縁部	器厚0.95	外:ナデ 内:ナデ・短沈線	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	やや良	○	○	△ 金雲					61	11
145	161	Ⅱc層	口縁部	器厚1.2～1.4	外:ナデ・指頭圧痕 内:ナデ・指頭圧痕・短沈線	外:橙 内:明赤褐	良	○	○	○ 金雲	△		U17		61	11

法量：cm　( )：現存値　[ ]：復元値　　◎多量、○普通、△少量

掲載番号	遺物No.	層位	部位	法量	成形・調整・文様	色調	焼成	内容物				他	遺構・グリッド	備考	図番号	図版番号
								石英	長石	雲母	角閃					
146	162	Ⅱc層	口縁部	器厚1.2～1.4	外:ナデ・指頭圧痕 内:ナデ・短沈線	外:にぶい黄橙 内:にぶい褐	良	○	○	○ 金雲	△		U17		61	11
147	163	Ⅱc層	口縁部	器厚1.2～1.4	外:ナデ・指頭圧痕 内:ナデ・指頭圧痕・短沈線	外:にぶい橙 内:にぶい橙	良	○	○	○ 金雲	△		U17		61	11
148	164	Ⅱc層	口縁部	器厚1.1～1.4	外:ナデ・指頭圧痕 内:ナデ・指頭圧痕・短沈線	外:橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	○ 金雲	△				61	11
149	165	Ⅱc層	口縁部	口径[24.0] 器厚1.2～1.4	外:ナデ・指頭圧痕 内:ナデ・指頭圧痕・短沈線	外:橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	◎ 金雲			U17		61	12
150	166	Ⅱc層	胴部	器厚0.9～1.1	外:ナデ・指頭圧痕 内:ナデ・指頭圧痕	外:明黄褐 内:にぶい黄橙	良	○	○		△				61	12
151	167	Ⅱc層	胴部	器厚1.0～1.1	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	○ 金雲	△		U17		61	12
152	168	Ⅱc層	胴部	器厚1.3～1.4	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい橙 内:明褐	良	○	○	△ 金雲	△				62	12
153	169	Ⅱc層	底部	底部最大径[9.6] 器厚1.2～1.5	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	やや良	○	○				U17		62	12
154	181	Ⅰ層	胴部	器厚0.9～1.2	外:ナデ・指頭圧痕 内:剥落	外:にぶい黄橙 内	良	○	○	△ 金雲	△		U16		65	12
155	182	Ⅰ層	底部	底径2.3 器厚0.6～0.8	外:ナデ 内:ナデ・指頭圧痕	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○				U17		65	12
156	183	Ⅰ層	胴部	器厚0.7	外:爪形文・ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄 内:にぶい黄橙	良	○	○	△ 金雲	△		U16	羽状下端式	65	12
157	184	Ⅰ層	口縁部	口径[22.4] 器厚1.5～0.7	外:条痕→ナデ 内:条痕→ナデ 口辺部:沈線	外:にぶい黄橙 内:明灰黄	良	○	○				U16		65	12

表16　高見Ⅱ遺跡2区掲載石器一覧

単位：cm、g

掲載番号	遺物No.	層位	器種	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺構・グリッド	備考	図番号	図版番号
63	204	Ⅲa層	ナイフ形石器	赤色珪質岩	4.18	1.39	0.63	3.8			39	8
64	205	Ⅲa層	ナイフ形石器	サヌキトイド	5.97	1.89	1.02	7.7	V17		39	8
65	206	Ⅲa層	模形石器	赤色珪質岩	4.31	1.84	0.98	7.6	V18		40	8
66	207	Ⅲa層	模形石器	赤色珪質岩	4.22	2.72	0.76	9.6			40	8
67	208	Ⅲa層	模形石器	赤色珪質岩	2.49	2.01	0.44	2.8	V18		40	8
68	209	Ⅲa層	石核	赤色珪質岩	5.40	3.20	1.78	22.4			40	8
69	210	Ⅲa層	石核	サヌキトイド	3.12	6.75	1.59	35.5			40	8
70	211	Ⅲa層	石核	赤色珪質岩	1.57	2.23	1.96	7.9	U18		40	8
71	239	Ⅲa層	礫石器	緑色片岩	(14.33)	4.54	2.48	(275.3)		欠損	41	8
72	240	Ⅲa層	礫石器	緑色片岩	(15.05)	4.06	2.52	(253.8)	V19	欠損	41	8
73	244	Ⅲa層	凹石	唐崎マイロナイト	12.67	6.34	4.28	380.0	U18		41	8
74	246	Ⅲa層	凹石・敲石	緑色片岩	(15.36)	5.34	1.79	(218.7)		欠損	42	8
75	247	Ⅲa層	敲石	緑色片岩	(10.29)	6.46	1.91	(246.7)		欠損	42	9
76	248	Ⅲa層	敲石	唐崎マイロナイト	(14.56)	4.04	3.51	(294.1)		欠損	42	9
77	252	Ⅲb層	敲石	緑色片岩	(12.01)	4.04	2.31	(187.7)		欠損	43	9
78	522	Ⅲb層	磨石	安山岩類	5.37	3.21	(3.79)	(71.4)	SK-3	欠損	45	9
80	260	Ⅲa層	石錘	安山岩類	2.81	2.11	0.59	2.5	SK-4(K面)		46	9
82	255	Ⅲa層	凹石	緑色片岩	15.84	5.86	1.60	216.7	V18		51	9
83	256	Ⅲa層	凹石・敲石	安山岩類	11.65	8.54	3.19	582.9	V18		51	9
103	257	Ⅲb層	ナイフ形石器	サヌキトイド	(1.96)	(1.25)	(0.86)	(1.5)	U17	欠損	54	10
104	261	Ⅲb層	石錐	黒曜石	(0.92)	1.21	0.27	(0.2)		欠損	54	10
105	262	Ⅲb層	石錐	黒曜石	(1.04)	(1.01)	0.22	(0.2)		欠損	54	10
106	263	Ⅲb層	石錐	黒曜石	1.57	(1.17)	0.35	(0.6)	V17	欠損	54	10
107	264	Ⅲb層	石錐	赤色珪質岩	1.61	1.86	0.52	1.3			54	10
108	265	Ⅲb層	石錐	赤色珪質岩	2.22	1.69	0.56	1.5			54	10
109	266	Ⅲb層	石錐	安山岩類	1.22	1.56	0.29	0.6	V18		54	10
110	267	Ⅲb層	石錐	サヌキトイド	(1.32)	(1.00)	0.28	(0.3)		欠損	54	10
111	268	Ⅲb層	石錐	サヌキトイド	(0.99)	1.32	0.24	(0.2)		欠損	54	10
112	269	Ⅲb層	石錐	サヌキトイド	1.77	(1.22)	0.20	(0.5)	U7	欠損	54	10
113	270	Ⅲb層	石錐	サヌキトイド	1.53	1.27	0.24	0.3			54	10
114	271	Ⅲb層	石錐	赤色珪質岩	1.85	1.46	0.40	1.0			54	10
115	272	Ⅲb層	石錐	チャート	1.39	(1.53)	0.35	(0.6)		欠損	54	10
116	273	Ⅲb層	石錐	サヌキトイド	1.52	1.25	0.40	0.5	W18		54	10
117	274	Ⅲb層	石錐	サヌキトイド	1.88	1.36	0.30	0.7			54	10
118	275	Ⅲb層	石錐	サヌキトイド	(2.14)	(1.53)	(0.65)	(1.6)		欠損	54	10
119	282	Ⅲb層	スクレイパー	サヌキトイド	5.03	7.40	1.34	62.2	U17		55	10
120	283	Ⅲb層	スクレイパー	安山岩類	(7.06)	6.78	1.90	(79.8)	U17	欠損	55	10
121	284	Ⅲb層	剥片	赤色珪質岩	3.38	2.32	0.68	4.9	V16		55	10
122	285	Ⅲb層	模形石器	赤色珪質岩	2.61	3.06	0.56	4.2			55	10

単位：cm、g

掲載番号	遺物No.	層位	器種	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺構・グリッド	備考	図番号	図版番号
123	286	Ⅱb層	楔形石器	赤色珪質岩	3.65	3.23	1.48	17.8	U17		55	10
124	287	Ⅱb層	楔形石器	サヌキトイド	3.24	3.06	0.73	7.3	U18		55	10
125	288	Ⅱb層	楔形石器	珪質片岩	3.15	1.50	0.66	3.1	V18		55	10
126	290	Ⅱb層	石核	安山岩類	5.45	10.31	10.53	695.1			56	3.10
127	295	Ⅱb層	二次加工剥片	サヌキトイド	3.31	2.27	0.61	4.3	V17		56	10
128	500	Ⅱb層	礫石器	緑色片岩	(15.14)	4.45	1.99	(216.7)	V17	欠損	56	11
129	501	Ⅱb層	礫石器	唐崎マイロナイト	(15.73)	5.34	3.67	(549.3)		欠損	57	11
130	515	Ⅱb層	凹石	緑色片岩	9.90	5.15	2.28	123.5			57	11
131	516	Ⅱb層	凹石	緑色片岩	15.38	5.33	2.79	402.0			58	11
132	517	Ⅱb層	凹石	緑色片岩	13.89	6.47	2.59	455.0			58	11
133	518	Ⅱb層	凹石・敲石	緑色片岩	(13.63)	(4.92)	1.84	(188.0)		欠損	59	11
134	519	Ⅱb層	凹石・敲石	緑色片岩	14.86	3.87	1.86	154.9			59	11
135	520	Ⅱb層	凹石・敲石	緑色片岩	12.58	8.29	3.45	550.1			59	11
136	521	Ⅱb層	凹石・敲石	唐崎マイロナイト	13.75	9.34	3.09	600.0	U18		60	11
137	523	Ⅱb層	磨石	不明	7.84	5.81	4.11	267.0	U17		60	11
138	524	Ⅱb層	磨石	安山岩類	5.02	4.08	2.68	66.3			60	11
154	525	Ⅱc層	ナイフ形石器	サヌキトイド	(1.89)	(1.30)	(0.62)	(1.3)		欠損	62	12
155	526	Ⅱc層	角錐状石器	赤色珪質岩	4.39	1.73	0.79	6.3	U17		62	12
156	527	Ⅱc層	石鏃	赤色珪質岩	1.28	1.32	0.20	0.3			62	12
157	528	Ⅱc層	石鏃	サヌキトイド	(1.14)	1.21	0.21	(0.4)		欠損	62	12
158	530	Ⅱc層	スクレイパー	チャート	(5.80)	(2.78)	0.61	(9.7)		欠損	62	12
159	531	Ⅱc層	錐状石器	赤色珪質岩	2.73	1.26	0.50	1.2	W19		62	12
160	567	Ⅱc層	礫石器	緑色片岩	20.47	3.47	1.74	174.9	U18		63	12
161	572	Ⅱc層	凹石	緑色片岩	(9.74)	7.11	1.56	(187.9)	U18	欠損	63	12
162	573	Ⅱc層	凹石	緑色片岩	(13.72)	6.66	2.12	(379.1)	V18	欠損	63	12
163	574	Ⅱc層	凹石	緑色片岩	15.11	4.76	2.33	270.0			64	12
164	575	Ⅱc層	凹石	唐崎マイロナイト	6.25	6.58	0.87	50.3	V18		64	12
165	577	Ⅱc層	凹石・敲石	緑色片岩	17.94	4.00	2.06	264.9	V19		64	12
166	578	Ⅱc層	敲石	緑色片岩	(10.07)	4.24	1.31	(97.5)	V18	欠損	64	12
167	579	Ⅱc層	敲石	緑色片岩	(7.62)	(5.75)	(2.13)	(119.6)	U18	欠損	64	12
172	581	Ⅰ層	角錐状石器	サヌキトイド	(3.64)	1.86	0.82	(6.4)	V17	欠損	66	13
173	582	Ⅰ層	石鏃	赤色珪質岩	2.67	2.30	0.52	2.6			66	13
174	627	表採	石鏃	サヌキトイド	1.67	1.38	0.30	0.5			66	13
175	628	表採	石鏃	サヌキトイド	(3.45)	(2.05)	0.58	(3.6)		欠損	66	13
176	583	Ⅰ層	石鏃	サヌキトイド	(1.76)	1.53	0.40	(0.9)	W18	欠損	66	13
177	584	Ⅰ層	石鏃	安山岩類	(1.57)	1.33	0.34	(0.5)	V18	欠損	66	13
178	585	Ⅰ層	石鏃	黒曜石	1.96	(0.93)	0.31	(0.4)	V18	欠損	66	13
179	629	表採	石鏃	黒曜石	(1.02)	(1.30)	0.26	(0.4)		欠損	66	13
180	586	Ⅰ層	石鏃	サヌキトイド	0.88	(1.13)	0.26	(0.3)		欠損	66	13
181	591	Ⅰ層	スクレイパー	赤色珪質岩	7.80	2.31	0.75	15.4	W18		66	13
182	637	表採	磨製石斧	緑色片岩	7.55	4.25	1.26	63.1			66	13
183	613	Ⅰ層	凹石	緑色片岩	20.23	5.32	1.78	341.7	V15		67	13
184	614	Ⅰ層	凹石	緑色片岩	(13.22)	5.48	1.75	(171.3)	W19	欠損	67	13
185	615	Ⅰ層	凹石	緑色片岩	(12.41)	5.13	2.38	(269.9)	U17	欠損	68	13
186	616	Ⅰ層	凹石	唐崎マイロナイト	(11.78)	4.87	2.29	(211.4)	X19	欠損	68	13
187	621	Ⅰ層	凹石・敲石	緑色片岩	(13.57)	4.77	2.05	(205.7)	V15	欠損	68	13
188	622	Ⅰ層	凹石・敲石	緑色片岩	(10.67)	5.64	1.94	(191.6)		欠損	69	13
189	623	Ⅰ層	敲石	緑色片岩	17.17	7.27	2.37	478.2			69	13
190	624	Ⅰ層	敲石	唐崎マイロナイト	10.07	9.95	1.55	257.9	V17		70	13
191	625	Ⅰ層	敲石	安山岩類	15.07	8.01	4.16	674.1	U16		70	13

表17　東峰遺跡第4地点2次1区掲載縄文土器深鉢一覧

法量：cm　( )：残存値　[ ]：復元値　　○多量、○普通、△少量

掲載番号	遺物No.	層位	部位	法量	成形・調整・文様	色調	焼成	内容物					遺構・グリッド	備考	図番号	図版番号
								石英	長石	雲母	角閃	他				
196	202	Ⅱ層	胴部	器厚1.2	外:ナデ・指頭圧痕 内:ナデ・指頭圧痕	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	○ 金雲	△				83	14

表18　東峰遺跡第4地点2次1区掲載石器一覧

単位：cm、g

掲載番号	遺物No.	層位	器種	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺構・グリッド	備考	図番号	図版番号
192	640	Ⅱ層	ナイフ形石器	赤色珪質岩	4.28	2.22	0.78	7.0			78	14
193	641	Ⅱ層	角錐状石器	赤色珪質岩	5.25	2.41	1.18	11.6			78	14
194	642	Ⅱ層	台形(楕)石器	赤色珪質岩	2.07	2.72	0.48	2.3	G-2		78	14
195	643	Ⅱ層	二次加工剥片	赤色珪質岩	1.51	2.04	0.55	1.6			78	14
197	647	Ⅱ層	石錐	赤色珪質岩	(2.11)	(1.53)	0.43	(1.5)		欠損	83	14
198	648	Ⅱ層	石錐	サヌキトイド	(1.69)	(1.30)	0.23	(0.6)		欠損	83	14
199	649	Ⅱ層	石錐	黒曜石	1.36	(1.24)	0.30	(0.4)		欠損	83	14
200	650	Ⅱ層	石核	赤色珪質岩	3.24	4.61	2.64	44.2			84	14
201	659	Ⅱ層	凹石	緑色片岩	11.46	3.07	1.56	64.5			84	14
202	660	Ⅰ層	ナイフ形石器	赤色珪質岩	5.43	2.38	0.89	13.0	F-2		85	14
203	661	Ⅰ層	ナイフ形石器	赤色珪質岩	[4.48]	1.92	0.75	(7.9)		欠損	85	14
204	662	Ⅰ層	石錐	チャート	(1.68)	1.98	0.43	(1.4)		欠損	85	14
205	663	Ⅰ層	垂飾品	緑色片岩	5.55	4.50	0.56	24.7			85	14

表19　東峰遺跡第4地点2次2区掲載縄文土器深鉢一覧

法量：cm　( )：残存値　[ ]：復元値　　○多量、○普通、△少量

掲載番号	遺物No.	層位	部位	法量	成形・調整・文様	色調	焼成	内容物					遺構・グリッド	備考	図番号	図版番号
								石英	長石	雲母	角閃	他				
210	206	Ⅱ層	口縁部付近	器厚0.8	外:条痕・指頭圧痕・ナデ 内:ナデ、短沈線	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○		△	△ 片岩			98	15
211	207	Ⅱ層	胴部	器厚1.1～1.6	外:ナデ・指頭圧痕 内:ナデ・指頭圧痕	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	やや良	○	○	○ 金雲	△				98	15
212	208	Ⅱ層	口縁部付近	器厚0.7～1.0	外:突帯・条痕→ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:灰黄橙	良	○	○		△				98	15
213	209	Ⅱ層	胴部	器厚0.6	外:竹管文・ナデ 内:条痕	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	△ 金雲	△	△ 赤粒	N-10	羽島下層式	98	15
214	210	Ⅱ層	胴部	体部最大径32.8 器厚0.5～0.7	外:竹管文・ナデ 内:条痕→ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	△	○			羽島下層式	98	4.15
223	227	撹乱	胴部	器厚1.1～1.3	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	○ 金雲	△		C-2		101	15

表20　東峰遺跡第4地点2次2区掲載石器一覧

単位：cm、g

掲載番号	遺物No.	層位	器種	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺構・グリッド	備考	図番号	図版番号
206	670	Ⅱ層	ナイフ形石器	サヌキトイド	(5.04)	1.89	0.75	(5.9)		欠損	93	4.15
207	671	Ⅱ層	楔様加工痕剥片	赤色珪質岩	(2.58)	0.98	0.32	(0.9)		欠損	93	15
208	683	Ⅱ層上面	ナイフ形石器	サヌキトイド	5.08	1.24	0.79	5.3			94	15
209	684	Ⅱ層上面	ナイフ形石器	サヌキトイド	2.54	1.54	0.55	2.2	M-11		94	15
215	687	Ⅱ層	石錐	サヌキトイド	1.21	(1.05)	0.33	(0.4)		欠損	98	15
216	688	Ⅱ層	石錐	サヌキトイド	2.42	1.94	0.40	1.6			98	15
217	689	Ⅱ層	石錐	サヌキトイド	2.31	1.30	0.45	0.9			98	15
218	730	Ⅱ層	礫石器	緑色片岩	(8.92)	2.16	2.06	(71.8)		欠損	99	15
219	733	Ⅱ層	凹石・敲石	緑色片岩	(15.30)	6.54	2.17	(366.2)		欠損	99	15
220	734	Ⅱ層	凹石・敲石	緑色片岩	19.29	5.88	1.55	294.0			99	15
221	692	Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	1.80	3.20	1.00	4.1		222(No.693)と接合	100	15
222	693	Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	2.50	4.50	1.30	11.9	N-10	221(No.692)と接合	100	15
224	736	Ⅰ層	石錐	黒曜石	(1.44)	(1.29)	0.28	(0.5)	M-11	欠損	101	15
225	738	Ⅰ層	石核	赤色珪質岩	3.50	2.54	1.44	18.0			101	15
226	739	Ⅰ層	剥片	赤色珪質岩	1.91	4.50	0.67	6.5			101	15
227	747	Ⅰ層	凹石・敲石	不明	12.52	11.80	3.71	862.1	M-8		102	15

表21　高見Ⅱ遺跡1区縄文土器深鉢一覧

法量：cm　（）：残存値　［］：復元値　　◎多量，○普通，△少量

遺物No.	掲載番号	地区	層位	部位	法量	成形・調整・文様	色調	焼成	内容物 石英	内容物 長石	内容物 雲母	内容物 角閃	内容物 他	遺構グリッド	備考	図番号	図版番号
1	12	1b区	Ⅱ層	胴部	器厚0.8	外:ナデ 内:ナデ	外:橙 内:橙	良	○	○		△	○ 片岩	SK-2		21	5
2	13	1b区	Ⅱ層	胴部	器厚0.65～0.9	外:山形文・ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:灰黄褐	良	○	○		△			押型文(楕島式)	25	5
3	14	1a区	Ⅱ層	胴部	器厚0.7	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	やや良	○	○		△				25	5
4	15	1a区	Ⅱ層	胴部	器厚1.6～1.9	外:ナデ 内:ナデ・指頭圧痕	外:にぶい橙 内:にぶい褐	良	○	○	◎ 金雲	△				25	5
5		1a区	Ⅱ層	胴部	器厚0.8	外:ナデ・指頭圧痕 内:ナデ・指頭圧痕	外:明黄褐 内:にぶい黄橙	良	○	◎	△ 金雲			SK-1			
6		1a区	Ⅱ層	胴部	器厚0.7	外:ナデ・指頭圧痕 内:ナデ・指頭圧痕	外:黄褐 内:黄褐	良	○	◎				SK-1			
7		1a区	Ⅱ層	胴部	器厚0.9	外:ナデ 内:ナデ	外:灰黄褐 内:にぶい黄橙	良	○	◎				SK-1			
8		1a区	Ⅱ層	胴部	器厚0.6	外: 内:ナデ	外:黄褐 内:明黄褐	良	○	◎				SK-1			
9		1a区	Ⅱ層	胴部	器厚1.1	外: 内:ナデ・指頭圧痕	外:褐 内:にぶい黄褐	良	◎	◎							
10		1a区	Ⅱ層	胴部	器厚0.7	外:ナデ 内:ナデ・指頭圧痕	外:にぶい橙 内:にぶい橙	良	○	○	△ 金雲		○ 片岩				
11		1a区	Ⅱ層	胴部	器厚0.6	外:ナデ 内:ナデ	外:橙 内:黄橙	良	○	◎							
12		1a区	Ⅱ層	胴部	器厚1.0	外: 内:ナデ	外:淡黄 内:にぶい黄橙	良	○	◎	△ 金雲						
13		1a区	Ⅱ層	胴部	器厚1.0	外:条痕→ナデ 内:ナデ	外:黄褐 内:黄褐	良	○	○	△ 金雲						
14		1b区	Ⅱ層	胴部	器厚0.7	外:ナデ 内:	外:にぶい黄褐 内:にぶい黄橙	良	○	○	△ 金雲						
15	38	1a区	Ⅰ層	胴部	器厚0.5	外:山形文 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○					押型文(楕島式)	31	6
16		1a区	Ⅰ層	胴部	器厚1.1	外:ナデ 内:ナデ	外:褐 内:にぶい褐	良	○	◎	△ 金雲	△					
17		1b区	Ⅰ層	胴部	器厚1.1	外:ナデ・指頭圧痕 内:	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○							
18		1a区	表採	胴部	器厚0.8	外: 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○							

表22　高見Ⅱ遺跡1区石器一覧

単位：cm、g

遺物No.	掲載番号	区	層位	器種	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺構・グリッド	備考	図番号	図版番号
1		1a区	Ⅳ層	剥片	赤色珪質岩	1.0	0.7	0.1	0.1			11	7
2	1	1a区	Ⅲ層	ナイフ形石器	赤色珪質岩	1.64	0.97	0.36	0.5			13	5
3	2	1a区	Ⅲ層	石核	赤色珪質岩	7.46	3.16	1.56	32.3			13	5
4	3	1a区	Ⅲ層	石核	安山岩類	9.62	8.16	4.13	339.8			13	5
5		1a区	Ⅲ層	石核	赤色珪質岩	2.7	3.2	1.1	7.8				
6		1a区	Ⅲ層	石核	赤色珪質岩	4.0	4.7	1.3	27.5				
7		1a区	Ⅲ層	石核	赤色珪質岩	3.3	3.5	0.7	7.7				
8		1a区	Ⅲ層	石核	サヌキトイド	4.5	3.3	2.3	10.4				
9	4	1b区	Ⅲ層	剥片	赤色珪質岩	2.19	4.61	1.12	9.8			13	5
10	5	1b区	Ⅲ層	剥片	サヌキトイド	2.39	4.51	0.86	7.9			13	2.5
11		1a区	Ⅲ層	剥片	赤色珪質岩	1.1	0.5	0.2	0.1				
12		1a区	Ⅲ層	剥片	赤色珪質岩	1.8	1.9	0.5	1.5				
13		1a区	Ⅲ層	剥片	赤色珪質岩	2.5	2.6	0.7	2.4				
14		1a区	Ⅲ層	剥片	赤色珪質岩	1.4	1.2	0.9	1.5				
15		1a区	Ⅲ層	剥片	赤色珪質岩	2.5	5.1	0.8	6.6				
16		1a区	Ⅲ層	剥片	赤色珪質岩	0.7	1.1	0.1	0.1				
17		1a区	Ⅲ層	剥片	赤色珪質岩	2.4	3.8	0.6	6.1				
18		1a区	Ⅲ層	剥片	赤色珪質岩	1.5	0.9	0.2	0.3				
19		1a区	Ⅲ層	剥片	赤色珪質岩	1.1	1.6	0.5	0.6				
20		1a区	Ⅲ層	剥片	赤色珪質岩	3.7	2.6	0.7	7.9				
21		1a区	Ⅲ層	剥片	赤色珪質岩	2.8	2.8	0.7	5.8				
22		1a区	Ⅲ層	剥片	赤色珪質岩	1.0	1.4	0.3	0.5				
23		1a区	Ⅲ層	剥片	赤色珪質岩	2.5	2.4	0.5	2.6				
24		1a区	Ⅲ層	剥片	赤色珪質岩	0.7	0.6	0.2	0.1				
25		1a区	Ⅲ層	剥片	赤色珪質岩	5.5	6.1	1.1	25.2				
26		1a区	Ⅲ層	剥片	赤色珪質岩	3.0	1.7	0.6	2.7				
27		1a区	Ⅲ層	剥片	赤色珪質岩	1.0	2.3	0.2	0.5				
28		1a区	Ⅲ層	剥片	赤色珪質岩	1.2	1.7	0.8	1.6				
29		1a区	Ⅲ層	剥片	赤色珪質岩	0.7	0.5	0.1	0.1				
30		1a区	Ⅲ層	剥片	赤色珪質岩	0.9	0.9	0.2	0.1				
31		1a区	Ⅲ層	剥片	赤色珪質岩	2.0	2.4	0.3	1.6				
32		1a区	Ⅲ層	剥片	赤色珪質岩	1.5	0.7	0.2	0.3				
33		1a区	Ⅲ層	剥片	赤色珪質岩	1.6	1.2	0.6	0.8				
34		1a区	Ⅲ層	剥片	赤色珪質岩	1.1	1.2	0.4	0.4				
35		1a区	Ⅲ層	剥片	サヌキトイド	3.5	3.0	0.9	44.6				
36		1a区	Ⅲ層	剥片	サヌキトイド	4.0	5.5	1.2	15.3				
37		1a区	Ⅲ層	剥片	サヌキトイド	3.9	3.0	0.5	3.5				
38		1a区	Ⅲ層	剥片	サヌキトイド	1.3	1.5	0.3	0.5				
39		1a区	Ⅲ層	剥片	サヌキトイド	2.0	1.7	0.4	1.1				
40		1a区	Ⅲ層	剥片	サヌキトイド	2.8	2.0	0.5	2.2				
41		1a区	Ⅲ層	剥片	サヌキトイド	3.1	2.0	0.4	1.6				
42		1a区	Ⅲ層	剥片	サヌキトイド	2.9	3.0	0.6	4.8				
43		1a区	Ⅲ層	剥片	安山岩類	3.0	1.9	0.4	1.5				
44		1a区	Ⅲ層	剥片	珪質岩	2.3	1.2	0.3	0.7				
45		1a区	Ⅲ層	剥片	チャート	1.1	1.3	0.3	0.4				
46		1a区	Ⅲ層	剥片	安山岩類	1.2	1.0	0.3	0.1				
47		1a区	Ⅲ層	剥片	緑色片岩	1.1	1.5	0.2	0.4				
48		1b区	Ⅲ層	剥片	赤色珪質岩	2.0	2.5	0.4	1.8				
49		1b区	Ⅲ層	剥片	チャート	2.8	1.4	0.6	2.4				
50	6	1a区	Ⅲ層	礫石器	緑色片岩	(21.73)	6.00	2.51	(509.8)		欠損	14	5
51		1a区	Ⅲ層	礫石器	緑色片岩	(8.6)	(3.3)	(1.7)	(78.3)		欠損		
52		1a区	Ⅲ層	礫石器	緑色片岩	(8.2)	4.8	1.2	(96.0)		欠損		
53	7	1a区	Ⅲ層	敲石	緑色片岩	16.26	3.38	1.87	140.1			14	5
54	8	1a区	Ⅲ層	敲石	緑色片岩	(11.03)	4.51	1.37	(121.3)		欠損	14	5
55	9	1a区	Ⅲ層	敲石	緑色片岩	(12.10)	3.71	1.28	(85.4)		欠損	15	5
56	10	1a区	Ⅲ層	敲石	緑色片岩	(14.39)	3.93	2.07	(161.1)		欠損	15	5
57		1a区	Ⅲ層	原礫	緑色片岩	19.0	4.2	1.6	203.4				
58		1a区	Ⅲ層	原礫	緑色片岩	24.3	4.5	3.3	599.6				
59		1a区	Ⅲ層	原礫	緑色片岩	16.7	3.2	2.0	176.2				
60		1a区	Ⅲ層	原礫	緑色片岩	17.7	3.8	1.9	170.5				
61		1a区	Ⅲ層	原礫	緑色片岩	13.8	3.0	1.5	78.0				
62		1a区	Ⅲ層	原礫	緑色片岩	(12.0)	4.0	2.9	(280.6)		欠損		
63		1a区	Ⅲ層	原礫	蛇紋岩	9.2	6.5	3.1	177.5				
64		1a区	Ⅲ層	原礫	サヌキトイド	2.9	5.2	2.4	47.5				
65		1a区	Ⅲ層上面	二次加工剥片	安山岩類	3.3	6.2	0.9	2.8				
66		1a区	Ⅲ層上面	剥片	赤色珪質岩	1.9	0.9	0.4	0.6				
67		1a区	Ⅲ層上面	礫石器	緑色片岩	(13.9)	4.3	(0.9)	(90.0)		欠損		
68		1a区	Ⅲ層上面	原礫	緑色片岩	(8.7)	(3.8)	(0.8)	(38.7)		欠損		
69	16	1a区	Ⅱ層	ナイフ形石器	サヌキトイド	(2.67)	0.77	0.38	(0.7)		欠損	25	5
70	11	1a区	Ⅱ層	石鏃	黒曜石	(1.15)	1.32	0.28	(0.4)	SK-1	欠損	18	5
71	17	1a区	Ⅱ層	石鏃	黒曜石	1.51	1.52	0.40	0.7			25	5
72	18	1a区	Ⅱ層	石鏃	赤色珪質岩	(1.66)	1.96	0.36	(1.2)		欠損	25	5
73	19	1a区	Ⅱ層	石鏃	赤色珪質岩	2.11	1.46	0.47	1.1			25	5
74	20	1a区	Ⅱ層	石鏃	赤色珪質岩	(1.71)	1.53	0.38	(1.2)		欠損	25	5

単位：cm、g

遺物No.	掲載番号	区	層位	器種	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺構・グリッド	備考	図番号	図版番号
75		1a区	Ⅱ層	石鏃	サヌカトイド	(1.3)	1.3	0.3	(0.3)		欠損		
76	21	1a区	Ⅱ層	打製石鏃	黒曜石	1.22	1.57	0.29	0.4			25	1.5
77	22	1a区	Ⅱ層	石鏃	サヌカトイド	2.61	3.10	0.55	3.7			25	1.5
78	23	1a区	Ⅱ層	スクレイパー	不明	8.28	4.85	1.62	68.1			25	5
79	24	1a区	Ⅱ層	楔形石器	不明	3.48	1.96	1.22	7.3			25	5
80		1a区	Ⅱ層	石核	安山岩類	7.6	9.2	2.1	155.3				
81	25	1b区	Ⅱ層	石核	赤色珪質岩	4.18	4.45	1.62	29.5			26	5
82	26	1b区	Ⅱ層	二次加工剥片	サヌカトイド	2.94	3.34	0.84	7.4			26	5
83		1a区	Ⅱ層	二次加工剥片	赤色珪質岩	1.7	2.5	0.5	2.7				
84	27	1b区	Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	3.39	3.05	0.87	9.3			26	5
85	28	1b区	Ⅱ層	剥片	チャート	2.42	1.71	0.70	2.5			26	5
86		1a区	Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	1.8	2.3	0.3	0.7				
87		1a区	Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	1.9	1.8	0.3	1.4				
88		1a区	Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	2.9	3.0	1.4	9.2				
89		1a区	Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	2.9	2.0	0.9	6.1				
90		1a区	Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	2.5	3.6	0.8	5.5				
91		1a区	Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	1.2	2.6	0.3	0.8				
92		1a区	Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	0.8	0.6	0.2	0.1				
93		1a区	Ⅱ層	剥片	安山岩類	0.8	0.7	0.3	0.1				
94		1a区	Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	2.8	2.3	0.4	2.6				
95		1a区	Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	2.5	2.6	0.5	3.1				
96		1a区	Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	1.6	2.6	0.5	2.5				
97		1a区	Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	1.4	2.6	0.3	0.8				
98		1a区	Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	1.7	1.7	0.4	1.1				
99		1a区	Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	1.8	4.7	1.0	7.8	SK-1			
100		1a区	Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	2.6	2.8	0.6	4.6				
101		1a区	Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	1.8	2.3	0.4	1.8				
102		1a区	Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	2.3	2.0	0.2	1.0				
103		1a区	Ⅱ層	剥片	サヌカトイド	1.7	2.3	0.6	2.1				
104		1a区	Ⅱ層	剥片	サヌカトイド	2.1	1.6	0.2	0.6				
105		1a区	Ⅱ層	剥片	サヌカトイド	1.7	2.4	0.6	2.4				
106		1a区	Ⅱ層	剥片	サヌカトイド	1.6	2.2	0.5	1.6				
107		1a区	Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	0.8	0.9	0.1	0.1				
108		1a区	Ⅱ層	剥片	チャート	0.6	1.1	0.1	0.1				
109		1a区	Ⅱ層	剥片	サヌカトイド	1.6	1.8	0.2	0.6				
110		1a区	Ⅱ層	剥片	サヌカトイド	1.6	2.3	0.5	1.6				
111		1a区	Ⅱ層	剥片	サヌカトイド	1.1	1.7	0.3	0.4				
112		1a区	Ⅱ層	剥片	サヌカトイド	2.2	4.7	0.6	4.1				
113		1a区	Ⅱ層	剥片	安山岩類	3.3	1.3	0.3	1.5				
114		1a区	Ⅱ層	剥片	安山岩類	1.7	2.2	0.5	0.6				
115		1a区	Ⅱ層	剥片	安山岩類	1.7	3.8	0.8	3.5				
116		1a区	Ⅱ層	剥片	安山岩類	3.7	8.2	1.3	30.3				
117		1a区	Ⅱ層	剥片	安山岩類	2.0	2.6	0.7	2.3				
118		1a区	Ⅱ層	剥片	安山岩類	2.3	2.5	0.6	2.4	SK-1			
119		1a区	Ⅱ層	剥片	安山岩類	2.5	2.5	0.6	3.4				
120		1a区	Ⅱ層	剥片	安山岩類	2.0	3.8	0.5	13.8				
121		1a区	Ⅱ層	剥片	安山岩類	2.5	2.6	0.3	1.4				
122		1a区	Ⅱ層	剥片	安山岩類	1.5	3.4	0.8	3.2				
123		1a区	Ⅱ層	剥片	安山岩類	1.7	2.0	0.3	1.6				
124		1a区	Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	1.7	2.4	0.3	1.2				
125		1a区	Ⅱ層	剥片	安山岩類	2.0	2.5	0.7	3.4		被熱		
126		1a区	Ⅱ層	剥片	安山岩類	4.4	7.2	1.8	44.7				
127		1a区	Ⅱ層	剥片	安山岩類	5.5	7.8	1.0	26.6				
128		1a区	Ⅱ層	剥片	安山岩類	1.1	1.6	0.2	0.3				
129		1a区	Ⅱ層	剥片	灰白色珪質岩	3.3	2.1	0.6	3.7	SK-1			
130		1a区	Ⅱ層	剥片	緑色片岩	2.0	0.9	0.3	0.7				
131		1b区	Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	2.4	2.3	1.0	4.0				
132		1b区	Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	2.0	2.8	0.9	3.4				
133		1b区	Ⅱ層	剥片	サヌカトイド	3.3	3.0	0.5	2.7				
134		1b区	Ⅱ層	剥片	安山岩類	2.7	4.5	1.2	10.5				
135	29	1a区	Ⅱ層	礫石器	凝崎マイロナイト?	19.26	5.83	3.89	775.8			27	6
136	30	1a区	Ⅱ層	礫石器	緑色片岩	32.82	8.81	3.43	1610.0			28	1.6
137	31	1a区	Ⅱ層	礫石器	緑色片岩	14.30	1.25	1.32	38.1			29	6
138	32	1a区	Ⅱ層	礫石器	緑色片岩	(11.42)	4.43	1.49	(142.9)		欠損	29	6
139		1a区	Ⅱ層	礫石器	緑色片岩	(8.4)	4.0	1.8	(99.5)		欠損		
140		1a区	Ⅱ層	礫石器	緑色片岩	(12.6)	4.1	1.3	(108.5)		欠損		
141		1a区	Ⅱ層	礫石器	緑色片岩	(12.4)	4.1	1.8	(167.6)		欠損		
142	33	1a区	Ⅱ層	凹石	凝崎マイロナイト	9.85	8.52	4.64	630.0			29	6
143	34	1a区	Ⅱ層	凹石	緑色片岩	(12.35)	(4.80)	1.48	(117.4)		欠損	30	6
144		1a区	Ⅱ層	凹石?	安山岩類	6.4	10.7	3.0	198.0				
145	35	1a区	Ⅱ層	凹石・敲石	緑色片岩	(9.99)	5.87	2.64	(24.4)		欠損	30	6
146	36	1a区	Ⅱ層	敲石	緑色片岩	(13.20)	5.05	1.58	(169.2)		欠損	30	6
147	37	1a区	Ⅱ層	敲石	緑色片岩	(11.82)	4.38	2.04	(150.6)		欠損	30	6
148		1a区	Ⅱ層	磨礫	緑色片岩	(10.7)	5.0	2.0	(193.0)		欠損		
149		1a区	Ⅱ層	磨礫	緑色片岩	8.9	3.6	2.1	78.7				

単位：cm、g

遺物No.	掲載番号	区	層位	器種	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺構・グリッド	備考	図番号	図版番号
150		1a区	Ⅱ層	原礫	緑色片岩	(11.0)	5.3	2.2	(155.3)		欠損		
151		1a区	Ⅱ層	原礫	緑色片岩	(8.5)	3.6	1.0	(47.4)	SK-1	欠損		
152		1a区	Ⅱ層	原礫	緑色片岩	(9.3)	(4.1)	1.2	(85.3)		欠損		
153		1a区	Ⅱ層	原礫	安山岩類	7.8	9.2	3.9	378.8				
154	39	1a区	Ⅰ層	ナイフ形石器	サヌキトイド	12.82	5.00	2.18	107.4			31	6
155	41	1a区	Ⅰ層	ナイフ形石器	サヌキトイド	(2.01)	1.42	0.58	(1.4)		欠損	31	6
156	42	1a区	Ⅰ層	角錐状石器	サヌキトイド	3.46	1.41	1.00	3.8			31	6
157	43	1a区	Ⅰ層	石鏃	サヌキトイド	1.00	1.51	0.36	0.5			32	7
158	44	1a区	Ⅰ層	石鏃	サヌキトイド	1.47	1.43	0.28	0.5			32	7
159	45	1a区	Ⅰ層	石鏃	赤色珪質岩	1.93	1.27	0.43	1.0			32	7
160	47	1a区	Ⅰ層	石鏃	黒曜石	1.96	1.62	0.40	0.9			32	7
161		1a区	Ⅰ層	石鏃	赤色珪質岩	2.5	2.9	0.5	3.3				
162		1a区	Ⅰ層	石鏃	赤色珪質岩	4.2	3.0	1.0	13.5				
163		1a区	Ⅰ層	石鏃	チャート	(1.4)	(1.4)	0.4	(0.6)		欠損		
164	48	1a区	Ⅰ層	スクレイパー	サヌキトイド	6.45	2.71	0.92	15.7			32	7
165	49	1b区	Ⅰ層	スクレイパー	サヌキトイド	(6.24)	4.48	1.10	(28.5)		欠損	32	7
166		1a区	Ⅰ層	楔形石器	赤色珪質岩	1.9	2.5	0.7	3.4				
167		1a区	Ⅰ層	楔形石器	赤色珪質岩	3.0	3.0	0.4	3.4				
168		1a区	Ⅰ層	楔形石器	赤色珪質岩	2.4	2.4	0.5	2.6				
169		1a区	Ⅰ層	楔形石器	サヌキトイド	3.2	3.2	1.0	9.3				
170		1a区	Ⅰ層	石核	青緑色チャート	3.6	4.9	1.5	31.3				
171		1a区	Ⅰ層	石核	赤色珪質岩	2.7	3.6	1.2	9.5				
172		1a区	Ⅰ層	石核	赤色珪質岩	3.6	6.7	1.7	39.9				
173		1a区	Ⅰ層	石核	サヌキトイド	3.5	6.9	1.5	37.3				
174		1b区	Ⅰ層	石核	サヌキトイド	4.9	5.7	1.5	23.9				
175		1b区	Ⅰ層	石核	サヌキトイド	6.9	8.4	3.5	285.4				
176		1b区	Ⅰ層	石核	赤色珪質岩	4.0	4.9	1.5	28.6				
177		1a区	Ⅰ層	二次加工剥片	赤色珪質岩	1.9	1.9	0.3	1.4				
178		1a区	Ⅰ層	剥片	サヌキトイド	6.8	4.6	0.9	30.6				
179		1a区	Ⅰ層	剥片	安山岩類	2.9	5.2	1.5	19.1				
180		1a区	Ⅰ層	礫石器	緑色片岩	(13.3)	4.1	2.1	(192.5)		端部欠損		
181		1a区	Ⅰ層	礫石器	緑色片岩	(13.2)	4.5	1.9	(181.6)		両端欠損		
182		1a区	Ⅰ層	礫石器	緑色片岩	(8.8)	4.7	1.6	(111.0)		欠損		
183		1a区	Ⅰ層	礫石器	緑色片岩	(12.1)	3.4	2.7	(196.2)		欠損		
184		1a区	Ⅰ層	礫石器	緑色片岩	(19.1)	4.3	2.7	(396.5)		端部欠損		
185		1a区	Ⅰ層	礫石器	緑色片岩	(9.5)	4.3	1.3	(77.8)		欠損		
186		1a区	Ⅰ層	礫石器	安山岩類	5.6	7.2	2.7	118.2				
187		1a区	Ⅰ層	礫石器	安山岩類	8.0	9.0	3.1	229.2				
188		1a区	Ⅰ層	礫石器	緑色片岩	(12.4)	5.4	1.5	(180.2)				
189		1b区	Ⅰ層	礫石器	緑色片岩	(11.2)	5.0	1.7	(188.6)		欠損		
190		1b区	Ⅰ層	礫石器	サヌキトイド	(15.3)	7.3	5.7	(1043.4)		欠損		
191	50	1a区	Ⅰ層	凹石	緑色片岩	13.83	7.30	2.92	387.9			33	7
192	51	1a区	Ⅰ層	凹石	緑色片岩	15.11	4.33	1.41	169.1			33	7
193	52	1b区	Ⅰ層	凹石	緑色片岩	17.87	6.25	1.80	313.6			33	7
194		1a区	Ⅰ層	凹石	緑色片岩	(10.5)	(4.7)	1.2	(110.7)		欠損		
195		1b区	Ⅰ層	凹石	緑色片岩	(11.5)	4.6	1.6	(180.4)		欠損		
196	53	1b区	Ⅰ層	敲石	緑色片岩	22.73	5.89	2.07	407.8			34	7
197	54	1b区	Ⅰ層	敲石	緑色片岩	(9.53)	7.74	2.06	(262.5)		欠損	34	7
198	40	1a区	表採	ナイフ形石器	サヌキトイド	4.15	1.67	0.61	3.7			31	6
199	46	1a区	表採	石鏃	赤色珪質岩	3.20	2.70	0.65	5.9			32	7
200		1b区	表採	石鏃	サヌキトイド	1.6	1.2	0.2	0.3				
201		1a区	表採	石鏃?	赤色珪質岩	(1.9)	2.8	0.4	(3.5)		欠損		
202		1a区	表採	剥片	赤色珪質岩	3.6	3.2	0.9	11.1				
203		1a区	表採	凹石	緑色片岩	(9.8)	4.9	1.6	(134.0)		欠損		

表23　高見Ⅱ遺跡2区縄文土器深鉢一覧

法量：cm　（）：残存値　[ ]：復元値

遺物No.	掲載番号	層位	部位	法量	成形・調整・文様	色調	焼成	○多量、○普通、△少量 内容物 石英	長石	雲母	角閃	他	遺構グリッド	備考	図番号	図版番号
19	55	Ⅲa層	胴部	器厚1.0	外:ナデ 内:ナデ	外:明黄褐 内:にぶい黄橙	良	○	○		△				39	8
20	56	Ⅲa層	胴部	器厚1.1～1.4	外:ナデ・指頭圧痕 内:ナデ・指頭圧痕	外:明黄褐 内:にぶい黄橙	良	○	○	○ 金雲	△				39	8
21	57	Ⅲa層	胴部	器厚1.2～1.3	外:ナデ・指頭圧痕 内:ナデ・指頭圧痕	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	○ 金雲	△		U18		39	8
22	58	Ⅲa層	胴部	器厚1.1～1.2	外:ナデ・指頭圧痕 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	○ 金雲	△				39	8
23	59	Ⅲa層	胴部	器厚1.4	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	やや良	○	○	△ 金雲	△		V18		39	8
24	60	Ⅲa層	胴部	器厚1.3～1.4	外:ナデ・指頭圧痕 内:ナデ・指頭圧痕	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○		○		U18		39	8
25	61	Ⅲa層	胴部	器厚1.0～1.2	外:ナデ・指頭圧痕 内:ナデ・指頭圧痕	外:明黄褐 内:にぶい黄橙	良	○	○	△ 金雲	△		U17		39	8
26	62	Ⅲa層	胴部	器厚1.1～1.2	外:ナデ・指頭圧痕 内:ナデ・指頭圧痕	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	○ 金雲	△		U17		39	8
27		Ⅲa層	胴部	器厚1.3	外:ナデ 内:	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○				V18			
28		Ⅲa層	胴部	器厚1.3	外: 内:	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	やや不良	○	○	△ 金雲						
29		Ⅲa層	胴部	器厚1.3	外: 内:	外:にぶい黄橙 内:明黄褐	やや良	△	△				V18			
30		Ⅲa層	胴部	器厚1.1	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	○ 金雲						
31		Ⅲa層	口縁部	器厚1.3	外:指頭圧痕 内:指頭圧痕	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○							
32		Ⅲa層	胴部	器厚0.9	外:ナデ 内:ナデ・指頭圧痕	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○	△ 金雲						
33		Ⅲa層	胴部	器厚1.2	外: 内:	外:明黄褐 内:にぶい黄橙	良	○	○	○ 金雲						
34		Ⅲa層	胴部	器厚1.0	外:条痕→ナデ 内:ナデ	外:明黄褐 内:にぶい黄橙	良	○	○							
35		Ⅲa層	胴部	器厚1.1	外: 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	△						
36		Ⅲa層	胴部	器厚0.5	外: 内:	外:明褐 内:明褐	良	△	○							
37		Ⅲa層	胴部	器厚1.3	外: 内:ナデ・指頭圧痕	外:黄褐 内:にぶい黄橙	良	○	○	△ 金雲						
38		Ⅲa層	胴部	器厚1.2	外: 内:条痕→ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○							
39		Ⅲa層	口縁部	器厚1.2	外:ナデ 内:	外:にぶい黄橙 内:明黄褐	良	○	○				U17			
40		Ⅲa層	胴部	器厚1.0	外: 内:	外:にぶい黄橙 内:明黄褐	良	○	○				U17			
41		Ⅲa層	胴部	器厚1.5	外: 内:	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	○ 金雲			U17			
42		Ⅲa層	胴部	器厚1.5	外: 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	△ 金雲			U17			
43		Ⅲa層	胴部	器厚0.9	外:条痕→ナデ 内:条痕→ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	○ 金雲			U18			
44		Ⅲa層	胴部	器厚1.2	外: 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	やや不良	○	○				V16			
45		Ⅲa層	胴部	器厚1.0	外: 内:ナデ	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○	○ 金雲			W18			
46		Ⅲa層	胴部	器厚0.7	外:ナデ 内:ナデ	外:明黄褐 内:にぶい黄橙	良	△	△				V18			
47	81	Ⅱa層	口縁部	器厚1.3～0.6	外:ナデ 内:条痕→ナデ 口押圧沈線	外:にぶい黄橙 内:暗灰黄	良	○	○		△				51	3,9
48	78	Ⅱb層	胴部	器厚0.8～0.9	外:条痕→ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:明黄褐	良	○	○	△ 金雲	○		SK-3		45	9
49	84-1 84-2	Ⅱb層	胴部	器厚0.7～0.8	外:櫛円文 内:ナデ	外:にぶい橙 内:浅黄	良	○	○		△			押型文(撚糸式)	52	9
50	85	Ⅱb層	胴部	器厚0.7	外:櫛円文 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○				V17	押型文(撚糸式)	52	9
51	86	Ⅱb層	口縁部	器厚0.9～1.2	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	△ 金雲	△		U17		52	9
52	87	Ⅱb層	口縁部	器厚1.0～1.2	外:ナデ・指頭圧痕 内:ナデ・指頭圧痕	外:明黄褐 内:明黄褐	不良	○	○		△	△ 赤粒	U17		52	9
53	88	Ⅱb層	口縁部	器厚1.3～1.0	外:ナデ 内:ナデ・短沈線2条	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	やや良	○	○	○ 金雲	△		U17		52	9
54	89	Ⅱb層	口縁部	器厚1.2	外:ナデ 内:ナデ・短沈線	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○	△ 金雲	△				52	9
55	90	Ⅱb層	口縁部	器厚1.1	外:ナデ 内:ナデ・短沈線	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	△	△				52	10

法量：cm　( )：残存値　[ ]：復元値　　◎多量，○普通，△少量

遺物No.	掲載番号	層位	部位	法量	成形・調整・文様	色調	焼成	内容物				遺構グリッド	備考	図番号	図版番号
								石英	長石	雲母	角閃	他			
56	91	Ⅱb層	胴部	器厚0.6	外:条痕→ナデ 内:条痕→ナデ	外:浅黄 内:浅黄	良	○	○		△	◎ 片岩	V17		52	10
57	92	Ⅱb層	胴部	器厚1.0～1.3	外:ナデ・指頭圧痕 内:ナデ・指頭圧痕	外:にぶい黄橙 内:明黄褐	良	○	○	○ 金雲	△				52	10
58	93	Ⅱb層	胴部	器厚0.8～1.0	外:ナデ 内:ナデ	外:橙 内:黄橙	良	○	○	△ 金雲	△		V18		52	10
59	94	Ⅱb層	胴部	器厚1.2～1.4	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	やや良	○	○	△ 金雲	△				52	10
60	95	Ⅱb層	胴部	器厚1.0～1.2	外:ナデ 内:ナデ	外:明黄褐 内:にぶい黄褐	良	○	○	○ 金雲	△		W17		52	10
61	96	Ⅱb層	底部	底径[6.4]	外:ナデ 内:ナデ・条痕 底部:条痕	外:明褐 内:にぶい褐	良	○	○	◎ 金雲	○			羊山下層式併行	52	10
62	97	Ⅱb層	口縁部	器厚0.5	外:条痕 内:条痕	外:明黄褐 内:にぶい黄橙	良	○	○				W18	羽島下層式併行	53	10
63	98	Ⅱb層	胴部	器厚0.4～0.6	外:爪形文・ナデ 内:条痕→ナデ	外:灰黄褐 内:にぶい黄橙	良	○	○	△ 金雲	△			羽島下層式	53	10
64	99	Ⅱb層	胴部	器厚0.7	外:ミミズバレ 内:ナデ	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○		△		U17	轟B式	53	10
65	100	Ⅱb層	胴部	器厚0.6～0.7	外:ミミズバレ・ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○		△			轟B式	53	10
66	101	Ⅱb層	胴部	器厚0.6～0.7	外:条痕 内:条痕	外:褐灰 内:にぶい黄橙	良	○	○		△	△ 赤粒			53	10
67	102	Ⅱb層	胴部	器厚0.5	外:磨消縄文・沈線 内:条痕→ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	△ 金雲	◎	△ 赤粒			53	10
68		Ⅱb層	胴部	器厚0.8	外:ナデ 内:ナデ	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○	△ 金雲	△	△ 赤粒	SK-3			
69		Ⅱb層	胴部	器厚0.6	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	△ 金雲			SK-3			
70		Ⅱb層	胴部	器厚0.6	外:ナデ 内:条痕→ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○				SK-3			
71		Ⅱb層	胴部	器厚0.9	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	○ 金雲			SK-3			
72		Ⅱb層	胴部	器厚1.4	外:指頭圧痕 内:	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○	○ 金雲			SK-3			
73		Ⅱb層	胴部	器厚0.9	外: 内:	外:明黄褐 内:明黄褐	良			△			SK-3			
74		Ⅱb層	胴部	器厚0.7	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	△ 金雲			SK-3			
75		Ⅱb層	胴部	器厚0.7	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○		△		SK-3			
76		Ⅱb層	胴部	器厚0.9	外: 内:	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○	△ 金雲			SK-3			
77		Ⅱb層	胴部	器厚0.8	外: 内:	外:明黄褐 内:にぶい黄橙	良	◎	○				SK-4			
78		Ⅱb層	胴部	器厚0.5	外: 内:	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○				SX-3			
79		Ⅱb層	胴部	器厚1.3	外:ナデ 内:	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	◎	△ 金雲			SX-4			
80		Ⅱb層	胴部	器厚0.5	外:ナデ 内:ナデ	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○	△ 金雲			SX-5			
81		Ⅱb層	胴部	器厚1.1	外: 内:	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○	△ 金雲			SX-6			
82		Ⅱb層	胴部	器厚0.9	外:ナデ 内:ナデ	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○	△ 金雲			SX-6			
83		Ⅱb層	胴部	器厚0.9	外: 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	○ 金雲			SX-6			
84		Ⅱb層	胴部	器厚1.0.0.5	外:ナデ 内:	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○	△ 金雲			SX-7			
85		Ⅱb層	胴部	器厚0.9	外: 内:ナデ	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○	△ 金雲			SX-7			
86		Ⅱb層	胴部	器厚0.5	外: 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○				SX-7			
87		Ⅱb層	胴部	器厚0.4	外:条痕→ナデ 内:条痕→ナデ	外:にぶい黄 内:浅黄	良	○	○				V18	羽島下層式		
88		Ⅱb層	胴部	器厚1.1	外:ナデ 内:ナデ・指頭圧痕	外:明黄褐 内:にぶい黄橙	良	○	○							
89		Ⅱb層	胴部	器厚1.2	外:指頭圧痕 内:ナデ	外:明黄褐 内:にぶい黄橙	良	○	○							
90		Ⅱb層	胴部	器厚0.6	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○							
91		Ⅱb層	胴部	器厚1.2	外:ナデ 内:	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○	△ 金雲			U17			
92		Ⅱb層	胴部	器厚1.1	外: 内:ナデ	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○				U17			
93		Ⅱb層	胴部	器厚0.7	外:ナデ 内:指頭圧痕→ナデ	外:明黄褐 内:にぶい黄橙	良	○	○				U17			

法量：cm　( )：残存値　[ ]：復元値　　◎多量，○普通，△少量

遺物No.	掲載番号	層位	部位	法量	成形・調整・文様	色調	焼成	内容物					遺構	備考	図番号	図版番号
								石英	長石	雲母	角閃	他	グリッド			
94		Ⅱb層	胴部	器厚0.7	外:ナデ 内:ナデ	外:明黄褐 内:明黄褐	良	△	△	◎ 金雲						
95		Ⅱb層	胴部	器厚1.3	外: 内:ナデ	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○	△ 金雲						
96		Ⅱb層	胴部	器厚1.2	外: 内:ナデ	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○	△ 金雲						
97		Ⅱb層	胴部	器厚0.6	外:ナデ 内:ナデ	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○	△ 金雲				繊維		
98		Ⅱb層	胴部	器厚0.9	外:ナデ 内:ナデ	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○	△ 黒雲						
99		Ⅱb層	胴部	器厚1.1	外: 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	△ 金雲						
100		Ⅱb層	胴部	器厚1.2	外: 内:指頭圧痕	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	○ 金雲						
101		Ⅱb層	胴部	器厚0.8	外:ナデ 内:ナデ	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○	△ 金雲						
102		Ⅱb層	胴部	器厚0.5	外:ナデ 内:ナデ	外:明黄褐 内:にぶい黄橙	良	○	○							
103		Ⅱb層	胴部	器厚1.0	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	△ 金雲						
104		Ⅱb層	胴部	器厚0.6	外:ナデ 内:ナデ	外:橙 内:にぶい黄橙	良	○	○							
105		Ⅱb層	胴部	器厚0.7	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	◎ 金雲						
106		Ⅱb層	胴部	器厚1.1	外:ナデ 内:ナデ	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○	△ 金雲						
107		Ⅱb層	胴部	器厚0.9	外: 内:	外:明黄褐 内:明黄褐	良	△	○							
108		Ⅱb層	胴部	器厚0.7	外: 内:	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○							
109		Ⅱb層	胴部	器厚0.9	外: 内:	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○	○ 金雲						
110		Ⅱb層	胴部	器厚0.8	外: 内:	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○	△ 金雲						
111		Ⅱb層	胴部	器厚0.9	外: 内:	外:明黄橙 内:明黄橙	良	○	○	△ 金雲						
112		Ⅱb層	胴部	器厚0.7	外: 内:	外:明黄褐 内:橙	良	○	○							
113		Ⅱb層	胴部	器厚1.2	外: 内:	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	◎ 金雲						
114		Ⅱb層	胴部	器厚1.4	外:ナデ 内:指頭圧痕	外:明黄褐 内:にぶい黄橙	良	○	○				U17			
115		Ⅱb層	底部付近	器厚0.8	外:ナデ 内:ナデ	外:明褐 内:にぶい褐	良	○	○	◎ 金雲			U17			
116		Ⅱb層	胴部	器厚0.9	外:ナデ 内:指頭圧痕	外:橙 内:橙	良	○	○	△ 金雲			U17			
117		Ⅱb層	胴部	器厚1.3	外: 内:	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	○ 金雲			U17			
118		Ⅱb層	胴部	器厚0.8	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:明黄褐	良	○	○	○ 金雲			U18			
119		Ⅱb層	口縁部付近	器厚1.3	外: 内:	外:黄褐 内:黄褐	良	○	○	△ 金雲			U18			
120		Ⅱb層	胴部	器厚0.7	外:ナデ 内:条痕→ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	△ 金雲			U18			
121		Ⅱb層	胴部	器厚1.1	外:条痕→ナデ 内:ナデ	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○	◎ 金雲			U18			
122		Ⅱb層	胴部	器厚1.2	外: 内:ナデ	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	◎	○ 金雲			V16			
123		Ⅱb層	胴部	器厚0.6	外:ナデ 内:条痕→ナデ	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○	△ 金雲			V17			
124		Ⅱb層	胴部	器厚1.1	外:ナデ 内:	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○				V17			
125		Ⅱb層	胴部	器厚0.8	外:ナデ 内:	外:明黄褐 内:にぶい黄橙	良	○	○				U17			
126		Ⅱb層	胴部	器厚1.4	外: 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○				V17			
127		Ⅱb層	胴部	器厚0.6	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	△ 金雲			U17			
128		Ⅱb層	胴部	器厚1.3	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	○ 金雲			V17			
129		Ⅱb層	胴部	器厚0.9	外: 内:	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○				W17			
130		Ⅱb層	胴部	器厚1.0	外: 内:	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○	◎ 金雲			V17			
131		Ⅱb層	胴部	器厚0.9	外:ナデ 内:	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○				U17			

法量：cm　( )：残存値　[ ]：復元値　　◎多量，○普通，△少量

遺物No.	掲載番号	層位	部位	法量	成形・調整・文様	色調	焼成	内容物				遺構グリッド	備考	図番号	図版番号
								石英	長石	雲母	角閃				
132		Ⅱb層	胴部	器厚1.0	外:ナデ 内:ナデ	外:明黄褐 内:明黄褐	やや良	○	○			U17			
133		Ⅱb層	胴部	器厚0.8	外:ナデ 内:ナデ	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○	△ 金雲		U17			
134		Ⅱb層	胴部	器厚0.8	外: 内:ナデ	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○	△ 金雲		V17			
135		Ⅱb層	胴部	器厚1.1	外:ナデ 内:	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○			V17			
136		Ⅱb層	胴部	器厚1.0	外:ナデ 内:	外:にぶい黄橙 内:明黄褐	良	○	○			V17			
137		Ⅱb層	胴部	器厚1.3	外:ナデ 内:ナデ	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	◎	△ 金雲		V17			
138		Ⅱb層	胴部	器厚0.7	外: 内:	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○			V17			
139		Ⅱb層	胴部	器厚1.2	外: 内:	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○	△ 金雲		V17			
140		Ⅱb層	胴部	器厚0.9	外:ナデ 内:ナデ	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○	△ 金雲		V17			
141		Ⅱb層	胴部	器厚1.0	外:ナデ 内:	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○			W18			
142		Ⅱb層	胴部	器厚0.9	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○			X19			
143		Ⅱb層	胴部	器厚0.5	外:ナデ 内:条痕→ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	△	◇ 金雲		W18			
144		Ⅱb層	胴部	器厚1.1	外: 内:	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○	△ 金雲		W18			
145		Ⅱb層	胴部	器厚0.6	外:沈線 内:ナデ	外:明赤褐 内:黄褐	良	○	○	△ 金雲		W18			
146		Ⅱb層	胴部	器厚0.5	外:沈線 内:条痕→ナデ	外:にぶい黄褐 内:にぶい黄橙	良	○	○	△ 金雲		X18			
147		Ⅱb層	胴部	器厚0.4	外:条痕 内:ナデ	外:橙 内:明黄褐	良	○	○			W18			
148		Ⅱb層	胴部	器厚1.1	外:条痕→ナデ 内:ナデ	外:明黄褐 内:にぶい黄橙	良	○	○	◇ 金雲					
149		Ⅱb層	胴部	器厚0.9	外: 内:ナデ	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○	△ 金雲			羽島下層式		
150		Ⅱb層	口縁部	器厚0.8	外: 内:	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○						
151		Ⅱb層	胴部	器厚0.8	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	◇ 金雲					
152		Ⅱb層	胴部	器厚0.9	外: 内:	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	△ 金雲					
153		Ⅱb層	胴部	器厚0.8	外:ナデ 内:ナデ	外:橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	△ 金雲					
154		Ⅱb層	胴部	器厚1.2	外: 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	○ 金雲					
155	139	Ⅱc層	胴部	器厚0.6	外:櫛円文 内:ナデ	外:橙 内:にぶい黄橙	良	○	○		△	U17	押型文(黄島式)	61	11
156	140	Ⅱc層	胴部	器厚0.5	外:櫛円文 内:ナデ	外:橙 内:にぶい黄橙	良	○	○		△	U18	押型文(黄島式)	61	11
157	141	Ⅱc層	胴部	器厚0.5	外:櫛円文 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○		△	U18	押型文(黄島式)	61	11
158	142	Ⅱc層	胴部	器厚1.2	外:櫛円文 内:ナデ	外:橙 内:にぶい褐	良	○	○	○ 金雲	△	U18	押型文(黄島式)	61	11
159	143	Ⅱc層	胴部	器厚0.6	外:山形文 内:ナデ	外:明褐 内:にぶい褐	良	○	○	○ 金雲	△	U17	押型文	61	11
160	144	Ⅱc層	口縁部	器厚0.95	外:ナデ 内:ナデ・短沈線	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	やや良	○	○	△ 金雲				61	11
161	145	Ⅱc層	口縁部	器厚1.2～1.4	外:ナデ・指頭圧痕 内:ナデ・指頭圧痕・短沈線	外:橙 内:明赤褐	良	○	○	○ 金雲	△	U17		61	11
162	146	Ⅱc層	口縁部	器厚1.2～1.4	外:ナデ・指頭圧痕 内:ナデ・沈線	外:にぶい黄橙 内:にぶい褐	良	○	○	○ 金雲	△	U17		61	11
163	147	Ⅱc層	口縁部	器厚1.2～1.4	外:ナデ・指頭圧痕 内:ナデ・指頭圧痕・沈線	外:にぶい橙 内:にぶい橙	良	○	○	○ 金雲	△	U17		61	11
164	148	Ⅱc層	口縁部	器厚1.1～1.4	外:ナデ・指頭圧痕 内:ナデ・指頭圧痕・沈線	外:橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	○ 金雲	△			61	11
165	149	Ⅱc層	口縁部	口径[24.0] 器厚1.2～1.4	外:ナデ・指頭圧痕 内:ナデ・指頭圧痕・斜行沈線	外:橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	◎ 金雲		U17		61	12
166	150	Ⅱc層	胴部	器厚0.9～1.1	外:ナデ・指頭圧痕 内:ナデ・指頭圧痕	外:明黄褐 内:にぶい黄橙	良	○	○		△			61	12
167	151	Ⅱc層	胴部	器厚1.0～1.1	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄褐	良	○	○	○ 金雲	△	U17		61	12

法量：cm　( )：残存値　[ ]：復元値　　◎多量，○普通，△少量

遺物No.	掲載番号	層位	部位	法量	成形・調整・文様	色調	焼成	内容物					遺構グリッド	備考	図番号	図版番号
								石英	長石	雲母	角閃	他				
168	152	Ⅱc層	胴部	器厚1.3～1.4	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい橙 内:明褐	良	○	○	○ 金雲	△				62	12
169	153	Ⅱc層	底部	底部最大径[9.6] 器厚1.2～1.5	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	やや良	○	○				U17		62	12
170		Ⅱc層	胴部	器厚0.9	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	△	△				U17			
171		Ⅱc層	胴部	器厚0.8	外: 内:	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	△	△				U17			
172		Ⅱc層	胴部	器厚1.3	外: 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:明黄褐	良	○	○	△ 金雲			U18			
173		Ⅱc層	胴部	器厚1.3	外: 内:	外:黄褐 内:にぶい黄橙	やや不良	○	○	○ 金雲			U17			
174		Ⅱc層	胴部	器厚1.0	外:ナデ 内:ナデ	外:橙 内:にぶい黄橙	良	△	○				U17			
175		Ⅱc層	胴部	器厚1.3	外:ナデ 内:	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	やや良	○	○				U18			
176		Ⅱc層	胴部	器厚1.4	外:ナデ 内:指頭圧痕	外:明黄褐 内:にぶい黄橙	良	○	◎	◎ 金雲			U18			
177		Ⅱc層	胴部	器厚1.1	外:ナデ・指頭圧痕 内:ナデ	外:明黄褐 内:にぶい黄橙	良	○	○			△ 赤粒	U17			
178		Ⅱc層	胴部	器厚1.1	外: 内:	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○				U17			
179		Ⅱc層	胴部	器厚1.0	外: 内:	外:明黄褐 内:にぶい黄橙	良	○	○	△ 金雲			V18			
180		Ⅱc層	胴部	器厚0.5	外: 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:明黄褐	良	△	△							
181	168	Ⅰ層	胴部	器厚0.9～1.2	外:ナデ・指頭圧痕 内:剥落	外:にぶい黄橙 内:	良	○	○	△ 金雲	△		U16		65	12
182	169	Ⅰ層	底部	底径2.3 器厚0.6～0.8	外:ナデ 内:ナデ・指頭圧痕	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○				U17		65	12
183	170	Ⅰ層	胴部	器厚0.7	外:爪形文・ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄 内:にぶい黄橙	良	○	○	△ 金雲	△		U16	羽状下端式	65	12
184	171	Ⅰ層	口縁部	口径[22.4] 器厚1.5～0.7	外:条痕→ナデ 内:条痕→ナデ 口辺部:沈線	外:にぶい黄橙 内:暗灰黄	良	○	○				U16		65	12
185		Ⅰ層	胴部	器厚0.5	外: 内:	外:明黄褐 内:明黄褐	良									
186		Ⅰ層	胴部	器厚0.6	外:刺突文 内:ナデ	外:黄褐 内:明黄褐	良	○	○				V16			
187		Ⅰ層	胴部	器厚1.2	外:ナデ 内:ナデ・指頭圧痕	外:明黄褐 内:にぶい黄橙	良	○	○	△ 金雲		△ 赤粒	U16			
188		Ⅰ層	胴部	器厚0.7	外:ナデ 内:ナデ	外:橙 内:褐灰	良	○	○	△ 金雲			U17			
189		Ⅰ層	胴部	器厚0.8	外:条痕→ナデ 内:条痕→ナデ	外:にぶい橙 内:橙	良	○	○	◎ 金雲	△		X19			
190		Ⅰ層	胴部	器厚0.8	外:ナデ 内:ナデ	外:橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	△ 金雲			U17			
191		Ⅰ層	胴部	器厚0.9	外: 内:	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○	△ 金雲			V17			
192		Ⅰ層	胴部	器厚0.9	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○				U15			
193		Ⅰ層	胴部	器厚1.6	外:条痕→ナデ 内:指頭圧痕	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄	良	○	◎				U16			
194		Ⅰ層	胴部	器厚1.2	外:ナデ 内:条痕→ナデ	外:明黄褐 内:にぶい黄橙	良	○	◎				U16			
195		Ⅰ層	胴部	器厚0.8	外:条痕→ナデ 内:指頭圧痕	外:明黄褐 内:にぶい黄橙	良	○	◎				U16			
196		Ⅰ層	胴部	器厚1.0	外: 内:ナデ	外:明黄褐 内:にぶい黄橙	良	○	○		△		U16			
197		Ⅰ層	胴部	器厚1.5	外:ナデ 内:ナデ	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	◎	○ 金雲			U16			
198		Ⅰ層	胴部	器厚1.5	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○				V15			
199		Ⅰ層	胴部	器厚1.6	外: 内:	外:にぶい黄褐 内:にぶい黄橙	良	○	○				U18			
200		Ⅰ層	胴部	器厚1.1	外: 内:	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○	○ 金雲			V18			

表24　高見Ⅱ遺跡2区種別器種不明遺物一覧

法量：cm　（）：残存値　［］：復元値　　○多量、○普通、△少量

遺物No.	掲載番号	層位	部位	法量	成形・調整・文様	色調	焼成	内容物				遺構グリッド	備考	図番号	図版番号
								石英	長石	雲母	角閃	他			
201		1層	胴部	胴厚0.7	外:ナデ 内:ナデ	外:明黄褐 内:橙	良	○	○				V17		

表25　高見Ⅱ遺跡2区石器一覧

単位：cm、g

遺物No.	掲載番号	層位	器種	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺構・グリッド	備考	図番号	図版番号
204	63	Ⅲa層	ナイフ形石器	赤色珪質岩	4.18	1.39	0.63	3.8			39	8
205	64	Ⅲa層	ナイフ形石器	サヌキトイド	5.97	1.89	1.02	7.7	V17		39	8
206	65	Ⅲa層	模形石器	赤色珪質岩	4.31	1.84	0.98	7.6	V18		40	8
207	66	Ⅲa層	模形石器	赤色珪質岩	4.22	2.72	0.76	9.6			40	8
208	67	Ⅲa層	模形石器	赤色珪質岩	2.49	2.01	0.44	2.8	V18		40	8
209	68	Ⅲa層	石核	赤色珪質岩	5.40	3.20	1.78	22.4			40	8
210	69	Ⅲa層	石核	サヌキトイド	3.12	6.75	1.59	35.5			40	8
211	70	Ⅲa層	石核	赤色珪質岩	1.57	2.23	1.96	7.9	U18		40	8
212		Ⅲa層	石核	安山岩類	6.8	8.5	4.3	155.3				
213		Ⅲa層	石核	安山岩類	5.8	9.5	1.6	64.7				
214		Ⅲa層	石核	サヌキトイド	3.0	2.6	1.0	10.8				
215		Ⅲa層	二次加工剥片	赤色珪質岩	2.9	2.8	0.6	3.9				
216		Ⅲa層	二次加工剥片	赤色珪質岩	2.7	2.8	0.7	5.3	V17			
217		Ⅲa層	剥片	赤色珪質岩	2.5	2.6	0.4	2.6				
218		Ⅲa層	剥片	赤色珪質岩	2.4	4.1	0.6	4.6				
219		Ⅲa層	剥片	赤色珪質岩	3.0	2.3	0.5	3.3	U17			
220		Ⅲa層	剥片	赤色珪質岩	2.1	3.8	0.4	4.2	U17			
221		Ⅲa層	剥片	赤色珪質岩	2.7	3.6	1.0	7.3	U17			
222		Ⅲa層	剥片	赤色珪質岩	3.2	1.8	0.7	3.5	U18			
223		Ⅲa層	剥片	赤色珪質岩	5.4	5.6	0.6	18.7	V19			
224		Ⅲa層	剥片	サヌキトイド	1.8	3.4	0.7	3.3	U17			
225		Ⅲa層	剥片	サヌキトイド	3.1	1.9	0.9	3.8	V18			
226		Ⅲa層	剥片	赤色珪質岩	2.0	2.3	0.2	1.0	V18			
227		Ⅲa層	剥片	サヌキトイド	1.8	2.2	0.2	0.6	V18			
228		Ⅲa層	剥片	サヌキトイド	2.1	2.8	0.6	3.0				
229		Ⅲa層	剥片	安山岩類	6.1	8.4	1.1	55.3	U17			
230		Ⅲa層	剥片	安山岩類	4.1	3.5	0.5	5.4				
231		Ⅲa層	剥片	安山岩類	6.5	6.7	1.0	37.8	V18			
232		Ⅲa層	剥片	安山岩類	6.2	9.8	0.7	51.5	W18			
233		Ⅲa層	剥片	チャート	1.5	2.2	0.4	1.4	U17			
234		Ⅲa層	剥片	安山岩類	5.2	4.5	1.0	27.8				
235		Ⅲa層	剥片	赤色珪質岩	4.7	3.2	0.9	14.4				
236		Ⅲa層	剥片	石英	1.2	2.0	0.4	0.8				
237		Ⅲa層	剥片	サヌキトイド	4.6	6.9	1.0	20.3				
238		Ⅲa層	剥片?	珪質片岩	2.5	2.9	0.9	8.4				
239	71	Ⅲa層	礫石器	緑色片岩	(14.33)	4.54	2.48	(275.3)		欠損	41	8
240	72	Ⅲa層	礫石器	緑色片岩	(15.05)	4.06	2.52	(253.8)	V19	欠損	41	8
241		Ⅲa層	礫石器	安山岩類	15.7	4.7	3.5	343.5				
242		Ⅲa層	礫石器	緑色片岩	(9.9)	4.3	1.0	(76.2)		欠損		
243		Ⅲa層	礫石器	緑色片岩	(7.1)	(5.2)	(1.9)	(97.8)		欠損		
244	73	Ⅲa層	凹石	唐崎マイロナイト	12.67	6.34	4.28	380.0	V18		41	8
245		Ⅲa層	凹石	緑色片岩	(10.3)	(5.2)	1.6	(107.7)	U17	欠損		
246	74	Ⅲa層	凹石・敲石	緑色片岩	(15.36)	5.34	1.79	(218.7)		欠損	42	8
247	75	Ⅲa層	敲石	緑色片岩	(10.29)	6.46	1.91	(246.7)		欠損	42	9
248	76	Ⅲa層	敲石	唐崎マイロナイト	(14.56)	4.04	3.51	(294.1)		欠損	42	9
249		Ⅲa層	磨石	安山岩類	(5.6)	5.2	2.6	(180.7)	V18	欠損		
250		Ⅲa層	原礫	緑色片岩	(8.2)	(8.0)	(0.9)	(91.8)		欠損		
251		Ⅲa層	原礫	サヌキトイド	12.1	16.7	5.9	1,210.0	V17			
252	77	Ⅲb層	敲石	緑色片岩	(12.01)	4.04	2.31	(187.7)		欠損	43	9
253		Ⅱa層	剥片	安山岩類	3.3	3.7	0.7	4.0	V18			
254		Ⅱa層	礫石器	安山岩類	7.6	(17.8)	2.6	(341.8)	V18	欠損		
255	82	Ⅱa層	凹石	緑色片岩	15.84	5.86	1.60	216.7	V18		51	9
256	83	Ⅱa層	凹石・敲石	安山岩類	11.65	8.54	3.19	582.9	V18		51	9
257	103	Ⅱb層	ナイフ形石器	サヌキトイド	(1.96)	(1.25)	(0.86)	(1.5)	U17	欠損	54	10
258		Ⅱb層	ナイフ形石器	赤色珪質岩	2.4	(1.0)	0.4	(1.0)	W17	欠損		
259		Ⅱb層	ナイフ形石器	サヌキトイド	(2.2)	1.5	0.4	(1.3)	V17	欠損		
260	80	Ⅱb層	石錐	安山岩類	2.81	2.11	0.59	2.5	SK-4(床面)		46	9
261	104	Ⅱb層	石錐	黒曜石	(0.92)	1.21	0.27	(0.2)		欠損	54	10
262	105	Ⅱb層	石錐	黒曜石	(1.04)	(1.01)	0.22	(0.2)		欠損	54	10
263	106	Ⅱb層	石錐	黒曜石	1.57	(1.17)	0.35	(0.6)	V17	欠損	54	10
264	107	Ⅱb層	石錐	赤色珪質岩	1.61	1.86	0.52	1.3			54	10
265	108	Ⅱb層	石錐	赤色珪質岩	2.22	1.69	0.56	1.5			54	10
266	109	Ⅱb層	石錐	安山岩類	1.22	1.56	0.29	0.6	V18		54	10

単位：cm、g

遺物No.	掲載番号	層位	器種	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺構・グリッド	備考	図番号	図版番号
267	110	Ⅱb層	石錐	サヌキトイド	(1.32)	(1.00)	0.28	(0.3)		欠損	54	10
268	111	Ⅱb層	石錐	サヌキトイド	(0.99)	1.32	0.24	(0.2)		欠損	54	10
269	112	Ⅱb層	石錐	サヌキトイド	1.77	(1.22)	0.20	(0.5)	U7	欠損	54	10
270	113	Ⅱb層	石錐	サヌキトイド	1.53	1.27	0.24	0.3			54	10
271	114	Ⅱb層	石錐	赤色珪質岩	1.85	1.46	0.40	1.0			54	10
272	115	Ⅱb層	石錐	チャート	1.39	(1.53)	0.35	(0.6)		欠損	54	10
273	116	Ⅱb層	石錐	サヌキトイド	1.52	1.25	0.40	0.5	W18		54	10
274	117	Ⅱb層	石錐	サヌキトイド	1.88	1.36	0.30	0.7			54	10
275	118	Ⅱb層	石錐	サヌキトイド	(2.14)	(1.53)	0.65)	(1.6)		欠損	54	10
276		Ⅱb層	石錐	サヌキトイド	(1.7)	(1.8)	(0.3)	(0.7)		欠損		
277		Ⅱb層	石錐	サヌキトイド	2.2	1.6	0.5	1.1				
278		Ⅱb層	石錐	チャート	(2.1)	(1.5)	0.5	(1.4)	W18	欠損		
279		Ⅱb層	石錐	安山岩類	1.9	1.2	0.4	0.6				
280		Ⅱb層	石錐	サヌキトイド	(2.3)	(1.4)	0.3	(0.9)		欠損		
281		Ⅱb層	石錐	黒曜石	(1.2)	(1.2)	(0.3)	(0.3)	V18	脚部欠損		
282	119	Ⅱb層	スクレイパー	サヌキトイド	5.03	7.40	1.34	62.2	U17		55	10
283	120	Ⅱb層	スクレイパー	安山岩類	(7.06)	6.78	1.90	(79.8)	U17	欠損	55	10
284	121	Ⅱb層	敲石	赤色珪質岩	3.38	2.32	0.68	4.9	V16		55	10
285	122	Ⅱb層	楔形石器	赤色珪質岩	2.61	3.06	0.56	4.2			55	10
286	123	Ⅱb層	楔形石器	赤色珪質岩	3.65	3.23	1.48	17.8	U17		55	10
287	124	Ⅱb層	楔形石器	サヌキトイド	3.24	3.06	0.73	7.3	U18		55	10
288	125	Ⅱb層	楔形石器	珪質片岩	3.15	1.50	0.66	3.1	V18		55	10
289		Ⅱb層	楔形石器	サヌキトイド	2.6	2.4	0.6	4.0				
290	126	Ⅱb層	石核	安山岩類	5.45	10.31	10.53	695.1			56	3,10
291		Ⅱb層	石核	赤色珪質岩	2.5	4.3	0.7	5.2	U18			
292		Ⅱb層	石核	安山岩類	2.7	5.4	1.5	15.3	SK-4			
293		Ⅱb層	石核	黒曜石	4.0	2.7	2.2	13.8	V17			
294		Ⅱb層	石核	赤色珪質岩	2.5	3.7	0.7	7.0	U17			
295	127	Ⅱb層	二次加工剥片	サヌキトイド	3.31	2.27	0.61	4.3	V17		56	10
296		Ⅱb層	二次加工剥片	赤色珪質岩	(2.5)	(1.3)	0.4	(1.4)		欠損		
297		Ⅱb層	二次加工剥片	赤色珪質岩	1.2	3.0	0.6	1.9	U17			
298		Ⅱb層	二次加工剥片	赤色珪質岩	1.0	2.2	0.5	1.1				
299		Ⅱb層	二次加工剥片	サヌキトイド	2.1	4.5	0.9	8.5	SX-7			
300		Ⅱb層	二次加工剥片	サヌキトイド	4.8	3.8	0.6	7.1	U18			
301		Ⅱb層	二次加工剥片	黒曜石	1.8	1.7	0.5	1.1				
302		Ⅱb層	二次加工剥片	サヌキトイド	2.7	1.8	0.4	1.4				
303		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	1.5	1.8	0.3	0.6				
304		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	3.5	1.8	0.4	2.9	SK-3			
305		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	2.0	3.5	0.9	6.3	SK-4			
306		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	3.5	2.6	0.7	5.2	SX-7			
307		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	1.4	1.8	0.3	0.6	U16			
308		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	2.4	3.3	0.4	4.3	U18			
309		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	2.7	2.2	0.6	3.7	U17			
310		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	1.9	2.3	0.3	1.2	V18			
311		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	3.3	2.2	0.4	2.4	V18			
312		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	2.3	2.2	0.4	1.6	U18			
313		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	1.7	3.6	0.5	3.3	U18			
314		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	1.5	2.3	0.3	0.8	U18			
315		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	3.9	2.8	1.3	12.5	U17			
316		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	2.3	1.5	0.2	0.6	U17			
317		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	1.3	2.0	0.5	1.4	U17			
318		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	0.5	1.6	0.2	0.2	U17			
319		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	4.5	2.0	1.0	8.1	U17			
320		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	1.8	1.9	0.6	0.5	U17			
321		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	1.8	2.0	0.2	0.6	U17			
322		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	2.3	3.9	0.8	5.5	U17			
323		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	3.8	2.2	0.4	3.5	U18			
324		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	3.0	3.6	0.4	3.3	V16			
325		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	2.9	3.8	0.8	6.6	V16			
326		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	3.6	4.5	0.4	8.5	V17			
327		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	1.3	2.3	0.4	1.0	V17			
328		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	2.0	3.7	0.5	4.0	V17			
329		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	2.2	3.9	0.4	4.2	V18			
330		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	1.8	2.5	0.5	2.6	W17			
331		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	1.2	2.1	0.3	1.1	W18			
332		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	1.8	2.2	0.4	1.5	W18			
333		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	2.2	2.3	0.3	1.5	W18			
334		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	2.2	2.6	0.4	1.5	W18			
335		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	2.0	3.1	0.4	2.2	X19			
336		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	0.6	1.0	0.1	0.1				
337		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	1.1	1.3	0.5	0.4				
338		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	2.4	4.2	0.9	9.9				
339		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	3.4	2.7	0.6	5.4				
340		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	2.2	2.3	0.3	2.0				
341		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	1.6	2.2	0.3	1.0				

単位：cm、g

遺物No.	掲載番号	層位	器種	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺構・グリッド	備考	図番号	図版番号
342		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	3.4	3.3	0.5	7.2				
343		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	1.9	2.4	0.3	1.6				
344		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	2.6	1.2	0.3	0.9				
345		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	1.8	2.0	0.2	0.7				
346		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	2.2	3.8	1.4	7.8				
347		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	1.9	3.3	0.5	4.5				
348		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	2.8	2.8	0.4	2.9				
349		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	2.3	3.1	0.3	1.8				
350		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	2.2	2.3	0.5	2.0				
351		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	1.5	2.2	0.3	0.9				
352		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	2.1	1.7	0.4	1.3				
353		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	2.8	3.3	0.5	4.6				
354		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	0.5	1.0	0.1	0.2				
355		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	2.0	3.0	0.3	1.6				
356		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	2.2	2.2	0.3	1.1	X19			
357		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	1.5	1.9	0.2	0.7				
358		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	3.1	1.6	0.3	1.7				
359		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	1.8	3.7	0.9	3.5				
360		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	2.5	3.0	0.9	4.1				
361		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	2.7	2.2	0.8	2.5	V18			
362		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	3.2	2.2	0.5	2.7	U17			
363		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	2.0	3.7	0.5	3.7				
364		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	3.0	3.4	1.0	7.4				
365		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	1.9	2.7	0.5	1.4				
366		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	1.0	1.6	0.2	0.3				
367		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	2.2	3.7	0.6	3.6				
368		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	1.1	1.8	0.3	0.4				
369		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	1.6	1.3	0.3	0.4				
370		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	4.2	3.5	0.5	7.1				
371		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	1.5	2.7	0.4	1.1				
372		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	2.6	1.8	0.4	1.2	SK-3			
373		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	1.8	1.8	0.6	1.8	SK-3			
374		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	1.8	1.9	0.3	0.9	SK-3			
375		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	3.4	2.2	0.6	4.6	SK-3			
376		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	1.7	1.5	0.2	0.5	SK-3			
377		Ⅱb層	剥片	安山岩類	5.2	4.9	0.8	9.8	SK-3			
378		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	1.9	3.2	0.4	2.0	SK-4			
379		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	2.8	2.2	0.7	3.1	SK-4			
380		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	1.3	1.5	0.2	0.2	SK-4			
381		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	1.3	1.5	0.2	0.3	SK-4			
382		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	1.4	1.6	0.2	0.2	SX-7			
383		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	1.4	2.2	0.2	0.6	U17			
384		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	2.3	3.7	0.8	4.1	U17			
385		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	1.6	3.0	0.8	2.3	U17			
386		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	2.0	2.7	0.6	2.9	U17			
387		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	2.4	4.6	0.4	3.9	U17			
388		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	1.8	2.7	0.7	3.4	U17			
389		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	2.0	3.2	1.0	5.7	U17			
390		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	2.0	2.5	0.4	1.4	U17			
391		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	2.3	2.2	0.4	1.9	U17			
392		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	2.2	2.0	0.2	0.7	U18			
393		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	2.4	3.7	0.4	3.3	U18			
394		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	2.5	2.4	0.4	1.7	U18			
395		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	2.9	3.4	0.5	3.9	V18			
396		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	2.4	1.3	0.2	0.7	V18			
397		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	2.1	1.8	0.2	0.9	V18			
398		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	1.2	2.4	0.2	0.7	W17			
399		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	2.6	4.7	0.9	7.5	W17			
400		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	1.8	2.8	0.3	1.6	W18			
401		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	2.3	2.5	0.4	1.8	W18			
402		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	2.6	2.2	1.0	4.9	W18			
403		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	2.1	2.2	0.5	1.6	W18			
404		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	1.4	3.5	0.4	1.9	X19			
405		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	2.7	1.8	0.5	2.0	X19			
406		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	1.9	3.3	0.6	3.0				
407		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	4.4	2.5	1.3	10.1				
408		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	2.1	1.5	0.3	0.5				
409		Ⅱb層	剥片	黒曜石	2.8	2.3	0.4	1.4				
410		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	3.5	2.8	0.5	4.7				
411		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	7.3	1.9	1.0	9.6				
412		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	3.4	1.9	1.5	10.2				
413		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	1.4	2.4	0.2	0.6				
414		Ⅱb層	剥片	安山岩類	1.9	2.7	0.6	2.7	U17			
415		Ⅱb層	剥片	安山岩類	1.7	1.8	0.3	0.9	U17			
416		Ⅱb層	剥片	安山岩類	3.5	3.3	1.2	15.2	U17			

単位：cm、g

遺物No.	掲載番号	層位	器種	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺構・グリッド	備考	図番号	図版番号
417		Ⅱb層	剥片	安山岩類	2.5	3.6	0.6	5.7				
418		Ⅱb層	剥片	安山岩類	3.3	4.1	0.4	4.7				
419		Ⅱb層	剥片	安山岩類	3.4	5.5	0.8	13.2				
420		Ⅱb層	剥片	安山岩類	3.7	4.7	0.8	15.9				
421		Ⅱb層	剥片	安山岩類	3.1	6.0	1.4	27.0	SK-3			
422		Ⅱb層	剥片	安山岩類	3.3	4.4	0.6	7.5	SK-3			
423		Ⅱb層	剥片	安山岩類	3.7	5.2	1.2	14.8	SK-3			
424		Ⅱb層	剥片	安山岩類	2.5	4.8	0.8	6.4	SK-4			
425		Ⅱb層	剥片	安山岩類	2.3	3.5	0.7	4.2	SX-7			
426		Ⅱb層	剥片	安山岩類	4.1	4.2	0.6	9.0	U17			
427		Ⅱb層	剥片	安山岩類	2.4	2.4	0.4	1.9	U17			
428		Ⅱb層	剥片	安山岩類	5.5	5.7	1.7	49.9	V17			
429		Ⅱb層	剥片	安山岩類	4.0	4.9	1.7	19.7	V17			
430		Ⅱb層	剥片	安山岩類	3.4	4.0	0.8	11.4	V18			
431		Ⅱb層	剥片	安山岩類	3.4	4.7	1.1	15.3	W18			
432		Ⅱb層	剥片	安山岩類	1.9	2.2	0.3	0.9	W18			
433		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	2.7	3.4	0.8	5.6	X19			
434		Ⅱb層	剥片	安山岩類	2.1	4.0	0.6	4.0	X19			
435		Ⅱb層	剥片	安山岩類	2.5	2.6	0.7	3.7	W17			
436		Ⅱb層	剥片	安山岩類	5.6	4.7	0.8	16.5				
437		Ⅱb層	剥片	安山岩類	1.2	1.3	0.3	0.4	W18			
438		Ⅱb層	剥片	安山岩類	1.9	4.9	0.9	5.6	W18			
439		Ⅱb層	剥片	安山岩類	2.0	5.3	0.4	2.6				
440		Ⅱb層	剥片	安山岩類	2.2	3.9	0.8	8.6				
441		Ⅱb層	剥片	安山岩類	2.5	1.5	0.5	2.1				
442		Ⅱb層	剥片	黒曜石	1.0	1.1	0.2	0.2				
443		Ⅱb層	剥片	黒曜石	3.0	2.0	0.3	1.9				
444		Ⅱb層	剥片	黒曜石	2.1	2.9	0.5	2.5				
445		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	2.2	1.1	0.7	0.9	U17			
446		Ⅱb層	剥片	黒曜石	2.4	3.3	1.0	5.9				
447		Ⅱb層	剥片	黒曜石	2.0	2.7	0.8	3.2				
448		Ⅱb層	剥片	安山岩類	1.9	1.6	0.4	1.3	SK-3			
449		Ⅱb層	剥片	黒曜石	2.0	1.7	0.5	2.3	U18			
450		Ⅱb層	剥片	黒曜石	1.5	2.2	0.8	1.3	V17			
451		Ⅱb層	剥片	黒曜石	2.4	2.6	0.7	3.3	V17			
452		Ⅱb層	剥片	黒曜石	2.4	1.2	0.3	0.7	V17			
453		Ⅱb層	剥片	安山岩類	2.2	1.2	0.9	1.1	V17			
454		Ⅱb層	剥片	安山岩類	3.2	1.3	0.3	1.1				
455		Ⅱb層	剥片	安山岩類	1.5	2.5	0.4	1.3				
456		Ⅱb層	剥片	安山岩類	1.5	2.2	0.4	1.1				
457		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	2.0	1.2	0.3	0.5				
458		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	3.0	1.7	0.3	1.9	SX-7			
459		Ⅱb層	剥片	凝灰岩類	1.5	2.0	0.7	2.0	W18			
460		Ⅱb層	剥片	凝灰岩類	1.9	1.9	0.3	0.9	W18			
461		Ⅱb層	剥片	チャート	1.2	2.0	0.4	0.6				
462		Ⅱb層	剥片	チャート	4.0	1.6	0.7	3.9				
463		Ⅱb層	剥片	チャート	1.2	2.4	1.0	2.4	V17			
464		Ⅱb層	剥片	チャート	1.5	1.5	0.3	0.6	W18			
465		Ⅱb層	剥片	チャート	2.0	1.7	0.4	1.0	X19	黒色		
466		Ⅱb層	剥片	チャート	1.1	2.1	0.7	1.3	X19			
467		Ⅱb層	剥片	チャート	2.2	1.7	0.3	1.2				
468		Ⅱb層	剥片	石英	1.3	0.8	0.4	0.3				
469		Ⅱb層	剥片	石英	2.4	2.1	0.3	1.0	W17			
470		Ⅱb層	剥片	黒曜石	3.3	1.9	0.5	2.6	V17			
471		Ⅱb層	剥片	安山岩類	2.9	3.1	0.5	8.6				
472		Ⅱb層	剥片	安山岩類	1.1	2.2	0.5	0.7				
473		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	1.3	0.8	0.3	0.2				
474		Ⅱb層	剥片	安山岩類	4.4	4.1	0.9	18.1				
475		Ⅱb層	剥片	緑色片岩	5.9	6.6	1.8	50.7				
476		Ⅱb層	剥片	安山岩類	(4.0)	(9.5)	0.9	(32.2)		欠損		
477		Ⅱb層	剥片	安山岩類	10.7	14.8	1.5	191.5	U17			
478		Ⅱb層	剥片	安山岩類	4.4	7.2	1.9	35.0	U18			
479		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	1.9	2.0	0.7	1.8				
480		Ⅱb層	剥片	安山岩類	3.3	6.1	1.7	20.3				
481		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	3.0	1.6	0.4	1.4				
482		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	0.6	0.4	0.1	0.1				
483		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	2.1	1.7	0.3	0.7				
484		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	2.8	1.8	0.3	1.0				
485		Ⅱb層	剥片	黒曜石	1.7	3.2	1.0	3.8				
486		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	1.8	1.1	0.6	1.3				
487		Ⅱb層	剥片	赤色珪質岩	1.0	0.9	0.1	0.1				
488		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	2.6	2.7	0.5	3.1				
489		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	2.0	2.2	0.6	2.1				
490		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	1.5	2.2	0.3	1.6				
491		Ⅱb層	剥片	チャート	1.2	2.12	0.5	0.6				

単位：cm、g

遺物No.	掲載番号	層位	器種	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺構・グリッド	備考	図番号	図版番号
492		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	1.7	2.8	0.7	1.7				
493		Ⅱb層	剥片	安山岩類	4.4	5.8	1.7	47.6				
494		Ⅱb層	剥片	凝灰岩類	1.4	1.0	0.4	0.3				
495		Ⅱb層	剥片	石英	3.3	2.2	1.1	7.4				
496		Ⅱb層	剥片	黒曜石	1.5	2.0	0.7	2.0				
497		Ⅱb層	剥片	黒曜石	1.1	2.7	0.6	1.4				
498		Ⅱb層	剥片	珪質片岩	1.5	3.3	0.5	1.7				
499		Ⅱb層	剥片	サヌキトイド	1.6	1.4	0.4	0.6	U18			
500	128	Ⅱb層	礫石器	緑色片岩	(15.14)	4.45	1.99	(216.7)	V17	欠損	56	11
501	129	Ⅱb層	礫石器	唐崎マイロナイト	(15.73)	5.34	3.67	(549.3)		欠損	57	11
502		Ⅱb層	礫石器	緑色片岩	17.2	4.8	1.6	224.2	V18	被熱		
503		Ⅱb層	礫石器	緑色片岩	(10.9)	3.5	1.5	(83.3)		欠損		
504		Ⅱb層	礫石器	緑色片岩	(22.7	5.2	1.5	(315.9)		欠損		
505		Ⅱb層	礫石器	緑色片岩	(12.1)	4.5	(1.7)	(137.7)	V17	欠損		
506		Ⅱb層	礫石器	緑色片岩	(16.3)	(8.2)	(3.3)	(490.6)	U18	欠損		
507		Ⅱb層	礫石器	緑色片岩	(18.0)	(7.3)	3.5	(707.2)	U18	欠損		
508		Ⅱb層	礫石器	緑色片岩	5.9	5.5	0.9	62.7	SK-3			
509		Ⅱb層	礫石器	緑色片岩	4.0	8.3	1.0	35.4	W18			
510		Ⅱb層	礫石器	緑色片岩	(11.8)	4.8	1.6	(160.9)	W19	欠損		
511		Ⅱb層	礫石器	安山岩類	8.9	3.7	2.9	339.4	U18			
512		Ⅱb層	礫石器	緑色片岩	(13.5)	(7.6)	3.1	(444.5)		欠損		
513		Ⅱb層	礫石器	唐崎マイロナイト	19.2	14.8	3.3	1520.0				
514		Ⅱb層	礫石器	唐崎マイロナイト	11.0	6.8	1.2	90.5				
515	130	Ⅱb層	凹石	緑色片岩	9.90	5.15	2.28	123.5			57	11
516	131	Ⅱb層	凹石	緑色片岩	15.38	5.33	2.79	402.0			58	11
517	132	Ⅱb層	凹石	緑色片岩	13.89	6.47	2.59	455.0			58	11
518	133	Ⅱb層	凹石・敲石	緑色片岩	(13.63)	(4.92)	1.84	(188.0)		欠損	59	11
519	134	Ⅱb層	凹石・敲石	緑色片岩	14.86	3.87	1.86	154.9			59	11
520	135	Ⅱb層	凹石・敲石	緑色片岩	12.58	8.29	3.45	550.1			59	11
521	136	Ⅱb層	凹石・敲石	唐崎マイロナイト	13.75	9.34	3.09	600.0	U18		60	11
522	79	Ⅱb層	磨石	安山岩類	5.37	3.21	(3.79)	(71.4)	SK-3	欠損	45	9
523	137	Ⅱb層	磨石	石英	7.84	5.81	4.11	267.0	U17		60	11
524	138	Ⅱb層	磨石	安山岩類	5.02	4.08	2.68	66.3			60	11
525	154	Ⅱc層	ナイフ形石器	サヌキトイド	(1.89)	(1.30)	(0.62)	(1.3)		欠損	62	12
526	155	Ⅱc層	角錐状石器	赤色珪質岩	4.39	1.73	0.79	6.3	U17		62	12
527	156	Ⅱc層	石鏃	赤色珪質岩	1.28	1.32	0.2	0.3			62	12
528	157	Ⅱc層	石鏃	サヌキトイド	(1.14)	1.21	0.21	(0.4)		欠損	62	12
529		Ⅱc層	石鏃	サヌキトイド	(1.4)	(1.0)	0.2	(0.3)	V18	欠損		
530	158	Ⅱc層	スクレイパー	チャート	(5.80)	(2.78)	0.61	(9.7)		欠損	62	12
531	159	Ⅱc層	微小石器	赤色珪質岩	2.73	1.26	0.50	1.2	W19		62	12
532		Ⅱc層	石核	赤色珪質岩	4.5	6.4	1.2	29.2				
533		Ⅱc層	石核	サヌキトイド	8.3	6.4	2.8	142.7				
534		Ⅱc層	石核	安山岩類	8.1	17.9	4.0	509.4	U18			
535		Ⅱc層	剥片	赤色珪質岩	1.2	2.2	0.2	0.7	W19			
536		Ⅱc層	剥片	赤色珪質岩	3.3	3.6	0.7	6.1				
537		Ⅱc層	剥片	サヌキトイド	6.5	2.0	0.6	7.7	V18			
538		Ⅱc層	剥片	サヌキトイド	2.3	2.4	0.7	2.0				
539		Ⅱc層	剥片	凝灰岩類	2.0	1.2	0.5	0.8				
540		Ⅱc層	剥片	凝灰岩類	4.8	7.5	0.9	32.5				
541		Ⅱc層	剥片	赤色珪質岩	1.6	3.4	0.5	2.4	U17			
542		Ⅱc層	剥片	赤色珪質岩	3.4	1.5	0.4	2.9	U17			
543		Ⅱc層	剥片	赤色珪質岩	2.9	5.0	0.5	8.5	U17			
544		Ⅱc層	剥片	赤色珪質岩	2.5	3.2	0.7	4.4	U18			
545		Ⅱc層	剥片	赤色珪質岩	1.9	1.9	0.7	2.2	U18			
546		Ⅱc層	剥片	赤色珪質岩	2.8	2.5	0.8	4.6	U18			
547		Ⅱc層	剥片	赤色珪質岩	3.0	2.3	0.9	3.7	U18			
548		Ⅱc層	剥片	赤色珪質岩	1.8	3.5	0.4	2.2	U18			
549		Ⅱc層	剥片	サヌキトイド	4.2	6.2	1.4	34.4	U17			
550		Ⅱc層	剥片	サヌキトイド	1.5	1.6	0.4	1.3	U17			
551		Ⅱc層	剥片	サヌキトイド	2.0	2.9	0.9	6.0	U18			
552		Ⅱc層	剥片	サヌキトイド	1.7	2.4	0.4	1.2	U18			
553		Ⅱc層	剥片	サヌキトイド	1.7	2.1	0.5	1.5	U17			
554		Ⅱc層	剥片	サヌキトイド	3.0	2.2	0.4	2.3	V17			
555		Ⅱc層	剥片	サヌキトイド	0.9	1.2	0.2	0.2				
556		Ⅱc層	剥片	チャート	3.4	2.4	0.7	3.7				
557		Ⅱc層	剥片	安山岩類	1.3	2.3	0.4	0.6	V18	被熱		
558		Ⅱc層	剥片	安山岩類	2.9	3.2	0.6	4.2	V18			
559		Ⅱc層	剥片	安山岩類	3.0	3.9	0.5	3.8	U17			
560		Ⅱc層	剥片	安山岩類	1.6	3.0	0.4	1.4	V18			
561		Ⅱc層	剥片	チャート	1.4	1.9	0.4	0.9	V18			
562		Ⅱc層	剥片	安山岩類	7.7	8.8	1.6	105.9	U17			
563		Ⅱc層	剥片	凝灰岩類	5.3	4.7	1.3	32.2				
564		Ⅱc層	剥片	安山岩類	3.1	4.5	0.8	11.5	U18			
565		Ⅱc層	剥片	サヌキトイド	2.2	3.2	0.6	3.6				
566		Ⅱc層	剥片?	珪質片岩	2.7	0.6	0.4	0.5	U17			

単位：cm、g

遺物No.	掲載番号	層位	器種	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺構・グリッド	備考	図番号	図版番号
567	160	Ⅱc層	礫石器	緑色片岩	20.47	3.47	1.74	174.9	U18		63	12
568		Ⅱc層	礫石器	緑色片岩	(15.5)	5.2	2.4	(200.9)		欠損		
569		Ⅱc層	礫石器	緑色片岩	(11.1)	3.6	1.9	(144.8)		欠損		
570		Ⅱc層	礫石器	サヌキトイド	6.0	8.1	1.6	74.6				
571		Ⅱc層	礫石器	唐崎マイロナイト	10.1	15.5	3.5	867.0				
572	161	Ⅱc層	凹石	緑色片岩	(9.74)	7.11	1.56	(187.9)	U18	欠損	63	12
573	162	Ⅱc層	凹石	緑色片岩	(13.72)	6.66	2.12	(379.1)	V18	欠損	63	12
574	163	Ⅱc層	凹石	緑色片岩	15.11	4.76	2.33	270.0			64	12
575	164	Ⅱc層	凹石	唐崎マイロナイト	6.25	6.58	0.87	50.3	V18		64	12
576		Ⅱc層	凹石	唐崎マイロナイト	(19.4)	9.7	3.2	(696.0)	V18	欠損		
577	165	Ⅱc層	凹石・敲石	緑色片岩	17.94	4.00	2.06	264.9	V19		64	12
578	166	Ⅱc層	敲石	緑色片岩	(10.07)	4.24	1.31	(97.5)	V18	欠損	64	12
579	167	Ⅱc層	敲石	緑色片岩	(7.62)	(5.75)	(2.13)	(119.6)	U18	欠損	64	12
580		Ⅱc層	原礫	安山岩類	9.0	4.6	0.7	48.8	W19			
581	172	Ⅰ層	角錐状石器	サヌキトイド	(3.64)	1.86	0.82	(6.4)	V17	欠損	66	13
582	173	Ⅰ層	石錐	赤色珪質岩	2.67	2.30	0.52	2.6			66	13
583	176	Ⅰ層	石錐	サヌキトイド	(1.76)	1.53	0.4	(0.9)	W18	欠損	66	13
584	177	Ⅰ層	石錐	安山岩類	(1.57)	1.33	0.34	(0.5)	V18	欠損	66	13
585	178	Ⅰ層	石錐	黒曜石	1.98	(0.93)	0.31	(0.4)	V18	欠損	66	13
586	180	Ⅰ層	石錐	サヌキトイド	0.88	(1.13)	0.26	(0.3)		欠損	66	13
587		Ⅰ層	石錐	安山岩類	(1.3)	1.6	0.3	(0.7)	V18	欠損		
588		Ⅰ層	石錐	安山岩類	(3.0)	(1.5)	0.4	(1.5)	V17	欠損		
589		Ⅰ層	石錐	珪質岩	(2.8)	(1.9)	0.5	(2.2)		欠損		
590		Ⅰ層	石錐	黒曜石	1.5	1.1	0.2	0.5	U17			
591	181	Ⅰ層	スクレイパー	赤色珪質岩	7.8	2.31	0.75	15.4	W18		66	13
592		Ⅰ層	スクレイパー	赤色珪質岩	2.8	4.4	0.6	7.0				
593		Ⅰ層	スクレイパー	サヌキトイド	2.9	(4.3)	0.5	(5.2)	V18	欠損		
594		Ⅰ層	楔形石器	赤色珪質岩	2.9	2.3	0.5	3.6				
595		Ⅰ層	楔形石器	チャート	3.3	3.2	1.3	13.8				
596		Ⅰ層	石核	赤色珪質岩	3.5	4.5	2.9	37.9	U17			
597		Ⅰ層	石核	チャート	6.6	2.8	1.3	17.7				
598		Ⅰ層	剥片	赤色珪質岩	4.5	1.7	0.6	4.2				
599		Ⅰ層	剥片	赤色珪質岩	4.3	3.5	0.7	12.0	V18			
600		Ⅰ層	剥片	赤色珪質岩	1.5	4.3	0.7	3.8	V18			
601		Ⅰ層	剥片	安山岩類	5.3	7.9	1.7	64.4	V17			
602		Ⅰ層	剥片	黒曜石	3.6	4.4	0.8	11.2	V16			
603		Ⅰ層	剥片	サヌキトイド	6.5	3.4	2.6	61.3	V17			
604		Ⅰ層	剥片	サヌキトイド	1.8	2.1	0.5	1.8				
605		Ⅰ層	剥片	安山岩類	3.2	5.3	1.4	16.9				
606		Ⅰ層	剥片	黒曜石	2.4	1.7	0.6	2.2				
607		Ⅰ層	礫石器	緑色片岩	(14.7)	4.2	2.1	(230.6)		欠損		
608		Ⅰ層	礫石器	緑色片岩	(7.0)	3.2	1.5	(59.8)	U17	欠損		
609		Ⅰ層	礫石器	緑色片岩	(11.9)	(6.4)	(2.0)	(200.9)	V16			
610		Ⅰ層	礫石器	緑色片岩	(6.4)	(5.0)	1.6	(77.1)	V16	欠損		
611		Ⅰ層	礫石器	安山岩類	8.1	9.0	3.0	221.2	W18			
612		Ⅰ層	礫石器	緑色片岩	(11.0)	3.7	2.0	(130.9)	U18	欠損		
613	183	Ⅰ層	凹石	緑色片岩	20.23	5.32	1.78	341.7	V15		67	13
614	184	Ⅰ層	凹石	緑色片岩	(13.22)	5.48	1.75	(171.3)	W19	欠損	67	13
615	185	Ⅰ層	凹石	緑色片岩	(12.41)	5.13	2.38	(269.9)	U17	欠損	68	13
616	186	Ⅰ層	凹石	唐崎マイロナイト	(11.78)	4.87	2.29	(211.4)	X19	欠損	68	13
617		Ⅰ層	凹石	緑色片岩	(12.0)	5.8	1.5	(178.1)		欠損		
618		Ⅰ層	凹石	緑色片岩	(11.2)	3.9	2.1	(118.6)	W19	欠損		
619		Ⅰ層	凹石	唐崎マイロナイト	(15.7)	(6.7)	2.0	(238.6)		被熱 欠損		
620		Ⅰ層	凹石	緑色片岩	(9.0)	5.4	1.5	(122.6)		欠損		
621	187	Ⅰ層	凹石・敲石	緑色片岩	(13.57)	4.77	2.05	(205.7)	V15	欠損	68	13
622	188	Ⅰ層	凹石・敲石	緑色片岩	(10.67)	5.64	1.94	(191.6)		欠損	69	13
623	189	Ⅰ層	敲石	緑色片岩	17.17	7.27	2.37	478.2			69	13
624	190	Ⅰ層	敲石	唐崎マイロナイト	10.07	9.95	1.55	257.9	V17		70	13
625	191	Ⅰ層	敲石	安山岩類	15.07	8.01	4.16	674.1	U16		70	13
626		Ⅰ層	磨製	緑色片岩	(10.4)	(4.9)	(0.7)	(51.5)		欠損		
627	174	表採	石錐	サヌキトイド	1.67	1.38	0.3	0.5			66	13
628	175	表採	石錐	サヌキトイド	(3.45)	(2.05)	0.58	(3.6)		欠損	66	13
629	179	表採	石錐	黒曜石	(1.02)	(1.30)	0.26	(0.4)		欠損	66	13
630		表採	石錐	赤色珪質岩	3.2	(1.6)	0.4	(1.2)		欠損		
631		表採	石錐	赤色珪質岩	(2.2)	(2.0)	(0.5)	(1.7)		欠損		
632		表採	石錐	安山岩類	1.2	(1.2)	0.3	(0.2)		欠損		
633		表採	楔形石器	赤色珪質岩	2.5	2.5	0.7	5.2				
634		表採	楔形石器	赤色珪質岩	2.0	3.1	0.6	4.7				
635		表採	楔形石器	赤色珪質岩	3.3	1.6	0.5	2.9				
636		表採	二次加工剥片	赤色珪質岩	(2.3)	(1.5)	0.5	(1.7)		欠損		
637	182	表採	磨製石斧	緑色片岩	7.55	4.25	1.26	63.1			66	13

表26　東峰遺跡第4地点2次1区縄文土器深鉢一覧

法量：cm　（）：残存値　［］：復元値　　◎多量、○普通、△少量

遺物No.	掲載番号	層位	部位	法量	成形・調整・文様	色調	焼成	内容物 石英	長石	雲母	角閃	他	遺構・グリッド	備考	図番号	図版番号
202	196	Ⅱ層	胴部	器厚1.2	外:ナデ・指頭圧痕 内:ナデ・指頭圧痕	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	○ 金雲	△				83	14
203		Ⅱ層	胴部	器厚0.6	外:ナデ 内:ナデ	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○	△ 金雲			SK-3			
204		Ⅰ層	胴部	器厚1.3	外: 内:	外:にぶい黄褐 内:にぶい黄褐	良	○	○	○ 金雲			D4			
205		撹乱	胴部	器厚1.2	外: 内:	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	△ 金雲			C3			

表27　東峰遺跡第4地点2次1区石器一覧

単位：cm、g

遺物No.	掲載番号	層位	器種	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺構・グリッド	備考	図番号	図版番号
638		Ⅳ層	石核	サヌキトイド	12.0	9.3	3.8	733.6			76	14
639		Ⅳ層	石錘?	安山岩類	12.0	7.6	3.0	204.3			76	14
640	192	Ⅱ層	ナイフ形石器	赤色珪質岩	4.28	2.22	0.78	7.0			78	14
641	193	Ⅱ層	角錐状石器	赤色珪質岩	5.25	2.41	1.18	11.6			78	14
642	194	Ⅱ層	台形(掻)石器	赤色珪質岩	2.07	2.72	0.48	2.3	G-2		78	14
643	195	Ⅱ層	二次加工剥片	赤色珪質岩	1.51	2.04	0.55	1.6			78	14
644		Ⅱ層	二次加工剥片	赤色珪質岩	2.9	4.0	1.1	10.7				
645		Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	1.3	2.2	0.8	1.9				
646		Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	1.8	1.4	0.3	0.7				
647	197	Ⅱ層	石錘	赤色珪質岩	(2.11)	(1.53)	0.43	(1.5)		欠損	83	14
648	198	Ⅱ層	石錘	サヌキトイド	(1.69)	(1.30)	0.23	(0.6)		欠損	83	14
649	199	Ⅱ層	石錘	黒曜石	1.36	(1.24)	0.30	(0.4)		欠損	83	14
650	200	Ⅱ層	石核	赤色珪質岩	3.24	4.61	2.64	44.2			84	14
651		Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	0.5	0.8	0.1	0.1				
652		Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	1.8	2.6	0.4	1.9				
653		Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	0.8	1.2	0.3	0.3				
654		Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	1.5	2.6	0.4	1.4				
655		Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	0.9	2.0	0.4	0.6				
656		Ⅱ層	剥片	サヌキトイド	0.7	1.8	0.3	0.3				
657		Ⅱ層	剥片	サヌキトイド	1.5	1.9	0.5	0.9				
658		Ⅱ層	剥片	サヌキトイド	4.0	6.8	0.9	19.5				
659	201	Ⅱ層	岩石	緑色片岩	11.46	3.07	1.56	64.5			84	14
660	202	Ⅰ層	ナイフ形石器	赤色珪質岩	5.43	2.38	0.89	13.0	F2		85	14
661	203	Ⅰ層	ナイフ形石器	赤色珪質岩	(4.48)	1.92	0.75	(7.9)		欠損	85	14
662	204	Ⅰ層	石錘	チャート	(1.68)	1.98	0.43	(1.4)		欠損	85	14
663	205	Ⅰ層	垂飾品	緑色片岩	5.55	4.50	0.56	24.7			85	14
664		Ⅰ層	石核	サヌキトイド	3.2	5.5	1.9	34.4				
665		Ⅰ層	剥片	赤色珪質岩	0.8	1.5	0.2	0.3				
666		Ⅰ層	剥片	珪質岩	3.4	2.0	0.8	3.2				
667		Ⅰ層	礫石器	安山岩類	(11.9)	(10.3)	3.8	(644.5)	H3	欠損		
668		表採	磨製石器	サヌキトイド	11.4	3.0	1.5	52.4				

表28　東峰遺跡第4地点2次2区縄文土器深鉢一覧

法量：cm　（）：残存値　[ ]：復元値　　◎多量、○普通、△少量

遺物No.	掲載番号	層位	部位	法量	成形・調整・文様	色調	焼成	内容物				遺構・グリッド	備考	図番号	図版番号
								石英	長石	雲母	角閃				
206	210	Ⅱ層	口縁部付近	器厚0.8	外:条痕・指頭圧痕・ナデ 内:ナデ・短沈線	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○		△	他 △ 片岩			98	15
207	211	Ⅱ層	胴部	器厚1.1～1.6	外:ナデ・指頭圧痕 内:ナデ・指頭圧痕	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	やや良	○	○	○ 金雲	△				98	15
208	212	Ⅱ層	口縁部付近	器厚0.7～1.0	外:突帯・条痕→ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:浅黄橙	良	○	○		△				98	15
209	213	Ⅱ層	胴部	器厚0.6	外:竹管文・ナデ 内:条痕	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	△ 金雲	△	△ 赤粒	N10	羽島下層式	98	15
210	214	Ⅱ層	胴部	体部最大径[32.8] 器厚0.5～0.7	外:竹管文・ナデ 内:条痕→ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	△	◎			羽島下層式	98	4,15
227	223	撹乱	胴部	器厚1.1～1.3	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	○ 金雲	△		C2		101	15
211		Ⅱ層	胴部	器厚1.2	外:ナデ 内:ナデ	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○							
212		Ⅱ層	胴部	器厚0.6	外:ナデ 内:条痕→ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○							
213		Ⅱ層	胴部	器厚0.5	外:条痕→ナデ 内:条痕	外:明黄褐 内:にぶい黄橙	良	△	△							
214		Ⅱ層	胴部	器厚0.8	外:ナデ 内:ナデ	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○							
215		Ⅱ層	胴部	器厚0.6	外:条痕→ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○							
216		Ⅱ層	胴部	器厚1.4	外: 内:	外:明黄褐 内:にぶい黄橙	やや良	○	○	△ 金雲						
217		Ⅱ層	胴部	器厚0.9	外: 内:	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○							
218		Ⅱ層	胴部	器厚1.4	外: 内:	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	△ 金雲						
219		Ⅱ層	口縁部付近	器厚0.6	外:ナデ 内:条痕→ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	△ 金雲				羽島下層式		
220		Ⅱ層	胴部	器厚0.6	外:条痕→ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○							
221		Ⅱ層	胴部	器厚0.4	外:条痕 内:ナデ	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○							
222		Ⅱ層	胴部	器厚0.7	外: 内:	外:明褐 内:明黄褐	良	○	○							
223		Ⅱ層	胴部	器厚0.9	外: 内:	外:明黄褐 内:にぶい黄橙	良	○	○	△ 金雲						
224		Ⅱ層	胴部	器厚1.1	外: 内:	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○				N10			
225		Ⅰ層	胴部	器厚0.9	外:ナデ 内:ナデ	外:明黄褐 内:明黄褐	良	○	○	○ 金雲			M9			
226		Ⅰ層	胴部	器厚0.6	外: 内:	外:にぶい黄褐 内:にぶい黄褐	良	○	○	○ 金雲			M11			
228		撹乱	胴部	器厚1.3	外: 内:	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	良	○	○	○ 金雲			C2			

表29　東峰遺跡第4地点2次2区石器一覧

単位：cm、g

遺物No.	掲載番号	層位	器種	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺構・グリッド	備考	図番号	図版番号
669		Ⅳ層	剥片	サヌキトイド	1.1	0.6	0.1	0.2			92	15
670	206	Ⅱ層	ナイフ形石器	サヌキトイド	(5.04)	1.89	0.75	(5.9)		欠損	93	4,15
671	207	Ⅱ層	周縁加工尖頭器	赤色珪質岩	(2.58)	0.98	0.32	(0.9)		欠損	93	15
672		Ⅱ層	石核	安山岩?類	7.5	10.3	2.5	191.2	M6			
673		Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	1.3	3.1	0.5	2.2				
674		Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	0.7	1.2	0.2	0.1				
675		Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	2.2	3.3	1.0	5.6				
676		Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	1.2	1.5	0.3	0.4				
677		Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	1.0	1.7	0.2	0.3				
678		Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	2.7	4.9	1.1	7.7				
679		Ⅱ層	剥片	サヌキトイド	2.8	5.0	1.1	17.9				
680		Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	2.2	1.6	0.7	2.3	E2			
681		Ⅱ層	原礫	安山岩類	2.1	2.1	1.9	9.9				
682		Ⅱ層	原礫	斑糲マイロナイト	(8.8)	(3.7)	0.9	(39.1)	M11	欠損		
683	208	Ⅲ層上面	ナイフ形石器	サヌキトイド	5.08	1.24	0.79	5.3			94	15
684	209	Ⅲ層上面	ナイフ形石器	サヌキトイド	2.54	1.54	0.55	2.2	M11		94	15
685		Ⅲ層上面	ナイフ形石器	赤色珪質岩	(2.0)	0.9	0.4	(0.6)		欠損		
686		Ⅲ層上面	石核	サヌキトイド	10.8	13.8	7.0	1310.0	L7			
687	215	Ⅱ層	石鏃	サヌキトイド	1.21	(1.05)	0.33	(0.4)		欠損	98	15
688	216	Ⅱ層	石鏃	サヌキトイド	2.42	1.94	0.40	1.6			98	15

単位：cm、g

遺物No.	掲載番号	層位	器種	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺構・グリッド	備考	図番号	図版番号
689	217	Ⅱ層	石鏃	サヌキトイド	2.31	1.30	0.45	0.9			98	15
690		Ⅱ層	石核	サヌキトイド	5.8	7.8	1.7	77.7				
691		Ⅱ層	二次加工剥片	赤色珪質岩	2.4	2.5	0.7	4.4				
692	221	Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	1.80	3.20	1.00	4.1		No.693(222)と接合	100	15
693	222	Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	2.50	4.50	1.30	11.9	N10	No.692(221)と接合	100	15
694		Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	1.3	1.7	0.6	0.9				
695		Ⅱ層	剥片	緑簾片岩	2.9	3.0	0.7	4.2				
696		Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	4.0	2.0	0.6	5.0				
697		Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	1.6	1.9	0.5	1.0				
698		Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	2.2	2.8	0.6	2.4				
699		Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	2.3	3.2	1.3	10.2				
700		Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	1.3	1.4	0.2	0.4				
701		Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	1.1	1.1	0.3	0.3				
702		Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	1.3	1.9	0.5	0.7				
703		Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	2.7	4.7	0.6	8.1				
704		Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	1.8	2.3	0.8	1.8				
705		Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	2.1	2.7	0.5	3.1				
706		Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	1.5	3.3	0.4	1.9				
707		Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	2.0	3.3	0.8	5.2	D3			
708		Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	1.2	1.7	0.2	0.3	N10			
709		Ⅱ層	剥片	赤色珪質岩	2.5	3.6	0.6	5.5	N10			
710		Ⅱ層	剥片	安山岩類	2.5	5.9	0.9	12.0				
711		Ⅱ層	剥片	サヌキトイド	2.7	5.9	0.8	13.8		No.712と接合		
712		Ⅱ層	剥片	サヌキトイド	2.6	5.3	0.6	9.5		No.711と接合		
713		Ⅱ層	剥片	サヌキトイド	1.8	2.6	0.6	2.3				
714		Ⅱ層	剥片	安山岩類	1.6	3.3	0.3	1.8				
715		Ⅱ層	剥片	サヌキトイド	2.8	3.5	1.1	10.3				
716		Ⅱ層	剥片	サヌキトイド	3.0	4.2	1.4	13.9				
717		Ⅱ層	剥片	サヌキトイド	2.7	2.3	1.0	2.8				
718		Ⅱ層	剥片	サヌキトイド	1.8	2.2	0.3	1.3				
719		Ⅱ層	剥片	サヌキトイド	2.9	1.0	0.4	0.9				
720		Ⅱ層	剥片	サヌキトイド	2.5	3.9	1.2	11.9				
721		Ⅱ層	剥片	サヌキトイド	3.5	3.7	0.7	6.9	N10			
722		Ⅱ層	剥片	安山岩類	2.2	3.5	0.6	3.4				
723		Ⅱ層	剥片	黒曜石	2.0	2.0	0.6	1.4				
724		Ⅱ層	剥片	黒曜石	1.2	2.1	0.3	0.7				
725		Ⅱ層	剥片	黒曜石	1.5	2.9	0.6	2.4				
726		Ⅱ層	剥片	黒曜石	2.0	2.7	0.9	3.8				
727		Ⅱ層	剥片	安山岩類	7.3	11.2	1.6	127.7				
728		Ⅱ層	剥片	安山岩類	7.9	6.0	1.8	79.3	M9			
729		Ⅱ層	剥片	黒曜石	1.3	2.2	0.6	1.1	M11			
730	218	Ⅱ層	礫石器	緑色片岩	(8.92)	2.16	2.06	(71.8)		欠損	99	15
731		Ⅱ層	礫石器	緑色片岩	(9.1)	(2.7)	(1.9)	(71.1)		欠損		
732		Ⅱ層	礫石器	緑色片岩	6.2	9.5	1.5	430.7				
733	219	Ⅱ層	凹石・敲石	緑色片岩	(15.30)	6.54	2.17	(366.2)		欠損	99	15
734	220	Ⅱ層	凹石・敲石	緑色片岩	19.29	5.88	1.55	294.0			99	15
735		Ⅱ層	礫石	安山岩類	(12.3)	(7.3)	3.7	(401.0)		欠損		
736	224	1層	石鏃	黒曜石	(1.44)	(1.29)	0.28	(0.5)	M11	欠損	101	15
737		1層	スクレイパー	安山岩類	8.3	3.3	1.0	34.3	M11			
738	225	1層	石核	赤色珪質岩	3.50	2.54	1.44	18.0			101	15
739	226	1層	剥片	赤色珪質岩	1.91	4.50	0.67	6.5			101	15
740		1層	剥片	赤色珪質岩	1.6	3.6	0.3	2.1				
741		1層	剥片	赤色珪質岩	2.0	3.1	0.8	4.8				
742		1層	剥片	赤色珪質岩	3.2	3.4	0.8	6.5				
743		1層	剥片	安山岩類	3.5	5.8	1.0	14.5				
744		1層	剥片	チャート	1.8	2.5	0.4	1.5				
745		1層	剥片	チャート	1.5	2.2	0.2	0.7	M11			
746		1層	礫石器	緑色片岩	16.0	3.3	2.2	143.2	M6			
747	227	1層	凹石・敲石	不明	12.52	11.80	3.71	862.1	M8		102	15

図　版

調査前風景(南西より)

集石(北より)

遺物(22・30)出土状況

遺物(21)出土状況

SK-1(北より)

III層遺物出土状況(南東より)

完掘状況(南東より)

火山灰分析試料採取風景(南東より)

調査前風景(北西より)

T-2土層(南西より)

T-3土層(北西より)

SK-2(南東より)

北端部III層遺物出土状況(南西より)

遺物(5)出土状況

完掘状況(南東より)

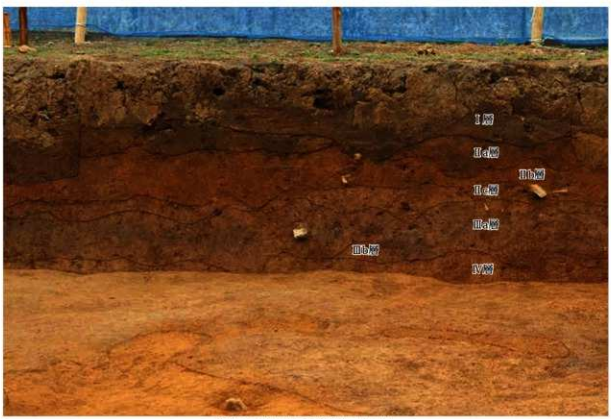
図版3　高見Ⅱ遺跡2区

調査前風景(南東より)

遺物(81)出土状況

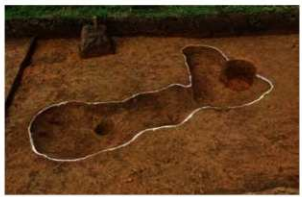
遺物(126)出土状況

SK-3(南東より)



調査区の土層(東壁)(南西より)

1区 調査前風景(北より)


1区 SK-2・3(南東より)

1区 SK-1(南東より)

1区 完掘状況(南より)

2区 調査前風景(東より)

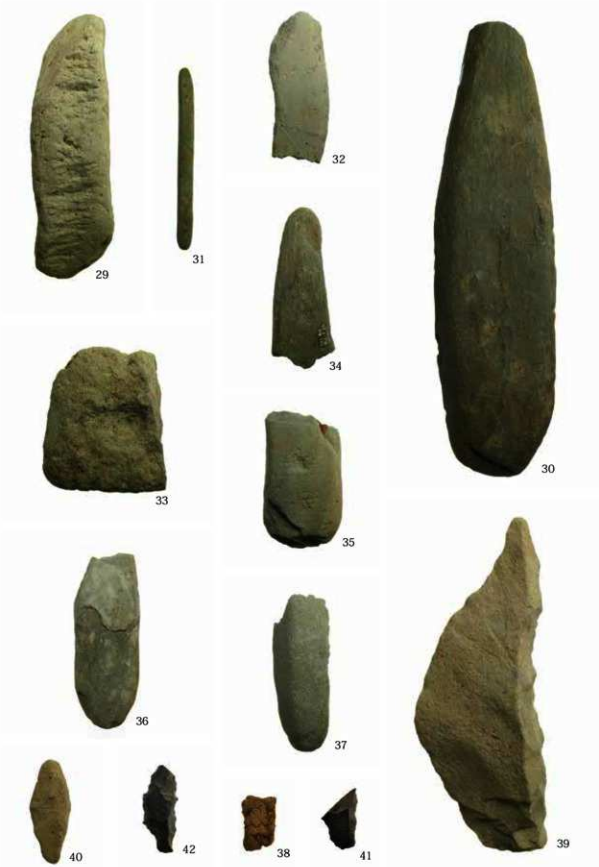
2区 遺物(214)出土状況

2区 遺物(206)出土状況

2区 完掘状況(西より)

図版5　高見II遺跡1a区・1b区　出土遺物1

S=1/1(11.17～21)、S=2/3(1.4.5.16.22.24～28)、S=1/2(12～15)、S=1/3(2.3.6～10.23)



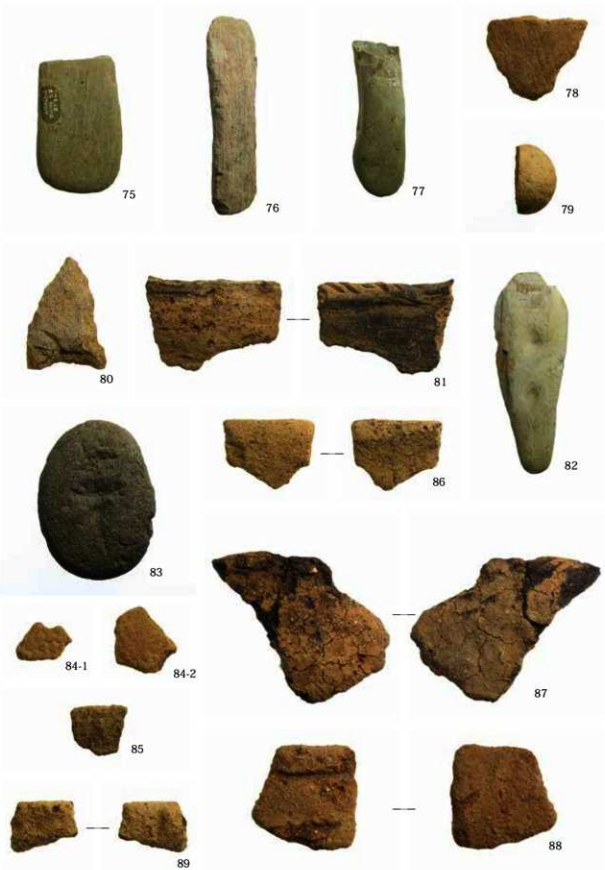
S=2/3(39～42)、S=1/2(38)、S=1/3(29～37)

図版7　高見Ⅱ遺跡1a区・1b区　出土遺物3

S=1/1(43～47,No.1)、S=2/3(48.49)、S=1/3(50～54)

S=2/3(63～70)、S=1/2(55～62)、S=1/3(71～74)

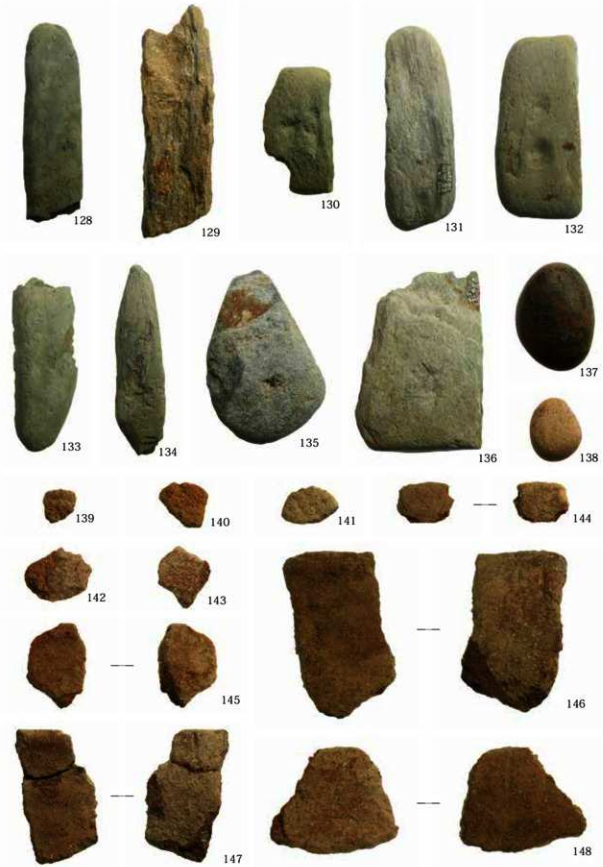
図版9　高見II遺跡2区　出土遺物2



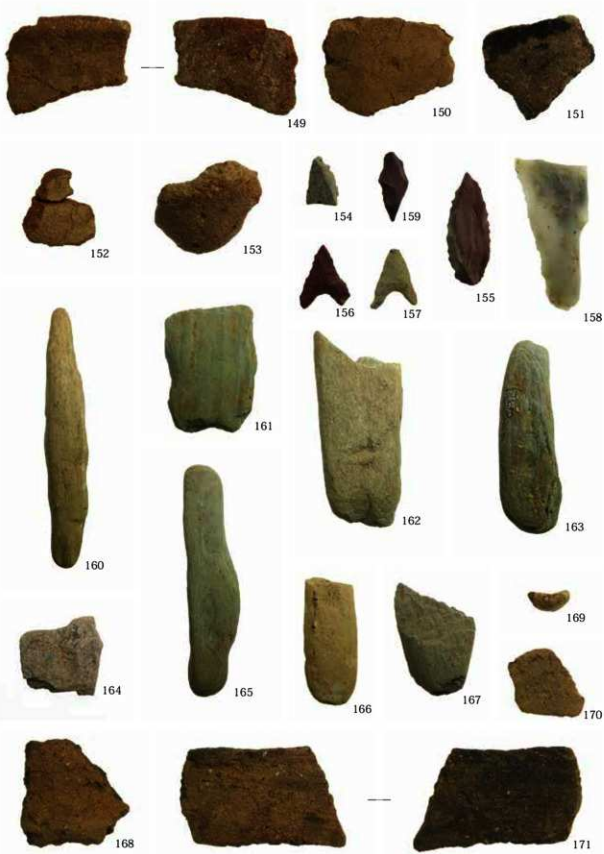
S=1/1(80)、S=1/2(78,81,84～89)、S=1/3(75～77,79,82,83)

S=1/1(104～118)、S=2/3(103,121～125,127)、S=1/2(90～102)、S=1/3(119,120,126)

図版11　高見II遺跡2区　出土遺物4

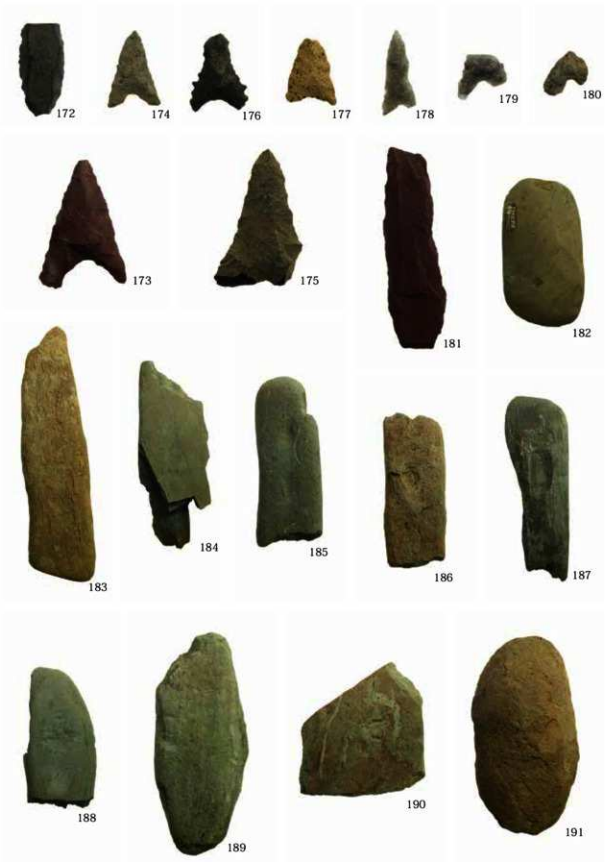


S=1/2(139～148)、S=1/3(128～138)



S=1/1(156.157)、S=2/3(154.155.158.159)、S=1/2(149～153.168～171)、S=1/3(160～167)

図版13　高見Ⅱ遺跡2区　出土遺物6



S=1/1(173～180)、S=2/3(172.181)、S=1/2(182)、S=1/3(183～191)

192

193

194

195

196

197

198

199

200

202

203

204

205

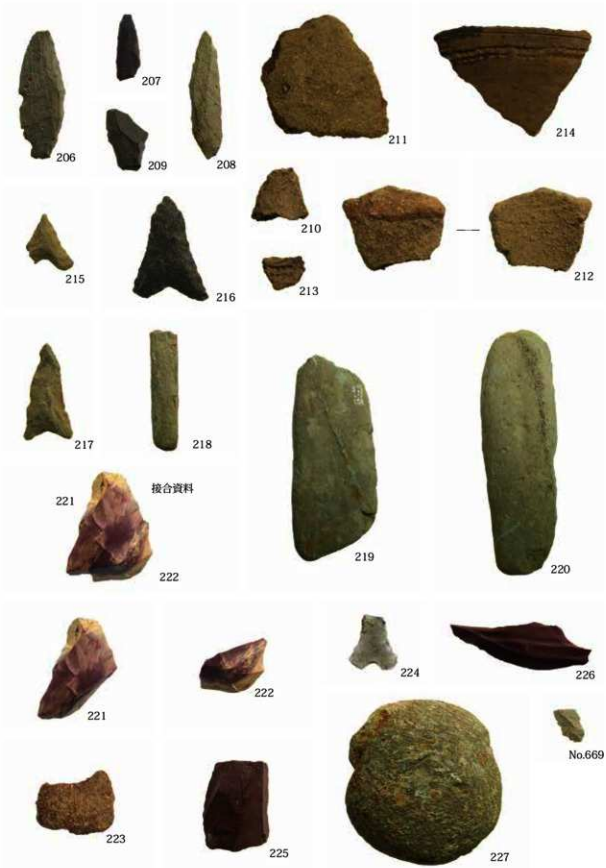
201

No.638

No.639

S=1/1(197～199,204)、S=2/3(192～195,200,202,203)、S=1/2(196,205)、S=1/3(201,No.638,No.639)

図版15　東峰遺跡第4地点2次2区　出土遺物



S=1/1(215～217,224,No.669)、S=2/3(206～209,221,222,225,226,接合資料)、S=1/2(210～214,223)、S=1/3(218～220,227)

報告書抄録

ふりがな	たかみにいせき　ひがしみねいせきだいよんちてんにじ
書名	高見Ⅱ遺跡　東峰遺跡第4地点2次
副書名	四国縦貫自動車道における(仮称)中山スマートインターチェンジの建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	伊予市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第14集
編著者名	島﨑達也　沖野新一　武智克弥　松本美香　兵頭勲
編集機関	愛媛県伊予市教育委員会
所在地	〒799-3193　愛媛県伊予市米湊820番地　TEL　089-982-1111(代表)
発行年月日	2019年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
たかみにいせき 高見Ⅱ遺跡	えひめけんいよし 愛媛県伊予市 ふたみちょうかみなだでい 双海町上灘丁 203-1外	38210		33°40′32″	132°41′13″	2016.12.15 ～ 2017.6.15	909.08	四国縦貫自動車道における(仮称)中山スマートインターチェンジの建設事業
ひがしみねいせき 東峰遺跡 だいよんちてんにじ 第4地点2次	えひめけんいよし 愛媛県伊予市 ふたみちょうかみなだ 双海町上灘戊 525-3外	38210		33°40′32″	132°41′13″		1046.14	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
高見Ⅱ遺跡	集落跡	旧石器時代 縄文時代	集石・土坑	石器 縄文土器・石器	
東峰遺跡 第4地点2次	集落跡	旧石器時代 縄文時代	礫群 土坑	石器 縄文土器・石器	

要約

高見Ⅱ遺跡で、ナイフ形石器などの後期旧石器時代の石器が出土した。縄文時代では、早期を中心とした土器や、石鏃・凹石などの多様な石器類が出土した。また、縄文時代の土坑を検出した。

東峰遺跡第4地点2次では、後期旧石器時代の石器が出土したほか、礫群1基を検出した。縄文時代では、早期の土器、石鏃・敲石などの石器類が出土した。

伊予市埋蔵文化財調査報告書

第1集　『猪の窪古墳－伊豫市猪の窪古墳発掘調査報告書－』1981
第2集　『下三谷西原・ケリヤ遺跡－県営圃場整備事業(伊予東地区)埋蔵文化財発掘調査報告書－』1989
第3集　『武之宮・六反下・六反上遺跡－県営圃場整備事業(伊予東地区上吾川工区)埋蔵文化財調査報告書－』1990
第4集　『上吾川・森埋蔵文化財調査報告書－県営圃場整備事業(伊予西地区上吾川・森工区)－』1991
第5集　『八倉篠原廃寺・八倉宮の北Ⅰ・Ⅱ遺跡及び上三谷平松埋蔵文化財調査報告書－農林業用揮発油税財源身替農道整備事業(上野3期地区)　県営圃場整備事業(伊予東地区上三谷平松工区)－』1991
第6集　『下三谷片山・太郎丸埋蔵文化財調査報告書－県営圃場整備事業伊予東地区富田池工区－』1993
第7集　『下三谷片山・太郎丸埋蔵文化財調査報告書－下三谷北組地区改良工事－』1994
第8集　『行道山遺跡』2005
第9集　『平松遺跡3次』2011
第10集　『伊予小学校遺跡－伊予小学校管理教室棟改築に伴う仮設校舎設置工事にかかる発掘調査報告書－』2013
第11集　『伊予市内遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ－平成23年度伊予市内遺跡発掘調査等事業報告書－』2013
第12集　『伊予市内遺跡詳細分布調査報告書Ⅱ－平成24年度伊予市内遺跡発掘調査等事業報告書－』2014
第13集　『伊予市内遺跡詳細分布調査報告書Ⅲ－平成25・26年度伊予市内遺跡発掘調査等事業報告書－』2015

伊予市埋蔵文化財調査報告書　第14集

高見Ⅱ遺跡・東峰遺跡第4地点2次

－四国縦貫自動車道における(仮称)中山スマートインターチェンジの
建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

平成31年3月31日

編集・発行　愛媛県伊予市教育委員会
〒799-3193　愛媛県伊予市米湊820番地
TEL　089-982-1111(代表)

印刷　株式会社ハラプレックス